

# 京都市文化財保護課 研究紀要

## 第7号

### 目次

#### 建造物

|                 |       |    |
|-----------------|-------|----|
| 長楽館の建築について      | 石川 祐一 | 1  |
| 長楽館の家具調度品について   | 千木良礼子 | 19 |
| 長楽館の室内意匠と家具について | 千木良礼子 | 43 |

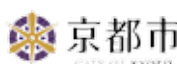
#### 美術工芸品

|                         |       |    |
|-------------------------|-------|----|
| 京都市歴史資料館所蔵「上野伊三郎家文書」の紹介 | 井上 幸治 | 95 |
|-------------------------|-------|----|

#### 埋蔵文化財

|   |             |     |
|---|-------------|-----|
| 京都出土中国産陶磁器の形・質・割合とその背景（3-1）－櫛描文・劃花文青磁の型式変化－ | 赤松 佳奈       | 129 |
| 東山区粟田口高台寺山町地内発見の白磁について                      | 赤松 佳奈・内田 好昭 | 163 |

2024年3月











## 長楽館の建築について

石川 祐一

### 1 はじめに

長楽館は、明治の煙草王と呼ばれた実業家・村井吉兵衛（1864～1926）の京都別邸として明治42年（1909）に建築された建物である。村井吉兵衛は京都市東山の煙草商・村井弥兵衛の次男として生まれ、後に叔父、初代吉兵衛の養子となり、吉兵衛を名乗った。明治23年（1890）に「村井兄弟商会」を設立した（明治27年に合名会社化）。アメリカから技師を招くなどし、明治24年（1891）に日本初の両切り紙巻煙草「サンライス」を販売した。その後も「ヒーロー」を販売して大成功をおさめた。明治37年（1904）、煙草事業が政府の専売事業となった後、村井銀行を設立するなど実業家として多方面で活躍している<sup>1)</sup>。

既に一定の調査<sup>2)</sup>が行われ、設計者、施工者が判明し、殊に内部装飾において質の高い邸宅建築として評価がなされている。こうした成果に基づいて、昭和61年（1986）6月に京都市指定有形文化財に指定された。

これまで既往の考察の資料としては、現存遺構と上棟時の棟札、竣工時に作成されたと考えられる写真帳「京都圓山長楽館村井別邸」（以下、「竣工アルバム」と呼ぶ）が主なものであった。今回、村井家のご子孫の所有する資料群から、後述するように

大正期と考えられる平面図など重要な資料（本稿では「内海家資料」と呼ぶ）を確認することができた<sup>3)</sup>。加えて、建物の補足調査を行った結果、改修時の棟札など新たな知見を得た。

本稿では追補の知見を報告し、加えて、長楽館の文化財的価値について再考察を試みることを目的とする。なお、以下では、原則として大正期の平面図（便宜的に「大正期平面図」と呼ぶ）に記載された室名称を用い、必要に応じて当初の名称等を併記することとする。

### 2 建造物の概要

#### ■構造及び外観（写真1～3）

構造は煉瓦造、地上3階地下1階建、天然スレート葺である。遺構から、1階側廻りは煉瓦3枚半積、2階及び3階は2枚半積と判断される<sup>2)</sup>。小屋組には、木造キングポストトラスを用いている（写真4）。

外壁は1階部分に花崗岩を貼る。2～3階は黄色の化粧煉瓦（写真5）を使用し、コーナー部分のみ花崗岩貼りとする。この煉瓦は、村井自身の言から、愛知県西浦町（現常滑市）の煉瓦製造業・久田吉之助によるものと確認されている<sup>4)</sup>。久田による黄色の煉瓦は、京都府立図書館や名和昆虫館（岐阜市）に使用されている。また、フ

ランク・ロイド・ライト設計の帝国ホテルに使用するスダレ煉瓦の当初の発注先でもあったことが知られている。

東側に正面入口を配し、イオニア式オーダーを用いた玄関ポーチを配する。南面の西寄り部分、北面の東西両側には1階から3階までボウ・ウィンドウを設ける。外観は、全体としてアメリカで見られたルネサンス風の意匠であるが、様式建築を採用し



写真1



写真2



写真3

ながらも黄色煉瓦を用いた点にはモダンデザインの影響が感じられる。

#### ■平面

1、2階では、東西方向に配された広間がホールの機能を果たし、その周囲に室を配する構成をとる。1階では、東側に設けられた玄関を入ると、玄関脇に応接室を置く。奥に進むと中心に広間がとられ、広間の北側面には、東寄りに客間、中央の一段下がった部分に球戯室、西寄りに書斎が配される。南側面は中央に花卉室(温室)、西寄りに食堂を配する。広間北側に階段が設けられ、2階へと上がる途中北側の中2階に相当する部分の室が支那室(喫煙室)となる。2階広間の周囲には寝室など5室が配されている。1、2階の各室は部屋毎に異なる様式を採用する。



写真4



写真5

3階は東西両側に上がっていく階段を中心に置き、和室空間が設けられている。階段登り口北側に茶室を配する。東側には上段を備えた書院と次の間、南側に和室2室、西側にも和室が配される。

地階は主に西側部分に空間が設けられている。1階からは広間と、食堂北側の配膳室脇からの2か所の階段で降りる。厨房などサービス機能の空間が配されている。

### ■各室の床レベルと天井高

長楽館には各階において、床レベルに違いが見られる。その概要を示したのが図1であり、加えて各室の天井高を表1に示す。1階では、球戯室が広間などの他室に比べて約1,000mm、花卉室(温室)は約400mm低くなっている。地階平面を見ると客間を含む東寄り部分や球戯室下部には室が設けられていない。このため球戯室の床レベルを大幅に下げることが出来る。それに応じて、上部に当たる2階支那室(喫煙室)、3階茶室でも同階の広間部分よりも床高が大幅に低くなり、中2階、中3階のような空間構成をとっている。

天井高について見ると、床レベルを下げたことで、花卉室の天井高が最も高くなっている。植物の栽培を目的とするための考慮であろう。広間、客間、食堂はほぼ同じ高さである一方、書斎は約500mm天井高が低い。書斎に比べて食堂や客間の天井高が高いことは、接客空間としての重要性を示している。

2階では、大幅に床レベルを下げていた支那室(喫煙室)を除くと、北寝室(旧美術室)の床レベルが広間等よりも400mm

程度低くなっている。これは下部に当たる1階書斎の天井高を低くしたことによって生じたものである。さらにこの床レベルの低さにより、北寝室の天井高は、西寝室、東夫人室、東寝室、南寝室よりもやや高くなる。これは後述するように、北寝室は当初、美術室として用いられたことによるものと推測される。また、2階広間は夫人室や北寝室を除く他の寝室よりも約300mm天井高が低い。

3階は、1階球戯室、2階支那室の階高の影響から茶室が大幅に床レベルが低い。

表1 各室の天井高

|       | 室名       | 天井高 (mm) |
|-------|----------|----------|
| 1階    | 広間       | 4,025    |
|       | 客間       | 4,031    |
|       | 食堂       | 4,037    |
|       | 書斎       | 3,519    |
|       | 球戯室      | 2,843    |
|       | 応接室      | 3,841    |
|       | 花卉室(温室)  | 4,589    |
| 2階    | 広間       | 3,343    |
|       | 夫人室      | 3,614    |
|       | 東寝室      | 3,596    |
|       | 南寝室      | 3,624    |
|       | 支那室(喫煙室) | 3,451    |
|       | 北寝室      | 3,847    |
|       | 西寝室      | 3,623    |
| 3階    | 階段室      | 2,657    |
|       | 茶室       | 2,735    |
|       | 東側・上段の間  | 3,283    |
|       | 東側・次の間   | 3,296    |
|       | 東側・和室    | 2,725    |
|       | 中央・中座敷   | 2,623    |
|       | 中央・次の間   | 2,623    |
|       | 西側・座敷    | 2,208    |
| 旧女中部屋 | 2,213    |          |
| 地階    | 南北廊下     | 2,716    |
|       | 厨房       | 2,381    |
|       | 貯蔵室      | 2,561    |
|       | 執事室      | 2,714    |

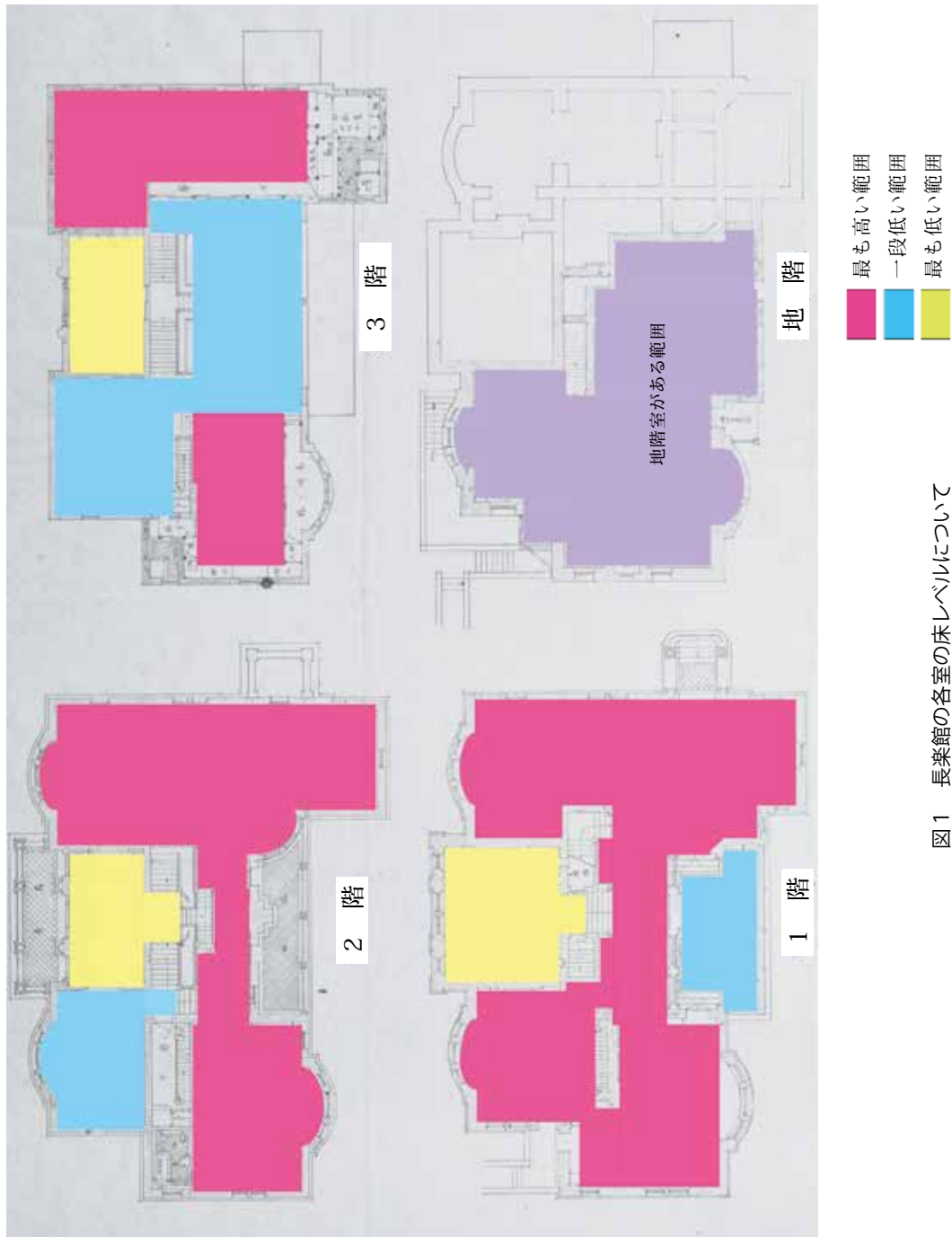


図1 長楽館の各室の床レベルについて

この他の3階空間は床レベルと天井高の相違によって、大きく3つのエリアに分けられる。床レベルは中央部分（中座敷・次の間）が最も低く、その両側の東側部分（上段の間・次の間等）、西側部分（座敷・次の間）が400mm程度高くなり、段差が生じる。中央部分の床レベルは2階広間の天井高が低いことに起因している。

この結果、中央部分（中座敷等）では天井高を高くすることが出来、西側部分（座敷）の天井高は約400mm低くなる。一方、東側部分（上段の間等）は西側部分よりも大幅（約1000mm）に天井高が高くなっている。これは次節で触れるように大正期の改修によって屋根高を上げたために可能となったものである。

## ■外構・庭園

### （門・塀）

敷地の東側面には、円山公園に面して表門（写真6）が設けられている。表門の中央門柱2本の構造は不詳で、表面に花崗岩が貼られ、上部に擬石による装飾が載っている。両脇には各1本ずつ脇門柱が建ち、両側には1スパンの袖塀が残る。2本の脇門柱や袖塀には釉薬を用いた淡黄色のタイルが貼られている。竣工アルバム中の写真



写真6

（写真7）と比較すると、門柱や袖塀部分はほぼ改変が見られない。なお、鉄製部分である門扉や塀上柵は、戦後の製作と思われるものに替えられている。

敷地北側面には北門（写真8）が残り、2本の門柱と南側に袖塀が1スパンずつ残っている。門柱、塀とも表面に表門と同様の淡黄色タイルが貼られている。内部が露出した部分からは、塀が煉瓦造であると確認される。

なお、敷地南側面には塀が周るが、表門などに使用されたものとは異なる黒色のタイルが貼られている。村井邸の時期に遡るものか否かは不明である。

### （庭園）

庭園に関しては竣工アルバムや撮影時期の異なる写真資料の他、青焼き配置図が残り、長楽館（主屋）の西側に洋風の庭園が



写真7



写真8



造営されていたことが確認できる。同配置図（図2）には大正期平面図と同様に「荒木建築事務所」の記載があり、同時期に作成されたものと考えられる。

竣工アルバム中の写真（写真9～10）には長楽館（主屋部分）の西側に高欄を設けたテラスが廻り、西洋風の四阿が建てられている。配置図から、長楽館の北西隅から敷地北縁、西縁部分が高くテラスとなり、長楽館の北西部分や、庭園の西縁に設けられた階段から、池のある一段低い部分へと降りる構成である。敷地南側の門から入ると、池のある低い面とが同一レベルとなっているようである。竣工アルバムよりも撮影時期が下るものの村井邸であった時期に撮影されたとされる庭園写真（写真11）が残る。同写真では庭園北側から西側のテラス檜の側面に、煉瓦が用いられていることが確認される。

竣工アルバム（写真10）では、池の中央に銅製あるいは鋳物製と推測される3羽の

鶴が確認できる。一方、前述の年代不詳の古写真（写真11）では、胴部に装飾の付いた壺が写り、竣工時以降に置き代わっていることが分かる。資料がなく詳細は不明で



写真9



写真10



図2 大正期配置図

あるが、大正期にこうした改変がなされた可能性が高いと考えられる。

昭和40年（1965）に新館（ホテル棟）を建設するのに伴い、庭園部分は取り壊されている。しかし、今回の調査により、長楽館の敷地内に古写真に写る庭園の構成部材が一部現存していることが判明した。

池の噴水部分に写っている壺が裏庭に移動されて現存している（写真12）。銅製の胴部の4か所には龍口の装飾が施されており、古写真（写真11）に写るものと同一であると判断される。同写真では壺から水が噴出する様子が分かるが、現存する壺から、龍口部分が噴水口になっていたことが確認された。

また、長楽館敷地内で庭園テラスの高欄部分と推測される2種類のテラコッタ製部材（写真13）が発見された。竣工アルバムなどの古写真との比較から、庭園のテラス部分の高欄（長さ約600mm）、高欄上に載る植木鉢（直径約240mm）に該当することが分かる。長楽館1階の北西部分の外壁には、庭園へと降りる階段の接続部分が痕跡として残っている（写真14）。同部分には高欄の形状が残り、今回発見された陶製品と形状が一致することが確認できる。



写真11



写真12



写真13

### 3 建築及び改修の経緯

本章では、長楽館の建設の過程とその後の主な改修履歴について、記したい。

#### ■計画から竣工時

村井は、明治31年（1898）5月に円山公園に隣接する敷地約624坪を購入している<sup>5)</sup>。別邸の建築が具体化し始めるのは



写真14

明治37年(1904)頃とされ、翌38年11月になってようやく着工した。棟札によれば明治40年(1907)6月9日に上棟した<sup>6)</sup>。夏目漱石の日記によれば、明治40年に京都を訪れた際に、3月29日に「村井兄弟の西洋館建築中」と記しており、施工中であったことが確認される<sup>7)</sup>。

棟札(写真及び銘文は、千木良礼子「長楽館の室内意匠と家具について」(京都市文化財保護課研究紀要第7号、2024年3月)を参照のこと)には、監督技師・ガーディナー、ガーディナー事務所主任・荒木賢治、現場係・上林敬吉の名が記されている。アメリカ人建築家、J.M. ガーディナーは、明治13年(1880)にアメリカ聖公会から派遣されて来日したミッション建築家である。初代学長に赴任した立教大学校(現立教大学)校舎群の他、聖アグネス教会、日光教会などの日本聖公会の教会を手掛けている。明治36年(1903)にガーディナー建築事務所を設立し、住宅や大使館の建築へも設計対象を広げた<sup>8)</sup>。

施工については、請負人・清水満之助の名が記されており、清水組京都出張所が請け負ったことが清水建設所蔵資料<sup>9)</sup>からも確認される。建設に際しての設計資料は確認されていない。建築当初の資料としては既出の竣工アルバムが残されている。記録によれば村井は明治43年に竣工の挨拶状<sup>10)</sup>を各所に送っているが、アルバムはこの際に作成したものと推測される。

内装は、東京・杉田商店、京都・河瀬商店が手掛けたことが確認されている<sup>11)</sup>。

## ■大正3年時における改修

既往調査<sup>12)</sup>により、大正3年(1914)に3階座敷を改修していることが報告されている。『建築工藝叢書 第二期十四』(大正4年8月)によれば、「外部」の設計をガーディナー、「内部」の設計を大島溢株<sup>おおしまみつと</sup>が担当し、「桃山徳川両時代折衷の十畳、十二畳の二室、其の他廊下、階段等頗る善美を尽」した内装を意図したと記される<sup>13)</sup>。清水組の工事経歴書では、大正3年1月10日～3年12月31日の工期で改修が行われたことが確認される<sup>14)</sup>。

大島溢株は、近世から続く建仁寺流の棟梁の家系に生まれ、高橋是清邸などを設計するなど、伝統建築の重鎮とも呼べる人物であった<sup>15)</sup>。村井が和室空間を増築するに際して、著名な設計者の手を求めたことが推測される。

また、今回の補足調査により、書院部分が配される東側部分の小屋裏において棟札(前掲、千木良論文参照)を発見することができた。棟札の銘文によれば、「長楽館参階日本間増築」として、技師・大島溢株、請負人・清水満之助、大工棟梁・新井金次郎が参画したことが分かる。裏面を確認することが出来ず上棟年代の記載は未確認である。なお、「外部」設計のガーディナーの関与は不詳である。

外観の古写真を検討すると、同改修によって外観が変更されていることが確認できる。竣工写真帖の外観写真(写真7)と撮影年代の下がる古写真(写真15)を比較すると、当初は寄棟造屋根の妻面が見えているが、その後の写真では正面(東側)部分が平入形式の屋根になっている。3階部



分の階高が高くなり、窓が増設されるなど開口部が増えていることも分かる。

現状の小屋組には、屋根の改修時のものと考えられる痕跡を確認することができる(写真16)。先章で述べたように3階東側の2室(上段の間・次の間)は、他の和室に比べて格段に天井高が高い。「桃山徳川両時代折衷」の豪壮な書院造の空間を実現するためには高い天井高が必要であり、このため屋根高自体を嵩上げする大規模な改修が必要になったものと考えられる。

大正3年時の改修には、大正御大典(大正4年)に備えて、豪壮な書院造の室を増築することで迎賓を目的とした和室空間の充実を図る目的があったものと推測される。『大正大禮京都府記事 庶務之部上』によれば、大正2年に賓客の滞在施設確保のための視察が行われた。同2年12月に最



写真15



写真16

終的な現地確認の上、「村井別邸長楽館」がイギリス、ドイツの各大使及び使節の宿泊に割り当てが決まった。その後、大正3年8月には第一次大戦で日本がドイツに宣戦布告したため変更があり、最終的にはロシア、イタリアの大使滞在施設に変更となる。

このため実際には、ロシア特派大使・ニコラス・マレウスキー・マレウイッチ、イタリア国特派大使グイッチョリ夫妻らの賓客が長楽館に宿泊している<sup>16)</sup>。

#### ■大正御大典以降～大正11年頃の主な改修 (喫煙室から支那室へ)

撮影時期の異なる古写真の比較から、2階支那室の内装が変更されていることが確認できる。後述するように、大正平面図(大正11年頃)では当初の室名である喫煙室から支那室へと変更がなされている。大正6年(1917)頃撮影の古写真には、天井に龍の画が描かれ、壁面にも雷文や水墨画風の絵が見られる。竣工アルバムでは、龍の天井画や壁面の水墨画風の絵画は写っていない(前掲千木良論文参照)。

また、昭和11年に刊行された長尾健吉の回想では「支那特色の紫檀細工の家具装飾を用いて支那室を作りたいと云うことで(中略)第二応接間を改装すること」になったことが記されている。このため「支那特色の龍に鳳凰」を用いた天井画を描いたという。同回想録では大正7年に改装したと記されている<sup>17)</sup>。さらに古写真から大正9年までに照明を洋風から中国風の照明に変更したものと推測される。

支那室(喫煙室)には竣工時から中国風

の要素が用いられていたものの、以上のよ  
うに大正6年～9年頃の時期に、より中国  
風意匠が濃厚になったことが確認される。

(エレベーターの設置)

今回調査することが出来た内海家資料に  
は、いくつかの青焼き図面等が残されてい  
る。同資料群には既に触れた平面図(「村井  
家京都別邸平面図」〈縮尺百分の1〉)1枚  
が残る。同図には「荒木建築事務所」記載  
が見られる。

松波秀子氏の既往研究<sup>18)</sup>を参照すると、  
荒木建築事務所は、ガーディナー事務所  
に所属した荒木賢治が開設したものと確  
認できる。松波氏によれば、荒木賢治は  
明治30年代後半から大正中頃までガー  
ディナー事務所のスタッフを勤め、長楽  
館(村井吉兵衛京都別邸)、内田定槌邸  
(明治43年/重要文化財)、小田良治  
札幌別邸(大正2年)を担当している。  
前述した竣工時の棟札にも荒木の名が  
見える。荒木の開設した建築

事務所は、荒木工務所(大正11年)から  
荒木建築事務所に改称するなど細かい名  
称変更が繰り返されたとされる。

この他、エレベーター設置改修に関する  
4枚の青焼き図面が残る。

「第壹號 村井氏京都別邸電動昇降機室改  
造平面図」(図3)

「第貳号 京都別邸エレベーター切断詳細  
図」

「第参号 村井氏京都別邸 昇降機室改造  
詳細図」(図4)

「第四号 村井氏京都別邸 昇降機塔及固  
屋組改造詳細図」(図5)

と題され、いずれも平面図同様に荒木建  
築事務所の作成によるものである。この  
改修図によるエレベーターの設置箇所は、  
平面図に記載されたエレベーター位置と  
一致している。

加えて、日本エレベーター製造株式会  
社が作成した「二人載用 人員昇降機」の  
見積書(大正11年3月16日付け)と、「御注

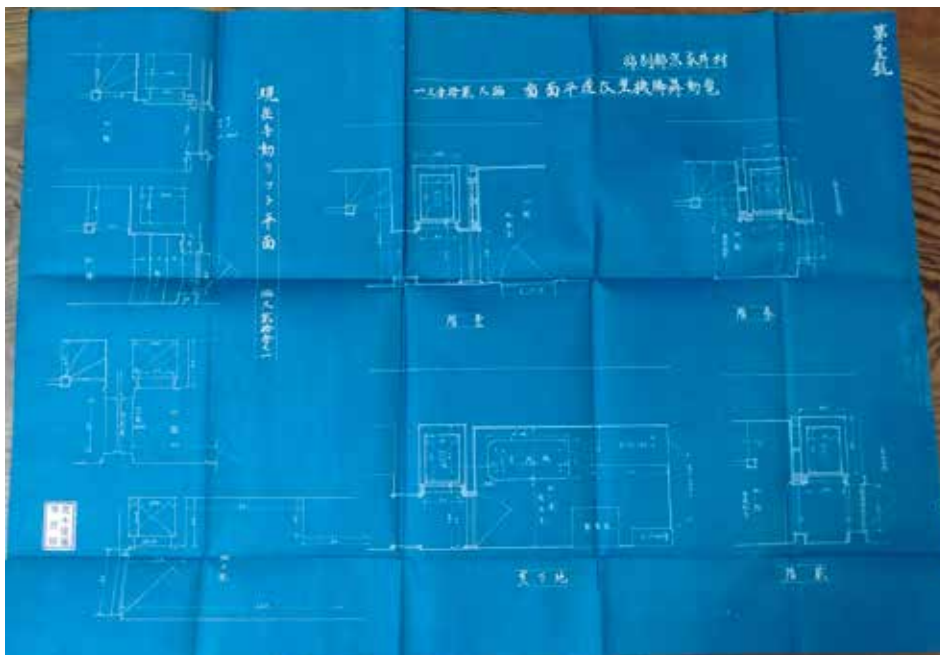


図3 エレベーター平面図

文請書」(同年4月20日付け)が残る。いずれも荒木賢治又は荒木建築事務所宛となっており、荒木がエレベーター設置工事を担当したことが確認される。柏木工務所によるエレベーター設置に際しての電気工事見積書(同11年4月28日付け)も残さ

れている。

このことから、エレベーター設置のために改修図面(4枚)が作成され、同時期に全体平面図(大正期平面図)も荒木建築事務所によって作成されたものと考えられる。昇降機の発注書類からエレベーター設



図4 エレベーター入口詳細図

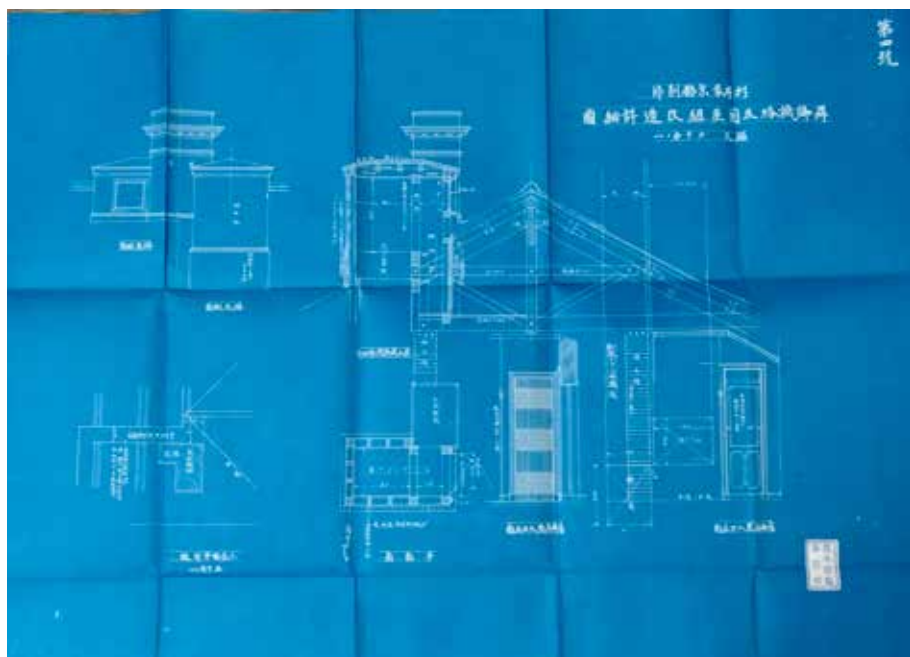


図5 エレベーター断面詳細図

置は大正11年頃になされたことが分かる。この人員用エレベーターは現存しておらず、戦後の改修において配膳用昇降機に改修されている。

以上のような大正11年頃の改修の契機となる事象として、村井の再婚が想定される。大正5年(1916)に創業時から苦楽を共にした宇野子夫人を亡くし、翌6年に日野薫子と再婚している。薫子夫人は公家の家柄である日野家の令嬢であり、宮中にも出仕した。薫子夫人の容色は殊に評判で、亀井至一が描いた絵画の題材ともなっている<sup>19)</sup>。村井はこの作品と同内容の絵画を購入し、長楽館2階の西寝室に飾っていたことが古写真から確認される(前掲千木良論文参照)。

薫子夫人を迎えるに際し、長楽館においても室や設備を整えた可能性が推測される。エレベーターの設置もまた、そうした生活空間を整えるための装置であると考えられる。加えて、村井吉兵衛は糖尿病を患い、大正10年1月に片足を切断しており<sup>20)</sup>、この点もエレベーターの設置に影響した可能性も考えられる。こうした契機を含め、明治期に建築された迎賓館的施設の設備的なアップグレードが進められたものと考えられる。

#### ■昭和3年以降の改修(村井の死去～現在)

大正15年(1926)、村井吉兵衛が死去する。翌昭和2年(1927)には昭和恐慌の煽りを受けて村井銀行が閉鎖され、長楽館の不動産は昭和銀行の管理下となった。その後、昭和12年(1937)に実業家藤井善助が譲り受け、「藤井斉成会有鄰館第三

館」として美術館施設に用いられた。この際の改修の有無については不詳である<sup>21)</sup>。

昭和21年(1946)にはGHQに接収され、同24年頃に解除される。昭和29年(1954)に土手富三氏が不動産を購入し、以降、ホテル長楽館として活用した。ホテルとしての活用に際して、昭和43年(1968)頃に1階温室の内装を改修し、同時期に2階開廊にガラスを入れて室内化する改変が行われたことが確認される。

## 4 各室の性格とその変遷

本章では資料を基に各室の用途を考察し、その中で変遷が見られる室について指摘する。

各室の用途を知ることのできる資料として、竣工アルバムに付されたキャプション、大正期平面図中の室名記載(各階ごとに示したものが図6～9)を用いることができる。この他、村井家の作成した「長楽館什器備品台帳」があり、什器が配置された室名が記載されている。同台帳は作成年代が不詳である。主として家具類などを対象にしているため、和室である3階や地下室に関する記載が見られない。台帳に記載された室名は大正期平面図とほぼ一致しており、同時期以降の状況を示し、資産を手放すに際して作成された可能性も高い。前記資料から作成した室名対称表が(表2)である。

各室の内装などの詳細については別稿(前掲千木良論文)に譲り、ここでは長楽館の主要な用途を果たす室について考察する。さらに、空間の性質の変更に關わると

思われる室名変更や内装改修について述べる。

れておらず、当初の用途は不明である。大正期平面図では、厨房をはじめとするサービスヤードとしての室用途が配置されていることが分かる。

■地中室（地階室）の用途（図6）

地階部分は竣工アルバムにはほぼ掲載さ

北西部分に厨房を置き、1階食堂脇の配

表2 室名表

|                    | 「竣工写真帖」<br>(明治期)       | 「荒木建築事務所図面」<br>(大正期)             | 「長楽館什器備品臺帳」 |
|--------------------|------------------------|----------------------------------|-------------|
| 1階                 | 廣間 (Hall)              | 廣間                               | 広間          |
|                    | 應接室 (Reception Room)   | 應接室                              | 應接室         |
|                    | 客間 (Drawing Room)      | 客間                               | パーラー？       |
|                    | 食堂 (Dining Room)       | 食堂                               | 食堂          |
|                    | 書齋 (Library)           | 書齋                               | 書齋          |
|                    | 球戯室 (Billiard Room)    | 球戯室                              | 玉突室         |
|                    | 温室 (Conservatory)      | 花卉室                              | 温室          |
| 2階                 | 喫烟室 (Smoking Room)     | 支那室                              | 支那室         |
|                    | 廣間 (Upper Hall)        | 廣間                               | 広間          |
|                    | 貴婦人室 (Boudoir)         | 夫人室                              | 夫人室         |
|                    | 東客室 (Guest Room)       | 東寢室                              | 東寢室         |
|                    | 東南客室 (Guest Room)      | 南寢室                              | 南寢室         |
|                    | 美術室 (Museum)           | 北寢室                              | 北寢室         |
|                    | 西南客室 (Guest Room)      | 西寢室                              | 西寢室         |
|                    | 東浴室 (Bath Room No.1)   | 浴室                               |             |
|                    | 西浴室 (Bath Room No.2)   | 浴室                               |             |
|                    | 手洗所 (LaVatory)?        | 化粧室                              |             |
|                    | 開廊 (The South Veranda) | 縁側                               |             |
|                    | 露臺 (The North Veranda) | 露臺                               | 露臺          |
|                    | 3階<br>(～4階)            | 茶室 (残月の間)<br>(The Ceremony Room) | 茶室 (十帖)     |
| 座敷 (Drawing Room)  |                        | 中座敷                              |             |
|                    |                        | 扣室                               |             |
| 客室 (Guest Room)?   |                        | 次の間 (十一帖)                        |             |
|                    |                        | 上段之間 (十一帖)                       |             |
|                    |                        | 次の間 (十五帖)                        |             |
| 四階客室 (Guest Room)? |                        | 西座敷                              |             |
|                    |                        | 次の間 (八帖)                         |             |
|                    |                        | 扣室 (八帖半)                         |             |
|                    |                        | 化粧室                              |             |
| 地下室                | 四階浴室 (Bath Room No.3)? | 浴室                               |             |
|                    |                        | 女中和室                             |             |
|                    | 階下室 (Basement)         | —                                |             |
|                    |                        | 執事室                              |             |
|                    |                        | 貯蔵室                              |             |
|                    |                        | 酒蔵室                              |             |
|                    |                        | 食堂                               |             |
|                    | 厨房 (Kitchen)           | 厨房                               |             |



膳室への階段が設けられ、飲食供給の動線が確保されている。東側には貯蔵室、酒蔵室といったストック機能や、石炭室、食堂（使用人用か）等が配される。西側部分にはサービス機能を統括する執事室が置かれる。

### ■ 1階室の用途（図7）

広間の東側に当たる客間は、ロココ様式を採用し、壁面に洋画家・高木背水による12枚の油彩画が嵌められている。自由の女神（ニューヨーク）、ピラミッド（カイロ）、二重橋（東京）など日本を含む世界の

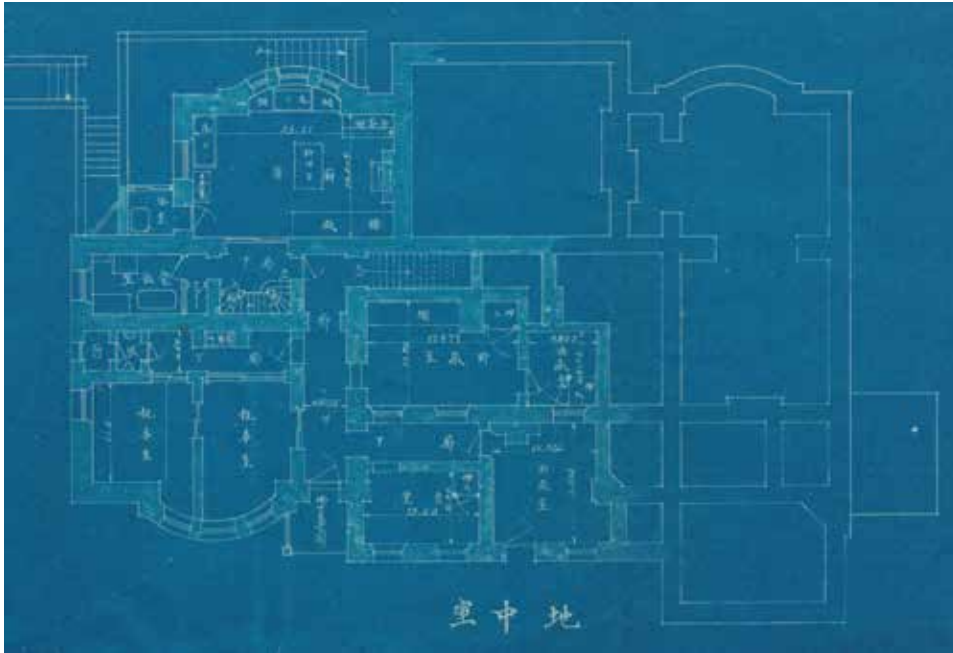


図6 大正期平面図地中室

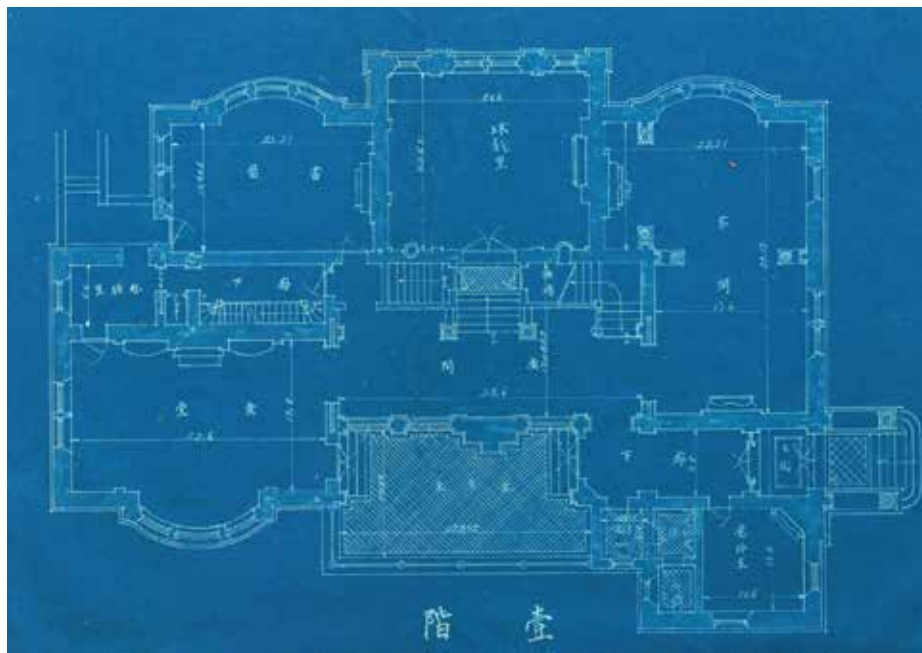


図7 大正期平面図1階

名所画となっている<sup>22)</sup>。客間の部屋名称は、竣工アルバムでは「客間 (Drawing Room)」とされ、大正期図面でも「客間」と記載される。明治42年(1909)刊行の雑誌『グラヒック』では「The parlour (大談話室)、什器台帳でも「パーラー」と呼ばれている<sup>23)</sup>。このため軽い飲食を伴う休憩・談話を目的とした用途の室であると考えられる。

広間の西側には、ネオ・バロック様式を基調とする食堂が配されている。竣工アルバム、大正期図面ともに「食堂」と呼ばれており、現在も食事空間が踏襲されている。

一般的に上流階級の間で行われたヨーロッパ風の接客形式としては、食堂における会食の後、ドロイングルーム(客間)へ移動して休憩や談話をすることがあげられる。長楽館においても客間と食堂は接客・迎賓機能の主要な2室と考えられ、広間を中心に東西の軸線で両室を結び、両室のみ引き込み式扉を採用して幅広い開口部を設けている。加えて花卉室(温室)や、球戯室などの男性客向けの娯楽機能が配される。

一方、玄関脇には「應接室」と記載される室が見られる。マントルピースにはアーヌーヴォー風の意匠、窓の戸袋にはセセッション風の装飾が見られる。玄関に最も近く、1階では最も小さな室であるため、来賓の侍従者の待機や、事務的な接客に供されたことが推測される。

## ■ 2階室の用途 (図8)

1階広間から2階への途中に「支那室」

が設けられている。球戯室(1階)と同様に支那室は男性客用の重要な娯楽機能を果たすものと考えられる。竣工アルバムでは「喫煙室」と記されるが、前述したように大正6年頃に龍の天井画が描かれるなどの内装改修が施され、室名が変更されている。内装に中国風の要素が強くなったことを示している。

2階広間の東側には夫人室、寝室2室が設けられている。夫人室は竣工アルバムでは「貴婦人室」、大正期図面以降「夫人室」と記載される。「夫人」が村井吉兵衛夫人を指すのか否かは特定できないが、女性用の空間であったことが分かる。

西側には寝室2室が配される。このうち北寄りの「北寝室」は竣工アルバムでは「美術室」と称しており、内部に陳列ケースが配置されている。大正期において寝室の増加が必要となり、用途が変更されたことが推測される。

この他、寝室に附属する浴室や化粧室が設けられており、2階は宿泊機能を想定し、大正期以降さらにその機能が強化されたと言える。

## ■ 3階室の用途 (図9)

前述したように3階は一段低い位置の「茶室」の他、床レベルの差によって西側、中央、東側の3つの和室空間のエリアに分けられる。大正3年時の3階増築改修を経たため、竣工アルバム中には室の特定が難しい写真もある。竣工アルバムから、茶室や中座敷は当初から接客空間として重要であったと推測される。

大正2年時の改修により、東側エリアに

豪壮な書院造の空間（上段の間、次の間）が増築され、和風接客空間としての役割がさらに強化されたと言えよう。3階という奥まった位置に配するという点で、より強い親密さを示す接客空間であったことも推測される。

## 5 まとめ

本稿では長楽館の建築的要素や改修履歴の検証によって、その迎賓施設としての性格を考察した。

長楽館の空間の使い分けとして、地階は飲食提供をはじめとするサービスヤード機

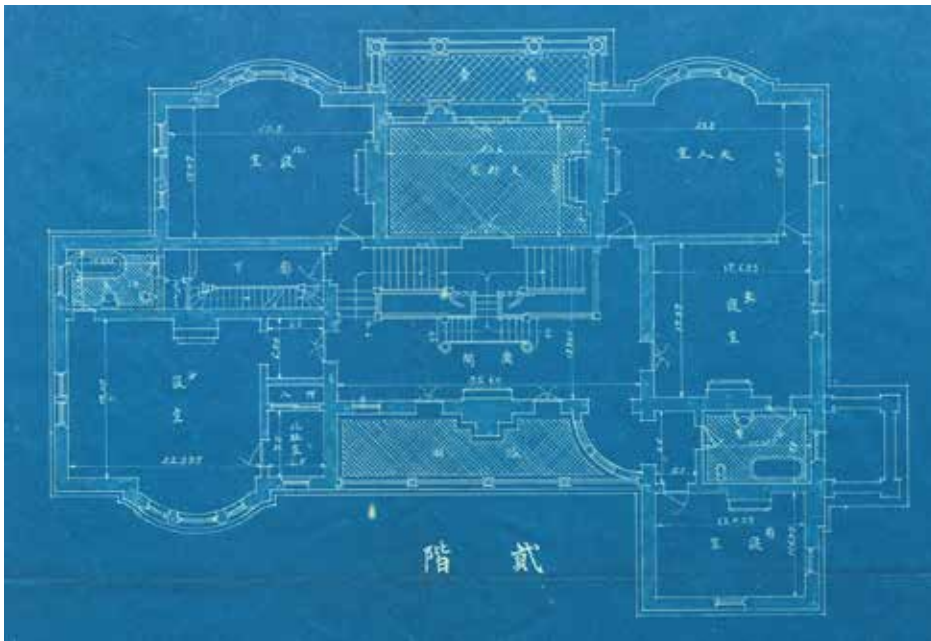


図8 大正期平面図2階

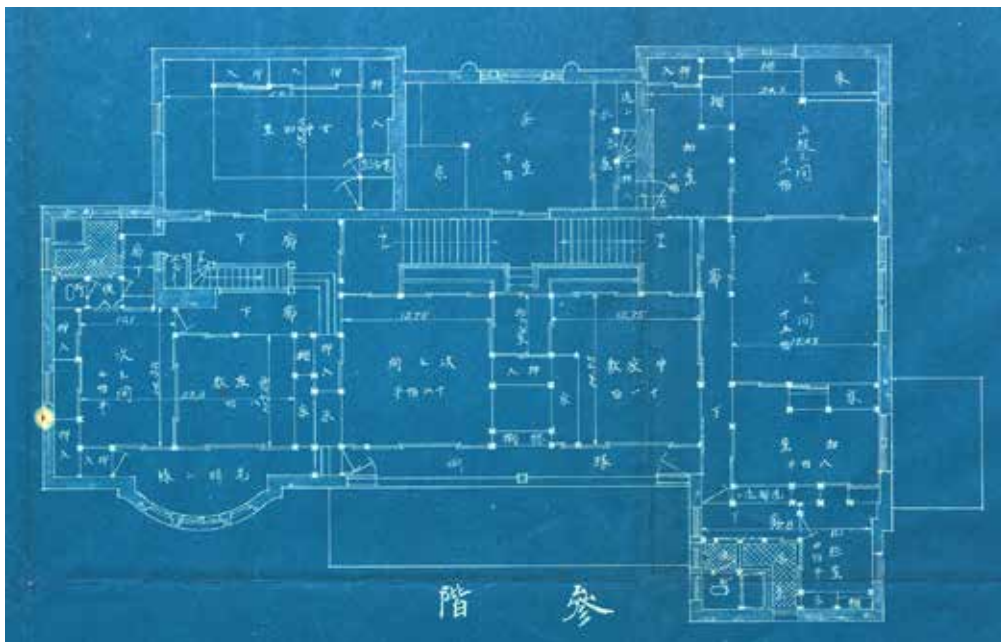


図9 大正期平面図3階



能を有した。1階では、会食・談話等の主要な接客機能が意図されている。食堂による会食、客間における談話を主たる機能として、その周囲には花卉室(温室)の鑑賞、球戯室や支那室(喫煙室)における男性向け娯楽機能が配置されている。2階は主に宿泊機能を果たした。3階は茶室や座敷による和式の接客機能を意図したと考えられる。

これらの接客空間には西洋の古典主義系の諸様式の外、支那室(喫煙室)では中国風を、和室では豪壮な書院造や数寄屋を用いた意匠など、用途に合わせた使い分けを意図したと言える。こうした用途に応じて、重要な室では天井高を高くするなどの工夫が見られる。殊に大きな段差を伴う中2階、中3階の空間を設けることで、劇的な空間の演出が図られていることも興味深い。用途に応じた空間を配置するため、床レベルや天井高の操作を行う複雑な設計手法は特筆すべき点であろう。一方、室によって窓框の高さを変えることで外観に現れる開口部の配置を整えており、より外観を重視していることが分かる。

次に、接客・迎賓機能を強化するために、各時期に改修がなされたことが確認される。大正3年には、大正御大典(大正4年)での迎賓機能に対応するため、3階に本格的な書院造の空間が設けられた。和風空間の質的向上によって、海外からの賓客への迎賓機能も強化されたと考えられる。

これには屋根形状を変更する大掛かりな改修を必要とした。

大正6年(1917)頃には支那室(旧喫煙室)の内装が改修され、より中国風が濃厚な意匠へ変更されている。大正11年(1922)頃には、エレベーターが設置され、設備の近代化によるユーティリティの向上が図られている。さらに時期の詳細は不明だが、大正11年頃までに、2階の美術室が寝室へと変更され、宿泊機能が強化された。このように、意匠的には和風、中国風への傾斜を伴いつつ、設備の近代化を含めた接客・迎賓機能が強化されている。

村井が京都における迎賓館を意図したと伝わるように、長楽館は明治末期に建築された邸宅建築として極めて充実した迎賓機能を有する事例と考えられる。意匠の上質さに加えて、空間のプランニングにおいても迎賓機能が強く意図されていたことが分かる。建築後も幾度かの改修によって迎賓機能を向上させていったことが確認され、その重要性が改めて評価されよう。

## 謝辞

所蔵資料をご提供頂いた内海愛子様、川田恭子様、現地調査にご協力頂いた株式会社長楽館、様々なご指導を頂いた石田潤一郎先生には、紙面を借りて深く御礼申し上げます。

いしかわ ゆういち  
石川 祐一 (文化財保護課 主任 (建造物担当))

註

- 1) 村井吉兵衛の業績に関する主な参考文献としては、大溪元千代『たばこ王村井吉兵衛 たばこ民営の実態』（世界文庫、1964年）、『明治のたばこ王 村井吉兵衛』（たばこと塩の博物館、2020年）などがあげられる。
- 2) 「長楽館指定調査報告」（京都大学建築学科歴史研究室、1986年）
- 3) 所蔵者の内海愛子氏（恵泉女学院大学名誉教授）は村井吉兵衛の義理の孫に当たる村井資長氏（元早稲田大学総長）の子息・村井吉敬の夫人である。同資料は前田尚武氏（京都市京セラ美術館）が所在調査を行い、その一部は同美術館で開催された「モダン建築の京都」展に出展されている。
- 4) 帝国ホテル衣糧部主任であった牧口銀司郎が後年に、以下のエピソードを記している。帝国ホテル本館を建設する際に、フランク・ロイド・ライトから黄色のすだれ煉瓦の調達を要望されていた際の会合において、重役であった村井吉兵衛が京都別邸において黄色い煉瓦が使われていることを述べ、後日、愛知県西浦町（現常滑市）の久田吉之助が納入したものであることを報告したという（『帝国ホテルのスタレ煉瓦』）。以上の文献の所在などについて、INAXライブミュージアムの後藤泰男氏からご指摘頂いた。
- 5) 旧土地台帳（下京区四条大和大路東入祇園町南側、圓山町）による。
- 6) 前掲2
- 7) 夏目漱石『夏目漱石全集第十三巻 日記及び断片』p.226（岩波書店、1966年）
- 8) 松波秀子「宣教師・教育者・建築家として J. Mc D. ガーディナー」『住宅建築』256号（建築資料研究社、1996年7月）pp.152-156等を参照した。
- 9) 合資会社清水組京都支店「工事経歴書」（清水建設所蔵資料、年代不詳）
- 10) 熊川千代喜『藤井善助伝 続編』（1939年）p.112
- 11) 前掲10 p.104
- 12) 前掲2
- 13) 「村井氏別荘長楽館の改造」『建築工藝叢書』（建築工藝協会、1915年）p.40
- 14) 前掲9
- 15) 赤堀又次郎「建築家大島溢株翁」『讀史隨筆』（中西書房1928年）pp.317-325などを参照
- 16) 『大正大禮京都府記事 庶務之部上』（1917年）p.368、pp.370-371
- 17) 長尾一平『岳陽長尾健吉』（1936年）
- 18) 松波秀子「ガーディナー建築事務所のスタッフ、荒木賢治と上林敬吉について 日本聖公会の建築史的研究4」『日本建築学会大会学術講演梗概集』（1955年）p.99
- 19) 小野忠重『江戸の洋画家』（三彩社、1968年）p.172
- 20) 村井薫子「一七 感謝の思ひ出」大谷彬亮『医者大谷周庵』（1935年）pp.50-56
- 21) 前掲10 pp.104-116
- 22) 「東京・皇居二重橋」「北京又は瀋陽の天壇」「ニューヨーク・自由の女神」「ミャンマーのパゴダ」「エジプト・カイロのピラミッド」「スイス・ローザンヌ湖」「英国・ケンブリッジ風景」「フランス・ベルサイユ宮殿」「モスクワ・クレムリン風辺」「ドイツ・サンサーシ宮殿」「山岳風景（アルプス?）」が描かれている。洋画家・高木背水の制作による。高木が同画を手掛けた経緯については、直木祐次良『高木背水傳』（大肥前社、1937年）を参照した。
- 23) 『グラフィック』第1巻第14号（有楽社、1909年8月）pp.14-15

## 長楽館の家具調度品について

千木良 礼子

### はじめに

この度、長楽館の建物及び家具の調査をする機会を得た。長楽館は昭和61年(1986)に京都市指定有形文化財として建物と家具(附)が指定されている。建物については、『京都市の文化財—京都市指定・登録文化財第四集—』(1987)にて報告されているところであるが、家具については公表されていない。当課では、昭和60年(1985)に長楽館ほか2件の家具の調査を有限会社小泉和子生活史研究所に依頼し、「京都市内近代洋風建築家具調査報告書」(1985)(以下、「昭和60年報告書」)を作成していただいたが、その内容は当課で保管するのみとなっている。この機会に改めて調査を実施したところ、昭和60年の調査時では確認できなかった当初の家具があったこと、状態が良くなく、廃棄されたものもあること、また新たに大正期の図面「村井家京都別邸平面図 縮尺百分之壱 荒木建築事務所」を確認することができた。そこで、これまでの既往調査や、刊行物などを取りまとめ、新しい知見を交えて報告することとした。

まず、次節以降で、昭和60年報告書から、当時の調査の目的、調査内容、調査組織のうち、長楽館に該当する部分を抜粋、編集して掲載する。

### 1 調査の目的

本調査の目的は、直接的には京都市文化財保護条例に基づき指定、登録した近代洋風建築又は指定、登録予定の近代洋風建築において使用されていた家具を、附として指定又は登録するための調査である。だがそれだけではない。本来、家具と建築とは密接不可分のものである。家具が備えられてはじめてその建築は人間が使えるものとなる。これは和風建築に比較して洋風建築の場合とはとくにそうである。にもかかわらず、従来は建築に付属する家具については調査研究が遅れている。このため基礎的資料も充分整っていない。ところが一方では残存家具が急速に失われている現状である。早急に残存家具の調査を行い、家具史を体系化する必要がある。そのための基礎資料を得ることも目的の一つである。

### 2 調査内容

調査内容は家具調査と関係資料調査の二つに分かれる。家具調査は調査対象建物の中に残存する全家具の中から、様式、材料、仕上げ法、関係者からの聞き取り、関係資料等によって、

- イ、建築当初に備えられた家具
- ロ、建築が当初の使用目的で使われている

た期間に備えられた家具

ハ、以上に準ずるものを選び出し、その個々について写真撮影、寸法計測を行い、家具の種類、品名、数量、寸法、材料、様式・特徴、当初の置き場所、状態、修理方法、などについて調査し、調査カードに記入した。

写真撮影はモノクロとカラーによって正面、側面、背面、斜めの各角度から撮影をし、さらに仕口、形態などに特徴あるものについては細部の撮影を行った。

寸法計測は、間口、奥行き、高さについて各最大値を計測した。

家具の種類は次のような分類による。

(屏障) 屏風、衝立、暖炉前衝立、カーテン、壁掛

(坐臥) 椅子、腰掛、寝台、寝具

(机卓台) 桌子、机、台

(収納) 箆筒、ひつ、棚、サイドボード、書棚、衣桁、帽子掛、傘立て

(暖房) ストープ、暖炉付属品

(照明) ペンダント、ブラケット、シーリングライト、スタンド、堤灯

(容飾・沐浴) 鏡、鏡台、化粧台、洗面付属品

(雑) その他

材料については主材についてだけ記入し、塗装などの仕上げ法についてもわかるものについては記した。

当初の置き場所の確定については家具調査の結果及び関係資料により行った。

状態についてはその程度に応じて、良好、良、可の三段階で示し、傷みのあるものについては具体的に破損箇所を示した。

修理方法については個々の状態に応じて

簡単に示した。

関係資料調査は、関係者、研究者等からの聞き取り、資料提供及び図書館、資料館、記念館等の調査を行い、家具の所蔵されている建物について、

イ、建物関係資料（図面、仕様書、見積書、決算書、写真類、設計者）

ロ、家具関係資料（図面、仕様書、見積書、決算書、購入先、購入金額、備品台帳、写真類、設計者）

ハ、建物の性格、歴史、変遷、居住者

ニ、家具の使われ方の歴史、変遷などについて調査を行った。

### 3 調査組織と報告書の作成

(組織)

調査は生活史研究所代表・小泉和子が京都市より委託を受けて、京都大学工学部建築史研究室及び京都市文化財保護課の協力のもとに行った。

調査員 小泉和子

調査協力 石田潤一郎（京都大学助手）

中川 理（京都大学大学院）

熊本達也（京都大学大学院）

橋爪紳也（京都大学大学院）

猪又規之（京都大学大学院）

事務局 新谷昭夫（京都市文化財保護課）

調査は小泉和子が中心になって行い、家具の選択、寸法計測、状態、修理方法などの査定、聞き取りなどを調査し、調査カードに記録し、他の調査員は主として写真録影を行い、調査全体の計画、進行、事務処理などの総括は新谷昭夫が行った。

(日程)

1985年10月19日・20日

(報告書の作成)

本報告書の執筆は小泉和子、家具復元配置図は小泉和子の分析にもとづき橋爪紳也が作成した。(以上、「昭和60年調査報告」)

#### 4 建物について

上記のような家具調査とともに、建物調査を行い、昭和61年(1986)、長楽館は京都市有形文化財として指定された。以下に示すのは指定時の説明文である。

「長楽館は、「たばこ王」と称された明治時代の実業家村井吉兵衛が円山公園の一角に建てた別荘で、その名称は伊藤博文が宿泊した折に付けたものである。工事は、設計・監督をアメリカ人技師 J. M. ガーディナーが担当し、清水満之助が請け負って(棟札)、明治38年(1905)11月に着手され、同42年6月に竣工した(『合資会社清水組京都支店工事経歴書』)。また室内装飾は、東京の杉田商店、京都の河瀬商店が分担し、壁画は高木誠一の筆になると伝える(『藤井善助傳統篇』)。

大正3年(1914)には3階の和室が、外部ガーディナー、内部大島盈株の設計、清水組京都出張所の施工により改造され(『建築工藝叢誌』第2期第14冊、前掲工事経歴書)、また戦後米軍に一時接收され、その際設備等が一部改修された。さらに、近年の修理においてサンルームの屋根をガラスから鉄板に改め、2階南面の露台に建

具を嵌めるとともに、一部内装の改変が行われた。

建物は、煉瓦造の3階建て一部地下を設け、屋根は勾配の緩い寄棟造の天然スレート葺で、東面して建ち、正面にイオニア式の玄関ポーチを付ける。外壁は、蛇腹が各層を水平に区切り、1層目は石貼り仕上げとするが、上2層にはタイルを貼り隅にコーナーストーンを置いて壁面を引き締め、全体に装飾をおさえ、簡素で平滑な外観となっている。

内部は、1階と2階には中央の広間を中心としてそのまわりに各室が配され、1階は広間の北寄りに客間、球戯室(半地下)、書斎を並べ、南寄りにはサンルームと食堂を置く。2階は貴婦人室、美術室と3室の客室から成り、また喫煙室を中2階に設けてその前には露台を張り出す。

1階の客間は、壁面を上端円形のパネルで区画して楕円形の風景画を嵌め、暖炉まわりや壁パネル、天井には植物文様のレリーフを飾り、壁から天井への移行部を丸くするなど、ロココ様式を基調とし、最も華麗で見ごたえのある部屋となっている。また、食堂と貴婦人室はルイ16世風、広間はルネッサンス風、喫煙室は中国風と、部屋で様式が異なる。

3階は和室となり、中3階には書院風の茶室も設ける。なかでも3階東北の2室は書院造風で、北室は上段を構え、横に花頭窓を開けた付書院と違棚を矩折りに並べ、更に反対側には平書院も備えて、南室を次の間とする。共に格縁漆塗の折上格天井を張り、室境内法上には箴欄間を装置する。この座敷の豪華なつくりと漸新な座敷飾り

はみごとである。

長楽館は、内部の凝った意匠に見るべきところがあり、規模も大きく、明治時代後期における和洋折衷の住宅建築の代表例として価値が高い。

また、建築当初の家具が多数残っている点も注目される。これらの家具はロココ様式、ルイ16世様式、ルネッサンス様式、中国式で、それぞれ部屋に合った様式の家具が配置されていた。ロンドンのメイプル(MAPLE)製をはじめ、大半が高級な輸入品で、意匠的にも優れており、美術工芸的な価値も高い。」

## 5 史料について

それでは、今回の調査で参照した史料について整理しておきたい。

史料は大きく以下の3点を取り上げる。

1つ目は、古写真が多く掲載されている『京都圓山 長楽館 村井別邸 THE CHORAKKAN, MR MURAI' S VILLA, MARUYAMA PARK KYOTO.』と題されたアルバムである。村井吉兵衛から藤井善助宛で、建物が竣工したので記念の写真帳を送るといふ手紙<sup>1)</sup>があることから、このアルバムは村井が明治42年(1909)12月に長楽館竣工後、明治43年(1910)1月に各関係者へ送ったものであるといえる。アルバムには刊行年の記載がない。アルバムは複数種類あるようで、写真の変更はないものの、表装が異なること、「東京印刷株式会社印行」の記載の有無や、喫煙室の漢字が「烟」と「煙」の2種類あり、「煙」の字体が他の文字と異なることから、「烟」から

「煙」に改訂されたと思われる(本稿では「竣工アルバム」とする)。

2つ目は、荒木建築事務所による「村井家京都別邸平面図 縮尺百分之壱」(個人蔵<sup>2)</sup>)である。青焼きの図面で地下から3階までの平面図が描かれている。荒木建築事務所は長楽館が竣工した明治42年(1909)ではガーディナー事務所主任をしていた荒木賢治による事務所と思われる。荒木は大正9年(1920)頃に独立したとされる<sup>3)</sup>こと、また長楽館関連の史料として、大正11年(1922)4月20日付エレベーター注文請書(個人蔵<sup>2)</sup>)の宛名に村井長楽館と荒木賢治の名前があることから、この青焼き図面は大正11年頃のものと思われる(本稿では「大正期の図面」とする)。

3つ目は、「副 長楽館/什器備品台帳/永田町/村井家」(個人蔵<sup>4)</sup>、本稿では「備品台帳」とする)である。昭和60年調査時にもこの史料が確認されていたが、当課ではコピーの保管のみで所有者が不明であった。今回大正期の図面を確認する際に、同じ所有者であることが判明した。備品台帳は、室名が異なることもあり、竣工アルバムや大正期の図面よりも後ではないかと思われる。

昭和60年の調査時は、竣工アルバムと備品台帳のみであったが、今回、大正期の図面を含めて検討した。大正期の図面は、村井吉兵衛が使用していた時代であり、かつ現状の平面に最も近いものであることから、室名には大正期の図面を採用し、竣工アルバム記載の室名は( )で記した。

## 6 調査結果と考察

今回の調査では、昭和60年報告書を基本として、家具の点数を再調査し、新番号をあてて修正した。掲載する表及び図の番号は全て新たにあてた番号である。

### (1) 残存状況

イ. 現存家具の総数は65点（令和5年8月時点）で、個々の家具のデータは表1に記載した通りである。

ロ. 種類別内訳は表2の通りである。

ハ. 内容は次の通りである。

- ・ 記載した家具の殆どは建築当初の家具である。
- ・ 様式は、主要部分はロココ様式、ルイ16世様式、ヴィクトリアンで、その他はチップendale、ルネサンス調や折衷表のもの、また喫煙室は中国式である。
- ・ 技術的にはきわめて高く、精巧に作られていて、美術工芸的な家具である。
- ・ 国産品は東京の杉田商店の製品である。
- ・ 様式家具は大部分が輸入品と考えられる。このうち長40・44・45・46にはメイプル（MAPLE）のプレートがある。メイプルはロンドンのトテナムコートにある老舗の家具室内装飾の専門店であった（1997年倒産）。明治末頃に資本金4千万、従業員7千万という大きな店であった。日本の洋家具の草創期に何人かの日本人がここに修行に行っている。日本のデパートで最初に洋家具を扱いはじめた三越でも、店員の林幸平をこのメイプルに派遣して

修業させている。

### (2) 家具配置の復元

当初の長楽館の室内・家具についての史料としては、以下のものがある。

- ・ 竣工アルバム
- ・ 「備品台帳」（表1では「備」）
- ・ 大正期の図面

これらに加えて若干の写真がある。このうち最も時期の早いものが竣工アルバムで、これは建築竣工時に作成したものと思われる。備品台帳は年号がないが、喫煙室が支那室に変えられた後のものである。アルバムと備品台帳とでは室名が多少違っている（『グラフィック』1（14）1909年8月では既に「支那間」と記載されるので、早い時期に喫煙室から呼び名が変わったと思われる）。そこで、現存する家具とアルバムに写っている家具及び備品台帳の家具の三種を照合することによって、当初の家具配置の一部を復元できる。しかし、アルバムと備品台帳にも出てこない家具が多数あったはずであり、その中の一部は現存している。これについては、その家具の用途とデザインにより、推定復元を行うことになる。この場合、幸い長楽館は、各室それぞれがかなりはっきりと様式主義に基づいて作られており、しかもカーテンボックスやマントルピース、鏡、天井などがよく残っているため、これと家具の様式とを対照することによって、比較的容易にもとの家具配置を推定復元することができる。そうして推定復元した当初の各家具配置は表3及び図1の通りである。

また表4は備品台帳より作成した室別の家具リストである。

## むすびにかえて

最後に昭和60年報告書に記された「家具の価値」という文章を紹介し、稿を終えることとする。

「東京の岩谷松平とならんで煙草王といわれ、京都で様式煙草の製造に成功した村井吉兵衛の別邸としての記念碑的意味が大きいこと。村井吉兵衛は、京都のみならず、日本の近代産業史上における一人の重要な人物であることからいっても、この建物は近代史上の一つの重要な資料である。その場合、中に家具があることによって、より一層村井の生活、思想などの背景がより明確に示されるものとなり、歴史的価値が高い。

家具そのものが意匠的にみて美術工芸的価値が高いこと。輸入品と国産品があるが、輸入品の場合は、外国製品としてもかなり高級なものを輸入している。これはまた1909年当初のヨーロッパの様式家具の水準を示すものとして意味をもつ。

国産品についても美術工芸的価値の高いことは同様であるが、これが東京の杉田商店の製品である点にまた重要な意味がある。杉田商店は、日本最初で最大の洋家具商であり、日本近代洋家具史上重要な位置を占めている。一種の政商的存在で、とくに伊藤博文や村井吉兵衛とも親交があっ

た。ついでにいうと、京都府庁の家具は杉田商店が製造し、村井吉兵衛が寄付したものである。杉田商店は当時の日本の重要な家具の家具・室内装飾を大部分手がけていたが、はっきりと杉田製であることがわかって残っているものは少ない。長楽館の場合は、杉田製であることがわかっているので、日本における洋家具の技術導入過程が伺える点でも、価値が高い。

日本における洋風様式建築及び家具として、これだけレベルの高いもので、しかもまともに残っている例は、きわめて少ない。とくに住宅では少ない。」

## 謝辞

この度、長楽館の家具について現地調査をする機会を得ることができ、株式会社長楽館にお礼申し上げます。これまで小泉和子氏の調査報告書を公表できないかと長年思っていたところ、このような機会を得ることができ、大変有り難く存じます。数々の史料から家具の配置まで復元されたことについて、今回その作業を辿ることで大変な作業だったのだと改めて感じました。小泉和子先生には当時の調査資料を惜しみなくお貸しいただき、深く感謝申し上げます。また、新たな史料調査についてご協力、ご快諾いただきました内海愛子様及び川田恭子様にお礼申し上げます。

ちぎら れいこ  
千木良礼子 (文化財保護課 文化財保護技師 (建造物担当))



## 註

- 1) 熊川千代喜 (1939) 『藤井善助伝 続編』  
p.112に記載。また文面は同じだが宛名が別の  
手紙の写しが長楽館に保管されている。
- 2) 荒木建築事務所による「村井家京都別邸平面  
図 縮尺百分之壺」と大正11年(1922)4  
月20日付エレベーター注文請書はまとまっ  
て保管されていた。史料の閲覧は史料所有者  
である内海愛子氏と史料整理をされた川田恭  
子氏のご厚意による。
- 3) 松波秀子 (1996) 「宣教師・教育者・建築家  
としてJ.McD. ガーディナー」『住宅建築』7月  
号
- 4) 註2とあわせて保管されている。

表1 家具の一覧

| 旧台帳<br>番号        | 市附<br>指定 | 新番号 | 種類 | 品名           | 数<br>量 | 寸法(mm) |     |      | 材料                 | 様式及び特徴        | 年代   | 置場所(時期)  | 備考   |
|------------------|----------|-----|----|--------------|--------|--------|-----|------|--------------------|---------------|------|----------|--|
|                  |          |     |    |              |        | W      | D   | H    |                    |               |      |          |  |
| 02-01            |          | 長1  | 屏障 | フアイアースクリーン   | 1      | 670    | 300 | 1115 | チーク                | ロココ調、輸入品      | 1909 | 客間(当初)   | 備品台帳(205)  |
| 02-03            |          | 長2  | 屏障 | フアイアースクリーン   | 1      | 665    | 320 | 1085 | チーク、緞子             | ルイ16世風、輸入品    | 1909 | 夫人室カ(当初) | 当初布  |
| "02-05<br>02-06" |          | 長3  | 坐臥 | 長椅子          | 2      | 1580   | 670 | 920  | チーク、馬毛詰め           | ロココ調、輸入品      | 1909 | 客間(当初)   | 脚部にラベル「第拾壹号緞子張腰掛椅子十六脚ノ内式」。アルバム掲載。長3～9までセットとして備(214)に記載。    |
| 02-08            |          | 長4  | 坐臥 | 二人用腰掛        | 1      | 1250   | 600 | 710  | チーク、緞子張、馬毛詰め       | ロココ調、輸入品      | 1909 | 客間(当初)   | 脚部にラベル「(欠け)緞子張腰掛椅子十六脚ノ内十二」アルバム掲載、備(214)                    |
| 02-09            |          | 長5  | 坐臥 | S字椅子         | 1      | 1200   | 550 | 720  | チーク、緞子張、馬毛詰め       | ロココ調、輸入品      | 1909 | 客間(当初)   | アルバム掲載、備(214)  |
| 02-10            |          | 長6  | 坐臥 | 肘掛椅子         | 2      | 640    | 600 | 920  | チーク、馬毛詰め           | ロココ調、輸入品      | 1909 | 客間(当初)   | アルバム掲載、備(214)  |
| 02-11            |          | 長7  | 坐臥 | 袖付小椅子        | 2      | 600    | 640 | 860  | チーク、馬毛詰め           | ロココ調、輸入品      | 1909 | 客間(当初)   | アルバム掲載、備(214)  |
| "02-12<br>02-13" |          | 長8  | 坐臥 | 小椅子          | 4      | 500    | 550 | 880  | チーク、馬毛詰め           | ロココ調、輸入品      | 1909 | 客間(当初)   | アルバム掲載、備(214)  |
| 02-14            |          | 長9  | 坐臥 | 足置台          | 2      | 435    | 335 | 150  | チーク、緞子張、馬毛詰め       | ロココ調、輸入品      | 1909 | 客間(当初)   | 脚部にラベル「第拾貳号緞子張足掛式個ノ内志」[(同左)式]、アルバム掲載、備(214)                |
| 02-15            |          | 長10 | 坐臥 | 腰掛(ウインドシート)  | 1      | 700    | 400 | 620  | チーク                | ルイ16世風、輸入品    | 1909 | 夫人室(当初)  | アルバム掲載、備(155)  |
| 02-17            |          | 長11 | 坐臥 | コーナー椅子       | 2      | 550    | 545 | 595  | チーク                | ルイ16世風、輸入品    | 1909 | 夫人室(当初)  | 脚部にラベル「第百●五号緞子●腰●九●ノ内●」、「第一七五号緞子裂張椅子腰掛九脚ノ内七」、アルバム掲載、備(155) |
| 02-18            |          | 長12 | 坐臥 | 肘掛椅子(ベルジェール) | 1      | 620    | 620 | 885  | チーク                | ルイ16世風、輸入品    | 1909 | 夫人室(当初)  | アルバム掲載、備(214)  |
| -                |          | 長13 | 坐臥 | 回転椅子         | 1      | 640    | 620 | 725  | チークカ               | ルイ16世風カ       | 1909 | 書斎(当初)   | アルバム掲載、備(229)  |
| 02-19            | ○        | 長14 | 坐臥 | 寝椅子          | 1      | 1700   | 600 | 670  | ブラジリアンローズ、コーバルニス仕上 | ビクトリアン、象嵌、輸入品 | 1909 | 西寢室カ(当初) | 備(191)カ  |
| 02-20            | ○        | 長15 | 坐臥 | 肘掛椅子         | 1      | 600    | 700 | 835  | ブラジリアンローズ、コーバルニス仕上 | ビクトリアン、象嵌、輸入品 | 1909 | 西寢室カ(当初) | 備(191)カ  |

表1 家具の一覧

| 旧台帳<br>番号 | 市附<br>指定 | 新番号 | 種類  | 品名           | 数量 | 寸法(mm) |      |      | 材料                         | 様式及び特徴 | 年代       | 置場所(時期)                                     | 備考 |
|-----------|----------|-----|-----|--------------|----|--------|------|------|----------------------------|--------|----------|---|----|
|           |          |     |     |              |    | W      | D    | H    |                            |        |          |   |    |
| 02-21     | ○        | 長16 | 坐臥  | 丸座肘掛椅子       | 1  | 550    | 650  | 600  | ブラジリアンローズ、コーパルニス仕上         | 1909   | 西寢室カ(当初) | 備(191)カ                                     |    |
| 02-24     | ○        | 長17 | 坐臥  | 寝椅子          | 1  | 1550   | 680  | 760  | サクラ                        | 1909   | 不明       | アルバム東客室と同型だが色が違う                            |    |
| 02-27     |          | 長18 | 坐臥  | 小椅子          | 2  | 460    | 455  | 1000 | シタン                        | 1909   | 不明       |   |    |
| 02-32     | ○        | 長19 | 坐臥  | 長椅子          | 3  | 1490   | 520  | 760  | カエデ、タモ、コーパルニス仕上、レザー(クッション) | 1909   | 一階広間(当初) | アルバム掲載、杉田商店と考えられる                           |    |
| 02-33     | ○        | 長20 | 坐臥  | 長椅子          | 1  | 1120   | 355  | 810  | カエデ、タモ、コーパルニス仕上、レザー(クッション) | 1909   | 一階広間(当初) | アルバム掲載、杉田商店と考えられる                           |    |
| 02-34     | ○        | 長21 | 坐臥  | 長椅子          | 1  | 1830   | 650  | 1050 | シタン、大理石                    | 1909   | 支那室(当初)  | アルバム掲載                                      |    |
| 02-35     | ○        | 長22 | 坐臥  | 寝台           | 1  | 1560   | 2085 | 1490 | チーク、寄木、サクラ柱、コクタン           | 1909   | 東寢室(当初)  | ラベル「第一五〇号寄木寝台二人用台」、備(158)、解体して保管            |    |
| 02-37     |          | 長23 | 机卓台 | 角卓子          | 1  | 1200   | 760  | 690  | チーク                        | 1909   | 客間(当初)   | ラベル「第二百十二」「第拾号甲単羅紗口長机老脚」                    |    |
| 02-38     |          | 長24 | 机卓台 | 小卓子          | 2  | 600    | 600  | 690  | チーク                        | 1909   | 客間(当初)   | アルバム掲載、備(212)                               |    |
| 02-39     | ○        | 長25 | 机卓台 | 花台           | 1  | 360    | 355  | 1055 | チーク、大理石                    | 1909   | 客間(当初)   | アルバム掲載、備(211)                               |    |
| 02-40     | ○        | 長26 | 机卓台 | 花台           | 2  | 510    | 500  | 695  | チーク、大理石                    | 1909   | 客間(当初)   | アルバム掲載、備(211)                               |    |
| 02-41     |          | 長27 | 机卓台 | 角卓子          | 1  | 1040   | 740  | 760  | シタン                        | 1909   | 北寢室(当初)  | アルバム掲載、備(208)                               |    |
| 02-42     |          | 長28 | 机卓台 | 角卓子          | 1  | 1420   | 870  | 760  | サクラ、アイボリー仕上                | 1909   | 東寢室カ(後)  | 天板裏にラベル「台拾参号甲大理石四方台式個ノ内巻」「村井」、アルバム掲載、備(204) |    |
| 02-43     |          | 長29 | 机卓台 | 楕円卓子         | 1  | 1470   | 900  | 720  | サクラ、スギ                     | 1909   | 食堂(当初)   | アルバム掲載、備(224)                               |    |
| 02-44     |          | 長30 | 机卓台 | 楕円卓子(ペディスタル) | 1  | 1330   | 920  | 780  | タモ                         | 1909   | 食堂(当初)   | アルバム掲載、備(225)、ラベル「村井」「225」                  |    |
| 02-45     | ○        | 長31 | 机卓台 | 角卓子(壁際卓子)    | 1  | 1220   | 610  | 705  | 大理石                        | 1909   | 食堂(当初)   | 備(220)、ラベル「村井」                              |    |
| -         |          | 長32 | 机卓台 | 書机           | 1  | 1820   | 840  | 745  | チークカ                       | 1909   | 書斎(当初)   | アルバム掲載、備(226)                               |    |
| 02-46     |          | 長33 | 机卓台 | 花台           | 2  | 445    | 445  | 720  | チーク、大理石                    | 1909   | 夫人室(当初)  | アルバム掲載、備(150)                               |    |

表1 家具の一覧

| 旧台帳<br>番号 | 市附<br>指定 | 新番号 | 種類    | 品名           | 数量 | 寸法(mm)           |            |                             | 材料                           | 様式及び特徴 | 年代      | 置場所(時期)   | 備考 |
|-----------|----------|-----|-------|--------------|----|------------------|------------|-----------------------------|------------------------------|--------|---------|---|----|
|           |          |     |       |              |    | W                | D          | H                           |                              |        |         |   |    |
| 02-47     | ○        | 長34 | 机卓台   | 花台           | 1  | 径<br>323         | 920        | 不明                          | 不明                           | 不明     | 北寝室(後)  | 備(197), ラベル「第一二九号寄木丸高台老個」                                       |    |
| 02-48     | ○        | 長35 | 机卓台   | 彫刻台          | 1  | 775              | 455        | サクラ                         | ルネサンス風, 国<br>産品              | 不明     | 不明      | 鏡板は後備   |    |
| 02-49     | ○        | 長36 | 机卓台   | 彫刻台          | 1  | 500              | 500        | 大理石, 御影石                    | ねじり薄柱形, 輸<br>入品              | 1909   | 客間(後)   | 備(215)  |    |
| 02-50     | ○        | 長37 | 机卓台   | 彫刻台          | 1  | 330              | 330        | 御影石                         | ねじり薄柱形, 輸<br>入品              | 1909   | 支那室(後)  | 備(215)  |    |
| 02-51     | ○        | 長38 | 机卓台   | 彫刻台          | 1  | 300              | 300        | 大理石, 鉄(金メッ<br>キ)            | 円柱形, 輸入品                     | 1909   | 夫人室(当初) | アルバム掲載, 備(152)  |    |
| 02-52     | ○        | 長39 | 収納    | 鏡付衣裳箆<br>高   | 1  | 1210             | 525        | チーク                         | レイ16世風, 象<br>散, 輸入品          | 1909   | 東寝室(当初) | アルバム掲載, 備(159)  |    |
| 02-54     | ○        | 長40 | 収納    | 鏡付複式衣<br>裳箆筒 | 1  | 2135             | 540        | ブラジリアンロー<br>ズ               | 輸入品                          | 1909   | 西寝室(当初) | プ レ ー ト「MAPLE&Co TOTTENHAM<br>COURTROAD LONDON」, 備(183)         |    |
| -         |          |     |       | ガラス飾棚        | 1  | 1230             | 500        | チーク                         | ロココ風                         | 1909   | 客室(当初)  |   |    |
| 02-55     | ○        | 長42 | 収納    | 帽子掛          | 1  | 2466             | 390        | タモ, サクラ, サ<br>ワラ            | ルネサンス風, 国<br>産品              | 1909   | 玄関(当初)  | 備(219)  |    |
| 02-56     |          | 長43 | 照明    | 六灯式ペン<br>ダント | 1  | 1880             | 1010       | 真鍮                          | -                            | 不明     | 球戯室(後)  | 当初のものとは違う   |    |
| 02-57     | ○        | 長44 | 容飾・沐浴 | 鏡付化粧台        | 1  | 1360             | 610        | ブラジリアンロー<br>ズ               | 輸入品                          | 1909   | 南寝室(当初) | プ レ ー ト「MAPLE&Co TOTTENHAM<br>COURTROAD LONDON」, アルバム掲載, 備(167) |    |
| 02-58     | ○        | 長45 | 容飾・沐浴 | 鏡付洗面台        | 1  | 1370             | 600        | ブラジリアンロー<br>ズ, 大理石, タイ<br>ル | 輸入品                          | 1909   | 西寝室(当初) | プ レ ー ト「MAPLE&Co TOTTENHAM<br>COURTROAD LONDON」, アルバム掲載, 備(185) |    |
| 02-59     | ○        | 長46 | 容飾・沐浴 | 鏡付化粧台        | 1  | 915              | 520        | パーブルウッド                     | 輸入品                          | 1909   | 北寝室(当初) | プ レ ー ト「MAPLE&Co TOTTENHAM<br>COURTROAD LONDON」, アルバム掲載, 備(194) |    |
| 02-62     |          | 長47 | 容飾・沐浴 | タオル掛         | 1  | 685              | 370        | チーク                         | 上部に彫刻。脚部<br>に溝彫。             | 不明     | 西寝室カ    |   |    |
| 02-63     |          | 長48 | 容飾・沐浴 | タオル掛         | 1  | 930              | 235        | 不明                          | 不明                           | 1909   | 東寝室(当初) | アルバム掲載  |    |
| 02-64     |          | 長49 | 雑     | イーゼル         | 1  | 700              | -          | チーク                         | ロココ風, 輸入品                    | 1909   | 客間カ(当初) |   |    |
| 02-66     | ○        | 長50 | 雑     | 室内装飾品        | 2  | 上475<br>台<br>730 | 770<br>650 | 唐木, 象牙                      | 中国風, 中国住<br>宅・人はミニチュ<br>アセット | 不明     | 支那室カ    |   |    |

表2 種類別家具の内訳

| 種類    | 品名           | 個数 | 合計 |
|-------|--------------|----|----|
| 屏障    | ファイアースクリーン   | 2  | 2  |
| 坐臥    | 長椅子          | 7  | 31 |
|       | 二人用腰掛        | 1  |    |
|       | S字椅子         | 1  |    |
|       | 肘掛椅子         | 4  |    |
|       | 回転椅子         | 1  |    |
|       | 袖付小椅子        | 2  |    |
|       | 小椅子          | 6  |    |
|       | 足置台          | 2  |    |
|       | 腰掛 (ウインドシート) | 1  |    |
|       | コーナー椅子       | 2  |    |
|       | 寝椅子          | 2  |    |
|       | 丸座肘掛椅子       | 1  |    |
|       | 寝台           | 1  |    |
| 机卓台   | 角卓子          | 4  | 19 |
|       | 小卓子          | 2  |    |
|       | 楕円卓子         | 2  |    |
|       | 書机           | 1  |    |
|       | 花台           | 6  |    |
|       | 彫刻台          | 4  |    |
| 収納    | 衣裳箆笥         | 2  | 4  |
|       | ガラス飾棚        | 1  |    |
|       | 帽子掛          | 1  |    |
| 照明    | 六灯式ペンダント     | 1  | 1  |
| 容飾・沐浴 | 鏡付化粧台        | 2  | 5  |
|       | 鏡付洗面台        | 1  |    |
|       | タオル掛         | 2  |    |
| 雑     | イーゼル         | 1  | 3  |
|       | 室内装飾品        | 2  |    |
|       |              |    | 65 |

表3 家具配置の復元

|               | 室名           | 品名         | アルバム<br>中の有無 | 備品台帳  | 旧調査票番号 | 新番号  |
|---------------|--------------|------------|--------------|-------|--------|------|
| 一階            | 玄関           | 帽子掛        |              | 219   | 02-55  | 長 42 |
|               | 広間           | 仁王台        | 有            | 234   | 02-32  | 長 19 |
|               |              | 腰掛         |              |       | 02-33  | 長 20 |
|               | 応接室          | 机          | 有            | 216   |        |      |
|               |              | 椅子         | 有            | 217   |        |      |
|               |              | 花台         | 有            | 218   |        |      |
|               | 客間           | ファイアースクリーン |              | 205   | 02-01  | 長 1  |
|               |              | 〃          |              | 205   | 02-02  |      |
|               |              | 長椅子        | 有            | 214   | 02-05  | 長 3  |
|               |              | 〃          | 有            | 〃     | 02-06  | 長 3  |
|               |              | 〃          | 有            | 〃     | 02-07  |      |
|               |              | 二人用腰掛      | 有            | 〃     | 02-08  | 長 4  |
|               |              | S字椅子       | 有            | 〃     | 02-09  | 長 5  |
|               |              | 肘掛椅子       | 有            | 〃     | 02-10  | 長 6  |
|               |              | 袖付小椅子      |              | 〃     | 02-11  | 長 7  |
|               |              | 小椅子        | 有            | 〃     | 02-12  | 長 8  |
|               |              | 〃          | 有            | 〃     | 02-13  | 長 8  |
|               |              | 足置台        | 有            | 〃     | 02-14  | 長 9  |
|               |              | 角卓子        | 有            | 212   | 02-37  | 長 23 |
|               |              | 小卓子        | 有            | 211   | 02-38  | 長 24 |
|               |              | 花台         | 有            | 208   | 02-39  | 長 25 |
|               | 〃            |            | 204          | 02-40 | 長 26   |      |
|               | 〃            | 有          |              |       |        |      |
|               | 彫刻台          | 有          |              |       |        |      |
|               | ガラス飾棚        | 有          | 209          |       | 長 41   |      |
|               | 食堂           | 楕円卓子       | 有            | 224   | 02-43  | 長 29 |
|               |              | 〃          | 有            | 225   | 02-44  | 長 30 |
| 角卓子           |              |            | 220          | 02-45 | 長 31   |      |
| 伸縮大食卓         |              | 有          | 221          |       |        |      |
| 黒革張食堂椅子       |              | 有          | 222          |       |        |      |
| 書斎            | 書机           | 有          | 226          |       | 長 32   |      |
|               | 回転椅子         | 有          | 229          |       | 長 13   |      |
|               | サイド椅子        | 有          | 227          |       |        |      |
|               | 小椅子          | 有          | 229          | 02-28 |        |      |
|               | ファイアースクリーン   | 有          |              |       |        |      |
| 撞球室           | 玉台           | 有          | 231          |       |        |      |
|               | カウンター台       |            |              | 02-63 | 長 48   |      |
|               | 肘掛椅子         | 有          | 222          |       |        |      |
|               | 長椅子          | 有          | 223          |       |        |      |
|               | 小卓子          | 有          |              |       |        |      |
| 二階            | 支那室<br>(喫煙室) | 茶卓子        | 有            |       |        |      |
|               |              | 長椅子        | 有            |       | 02-34  | 長 21 |
|               |              | 長椅子        | 有            |       |        |      |
|               |              | 肘掛椅子       | 有            |       |        |      |
|               |              | 敦          | 有            |       |        |      |
|               |              | 丸卓子        | 有            |       |        |      |
|               | 彫刻台          | 有          | 215          | 02-50 | 長 37   |      |
| 室内装飾品         |              |            | 02-66        | 長 50  |        |      |
| 南寝室<br>(東南客室) | 鏡付化粧台        | 有          | 167          | 02-57 | 長 44   |      |
|               | 椅子           | 有          | 173          |       |        |      |
|               | 丸卓子          | 有          | 175          |       |        |      |

| 表3 家具配置の復元 | 品名            | アルバム中の有無   | 備品台帳  | 旧調査票番号 | 新番号   |      |
|------------|---------------|------------|-------|--------|-------|------|
| 二階         | 東寝室<br>(東客室)  | ファイアースクリーン |       | 142    | 02-04 |      |
|            |               | 鏡付衣裳箆筒     | 有     | 159    | 02-52 | 長 39 |
|            |               | 寝椅子        | 有     |        |       |      |
|            |               | 肘掛椅子       | 有     | 163    | 02-26 |      |
|            |               | 寝台         | 有     | 158    | 02-35 | 長 22 |
|            |               | 手拭掛        | 有     |        | 02-65 |      |
|            |               | 花台         | 有     | 157    |       |      |
|            |               | 便器箱        | 有     | 168    |       |      |
|            |               | 椅子         | 有     | 163    |       |      |
|            |               | 丸卓子        | 有     | 164    |       |      |
|            | 洗面台           | 有          | 160   |        |       |      |
|            | 北寝室<br>(美術室)  | 鏡付衣裳箆筒     |       | 193    | 02-53 |      |
|            |               | 角卓子        |       | 196    | 02-41 | 長 27 |
|            |               | 花台         |       | 197    | 02-47 | 長 34 |
|            |               | 鏡付化粧台      |       | 194    | 02-59 | 長 46 |
|            |               | 洗面台        |       | 198    | 02-60 |      |
|            | 夫人室<br>(貴婦人室) | 木瓜形台       | 有     | 153    |       |      |
|            |               | 椅子         | 有     | 156    |       |      |
|            |               | 楕円卓子       | 有     | 154    |       |      |
|            |               | ファイアースクリーン |       |        | 02-03 | 長 2  |
|            |               | 腰掛         | 有     | 155    | 02-15 | 長 10 |
|            |               | 小椅子        |       | "      | 02-16 |      |
|            |               | コーナー椅子     |       | "      | 02-17 | 長 11 |
|            |               | 肘掛椅子       | 有     | "      | 02-18 | 長 12 |
|            |               | 花台         | 有     | 150    | 02-46 | 長 33 |
|            |               | 彫刻台        | 有     | 152    | 02-51 | 長 38 |
|            |               | ピアノ        | 有     | 148    |       |      |
|            |               | 棚          | 有     | 147    |       |      |
|            | 机             | 有          | 149   |        |       |      |
|            | 西寝室<br>(西南客室) | 長椅子        | 有     |        |       |      |
|            |               | "          | 有     |        |       |      |
|            |               | 便器箱        |       | 182    |       |      |
|            |               | 鏡付衣裳箆筒     |       | 183    | 02-54 | 長 40 |
| 寝台         |               | 有          | 181   | 02-36  |       |      |
| "          |               | 有          | "     |        |       |      |
| 寝椅子        |               |            | 191   | 02-19  | 長 14  |      |
| 小椅子        |               |            | "     | 02-22  |       |      |
| 小椅子(背)     |               |            | "     | 02-23  |       |      |
| 丸座肘掛椅子     |               |            | "     | 02-21  | 長 16  |      |
| 肘掛椅子       |               |            | "     | 02-20  | 長 15  |      |
| "          |               | 有          | 190   | 02-30  |       |      |
| 洗面台        |               |            | 185   | 02-58  | 長 45  |      |
| 卓子         |               | 有          | 186   |        |       |      |
| タオル掛       | 有             |            | 02-64 | 長 49   |       |      |
| 広間         | 椅子            | 有          |       |        |       |      |
| 縁側<br>(開廊) | 卓子            | 有          | 179   |        |       |      |
|            | 椅子            | 有          | "     |        |       |      |
| 露台         | 椅子            | 有          | 202   |        |       |      |
|            | 卓子            | 有          | "     |        |       |      |

表4 備品台帳より作成した室別家具リスト

室名は大正期の図面を基本とし、備品台帳の室名は( )とした。

○印は現存、△印は写真にあるもので、数字は現存個数。

| 室名      | 番号  | 品名                  | 個数<br>(備品台帳) | 附属   |
|---------|-----|---------------------|--------------|------|
| 階段      | 144 | 海浜夕陽古城油絵額           |              |      |
| "       | 145 | 山上ヨリ島ヲ望ム油絵額         |              |      |
| "       | 146 | 紫檀唐草彫椅子             | 2            |      |
| 東寢室     | 141 | 金塗天使彫椽鏡             |              |      |
| "       | 142 | 刺繍有織模様裂張金塗竹椽衝立      |              |      |
| "       | 143 | △ 刺繍唐草模様三枚折         |              |      |
| "       | 157 | △ 大理石花鉢台            |              |      |
| "       | 158 | ○ 寄木金縷絡飾付寢台         |              |      |
| "       | 159 | ○ 寄木金縷絡飾鏡付洋服棚       |              |      |
| "       | 160 | △ 寄木甲大理石洗面台         |              |      |
| "       | 161 | △ 木地縷絡彫机            |              |      |
| "       | 163 | △ 緞子花唐草模様裂地白塗椅子腰掛取交 | 5            |      |
| "       | 164 | △ 白塗金縷絡丸卓           |              |      |
| "       | 168 | 寄木縷絡彫便器箱            |              | 便器添  |
| 夫人室     | 147 | △ 木地縷絡彫飾棚           |              |      |
| "       | 148 | △ ピアノ               |              | 腰掛添  |
| "       | 149 | △ 前鏡付机              |              |      |
| "       | 150 | ○2 甲大理石縷絡彫飾高台       | 2            |      |
| "       | 151 | 甲大理石縷絡彫高台           |              |      |
| "       | 152 | ○ 甲大理石金塗丸台          |              |      |
| "       | 153 | △ 木地縷絡彫木瓜形台         |              |      |
| "       | 154 | △ 木地縷絡小判形卓          |              |      |
| "       | 155 | ○3 緞子草花模様裂張椅子腰掛取交ぜ  | 9            | 足掛1添 |
| "       | 156 | △ 金塗藤張椅子            | 2            |      |
| "       | 177 | 茶地花唐草模様緞子張衝立        |              |      |
| 各室      | 162 | ニス塗紅茶               | 3つ組4組        |      |
| "       | 172 | △ 帽子掛               | 3            |      |
| 南寢室     | 165 | △ 寄木甲大理石洗面台         |              |      |
| "       | 166 | △ 寄木寢台              |              |      |
| "       | 167 | ○ 寄木前鏡付化粧台          |              |      |
| "       | 169 | △ 寄木丸高台             |              |      |
| "       | 170 | △ 寄木便器箱             |              | 便器添  |
| "       | 171 | △ 寄木前鏡付衣裳棚          |              |      |
| "       | 173 | 刺繍縷絡模様裂張椅子          | 2            |      |
| "       | 174 | △ 寄木唐張椅子            |              |      |
| "       | 175 | 寄木丸卓                |              |      |
| 2階広間    | 176 | 単地縷絡模様緞子張金縷絡飾付椅子    | 6            |      |
| "       | 178 | 朱塗牡丹鳳凰蒔絵三角飾棚        |              |      |
| 2階露台・温室 | 179 | 藤張椅子                | 6            |      |
| "       | "   | 藤張四方卓               | 2            |      |
| "       | 180 | 天然木椅子               |              |      |
| 西寢室     | 181 | 渡金寢台                | 2            |      |
| "       | 182 | 寄木便器箱               |              | 便器添  |
| "       | 183 | ○ 寄木縷絡飾鏡付大衣装棚       |              |      |
| "       | 184 | 寄木縷絡飾付飾硝子箱          |              |      |
| "       | 185 | ○ 寄木縷絡模様化粧台         |              | 手拭掛添 |
| "       | 186 | 甲羅紗唐草雲彫机            |              |      |
| "       | 187 | 白大理石花鉢台             |              |      |
| "       | 188 | 甲大理石金縷絡飾付丸卓         |              |      |
| "       | 189 | 白塗金縷絡飾付丸卓           |              |      |
| "       | 190 | 白塗金縷絡飾付花唐草緞子裂張安楽椅子  | 2            |      |
| "       | 191 | 花唐草模様裂張椅子取交         | 9            |      |



表4 備品台帳より作成した室別家具リスト

| 室名             | 番号  |         | 品名                | 個数<br>(備品台帳) | 附属                  |
|----------------|-----|---------|-------------------|--------------|---------------------|
| 北寝室            | 192 |         | 縹絡彫寝台             | 2            |                     |
| "              | 193 |         | 前鏡付衣装棚            |              |                     |
| "              | 194 | ○       | 前鏡付化粧台            |              |                     |
| "              | 195 |         | 便器箱               |              | 便器添                 |
| "              | 196 | ○       | 木地塗長角卓            |              |                     |
| "              | 197 | ○       | 寄木丸高卓             |              |                     |
| "              | 200 |         | 白塗金縹絡飾付裂張寝椅子      |              |                     |
| "              | 201 |         | 前黄列張二枚折           |              |                     |
| 露台<br>(支那室前廊下) | 202 | △       | 籐安楽椅子             | 2            |                     |
| "              | "   |         | 籐四方卓              | 1            |                     |
| 支那室            | 203 |         | 青大理石花鉢台           |              |                     |
| 客間 (バーラ)       | 204 | ○2      | 甲大理石金縹絡飾付四方台      | 2            |                     |
| "              | 205 | ○1      | 唐草模様裂張縹絡飾付衝立      | 2            |                     |
| "              | 206 |         | 渡金透彫椽三重台          | 2            |                     |
| "              | 207 | △       | 甲色絵象嵌石金塗丸台        |              |                     |
| "              | 208 | ○1      | 甲大理石金縹絡飾付角高台      |              |                     |
| "              | 209 | △       | 金縹絡飾付硝子飾箱         |              |                     |
| "              | 210 |         | 六角台               |              |                     |
| "              | 211 | ○2      | 甲嵐羅紗張金縹絡飾付角机      | 2            |                     |
| "              | 213 |         | 唐草模様硝子嵌込張金縹絡飾付三枚折 |              |                     |
| "              | 214 | ○1<br>4 | 花唐草緞子張金縹絡飾付腰掛椅子取交 | 16           | 足掛2個添               |
| "              | 215 | ○       | 青大理石捻高台           |              |                     |
| 応接室            | 216 | △       | 寄木市松机             |              |                     |
| "              | 217 | △       | 海老茶羅紗張椅子取交        | 6            |                     |
| "              | 218 | △       | 甲大理石木地塗四方高台       |              |                     |
| 玄関             | 219 | ○       | 鏡付大帽子掛            |              |                     |
| 食堂             | 220 | ○1      | 甲大理石長角机           |              |                     |
| "              | 221 | △       | 伸縮大食卓             |              |                     |
| "              | 222 | △       | 黒皮張椅子、同安楽椅子、同長椅子  | 34           | 球戯室(玉突室)10、食堂24     |
| "              | 223 |         | 甲大理石台             |              |                     |
| "              | 224 | ○1      | 小判形卓              |              |                     |
| "              | 225 | ○1      | 小判形一本足ノ卓          |              |                     |
| 書斎             | 226 | ○1      | 唐草彫甲皮張事務卓         |              |                     |
| "              | 227 |         | 木地四方台             |              |                     |
| "              | 228 |         | 唐草彫一本足丸台          |              |                     |
| "              | 229 | △       | 黒皮張安楽椅子取交ぜ        | 6            |                     |
| 球戯室(玉突室)       | 230 |         | 白塗金飾付長角大卓         |              |                     |
| "              | 231 |         | 玉台                |              | 玉4個、棒12本、ゲーム台その他一式添 |
| "              | 232 |         | カード台              |              |                     |
| "              | 233 |         | 鍍金金塗台             |              |                     |
| 1階広間<br>仁王置物台  | 234 | △       | 縹絡彫長角飾台           | 2            |                     |
|                | 235 |         | 外国製青曇硝子捻一輪生       |              | 同小鉢添                |
|                | 236 |         | 外国焼草花絵緑竈透果実鉢      | 大小2          |                     |

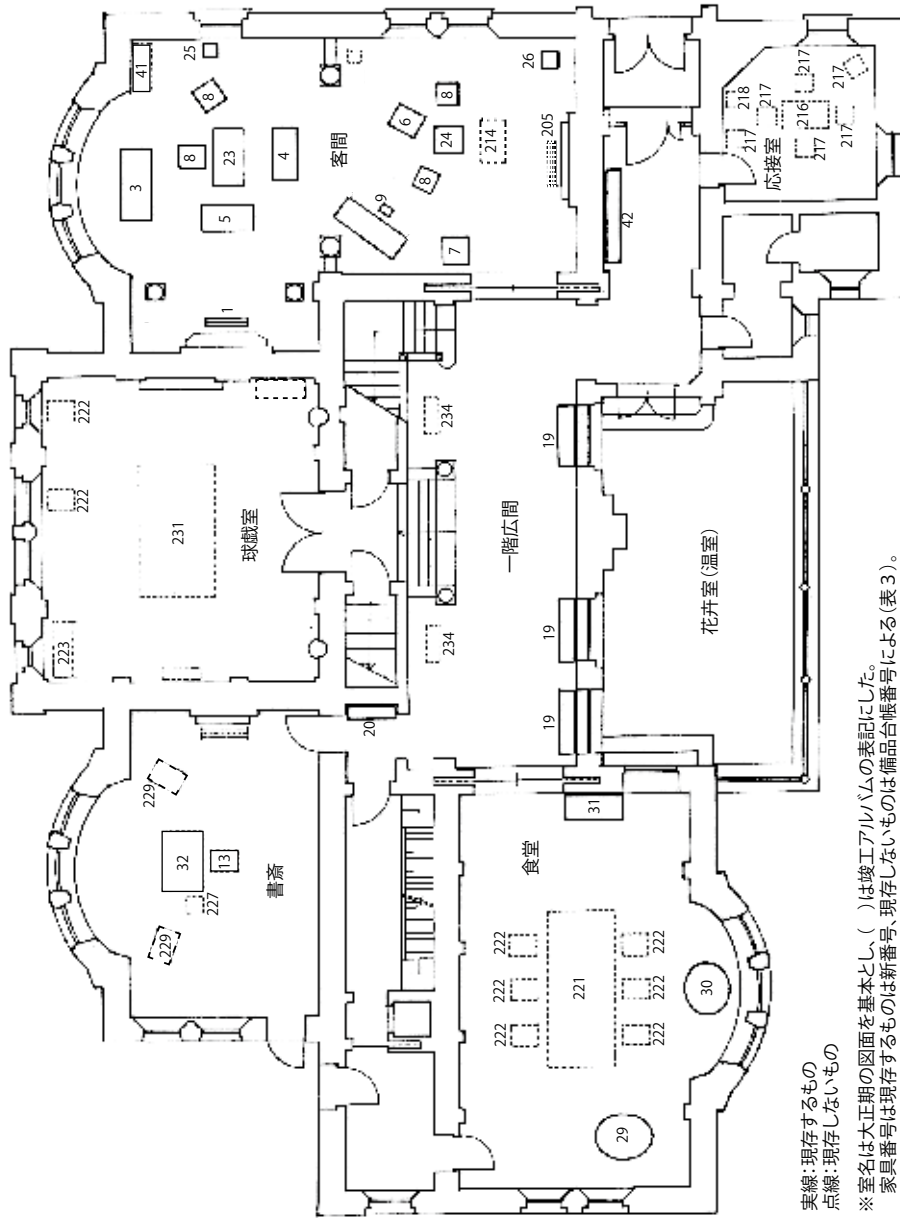
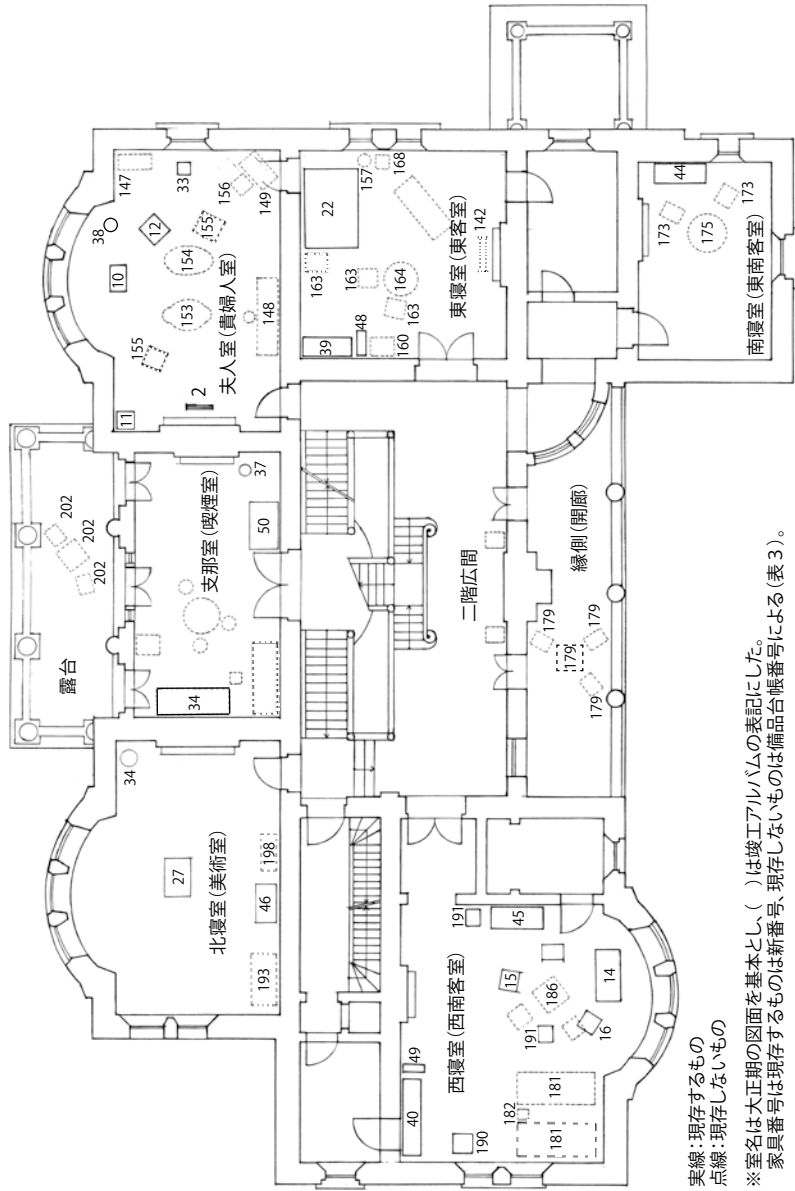


図1 家具配置復元図(当初) 1階



実線：現存するもの  
点線：現存しないもの

※ 室名は大正期の図面を基本とし、( )は竣工アルバムの表記にした。  
家具番号は現存するものは新番号、現存しないものは備品台帳番号による(表3)。

図2 家具配置元原図(当初) 2階

## 家具写真



長1 ファイアースクリーン



長2 ファイアースクリーン



長3 長椅子



長4 二人用腰掛



長5 S字椅子



長6 肘掛椅子



長7 袖付椅子



長8 小椅子



長9 足置台



長10 腰掛 (ウインドシート)



長11 コーナー椅子



長12 肘掛椅子 (ベルジェール)



長13 回転椅子



長14 寝椅子



長15 肘掛椅子



長16 丸座肘掛椅子





長17 寝椅子



長18 小椅子



長19 長椅子



長20 長椅子



長21 長椅子



長22 寝台



長23 角卓子



長24 小卓子



長25 花台



長26 花台



長27 角卓子



長28 角卓子



長29 楕円卓子



長30 楕円卓子 (ペディスタル)



長31 角卓子 (壁際卓子)



長32 書机





長33 花台



長34 花台



長35 彫刻台



長36 彫刻台



長37 彫刻台



長38 彫刻台



長39 鏡付衣裳箆筥



長40 鏡付複式衣裳箆筥



長41 ガラス飾棚



長42 帽子掛



長43 六灯式ペンダント



長44 鏡付化粧台



長45 鏡付洗面台



長46 鏡付化粧台



長47 タオル掛



長48 タオル掛



長49 イーゼル



長50 室内装飾品

## 長楽館の室内意匠と家具について

千木良 礼子

### はじめに

この度、長楽館の建物及び家具の調査をする機会を得たので、これまでの既に判明している事柄や、刊行物などを取りまとめ、新しい知見を交えて報告する。長楽館は昭和61年（1986）に京都市指定有形文化財として建物と家具（附）が指定されている。建物に関しては、『京都市の文化財—京都市指定・登録文化財第四集—』（1987）において報告されている。

### 1 長楽館の概要と年表

長楽館に関わる年表を表1にまとめた。長楽館は明治38年（1905）に起工、同40年（1907）に上棟（棟札）、同42年（1909）に竣工している。

工期は、京都府の工事カード整理台帳、及び清水組（現清水建設）の工事経歴書に記される（※この資料は昭和61年の指定時に収集されたと思われる写しであるが、原本の所在は未確認である。）。

竣工時の写真は、アルバムがある。このアルバムは施主の村井吉兵衛（1864～1926）から多数の人に手紙と共に送られたと思われる。『藤井善助伝統編』（p.112）には村井から藤井善助に宛てた手紙の記載があり、長楽館の竣工のことと、アルバム

を送ることが認められる。また別の宛名の手紙も確認できた（長楽館にはその手紙の写しが保管されている。）。

大正3年（1914）には3階の改修を行っており、現在の上段の間が造作した。

大正6年（1917）頃には喫煙室を中国風の部屋に改修した。

大正11年（1922）頃にはエレベーターを設置した。

### 2 史料について

主な史料として、拙稿「長楽館の家具調度品について」（京都市文化財保護課紀要第7号）において、以下の3点を紹介している。

- ・『京都圓山 長楽館 村井別邸 THE CHORAKKAN, MR.MURAI' S VILLA, MARUYAMA PARK KYOTO.』（以下「竣工アルバム」とする。長楽館蔵）（写真1-1）
- ・「村井家京都別邸平面図」（以下「大正期の図面」、内海氏蔵）（写真1-2）
- ・「長楽館／什器備品台帳／永田町／村井家」（以下「備品台帳」、内海氏蔵）（写真1-3）

また、棟札は、小屋裏で、当初と3階改造時の2点確認した。

当初棟札（小屋組に取付け）（写真1-4）

表 1. 長楽館に関する年表

| 時期                 | 西暦        | 内容                                     | 典拠                            |
|--------------------|-----------|--|-------------------------------|
| M31.5.4            | 1898      | 津田氏（京都市上京区）より土地購入                      | 登記簿                           |
| M37.12             | 1904      | 長楽館建設にとりかかる                            | 大溪（1964）                      |
| M38.11-M42.6       | 1905-1909 | " 村井別邸新築工事長楽館<br>煉瓦造 工事全 123,548 円 67" | 京都府「工事カード整理台帳」<br>（台帳番号 56）   |
| M38.11.30-M42.6.25 | 1905-1909 | 「村井別邸 煉瓦造」99,824 円                     | 「工事経歴書 合資会社 清<br>水組京都支店」      |
| M40.6.9            | 1907      | 長楽館の上棟                                 | 棟札                            |
| M 43.1             | 1910      | 竣工アルバムを送付                              | 村井吉兵衛手紙（『藤井善助<br>伝 続編』 p.112） |
| T2.2.13-17         | 1913      | 御大典に向け宿泊先の視察                           | 『大正大禮京都府記事庶務之<br>部 上』（1917）   |
| T3.1.10-T3.12.31   | 1914      | 「村井別邸三階洋館改造工事 木造」<br>24,042 円          | 「工事経歴書 合資会社 清<br>水組京都支店」      |
| T4                 | 1915      | 三階改造竣工記事                               | 「建築工芸叢誌第 2 期 14」<br>T4.8.15   |
| T5.1.1             | 1916      | 妻宇野子死去                                 | 大溪（1964） p.313                |
| T6.1.17            | 1917      | 日野薫子と再婚                                | 大溪（1964） p.313                |
| T6 頃               | 1917 頃    | 喫煙室を支那室に改装、龍の天井画貼<br>り付け               | 長尾（1936） pp.7-8,27            |
| T10.1.4            | 1921      | 村井吉兵衛左足切断手術                            | 村井（1935） p.55                 |
| T11.6.22           | 1922      | 村井御別邸昇降機改造工事見積書（荒<br>木建築事務所）           | 個人所有史料                        |
| T11 以降             | 1922 以降   | 「荒木建築事務所平面図」                           | 個人所有史料                        |
| T15.1.2            | 1926      | 村井吉兵衛死去                                | 大溪（1964） p.314                |
| S2.3.22            | 1927      | 村井銀行閉鎖                                 | 大溪（1964） p.314                |
| S3.12.14           | 1928      | 明和不動産（株）購入                             | 登記簿                           |
| S12.10.5           | 1937      | 財団法人藤井斎成会購入                            | 登記簿                           |
| S20.12.28          | 1945      | 岡田氏（芦屋市）購入                             | 登記簿                           |
| S2 1 頃             | 1946 頃    | GHQ 接收                                 | 「連合軍接收物件関係」（註 1）              |
| S29.3.31           | 1954      | 土手富三が土地・建物を購入し、（株）<br>ホテル長楽館を設立        | 登記簿、長楽館 HP                    |
|                    |           | その後改装（京都工芸繊維大学野口茂<br>教授が参加）            | 野口（1978） 20 号                 |
| S60                | 1985      | 家具調査                                   | （有）小泉和子生活史研究所                 |
| S61                | 1986      | 市指定有形文化財建造物に指定                         |                               |
| H 14               | 2002      | 土手個人所有より（株）長楽館所有へ                      |                               |

最大高1370mm、最大幅250mm、  
最小幅200mm、肩部高1345mm、  
厚22mm

(表) 奉上棟 村井吉兵衛

監督技師 米国人 ガーディナー

ガーディナー事務所主任 荒木賢治

請負人 清水満之助

監督 辰野勇記

現場主任 小野武雄

現場係 上林敬吉

清水方主任 北田保次郎

現場主任 杉山茂太

(裏) 維 時明治四十年六月九日

改変時棟札（小屋組に、構造材に係るボルトで取付け）(写真1-5)

最大高850mm、最大幅230mm、最小幅165mm、肩部高820mm、厚18mm。杉材と思われる。裏面は、構造材と一緒にボルト留めされており、未確認である。

(表) 奉上棟 村井吉兵衛

長楽館参階／日本間増築

技師 大島盈株

請負人 清水満之助

執事 上林晴吉

清水方主任 浅井長次郎

現場主任 鍋田鍵三郎

現場監督 野口健一

高津市太郎

大工頭梁 新井金次郎

また、小屋裏には当初と思われる建具が一部保管されていた。建具の片面は部屋にあわせてペンキを塗り、ホール側と思われる面は、旧三重県庁にあるような木目塗が施されている。

このほかの史料は、各部屋の説明でその都度記述する。

### 3 各部屋の室内意匠

本稿における各部屋の表記については、現在の平面に近い状態である大正期の図面に記載される室名で統一した。各項目には、「竣工時（竣工アルバム）／大正期の図面／什器備品台帳／現在」の順に、各資料での部屋名を記載した。また、家具については、前掲拙稿「長楽館の家具調度品について」における表1「家具の一覧」の新番号を付した。

#### 1階 廣間 (Hall) / 廣間 / 広間 / 現ロビー (写真2-1～7)

床は寄木造りで上に絨毯を敷く。

柱は、壁際に角柱、広間中央に円柱を立てる。柱はエンタシスで、柱頭はイオニア式に、古典装飾の花綱紋様 (Festoon、フェストゥーン) が施される。材は暖炉と同じ蛇紋岩に見える。

壁は漆喰 (プラスター) 仕上げ。

天井は天井高が4025mmと高く、ケヤキの化粧梁を用い、ルネサンス風にまとめる。

南面中央に暖炉を設け、両側に長椅子と彫刻台を置く。暖炉の裏側は花卉室の中央に位置する。北面中央には下り階段があり、球戯室へ続く。

照明について、玄関から入った廊下には卵型のシャンデリアが付く。上部の笠は蜜柑状のカット、下部は大粒カットガラスで、内部に茄子型の電球を3灯吊るす。広





1-1 竣工アルバム表紙 (長楽館蔵)



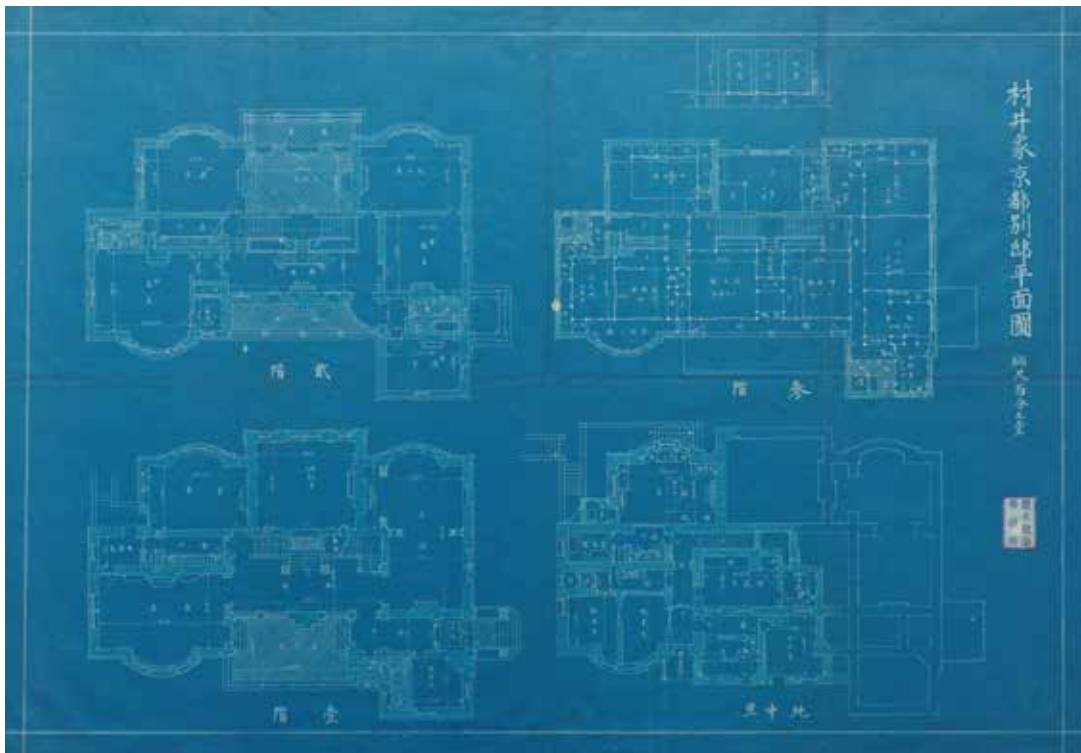
1-3 什器備品台帳表紙 (内海氏蔵)



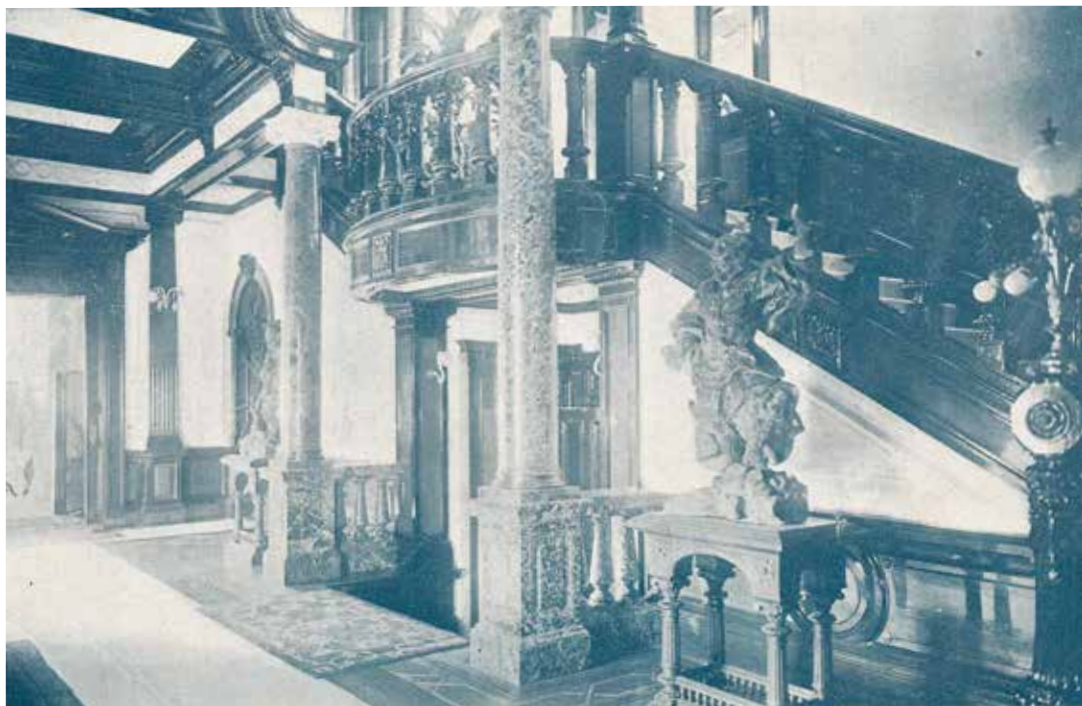
1-4 棟札 (新築)



1-5 棟札 (増築)



1-2 平面図 (内海氏蔵)



2-1「廣間」(竣工アルバム)



2-2 広間 (大正5~7年) (長楽館蔵)





2-3 広間南面



2-4 玄関



2-5 広間



2-6 広間壁灯



2-7 広間暖炉



間のシャンデリアは2基あるが、竣工アルバムでは確認できない。西側のシャンデリアは隣室の書斎から移設されたもの、東側のシャンデリアは1階の旧応接室、又は2階の旧南寝室より移設したと伝わる。壁灯はシェードが花蕾型で全面が摺地に透明磨きのパターンがある。アームはガラスで、カットガラスの花綱飾と透明ガラスの風鈴型装飾がつく。シェードは客間のシャンデリアと同じ形状である。階段親柱上にも照明が付く。シェードは後補のもの。支柱はブロンズで、四方に唐草が伸び、先端に電球が付く。

暖炉(写真2-7)は柱と同じ蛇紋岩で上部に大鏡を載せる。両側の片蓋装飾柱には縦溝装飾が施される。柱頭部分はモディリオンを形どる。火袋周囲の飾金物は上部が透金物、左右が浮彫装飾で、その技術は精巧である。大鏡の枠は全て樺材である。

家具は、玄関を入れてすぐ右手にルネサンス風の帽子掛(長42)がある。帽子掛の左右にはステッキ入れがある。南面に連なる長椅子(長19、20)は、国産で杉田商店のものと考えられ、ルネサンス風に仕上げられている。

玄関入口のステンドグラスは一部が花卉室に移設されており、同じデザインのことを新しく嵌めている。

部屋全体はルネサンス風に仕上げしており、当時の雰囲気がよく残されている。

### 1階 客間 (Drawing Room) /客間/

#### パーラ/現迎賓の間 (写真3-1~13)

長楽館における主要な部屋の一つである。竣工アルバムのキャプションや、当時の新聞記事を見ると、明治42年(1909)

頃は部屋名称が定まっていないうように見受けられるが、用途としては談話室のような扱いと推測される(※竣工アルバムでは「Drawing Room 客間」、明治42年(1909)8月刊行『グラフィック』では「The parlour 大談話室」と記載されている。)

床は竣工アルバムでは板敷きに絨毯が敷かれているが、後世に絨毯に張り替えられた。

柱は大理石でローマのコンポジットオーダーを模し華やかである。柱は室内の垂れ壁を支える。壁際は角柱で、室内側は円柱である。柱頭はアカンサスと渦巻き文様が施される。柱上部から天井までの小壁、エンタブラチュア(Entablature)は、曲線の線型を持ち、中央に草花紋様のレリーフを配している。

壁は額縁式の繊細で華やかな枠飾で装飾される。また、壁面の上部には楕円形の世界各国の都市風景の絵画が嵌められ、全部で12枚ある。描いたのは高木背水(誠一)である(熊川1939)。画題は、「日本・東京、皇居二重橋」「中国・北京か審陽の天壇」「アメリカ・ニューヨーク、自由の女神」「ミャンマー・パゴダ」「エジプト・カイロの廃墟とピラミッド」「スイス・ローザンヌの湖」「イギリス・ケンブリッジ」「ロシア・モスクワ、クレムリン付近」「イタリア・ヴェネツィア、政庁」「フランス・パリ、ベルサイユ宮殿の庭園」「ドイツ・ポツダム、サンサーイ宮殿」などである(野口1979)。高木背水は村井吉兵衛の母の肖像を描いたのを機に、信頼関係を築くようになった。世界名所十二景を描くことは、「仕事は割合に簡単であった。大部分が外

国名画のコピーだった」そうである（直木1937）。竣工アルバムでは「ニューヨークの自由の女神」が嵌められる箇所に、現在は「スイス・ローザヌの湖」が嵌められており、また竣工より後と思われる写真3-13では壁画がないため、一度外され、位置が変更されている。

天井は、高さが4031mm、小壁で3室に分けられ、円を中心にして草花文様のレリーフを施す。

照明について、天井は8灯のシャンデリアが吊るされる（写真3-8）。シェードは広間と同形の花蕾型、アームはガラス、花綱模様やペンダントは大粒の多面カットガラスで、本館の最も豪華なシャンデリアの一つである（野口1979）。アルバム写真より竣工時のものと推定される。メンテナンス時にバカラ社製であることが分かった（『長楽未央』2013Vol.20）。

暖炉脇の壁灯は3灯式で、シェードはシャンデリアと同形である（写真3-9）。優婉なガラスのアーム、花綱飾やペンダントはカットガラスである。1階広間暖炉脇の2灯と同形である。

暖炉は2基あって、白大理石で暖炉上部にはロココ風枠飾りに大鏡が嵌められている（写真3-10・11）。暖炉は中央よりシンメトリーに渦巻が波状に伸び、流麗な曲線を描いており、両側はアカンサスの葉飾りがS字状の柱型をなしている。火袋への枠飾金物は精密な技術で古典の草花紋様が表現されている。また床上の仕切金物には懸華紋が表現され、石造・金工共に高い格調を示している（野口1978、20号）。

開口部には、半円型の出窓三連窓にカー

テンバランスが付く。カーテンバランス上部にある帯状の枠飾は、ロココ風で、中央に豊麗な草花を配し、シンメトリーにロココ特有の流動曲線の枠を展開している。その中間の草花のレリーフや両端の装飾には金彩を施し、繊細な優雅さを示している。カーテン生地は後補である。

家具はチーク材の輸入品で室内に合わせてロココ調にまとめている。

竣工アルバム（写真3-1）には多くの家具が写る。左最手前に袖付小椅子（長7）、左手前に長椅子と足置き台（長9）、右手前に小テーブルとその周りに小椅子と肘掛椅子（長6、8、24）、奥の部屋には左にS字椅子カ（長5）、最奥に長椅子（長3）と角テーブル（長23）が写る。

袖付小椅子（長7）は裂地が後に張り替えられている。背面の補強のため背枠より座枠に支木が延びている。背面支持はあまり考慮されず、後脚は比較的垂直であって反りが少ない。座面は前幅が広く、弓型で奥行は狭く、ロココ様式の特色を示している。

長椅子は、カナッペ（Canape）と呼ばれ、他の椅子同様、全体が流れるような曲線で形造られ、座る人を包み込むような感じを抱かせる。

肘掛椅子は、典型的なロココ様式の椅子でフォテューク（feuteuil）と呼ばれ、肘にはクッションがつく。全体に流れるような豊かな曲線の木枠で輪郭され、木枠には細い線状と草花の浮彫彫刻が施されている。前足は弾力に満ちた猫足で軽快瀟洒である。肘は後退し、肘内寸法が広い。裂地は後に張り替えられている。背枠や座枠はシンメ



3-1 「客間」(竣工アルバム)



3-2 客間 (大正5~7年) (長楽館蔵)



3-3 客間（大正 5～7 年）（長楽館蔵）



3-4 「大談話室 The parlour」『グラフィック第 1 巻  
第 14 号』（1909）（©国立国会図書館）



3-5 客間北をみる（長楽館蔵）



3-6 客間北西をみる



3-7 客間天井





3-8 客間天井照明



3-9 客間暖炉脇の壁灯



3-10 客間南面暖炉



3-11 客間西面暖炉



3-12 客間半円型の出窓三連窓にみられるカーテンバランス



3-13 客間古写真（内海氏蔵）

トリーを尊重せず自由である。当時の椅子類は壁面に沿って配置される慣例から、背面については考慮が必要なく、従って元々は布地が張られていない（家具詳細は野口1978、20号）。

竣工アルバムと比較すると、床、壁の色、カーテン以外はほぼ当時の状態がよく残っている。写真3-13の古写真では、カーテンがなく、壁画も白地に見える。家具が異なり、竣工より後の時代にみえる。一度壁画が外された時期があると推測される。

室内は、エンタプレチュアの幅がやや狭く、天井が低いところから、本来のスケールよりは小さく納まるが、全体としては優美な曲線が多くみられ、19世紀ロココ様式を造作しようとしている。一時期家具の移動やカーテンの取り外しがあったものの、現在は竣工時の家具を修理して一部新しい家具を補充しながら飲食の営業として利用されている。カーテンも古写真を元に復元を試みており、当時のロココ調の雰囲気再現されている。

#### 1階 温室 (Conservatory) / 花卉室 /

##### 温室 / 現BOUTIQUE (写真4-1～8)

床タイルは竣工アルバムより当初材である。また竣工アルバムには植物が写るが、植物のない古写真（写真4-3）もあり、こちらの方が竣工直後の写真の可能性がある。

室内は、当初は南面を採光部とし、上部をアールにしたガラス張りであった。このうち南東部については、腰煉瓦壁とガラス窓を一部撤去し、増築している。現在アール部はプラスター仕上げとし、側面のみガラス窓を設けている。南東部の煉瓦壁は切

断面が確認でき、当初の煉瓦が確認できる。

壁について、玄関から続く開き戸周辺の壁タイル（東面）は、竣工アルバムと配置が異なるため、後補である。天井のアール上部を支える位置に付け柱がある。角柱で、ややエンタシスのようなふくらみがみられる。材は人研ぎ石に見える。柱の右側（南側）の壁は当初は煉瓦積にみえるが、現在は外国の風景をモチーフにした石がはめられている。左側（北側）にみえる煉瓦様の柱は、広間にある暖炉の裏側にあたる。

西面南側は中央にスタンドグラスを嵌め、周囲にはオレンジ色のガラスブロックで壁面を構成する。写真4-5はガラス窓であるため、後世にスタンドグラスを移設している。このスタンドグラスは、モチーフのバラ図を幾何学的に抽象形成している（写真4-7）。1階便所や、1階球戯室のスタンドグラスとよく似たモチーフである。周囲の橙色の光壁（ガラスブロック）も後世のもの（昭和43年〈1968〉頃）だが、白い木部とのバランスがよい。

西面北側は、食堂に続く両開き戸があり、スタンドグラスが嵌る。このスタンドグラスは、当初は玄関の建具についていたものを後世（1986年以前）に移設したものである。文様はカキツバタであり、玄関の建具脇にも同様のモチーフがあるため、当初は4枚のスタンドグラスが玄関に並んでいた。玄関はカキツバタ文様のガラス窓を復元している。

天井は応接室と同じ仕様。輸入金属製打出天井板張りに白ペンキを塗ったものである。この金属製打出天井板は、東京の建築



4-1 「温室」東面（竣工アルバム）



4-2 花卉室東面





4-3 花卉室東面 村井（右）と男性（内海氏蔵）



4-4 花卉室西面（長楽館蔵）



4-5 花卉室西面 村井と薫子夫人 大正6年（1917）（内海氏蔵）



4-6 花卉室西面「温室内の主人夫妻」  
『グラフィック第1巻第13号』（1909）  
（© 国立国会図書館）



4-7 花卉室バラ図のステンドグラス



4-8 花卉室カキツバタのステンドグラス



資材輸入販売元であった藤原商店によるものである（工藤2014）。

照明は竣工アルバムより後補である。

家具について、古写真からは当時のものは不明で、現存の家具を見ても花卉室用の家具は想定できない。

花卉室は、東西の壁面や南面のガラス張、ステンドグラスの位置などが変更されているが、床タイルや天井はそのまま現存しており、当時の面影もよく残っている。

### 1階 食堂 (Dining Room) / 食堂 / 食堂 ／現LE CHENE (写真5-1～10)

床は寄木張で、竣工アルバムと同じであることから当初である。

柱は角柱とし付け柱を立てる。柱上部から天井までのエンタブラチュアを直線と四角形でまとめる。

柱上の小壁は、方形の枠の中に草花のパターンが浮彫されている。その上にモディヨン（軒下飾り）をのせ、天井を支える意匠となっている。

壁は直線的で、柱との間に額縁を設ける。

天井は化粧格天井で、ネオ・バロック風の装飾彫刻が施される。

中央にシャンデリアが吊るされる（写真5-9）。竣工アルバムより当初である。天井の吊元より3段で構成され、円錐形で、下段は球状をなしている。カバーはカットガラスで、上部より下部になるに従って粒とカットは大きくなり、最下部に縦長のペンダントを束ねている。下段の金属枠より放射状にアームが伸び、蠟燭の照明が付いている。客間のシャンデリアが曲線で広がり、蕾型のライトが付いた優しい雰囲気

に対し、数珠上のカットガラスで構成されていて豪華である。

暖炉脇の壁灯は、2灯でシェードはなく、カットガラスの数珠繋ぎタイプである。アームは優美な曲線のガラスである。

また、四隅に半円球状の照明が取り付けられている（写真5-8）。カバーは小粒のカットガラスを数珠状に繋げて半円球状にする。現在の3階上段の間の天井照明と同じである。近年にバカラ社の関係者による来訪があり、バカラ社製であることが判明したという（『長楽未央』2013Vol.20）。3階上段の間は村井によって大正3年（1914）に増築された部屋であることから、この照明は大正3年以降のものとも考えられる。

室内中央には暖炉（写真5-10）、左右にコンソールテーブル（写真5-11）、いずれの上部にも大きな鏡が嵌められている。

暖炉は大理石を使う。上部中央に長方形の枠飾りを付け、その中に貝と葉のレリーフ、枠飾りはモディリオン風の支えで受けている。左右の柱は、上段は方形、下段はS字曲線を描いている。下段の上方にはアカンサスの葉、その下にはザクロ様の果実が垂れる。客間の曲線の多いロココ調の暖炉に比べれば、全体として直線的なネオ・バロック風の意匠としてまとまっている。そこにS字曲線を設けることで、堅すぎない印象を与えている。

コンソールテーブルは、大理石を用い、曲線状の天板を持ち送りで支える。柱はイオニア式にし、暖炉に比べてシンプルな形にしている。

カーテンの上飾は木製で、中央に盃形の



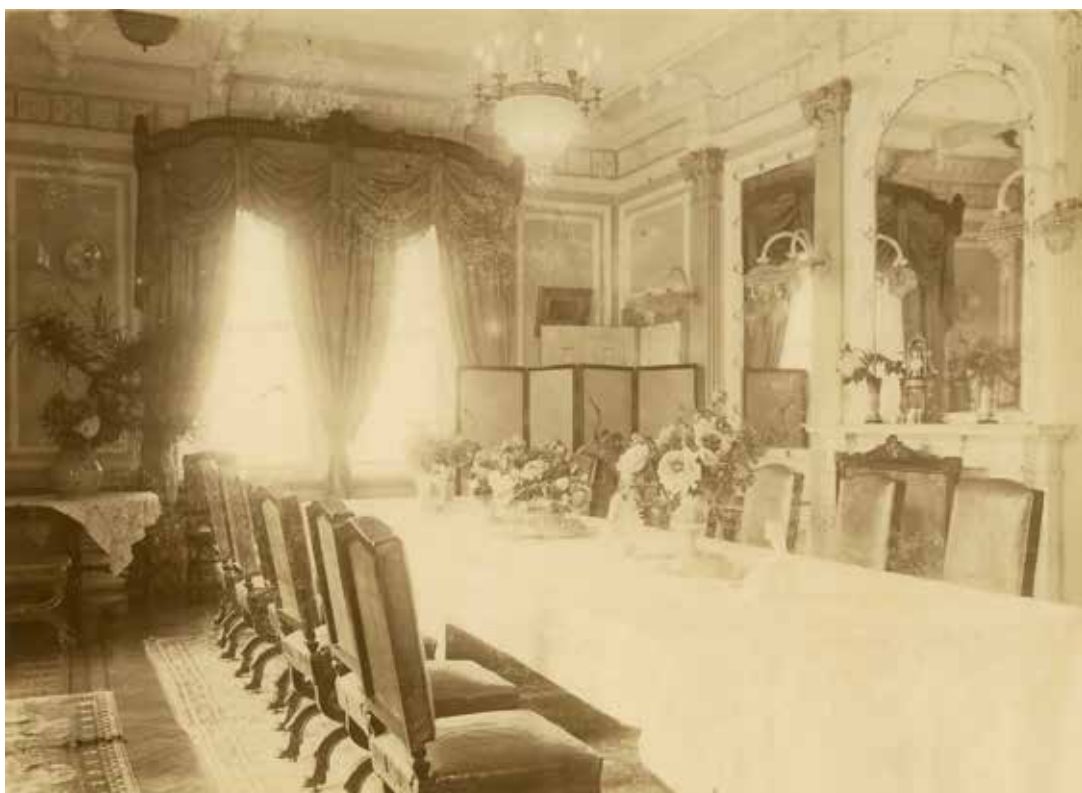
5-1 「食堂」(竣工アルバム)



5-2 食堂 (大正 5～7 年) (長楽館蔵)



5-3 食堂 (内海氏蔵)



5-4 食堂 天井隅に半球の照明が写る (内海氏蔵)





5-5 食堂 変更されたカーテンバランス (内海氏蔵)



5-6 食堂 写真5-5と同日撮影 (内海氏蔵)



5-7 食堂 西をみる (長楽館蔵)



5-8 食堂天井四隅の照明



5-9 食堂シャンデリア (長楽館蔵)



5-10 食堂暖炉



5-11 食堂コンソールテーブル

鉢を配して果物を載せ、それを中心に古典装飾の花綱装飾（フェストゥーン）を用いている。

この部屋の古写真は、竣工アルバムの他に5点（写真5-2～6）確認している。写真5-4は、天井隅に半球状の照明が付き、写真館「R.KOHNO PHOTO STUDIO.KYOTO」のサインが入る。写真5-5、5-6はテーブル上の食器等が同じであるから同時期である。天井の半球状の照明は大正3年（1914）に改修された3階の格天井にも同じ照明が付く。また写真5-4と同じ写真館で撮影された支那室の写真（p.81写真18-6）は、室内が改修された大正6年（1917）頃より以降のものであることが分かっている。古写真からは、カーテンバランスの形状、天井隅の半球状の照明の有無等がみうけられるが、古写真を年代順に並べるのは今後の課題としたい。

家具はテーブルと椅子は新しく変わっているが、竣工アルバムにある隅の楕円卓子2点は残っていて、現在、客間において使用されている。1点（長29）は什器備品台帳に「第二二四号／小判形卓／食堂備品」とある国産品で、サクラと杉でできている。4本脚で、貫がX字に入っている。もう1点（長30）は什器備品台帳に「第二二五号／小判形一本足ノ卓／食堂備品」とある国産品でタモ材である。ネオ・バロックの様式であり、食堂の室内意匠にあわせている。天板裏面には当初と思われる「村井」「225」と、後世と思われる「54」のシールが貼られている。

室内は18世紀後半頃の古代回帰的なネオ・バロックの様式を主に用いていると思

われる。18世紀前半のロココ様式の反動により、古代ギリシャを思わせる質実剛健さを求めている。19世紀に入るとナポレオン時代の様式となり、より堅い感じになるが、この部屋はやや優しい印象も受けることから、ロココ様式も反映された少し前の時代と思われる。どの角度からでも絵になる室内意匠である。

### 1階 書斎 (Library) / 書斎 / 書斎 / 現 LIBRARY BAR MADEIRA(写真6-1～11)

床は寄木張りである。

半円型の三連窓の出窓を設ける。三連窓の両側壁面には、曲線状の本棚を設ける。

共に上部に曲線の木製カーテンロッドを付け、木製ブラケットで固定する。

壁はプラスター仕上げで、壁上部のエンタブラチュアは持ち送りの形状である。一方、反対側の壁面は腰板に大きな樺材と思われる一枚板を使用している。

天井は高さ3519mmで、プラスター仕上げである。

照明について、天井のシャンデリアは後補のものである。当初の照明は、現在1階広間に付いており、竣工アルバムのもので一致する。ガラスシェードは朝顔型で、花弁が10弁でガラスが厚く表面に軽い凹凸を持ち、内面は平滑である。壁の照明は当初のもので、元の天井照明とランプシェードが同じ形状である。

暖炉は大理石を用いる。シンメトリーで、上段は中央に円を描き、柱は上部に曲線を用いてマントルシェルフを支える意匠とする。他の部屋にくらべて、落ち着いた意匠である。暖炉上部（オーバーマントル）は鏡をつける。鏡枠は、上部に花綱紋様





6-1 「書斎」(竣工アルバム)



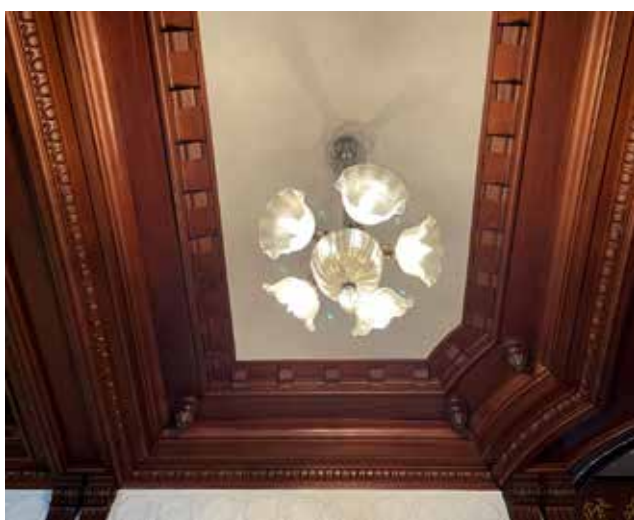
6-2 書斎エンタブラチュア



6-3 書斎 (長楽館蔵)



6-4 書斎腰板壁



6-5 元書斎にあった照明 (現在広間にある)



6-6 書斎壁面の照明



6-7 書斎暖炉



6-8 書斎暖炉と鏡



6-9 書斎で用いられた書机



6-11 書斎 備付の棚とソファ



6-10 書斎 備付の棚とソファ 拡大



(フェストゥーン)と花輪で装飾されている。

竣工アルバムと比較すると、窓際中央に棚が設けられているのと、天井のシャンデリア以外は大きな変更はみられない。

書斎の家具について、竣工アルバムの書机(長32)が現在食堂で使用されている。8本脚で貫がない。天板は皮張り、脚部は垂直な溝彫、引出しに細やかな植物の彫刻を施したネオ・クラシック(ルイ16世)風である。「長楽館什器備品台帳」では「第二二六号 唐草彫甲皮張事務卓 書斎備品」に該当する。また、竣工アルバムの回転椅子(長13)も現在別の部屋で使用されている。肘掛部分と腰部に植物の彫刻と、脚部に溝彫がみられる。

#### 1階 球戯室(Billiard Room)／球戯室／玉突室／現球戯の間(写真7-1～8)

1階より半地下の高さにあたる。

床は板張りで、後世のものである。竣工アルバムでは絨毯と思われる。壁はペンキ塗。

柱は角を丸くした角柱を両側から方立て挟み込むようなデザインになっている。柱頭部には飾りが付く。

壁はプラスター仕上げで、竣工アルバムではタペストリーをかけているように見える。両扉の両側にはアルコーブを設ける。上部を半円形にして貝のモチーフを施す。

天井は応接室、花卉室と同様、輸入金属製打出天井板張りに白ペンキを塗ったものである。3室のなかでは最も華やかな文様が施されている。照明は後補のものである。

暖炉は、客間や応接室、書斎のような曲

線は見られず、ボリューム感のあるシンプルなデザインである。1枚の継ぎ目なしの大理石を大胆に使用し、石材の自然の色やパターンを強調したものと思われる。「EDWIN A.JACKSON & BRO. NEWYORK.」の銘がある。

家具について、古写真にある家具はほぼ失われている。天井に付く照明の六灯式ペンダント(長43)は現在小屋裏に保管されているが、竣工アルバムの照明とは異なるため、後補のものである。

スタンドグラスは窓と広間との境の両開戸にある。窓のスタンドグラスは、水辺の風景で帆持船や繋がれた和船など日本風のモチーフが入る。竣工アルバムではスタンドグラスのない窓のように見え、昭和53年(1978)には花卉室の南側の増築部との境にあった(羽生1978)。当初の設置位置が不明であるが、風景の描き方が当初浴室にあった白鳥のスタンドグラスや、支那室と広間との境にあるスタンドグラスとよく似ており、スタンドグラスそのものは同時期のものと思われる。

両開き戸のスタンドグラスは、バラ様の花のモチーフが入る。こちらは、1階花卉室や1階便所(現男性便所)の花や葉の形、背景の表現がよく似ている。他の2点とは異なり、左右対称のデザインである。

#### 1階 應接室(Reception Room)／應接室／應接室／現女性トイレ(写真8-1～6)

床は現代のタイル張りである。

壁は、細い直線でデザインを構成し、女性的で繊細な雰囲気をもつ意匠である。

窓にはヨットが描かれたスタンドグラスが嵌められている(写真8-2)。竣工アルバ



7-1 「球戯室」(竣工アルバム)



7-2 球戯室



7-3 球戯室柱頭部



7-4 球戯室アルコーブ



7-5 球戯室暖炉



7-7 球戯室窓のステンドグラス 入江風景



7-6 球戯室暖炉  
「EDWIN A. JACKSON & BRO. NEW YORK.」の銘



7-8 球戯室両扉のステンドグラス バラ図

ムから、当初は2階の西浴室にあったことがわかる。戸袋には、ゼツェッション風の装飾がみられる。

天井は輸入金属製打出天井板を張り、白ペンキを塗ったものである。この金属製打出天井板は、東京の建築資材輸入販売元であった藤原商店によるもので（工藤2014）、鉄板を型押ししたものである。明治40年代から昭和初めに流行した。当時は欧米でも最先端の技術であり、欧米でも日本でも流行っていた。シャンデリアは後補である（写真8-5）。

暖炉は、白垂大理石で中央にホタテ貝のような飾りを配し、シンメトリーにアカンサスの葉飾りが伸びる（写真8-6）。両側の柱上部にも貝とアカンサスがS字型に装飾され、全体に柔らかな曲線が垂れ、ネオ・ロココやアールヌーヴォーのようなデザインがみられる。火袋周囲の飾金物は幾何学模様が見られる。全体的に優雅で、室内で存在感をもつ暖炉である。

竣工アルバムに写る家具は現存しない。

応接室は、様々な時代のデザインが混ざっているが、室内全体では調和がよくとれている。

### 1階 ——／旧便所・手洗／——／現男性トイレ（写真9-1～7）

床は後補のタイル張である。

壁はタイル張である（写真9-1）。緑と紺色で構成された帯状タイルは、竣工アルバムの東浴室の写真にもみられ当初材である。シンメトリーの文様は、アールヌーボー風にもみえる（野口1979）。

開口部の方立は、柱頂部に青いモディリオンが付く。

また、ルイ16世風の飾壺を中心にシンメトリーな唐草文様のタイルが帯状に貼られる（写真9-2）。目地がなく、付きつけにしているが、現代ではこのような施工はあまり見ないため当初のものと思われる。

壁面上部には、装飾金物を付ける。中央に忍冬すいかずらの文様を配し、シンメトリーにアカンサスの唐草をつけたルイ16世風のブロンズ鑄造である（写真9-3）。

天井は個室部分にはプラスター仕上げに青い額縁を入れている（写真9-4）。また個室の手前はアーチ天井を用いる。

入口の建具にはスタンドグラスがはめられている（写真9-7）。バラと思われる植物がデザイン化されたものである。花卉室の壁や球戯室の建具に嵌ったスタンドグラスとよく似たデザインである。ただし球戯室のような左右対称ではなく、大きな曲線の先に花が描かれ、その左右に花卉室と球戯室とよく似た葉が描かれる。一方で、下部にも葉のようなものが描かれ、こちらは大胆な曲線で、下部はトルコブルーの配色を用い、爽やかな印象を与えている。

また、洗面台の上部にもスタンドグラスがあることがわかっている（羽生1978）。現在は手前に建具をつけているため確認できない。

### 2階 二階廣間（Upper Hall）／廣間／広間／現——（写真10-1～7）

2階広間は階段の構成を統一させ、連続性を持たせる。しかし、装飾部についてみると、1階は手摺子下に側桁が付いた古式であるのに対し、2階は側桁が付かない。18世紀のジョージア様式から側桁がなくなるため、これを意識していると思われる。



8-1 応接室暖炉と鏡



8-2 応接室ステンドグラス



8-3 応接室古写真（内海氏蔵）暖炉と鏡



8-4 応接室戸袋のデザイン



8-5 応接室シャンデリア



8-6 応接室暖炉





9-1 シンメトリーの帯状タイル



9-2 飾壺と唐草文様のタイル



9-3 忍冬とアカンサスの装飾金物



9-4 青い縁のある天井



9-5 アーチ天井



9-6 開口部の枠



9-7 建具のステンドグラス

る。

床は後補で絨毯敷きである。壁と天井は  
プaster仕上げ。階段廻りや暖炉周辺は  
当初のままと思われる。

暖炉は2階広間中央に位置する（写真  
10-5）。1階広間に良く似た形式で蛇紋岩  
を用いる。両側の柱は縦溝装飾が施され、  
1階広間が直線的であるのに対し、2階広  
間はS字曲線とする。火袋周囲の飾金物は  
上部が透金物、左右が浮彫装飾で、その技  
術は精巧である。1階はルネサンス風で  
あったのに対し、やや柔らかい印象を与  
える。

照明について、暖炉両脇の壁灯（写真  
10-6）は、シェードやアームが1階の広間  
と同形である。2階に上がる手摺の親柱上  
の照明は、中央に花蕾型のシェードが付く  
（写真10-3左隅）。四方に伸びた枝の先に、  
更に小さい蕾型の電球が付く。

## 2階 貴婦人室 (Boudoir) / 夫人室 / 夫 人室 / 現貴婦人の間 (写真11-1~8)

床は後補で絨毯敷である。竣工アルバム  
では、もとは板張りに絨毯を敷いたように  
見える（写真11-1）。

壁は額縁式の枠飾りを設け、上部より植  
物が垂れ下がるような華やかな装飾を付け  
る。

天井はシンメトリーで細やかな装飾が施  
される（写真11-4）。

照明についてシャンデリアは、竣工アル  
バムには写されていないが、支柱をみると  
当初のものと思われる（写真11-4）。アカ  
ンサスのような葉から棒状のガラスが垂れ  
下がるデザインである。

暖炉脇にある壁灯は、竣工アルバム（写

真11-1）より当初と思われる（写真  
11-5）。シェードは細長いガラス棒を円形  
に吊るしてカバーしている。シャンデリア  
とも雰囲気がよく似る。支那室入口の照明  
ともよく似るが、夫人室の照明はガラス棒  
の上に球状、下に雫型のガラスが垂れ下  
がり、より優美である。

暖炉は西面にある（写真11-8）。白亜大  
理石を用い、暖炉上部に大鏡を嵌める。中  
央と左右に円形の飾りを配し、その中に花  
のモチーフを入れる。左右の柱について、  
上段は方形にし、下段上部は緩やかなS字  
曲線を描いたアカンサスの葉飾りを入れ  
る。直線的な意匠でまとめる。食堂の暖炉  
に似るが、より曲線が緩く、落ち着いた雰  
囲気にまとめている。

暖炉上部の大鏡について、上部中央に盃  
形の鉢を配し、左右に花綱紋様（フェス  
トーン）を用いる。また、南面の壁にも  
鏡が付く。旧鏡の上に新鏡を貼り付け、パ  
テで固定されている。旧鏡とよく似た仕様  
としている。

南面東端の扉は竣工時には壁であった。  
竣工アルバムの「東客室」（p.74写真12-1）  
に写る壁は夫人室の南壁面に該当するが、  
タペストリーがかかるとのみで扉がない。大  
正期の図面では扉が描かれているため、竣  
工時は壁で、大正期までに扉が付けられた  
ことになる。

家具について、竣工アルバムの左の腰掛  
（ウィンドシート、長10）、右の肘掛椅子  
（ベルジュール、長12）、奥の窓手前の天板  
が大理石である花台（長33）、左壁脇の大  
理石の彫刻台（長38）は現存する。現在、  
ウィンドシートは客間、ベルジュールは新





10-1 「二階広間」(竣工アルバム)



10-2 2階広間(大正5～7年)(長楽館蔵)



10-3 2階広間東をみる



10-4 2階広間暖炉と鏡



10-5 2階広間暖炉



10-6 2階広間暖炉脇の壁灯



10-7 2階広間階段手摺



11-1「貴婦人室」(竣工アルバム)



11-2夫人室 (大正5~7年) (長楽館蔵)



11-3夫人室 (長楽館蔵)



11-4夫人室天井とシャンデリア



11-5夫人室鏡脇の壁灯



11-6夫人室暖炉上の鏡上部



11-7夫人室壁灯 (後補)



11-8夫人室暖炉

館、花台は2階広間等、彫刻台は玄関で使用している。全体にルイ16世風の家具でまとめている。

室内は装飾的で、浮彫りが浅く、シンメトリーであり、18世紀イギリスの新古典主義に似ている。ただ、シンプルな新古典主義に対して、ややフランスのロココ風が微妙な曲線などに加味されているようにもみえ、アメリカで折衷されたのかもしれない。

## 2階 東客室 (Guest Room) / 東寝室 / 東寝室 / 現接遇の間 (写真12-1~6)

床は後補で絨毯張とする。竣工アルバムより元は板張に絨毯を敷いたように見える。

壁はピクチャーレールとチェアレールを入れ、布張である。竣工アルバムではピクチャーレールからタペストリーをかける(写真12-1)。夫人室で先述したように、北壁面には竣工後から大正期の間に建具が取り付けられる。建具枠が東壁の際までついて不自然であり、後補の建具である。建具枠の線型のパターンは他と同じで、数年の差で設置していると思われる。西面の建具には、GHQに接收された時代と思われる薄い色のペンキが一部見える。

天井は高さ3596mmである。夫人室がややロココ風の新古典主義だったのに対し、中央に厚みがありバロック風にみえる。ただ、持ち送り部分にはそこまでの力感はない。

照明について、シャンデリアは竣工アルバムには映らないが、支柱の部分が旧客間などの当初材と同じ仕様なので当初とみて良いだろう(写真12-3)。シャンデリアは

中央に1灯、周りに4灯吊るされ、シェードはラッパのような花の形で、球状のガラスをまとわせ、アームはガラスである。暖炉脇の壁灯も同じモチーフで1灯である(写真12-5)。

暖炉は全体に直線的であり、2段に区切り、上段は中央に枠飾りを配す(写真12-4)。左右の柱型は、上段は方形、下段上部はややS字を描いたモディリオンをつける。火袋周囲の飾金物は、左右上部に浮彫金物の枠を設け、枠内上方に鑄造透金物を施す。

暖炉上部に大鏡がつく(写真12-6)。大鏡の枠は2段にする。手前は左右に縦溝彫の装飾柱、上部に杯をモチーフとした木枠を付け、背面は天井に向かって左右に付柱が伸びる。付柱は上部にアカンサスの葉と花綱紋様(フェストゥーン)を用い、縦溝彫が施される。

家具について、竣工アルバム左の鏡付衣裳箆笥(長39)、右奥の寝台(長22)は現存する。鏡付衣裳箆笥はチーク材、方立に縦溝彫の装飾柱、上部に半円形の破風飾、中央に草花の古典装飾を備える。前面に大鏡を張り、上部隅には松笠形の彫刻をつける。木部には緻密な木象嵌が施される。寝台はチークと桜で解体して保管されている。いずれもルイ16世風でまとめる。またタオル掛(長48)も現存し、竣工アルバムの鏡付衣裳箆笥の手前にそれらしいものが写る。

## 2階 東浴室 (Bath Room No.1) / 浴室 / —— / 現物置 (写真13-1~3)

大正期の図面では「浴室」とあるが、西の浴室と区別するため、本稿では「東浴室」





12-1 「東客室」(竣工アルバム)



12-2 東寝室



12-3 東寝室天井とシャンデリア



12-4 東寝室暖炉



12-5 東寝室壁灯



12-6 東寝室暖炉と大鏡

とする。

床は後補でタイル張である。壁も後補で、窓枠は当初と思われる。

天井は1階の球戯室、応接室、花卉室と同様、輸入金属製打出天井板張りに白ペンキを塗ったものである。

窓には白鳥を描いたステンドグラスが嵌まる。竣工アルバム「東浴室」の写真としてこのステンドグラスが見られるため、当初から同じ位置にあった。『建築工芸叢誌』第3冊には、「京都村井吉兵衛邸浴室の窓」としてこのステンドグラスが紹介されており、宇野澤製作所作成とされる。

## 2階 東南客室 (Guest Room) / 南寝室 / 南寝室 / 現トイレ (写真14-1~3)

床は後補でタイル張である。壁は横棧が入り、プラスター仕上げである。天井は落ち着いた中心飾で飾られる (写真14-3)。

照明について、シャンデリアは3灯式で、夫人室の壁灯と同じシェードで、細長いガラス棒を円形に吊るしてカバーしている (写真14-3)。夫人室のシャンデリアに比べてより落ち着いている。当初と思われる。壁灯は後補であろう。

暖炉は大理石である (写真14-2)。直線的でシンプルなデザインである。火袋周囲の飾金物は、左右上部に浮彫金物の枠を設け、枠内上方に鑄造透金物を施す。暖炉上部に大鏡を嵌める。鏡枠は東寝室のデザインとよく似るが、1段で簡素である。

全体に部屋の大きさにあわせてややおとなしく設えている。

現在は2室に分けて、トイレとして使用している。男性トイレ側の窓枠下部に、GHQによる接収の時代と思われるペンキ

が見られる。

家具について、竣工アルバムの鏡付化粧台 (長44) は現存する。ブラジリアンローズ、「MAPLE & Co TOTTENHAM COURTRoad LONDON」のプレートが付く。

## 2階 美術室 (Museum) / 北寝室 / 北寝室 / 現美術の間 (写真15-1~6)

床は後補で絨毯張とする。

壁はピクチャーレールとチェアレールを入れ、布張である。

天井は高さ3847mmで壁から円形に小壁を設け、プラスター仕上げの鏡天井とする。

照明について、シャンデリアは竣工アルバムからはわからないが、支柱は当初のものである (写真15-3)。デザインは、上段は円錐形をなし下段は球状をなす。最下部にはペンダントをつける。壁灯は食堂の暖炉脇にある壁灯と同じデザインである (写真15-4)。2灯で、シェードはなく、カットガラスの数珠繋ぎタイプである。アームは優美な曲線のガラスである。

暖炉は大理石で、直線的でシンプルなデザインで、形は南寝室に似る (写真15-5)。ただし色が異なる。火袋周囲の飾金物は、左右上部に浮彫金物の枠を設け、枠内上方に鑄造透金物を施したもので東寝室と同じデザインである。

暖炉上部に大鏡を嵌める (写真15-6)。鏡枠上部中央には貝のモチーフを入れ、植物の装飾で左右を飾るが全体にはおとなしいデザインである。

## 2階 西南客室 (Guest Room) / 西寝室 / 西寝室 / 現鳳凰の間 (写真16-1~8)



13-1 「東浴室」 竣工アルバム



14-1 「東南客室」 (竣工アルバム)



13-2 東浴室窓ステンドグラス



14-2 南寝室暖炉と鏡



13-3 東浴室建具ステンドグラス



14-3 南寝室天井とシャンデリア





15-1 「美術室」(竣工アルバム)



15-2北寝室(長楽館蔵)



15-3北寝室シャンデリア



15-4北寝室壁灯



15-5北寝室暖炉



15-6 北寝室暖炉と鏡



16-1 「西南客室」(竣工アルバム)



16-2 西寝室 (大正5~7年) (長楽館蔵)



16-3 西寝室西南をみる



16-4 西寝室西北をみる



16-5 西寝室天井とシャンデリア



16-6 西寝室暖炉と大鏡



16-7 西寝室暖炉



16-8 西寝室カーテンロッド中央

2階で最も広い客室である。

床は後補で絨毯張とする。

壁はピクチャーレールとチェアレールを入れ、布張である。

天井は高さ3623mmで華やかなモールディングを施す。

照明について、シャンデリアは支柱から当初と思われる(写真16-5)。中央に半球状のガラスを配し、その周りに金輪を取り付け、金輪上部にレリーフ、金輪下部に棒ガラスを取り付ける。壁灯も当初と思われる。

暖炉は2階客室の中で最も立派である(写真16-6)。天板は左右の柱と中央の肘木で支える。肘木はそれぞれ縦溝彫を施す。左右の柱型は、上部に肘木、下部全体にS字を描いたモディリオンをつける。火袋周囲の飾金物は、左右上部に浮彫金物の枠を設け、枠内上方に鑄造透金物を施す。

暖炉上部に大鏡を嵌める。鏡枠は溝彫で上部中央に貝に似た華やかな飾りを配し、左右に花綱紋様(フェストゥーン)で飾る。

窓は三連窓の出窓がつく。カーテンロッドには縦溝彫が施され、中央にはアンピール様式で愛用された勝利の花環が付けられ、左右にリボン飾が伸びる(写真16-8)。カーテンロッドにかかる花綱装飾は組紐で極めて装飾的である。

西寝室には化粧室が付いており、現在は物置として使用している。化粧室内にある押入は大正期の図面では引違い建具の表記だが、現状ではカーテンレールの痕跡が確認できる。化粧室の建具には、見えにくい箇所塗装のはがれが見られ、下層がよく分かる。何度か上にペンキを塗っていると

思われる。

家具は現在、鏡付複式衣裳箆笥(長40)や鏡付洗面台(長45)が置かれる。

西寝室は、竣工アルバムの外に「美人弾琴図」が飾られた古写真(長楽館蔵)がある(写真16-2)。「美人弾琴図」は亀井至一<sup>しいち</sup>が薫子(後の村井吉兵衛の後妻)をモデルにし、第3回内国勸業博覧会(明治23年<1890>)に出品した洋画である(東都文化交易1954、小野1968)。現在は株式会社歌舞伎座が所蔵する。したがって写真16-2は、先妻宇野子が亡くなった大正5年(1916)以降の撮影と考えられる。

## 2階 西浴室(BathRoomNO.2) / 浴室 / 浴室 / 現物置(写真17-1~2)

大正期の図面では「浴室」とあるが、東



17-1「西浴室」(竣工アルバム)



17-2旧西浴室

の浴室と区別するため、本稿では「旧西浴室」とする。

床と壁は後補でタイル張である。天井はプaster仕上げである。窓枠は当初からで、肘木がついて窓枠天板を支えるデザインである。竣工アルバムでは、床にモザイクのタイル張、壁面に帯状のタイルと窓にはヨットが描かれたステンドグラスが嵌り、バスタブと洗面台、鏡が写る。西寝室との境の建具も写るが、現在は塞がれている。ステンドグラスは現在1階旧応接室に移設されている。

## 2階 サービス用階段室

サービス用階段室の奥には小荷物専用のエレベーターが設置されている。

大正11年(1922)4月20日付のエレベーター注文請書(内海氏蔵)が確認されている。この前年の大正10年(1921)1月4日に、村井吉兵衛は左足の切断手術をしている(村井1935)ことから、元々は人用のエレベーターが設置されていたのではないと思われる。

## 2階 喫煙室(Smoking Room) / 支那室 / 支那室 / 現喫煙の間(写真18-1~12)

中2階の高さに位置する。

床は竣工アルバムより当初のタイル張である。

壁は、現在上部に中国風の壁画がある。扉の上部に「秋濤」と落款があることから、田畑秋濤たばたしゅうとう(1879~1964)と思われる。竣工アルバムでは壁画はなく、タペストリーがかかるのみであるため、田畑秋濤の絵は竣工後に描かれたものである。

天井は高さ3451mmで現在白塗である。『岳陽長尾健吉』(長尾1936)によれば、大

正6年(1917)に「支那特色の紫檀細工の家具装飾を用ひて支那室を作りたいと云ふ事で、グレック式か何かであった第二応接間を改装することになり」、「長方形の四角な洋室を支那風にするので形を更へるわけには行かず、先ず天井に支那風の絵でも画く外なく、支那特色の龍に鳳凰でもあしらった絵を画くことにし」、大正7年(1918)4月中旬頃に上野廣一の天井画を貼り付けたとある。一方写真18-4の写真は、裏面に「大正六年四月京都円山長楽館支那室装飾記念」と記載があり<sup>2)</sup>、一年の違いがあるが、『岳陽長尾健吉』は昭和11年(1936)の刊行であるため、写真裏書の方が信憑性が高く、大正6年(1917)に天井画が完成したと思われる。

また写真18-2は、大正5年(1916)以降に撮影された写真16-2と共に写真館に保管されていたものである。写真18-4と比較すると、壁面の改修前であるため、大正5~7年に撮影されたものと思われる。

照明について、現在の照明は後補のものである。写真18-4の天井照明は、3階格天井に現在付いている様式と同じである。また写真18-6には、中国風の照明が天井から吊るされている。写真18-5(大正9年<1920>)も同じ中国風照明の底部が写っているように見える。

以上のことから、大正6年頃に龍の天井画を貼り付け、その後、大正9年までの間に、半球状の天井照明から中国風の照明に変更したと考えられる。

暖炉は天板下部にデンティル(歯飾)をつけ、火袋の周囲は雷紋のような紋様、小さな飾柱の柱頭に天馬、両隅の飾柱の柱頭





18-1「喫煙室」(竣工アルバム)



18-2支那室 (大正5~7年) (長楽館蔵)



18-3 グラヒック (明治42年 (1909))



18-4 大正6年(1917)の写真  
(たばこと塩の博物館蔵)



18-5「大正九年五月 京都長楽館ニテ撮影  
米人イデス ホワイト、テイカー」(1920)  
(内海氏蔵)



18-6 改装後の支那室 (年代不明) (内海氏蔵)





18-7 支那室西面（長楽館蔵）



18-8 両扉のステンドグラス



18-9 支那室東面



18-10 暖炉



18-11 田畑秋濤の絵



18-12 窓のステンドグラス

は渦巻などユニークなデザインである（写真18-10）。

家具について、長椅子（長21）、彫刻台（長37）は現存する。長椅子は螺鈿を施した中国製で現在もこの部屋に置かれる。彫刻台はねじり溝柱形で、御影石でできる。写真18-6に写るが、現在は1階広間に置かれる。

竣工時の部屋は、螺鈿の長椅子など中国風のもの、シャンデリアやステンドグラスなど欧風のもの、床タイルのイスラム風のものなど、様々な様式が混ざった部屋だったのであろう。大正6年頃に中国風の天井画や壁の水墨画を付け、壁全体にも雷紋を施すことで中国風に統一された。

## 2階 露臺 (The North Veranda) / 露臺 / 露臺 / 現—— (写真19-1～4)

支那室の北側の露臺である。床のタイルは後補である。柱はコンポジット式オーダーで一石のみを大胆に用い迫力がある。外観は上階にある残月の間の半月窓をとりこんだ景色とする。手すりの数カ所にフラワースタンドを配している。竣工アルバムに写る家具は現存しない。

## 2階 開廊 (The South Veranda) / 縁側 / —— / 現—— (写真20-1～4)

床タイルは昭和に改変されていたが、平成に上層の後補タイルをはがし、一部補修を行い、旧来の状態にもどしている。柱は屋外側に円柱を立てる。壁面は腰部を後補のタイル張り、上部をプラスター仕上げとする。もとは屋外空間であったが、後に壁とガラスを取り付ける。天井はプラスター仕上げで、照明は後補である。竣工アルバムに写る家具は現存しない。

## 3階 (写真21-1～5)

清水組京都支店による工事経歴書には、大正3年（1914）1月10日より同年12月31日まで、「村井別邸三階洋館改造工事木造」とある。また、『建築工芸叢誌』第2期第14冊の「村井別荘長楽館の改造」では、「三階の改造を思立ち」、外部の設計をガーディナー、内部の設計を大島盈株に依頼し、清水組が工事をしたとある。

さらに、竣工アルバムの「表門」（写真21-1）を見ると、正面3階部分は階高が低く、3階窓や屋根の形状が現在と異なる。正面側（東側）に天井の低い部屋があったところを、大正3年に3室を設けて階高を高くし、屋根の形状を変えたと思われる。

階段室の写る竣工アルバム「三階 Third Floor」（写真21-3）を見ると、階段を上った踊り場正面に引違いの襖戸と壁が映る。現状では奥に南北の廊下があり、さらに奥に上段之間や次之間が並んでいることから、現状と写真の違いを確認できる。このほかの竣工アルバムに掲載された3階と4階のキャプションが付く部屋は、改修されているとみられ、現位置を確認できていない。

現在の3階の平面は、東端に北から上段之間（十一帖）、次之間（十五帖）、控室（八帖半）、化粧室（四帖半）が並ぶ。上段之間の西には控室（七帖）が、化粧室の西には浴室と便所が付く。さらに廊下をはさんで、南側には東から中座敷（十一帖）、次之間（十二帖半）が続き、階段を3段程上がったところに、西座敷（八帖）、次之間（七帖半）が並ぶ。北西角には女中和室があ



19-1 「露臺」(竣工アルバム)



20-1 「開廊」(竣工アルバム)



19-2 露台東をみる



19-3 フラワースタンド



20-2 開廊 (大正 5 ~ 7 年) (長楽館蔵)



19-4 露台開口部



20-3 縁側東をみる



20-4 縁側西をみる

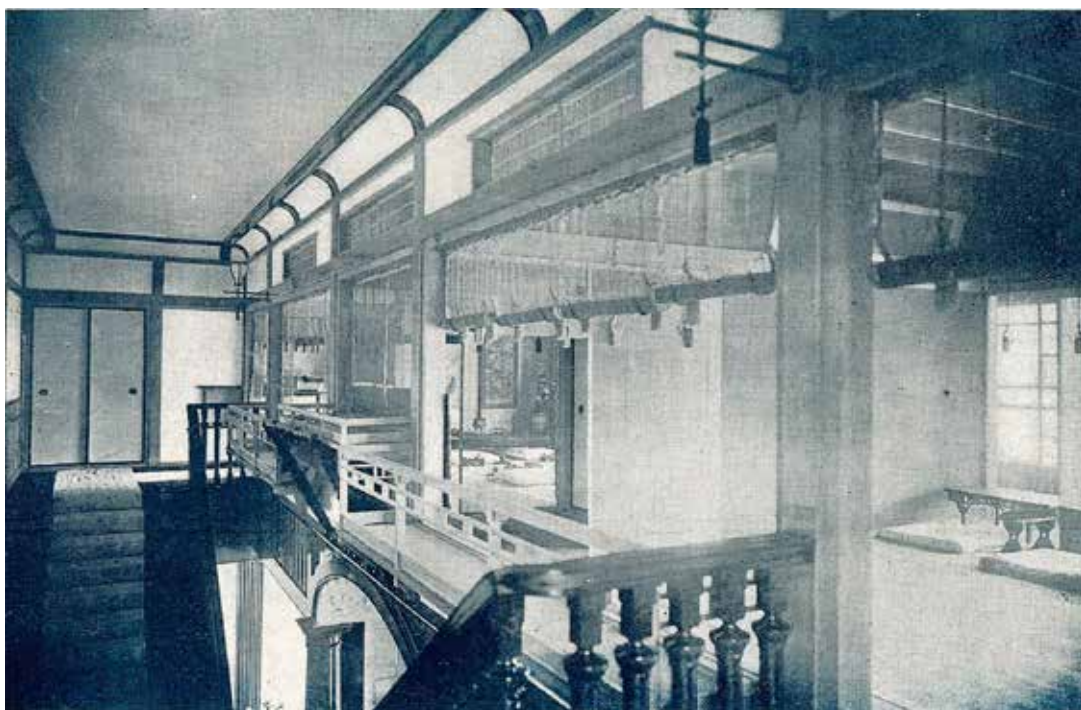




21-1「表門」(竣工アルバム)



21-2外観(長楽館蔵)



21-3 「三階」(竣工アルバム)



21-4 3階階段廻り東をみる

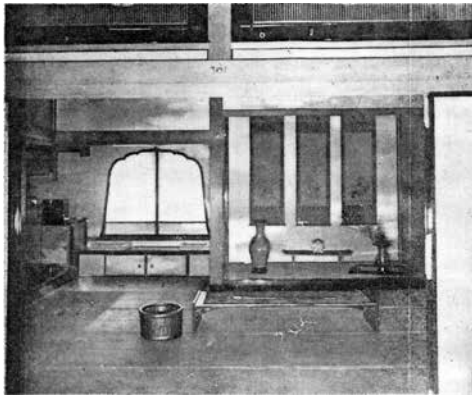




21-5 3階階段廻り古写真（長楽館蔵）



21-6 上段之間の古写真（長楽館蔵）  
テーブルと椅子がある



21-7 上段之間の古写真  
（『有鄰第三館 第四回懷恩記念』より転載）



21-8 上段之間の現状の写真



21-9 天袋



21-10 引手金物



21-11 違棚



21-12 釘隠

るが、一時は厨房として利用され、現在は物置となっている。また北側中央には、2階と3階の間の高さ、茶室（十帖）がある。

3階 ——／上段之間（十一帖）／——／  
現御成の間 及び次の間  
（写真21-6～12）

上段之間と次之間は襖と箴欄間で隔てられる。いずれも畳敷である。古写真ではテーブルと椅子が置かれた時期もあったようだ（写真21-6）。

壁は障壁面を貼る。長押を廻し、蟻壁を設ける。

天井は高さ3296mmで、2室とも折上格天井で、青地に金雲を描く。天井には食堂の四隅と同じ照明が付く。

正面には床の間、向かって左側には花頭窓と地袋、かね折れにして違棚と天袋を設ける。右側には付書院を設ける。床の間は貼付壁で黒漆の框を置き、畳を敷く。床柱は四方柱で、巻裏<sup>まきうらさば</sup>捌きにし、釘隠を付ける。

次之間の床は、貼付壁で地板を置き、地袋を設ける。床柱は四方柱で、巻裏<sup>まきうらさば</sup>捌きにし、釘隠を付ける。

室内の障壁面について、上段之間の垂れ壁と、付書院上部には千鳥が描かれる。違棚の天袋は淡路島、上段之間の襖下方には波が描かれる。全体を金砂子で散らし、「淡路島かよう千鳥を」現わしている（橋本1930）。次之間には野毛<sup>のげ</sup>や切箔、砂子をまき、雲と波紋が描かれる。

また、釘隠、引手金物、違棚や天袋の金物、格天井の金物などには、村井家の家紋「三柏」が入る。

3階 座敷 (Drawing Room)／中座敷 (十一帖)／——／現聚楽

及び ——／次之間 (十二帖半)／——  
／現平安 (写真22-1～5)

十一帖半の畳敷きで、西面に床の間を設ける（写真21-3）。床框を黒漆とし、床畳を敷き、付書院を設ける。床脇には地袋を設ける。地袋の障壁面は「文嶺」の落款より、前川文嶺（1837～1917）によるものとわかる。

東面は4枚の襖を設け、上段之間の前廊下に接続する。

壁は土壁で、天井は高さ2623mmで棹縁天井とする。

竣工アルバム「座敷」（写真22-1）や「三階」（写真21-3）には中座敷の東面が写されており、もとは東面に床の間を設けていたことが分かる。床の間は間口を広くとり、黒框に畳を置き、床脇には違棚、天袋、地袋を設けている。左奥は、現在の階段を上った踊り場にあたり、写真22-1では引違いの戸が映る。この引違いの襖戸が、階段を上った踊り場の東面にあたる。

床の間の配置が大きく異なることから、上段之間が造作された大正3年（1914）にあわせてこの部屋も現状のように改修されたと思われる。柱等に改修の痕跡がみられないことから、柱を全て取り替えた、大胆な改修だったことが伺える。

また西に隣接する次之間（十二帖半）について、大正期の図面では付書院がない。現状の南廊下にある扉と付書院が不自然な取り付け方をしているため、この付書院は後補のものと思われる。南廊下には腰掛が備わっていて、大谷祖廟の参道を見下ろす



22-1 「座敷」(竣工アルバム)



22-2 中座敷東をみる



22-3 中座敷西面の床



22-4 中座敷前川文嶺の地袋



22-5 中座敷次之間の床





23-1 「茶室（残月の間）」（竣工アルバム）



23-2 茶室西をみる



23-3 茶室北西をみる



23-4 茶室北面



23-5 西のステンドグラス（桜）



23-6 東のステンドグラス（紅葉）



ことができる。

**3階 茶室（残月の間）（The Ceremony Room）／茶室（十帖）／——／現長楽庵（写真23-1～6）**

中3階の高さに位置する。表千家「残月亭」の写しである。

南西隅に床を設け、西面に床脇を設ける。

床は畳敷であるが、壁は土壁とし、西面に開口部を設けない。

床天井は竹を組んだ格天井とする。床脇の天井は化粧垂木であるが、残月亭に比べて垂木の間隔をあけ、よりシンプルに仕上げている。

開口部は、北面中央に半円形の窓が開き、その両側である東西にスタンドガラスの円窓が嵌まる。茶室東側には水屋が付くが、東のスタンドガラスは水屋北面に位置する。

スタンドガラスのモチーフは西が桜、東が紅葉である。『建築工芸叢誌』第3冊にこのスタンドガラスが掲載されており、竣工時からあることが分かる。

茶室でありながら、数寄屋の要素を強調させず、一方で半円形の窓やスタンドガラスを嵌めるなど、洋館である建物のなかに茶室をうまく組み込ませている。

**3階 ——／女中和室／——／現物置**

平面の北西隅に位置する。大正期の図面では女中和室とある。その後、一時期は厨房として利用された。現在は物置となっている。間取りは変わらないが、床、壁、天井など全て後補のものである。

**3階 四階客室カ／西座敷／——／現休憩室 及び次の間（写真24-1～3）**

平面の南西に位置する。上段之間や、中座敷、女中和室に対して、階段を3段ほど設けて床を高くする。天井は高さ2208mmである。竣工アルバムでは、「四階客室」（写真24-1）があるが、この部屋に該当する可能性もある。

現在は和室で、東面に床を設ける。西側には次之間（7帖半）が付く。南面には縁が付く。大正期の図面と配置がほぼ同じであるが、西端にあった押入に変更が見られる。

大正期の図面では次之間の北側に浴室と便所があり、竣工アルバムの「四階浴室」に該当する可能性があるが、現在は改装されて事務室となっている。

**4階 ——／物置／——／現物置（写真25-1～2）**

北面中央、茶室の上に位置する。物置が3室並ぶ。床は畳敷、内壁は板壁を貼り付け、建具は横棧の引戸を嵌める。物置前の廊下は後補の絨毯を敷く。廊下上部より、小屋裏へ上がることができる。

**地下 階下室／——／——／現厨房廊下 厨房／厨房／——／現厨房（写真26-1～3）**

地下室は、地形上、1階平面の西半分で作られる。東半分は基礎に当たる。大正期の図面と比較して、構造上の改変はない。室内に内壁を設け、新しい設備を入れるなどして、現在も厨房として活用している。



24-1 「四階客室」(竣工アルバム)



24-2 現休憩室東面



24-3 「四階浴室」(竣工アルバム)



25-1 右手に物置が並ぶ



25-2 物置内部



26-1 「厨房」(竣工アルバム)



26-2 「階下室」(竣工アルバム)



26-3 地下

#### 4 まとめ

長楽館の各部屋について、竣工アルバムとの比較や、現在の残存状況を見てきた。長楽館は村井銀行の閉鎖や、GHQによる接收後、荒廃した時期もあった。壁や天井の塗り直しなどの後補のものも見られるが、ヒアリング調査では、近年の所有者が飲食店などを経営しながら、少しずつ修復をすることで公開できる部屋を増やし、また古写真をもとに復元を試み、大切に保存・活用しようとしてきたことがうかがえた。

実際に、床のタイルや寄木張り、柱や天井周りに見られる彫刻や、暖炉、照明などの保存状態が良く、当時の設計者が各々の部屋に特徴を持たせ、当時の流行を取り入れて設えたことがよくわかる。また、家具も部屋の特徴に合わせて、同じ様式のもの

を数多く揃えた。

さらに、竣工アルバムが遺されていることや、竣工時や改装時の様子がわかる記事や書籍が残っており、社会的にも大変注目された建物であったことが分かる。長楽館は、近代の技術を集結させた建物であることに加え、日本の近代実業家を取り巻く背景を示す資料としても大変貴重である。

#### 謝辞

長楽館に関する貴重な資料を惜しみなくご提供下さった内海愛子様、川田恭子様、家具についてご教示いただきました小泉和子様、資料調査でご協力いただいた前田尚武様、現地での調査をさせていただきました株式会社長楽館、現地での実査にご協力いただきました石田潤一郎先生に感謝申し上げます。

ちぎられいこ  
千木良礼子 (文化財保護課 文化財保護技師 (建造物担当))

#### 註

- 1) 京都府立京都学・歴史館所蔵
- 2) たばこと塩の博物館 青木然氏より御教示頂く。

#### 参考文献

有楽社 (1909.7) 『グラフィック』 第1巻 第13号 p.15

有楽社 (1909.8) 『グラフィック』 第1巻 第14号 pp.14-15

建築工芸協会 (1912.5) 「スティンド硝子」『建築工芸叢誌』 第3冊 p.29

建築工芸協会 (1915.8) 「村井別荘長楽

館の改造」『建築工芸叢誌』 第2期 第14冊 p.40 (合本 p.506)

京都府 (1917) 『大正大禮京都府記事庶務之部 上』 pp.367-374

橋本八重三 (1930) 『植木屋の裏おもて』 pp.139-145

村井薫子 (1935) 「一七、感謝の思ひ出」

- 大谷彬亮『医者大谷周庵』pp.50-56  
長尾一平(1936)『岳陽長尾健吉』  
p.7.8.27  
直木友次良(1937)『高木背水傳』大肥  
前社p.97  
藤井齊成会(193-)『有鄰第三館 第四  
回懷恩記念』  
熊川千代喜(1939)『藤井善助伝 続  
編』pp.104-116  
市島春城(1941)『回顧録』中央公論社  
pp.107-108  
東都文化交易(1954)『近代日本美術全  
集第3巻』p.12  
大溪元千代(1964)『たばこ王・村井吉  
兵衛—たばこ民営の実態』(株)世界文庫  
小野忠重(1968)『江戸の洋画家』p.172  
野口茂(1978)「明治のロマンが息づく  
京都「長楽館」」『ホームデコレーション'  
78 SPRING第17号』トーソー出版(株)  
羽生正気(1978)「明治のロマンが息づ  
く京都「長楽館」Ⅲステンドグラス」『ホー  
ムデコレーション' 78 AUTUMN 第19号』  
トーソー出版(株)  
野口茂(1978)「明治のロマンが息づく  
京都・長楽館 暖炉と家具」『ホームデコ  
レーション'78WINTER 第20号』トーソー  
出版(株)  
野口茂(1979)「明治のロマンが息づく  
京都・長楽館 照明と壁画」『ホームデコ  
レーション'79 SPRING 第21号』トーソー  
出版(株)  
松本誠一(1982)「高木背水をめぐる  
人々」『佐賀県立博物館館報No.57』  
京都市文化観光局文化観光部文化財保護  
課(1987)『京都市の文化財—京都市指  
定・登録文化財第四集—』  
松波秀子(1996)「宣教師・教育者・建  
築家としてJ.McD. ガーディナー」『住宅建  
築』7月号  
藤森昭信(2002)『歴史遺産日本の洋館  
第2巻 明治編2』講談社  
小田部雄次(2004)『家宝の行方 美術  
品が語る名家の明治・大正・昭和』(株)小  
学館  
金田美世(2011)「J.M. ガーディナー作  
品における木内真太郎のステンドグラス」  
『日本建築学会大会学術講演梗概集(関東  
東)』  
工藤卓(2014)「福岡県大川市旧三瀧銀  
行の建築資材と意匠の保存研究(2)輸入金  
属製打出天井板と室内意匠設計者をめぐっ  
て」『デザイン学研究』(一社)日本デザイ  
ン学会  
たばこと塩の博物館(2020)『明治のた  
ばこ王 村井吉兵衛』  
長楽館(2010-2019)『長楽未央』  
Vol.10-35  
長楽館(2021)『Regalo』Vol.14-15  
堀勇良(2021)『日本近代建築人名総  
覧』中央公論新社p.330  
郡山市美術館(2022)『記録する眼 豊  
穰の時代 明治の画家亀井至一、竹二郎兄  
弟をめぐる人々』



## 京都市歴史資料館所蔵「上野伊三郎家文書」の紹介

井上 幸治

### はじめに

上野伊三郎（1892～1972）は、建築家として知られ、京都市立美術大学（現京都市立芸術大学）などで教鞭をとった。妻の上野リチ（1893～1967）も工芸家として著名である。上野夫妻は、昭和38年（1963）5月にインターナショナルデザイン研究所を設立し、後進の育成にあたったが、二人の没後、その関係資料はインターナショナル学園が管理していた。平成元年（1989）3月に、伊三郎以前の上野家に関する史料群が、同学園より当館へ寄贈された。そして令和4年度、公益財団法人ポラ美術振興財団より助成金を受け、調査研究を行なった（テーマ：「上野伊三郎家文書」に含まれる建築図面の調査・整理および展示方法についての研究）。本稿は、その成果に基づくものである。

なお上野伊三郎・リチの業績に関わる史料群は、平成18年度に京都インターアクト美術学校から京都国立近代美術館へ寄贈され、平成21年には図録・目録として『上野伊三郎+リチ コレクション』が刊行されている。

また本稿内容の一部は、京都市歴史資料館第2展示室にて行ったパネル展示「上野伊三郎家文書の建築図面」（令和5年2月2日～4月23日）において、既に紹介し

ていることを付記しておく。

### 1 大工・上野家

上野家は、河原町通竹屋町東入（京都市中京区）において大工棟梁・建築請負業をいとなんでおり、「大伊」（大工伊助のことか）とも称していた。

江戸後期～明治期には「伊助」を襲名しており、「京都御所に出入りする宮大工であった」とされる<sup>1)</sup>。実際、本史料群中にも禁裏・二条城・東本願寺などの建物の建築・修理に加わった際の図面・記録が残されており、その事実をうかがわせる。しかしそれらをはじめ、他の史料においても、管見の限り、棟梁などとして「上野伊助」や「伊助」という名の大工は確認できていない。現在のところでは、具体的な立場については未詳とするのが妥当であろう。

### 2 本史料群の構成

本史料群は、上野家以外において作成されたものも多数含んでいる。何らかの経緯によって上野家に所蔵されるようになったのであろうが、それらの具体的な経緯は明確ではない。以下では、それらの資料をグループごとに紹介しておく。

(1) 中井家

「中井扣」と書かれた図面が5点含まれている。明記はされていないが、内容・絵様の類似する図面が他にも数点含まれている。即断はできないが、大工頭中井家に率いられた大工集団との関係がうかがえる<sup>2)</sup>。

・中井扣

- 012 (417) 鋳金物図 (中井控)
- 011 (418) [常御殿・宮之御殿高欄金物図] (中井控)
- 030 (419) [仙洞御所表御門減金金物図] (10月13日、中井控)
- 048 (109-4) 中宮御殿御床カ段違建図 (子2月、中井控)
- 161 (152) 根本中堂北妻四十分一 (中井伊織写)

\*数字は、後掲目録の番号。( )内は受入番号。以下同じ。

(2) 東本願寺

東本願寺のものと推測しえる図面の中には、「肝煎方」と記されたものや、そこに捺された「義」字と思わしき黒方印が見いだせ、「青木新助」「水口伊豆」「中江」といった名が記される。これらは東本願寺の大工組織・肝煎方に由来するものと思われる。

・青木

- 097 (314) 御影堂木口絵図
- 098 (322) 御影堂敷居并ニ寄敷図

・中江

- 122 (323) 白書院建杖 【「義忠」】
- 153 (199-5) 上棟鉦始絵図書付入
- 156 (407) [比叡山・坂本諸堂図] 【「義」印】

- 293 (404) 塔雛形 【「義」印】
- 346 (361) 床コ棚廻り雛形 (袋)
- ・「義」印
- 110 (060) [阿弥陀堂御門木寄に付覚] (天保4年5月調)
- 148 (061) 御上旦御蔵木寄工数日記
- 125 (064) 白書院木寄 (巳10月)
- 109 (130) 本堂御門木寄帳 (天保4年5月)
- 139 (247) [東本願寺屋敷絵図]
- 121 (308) 白書院御治定絵図
- 144 (311) 御台所小出シ廻り御上段廻り
- 135 (318) 能舞台木口指図
- 293 (404) 塔雛形
- 156 (407) [比叡山・坂本諸堂図]

天保4年(1833)の御影堂上棟、同6年の阿弥陀堂上棟では、肝煎方の大工として青木新助良容・中江定治郎義忠の名がある<sup>3)</sup>。「義」印は、「肝煎方」として捺されたところがあるが、中江定治郎(義忠)の印であったかもしれない。



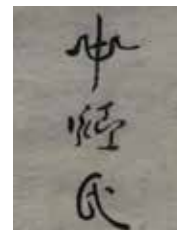
「義」印



肝煎方「義」印



「中」記号



「中江氏」

そしてこのうち、中江氏については、「義」印だけでなく、「中」字をもとにデザインされたらしき記号が、資料中に散見される。この記号を用いて「中江氏」と書かれたところがあることから、「中江氏」の「中」であると推定している。

・「中」記号

- 003 (042) 〔内裏建物覚〕(横半帳)
- 012 (417) 鋳金物図 (\*「中井扣」)
- 018 (045) 〔禁中九門〕惣御門正寸書留(寛政元、横半帳)
- 144 (311) 御台所小出シ廻り御上段廻り (\*「義」印あり)
- 158 (148) 比叡山建物雛形
- 253 (056) 〔建築雛形 第三号〕(横半帳)
- 322 (038) 大門木割寸法留メ(横半帳)
- 328 (272) 〔諸文様下絵集〕
- 399 (043) 〔五冊之内〕小坪規矩(寛政2、横半帳)
- 400 (044) 〔五冊之内〕棚雛形(寛政2、横半帳)

「中」記号と「義」印の重複は、いずれも中江氏のものと考えれば問題ない。しかし、012 (417) の1点だけではあるが、「中井扣」と記されたものに「中」記号が記されていることには、注意が必要であろう。ひとまずここでは、東本願寺肝煎方大工であった中江氏が、中井家から中宮御殿などに関する資料を譲渡されたものと想定しておく。

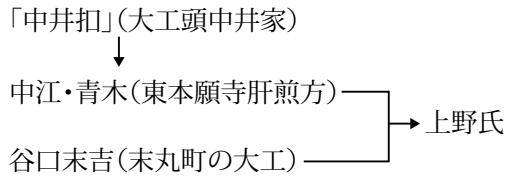
(3) 谷口末吉

谷口末吉(季吉)は、上野と同じ末丸町に居住していた大工である。しかし明治中期以降、大工として活動している事実を確かめられない。恐らく谷口は、明治中期までに大工業を廃しており、その際、所有する図面などを上野へ譲り渡したのではないだろうか。

・谷口

- 259 (052) 『新撰大工雛形』4冊(明治19写)
- 261 (283) 神明造破風総様
- 262 (349) 見世棚流シ造社 拾分一之図
- 264 (291) 見世棚流シ造社 平之図
- 265 (269) 見世棚流造社 平之図(下絵)
- 266 (362) 見世棚流造社
- 274 (343) 〔鳥居雛形〕
- 275 (295-4) 鳥居
- 276 (295-5) 鳥居
- 303 (348) 土蔵戸前図
- 318 (292) 塀重門之事
- 320 (295-7) 塀重門ニ腰塀
- 326 (050) 絵様雛形(明治19)
- 327 (049) 絵様雛形
- 355 (265) 〔唐戸扉板図〕
- 367 (295-2) 掛子造之事
- 374 (047) 柱根継覚帳
- 383 (262) 〔井筒桁隅木落掛り搔様〕
- 401 (067) 建家地坪数取様控(明治19)
- 425 (001) 『番匠往来 全』(明治20購入)

これらの経緯を総合すると、本資料群の形成過程として、



というような経緯が復元できる。

本資料群には、他にも村山勝治郎作の絵図がまとまっているなど、複数の大工から資料を集積している様子がうかがえるが、それらの人びとについて詳しく知ることはできない。上野伊助は、廃業した大工から資料を譲り受けていたのではないだろうか。

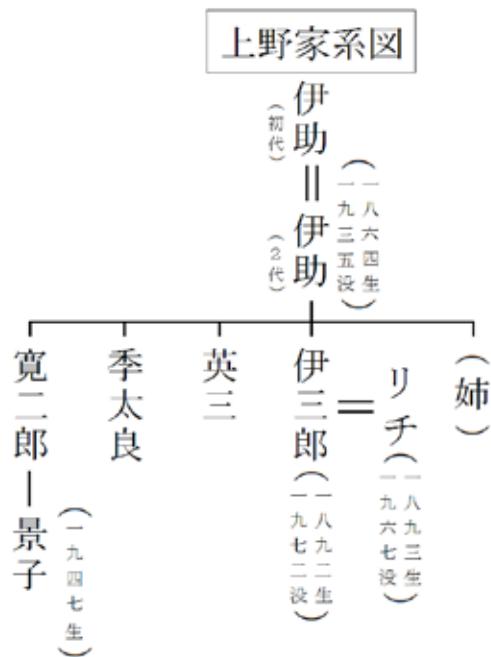
〔上野工務店〕

明治期の上野家は、末丸町に居住していたが、同町内や隣接する大文字町にも数か所の土地を所有していた<sup>4)</sup>。その地租は、明治34年には1,200円、大正14年6月現在には1,079円(508坪、評価額7万5,530円)とあり(『資産家地主総覧 京都編1』)、500坪前後を所有していたことがうかがえる。

住所は、竹屋町通河原町東入が示されることが多いが、中町通竹屋町下る、中町竹屋町上る(中町通御霊図子下る)などとも書かれ、周囲に多数の土地を有していたことをうかがわせている。

近親者の関係図を示せば、系図のようになる<sup>5)</sup>。

上野伊助(2代)は、上野工務店をいとなみ、「住宅の施工を主とした」とされるが<sup>6)</sup>、『銅駝尋常小学校沿革史』(1934年)に



も略歴が記されており、参考となる。それらによると伊助は、近江国高島郡三谷村(滋賀県高島市今津町)で大溝藩土谷口善右衛門の三男として元治元年(1864)正月に生まれ、明治11年(1878)に京都へやってきて上野伊助(初代)の徒弟となり、後にその家督を嗣いで建築請負業をいとなんだという。明治31年(1898)には銅駝小学校(当時は二条通寺町東入榎木町に所在)の教室建築を手がけ、大正8年(1919)にも銅駝小学校(鉾田町)の校舎新築第二期工事を請け負った。この間、学区会議員(明治40年~大正6年)もつとめている。

上野伊助が請け負った建築については、新烏丸通二条上る西側の京町家が現存するが、残念ながら詳細はおえていない。ただし本史料群には、京都帝国大学理工科大学の機械建築学等教室を建てた際の図面がまとまって残されており(231~241号)、規模の大きな学校校舎も手がけていたことが



わかる。この校舎は、明治31年に竣工している。

このほか、資料中には「京都婦人慈善会附属慈愛手芸女学校校舎建設仕様注



上野伊助（『鋼鉄専常小学校沿革史』）

文書」（242号、年未詳）も含まれており、「上野用箋」と印刷された罫紙に書されていることから、上野工務店によるものと類推しえよう。上記仕様注文書によると、この学校は知恩院門前に建てる予定となっている。慈愛手芸学校は、明治36年に設立された慈愛女学校が、明治39年5月に増科・改称したものであり<sup>7)</sup>、知恩院門前への移転は明治42年3月である<sup>8)</sup>。この仕様注文書の年代も、明治41年頃と推測しえよう。ただし、伊助がこの校舎建築を請け負ったか否かは、確認できていない。

なお商工人名録の類には、管見の限りでは、明治32年（1899）から昭和4年（1929）までの間において、上野伊助の名を確認できる（別表参照）。

上記『沿革史』には、伊助が、京都における蒸気ポンプ技師の草分け的存在であったことも記述されている。伊助は、明治36年（1903）に京都市役所消防部の機関士となり、後進の育成にもあたった。明治40年～大正6年には機関士長をつとめ、大正6～8年には川端消防組小頭となるなど、京都市の消防現場においても功績を残して

いる。

#### 〔上野伊三郎の大工修行〕

上野伊三郎（1892～1972）は、五人きょうだいの二番目の子どもで、長男である。伊三郎には、三人の弟がいた。伊三郎は当初、府立第二中学校へ進むが、それを中退している。長男であったため、父業を継ぐべく、大工としての勉強に励むためのようである。そのころの様子をうかがわせる図面が、本資料群に含まれている。いずれも雛形と思われるが、門・玄関などの正面図・側面図・平面図の清書が確認できる。その年紀は、明治43年（1910）から大正2年（1913）となっており、伊三郎18～21歳のころである。

#### 353（162-3）〔車寄正面図〕

明治43年10月

#### 151（251） 車寄唐門正面図

明治44年

#### 143（309） 御廊所入口御唐門并透塀

共建地割 大正元年12月

#### 307（162-1） 四脚門正面図

大正2年1月

#### 308（162-2） 四脚門側面図

大正2年1月

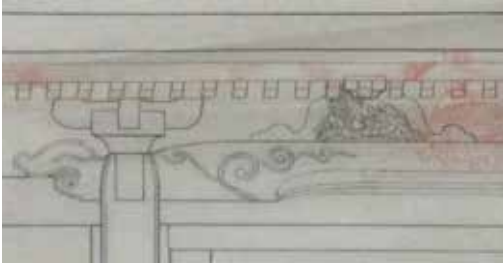
#### 288（342） 〔二階楼立面図〕

大正2年3月

#### 354（363） 玄関之図

大正2年5月

これらのうち、大正2年に描かれた四脚門正面図（307号）には、「虹梁墓股等の絵様ハ略下御霊神社現在の様に依る」と附記されている。下御霊神社（京都市中京区寺町通丸太町下る）には、禁裏の建礼門を移



築したと伝わる四脚門が現存しており、それをさすのであろう。実際、両者の虹梁・蟄股を見比べると、極めてよく似ていることが確かめられる（上掲写真参照）。伊三郎は、現存する建物を実見しながら、図面作成を学んでいたのである。

ところが伊三郎は、大学進学を志し、父の許しを得て東京の正則中学校へ編入している。旧制中学校には12歳から入学できるため、同級生の大半は、伊三郎よりかなりの年少者であったと思われる。大正4～5年には、銅駝青年団の評議員をつとめており<sup>9)</sup>、東京・京都を行き来しながら暮らしていたのではないだろうか。

そして伊三郎は、大正6年（1917）に早稲田大学高等予科理工科（理工学部）へ入学する。大学へ入った伊三郎ではあるが、周囲の学生よりも年長であったことは変わらず、また建築を学ぶとはいっても、すでに日本建築の図面を引けるような作図技能は習得していた。伊三郎の主眼は、近代建築について具体的に学ぶことであっただろう。父伊助が伊三郎の修学を許したのも、京都帝国大学の校舍建築などを通じて、近代建築の知識が必要だと感じていたからではないだろうか。実際、伊三郎が近

代建築の構造に関心をもっていたことが指摘されている<sup>10)</sup>。

なお当時の早稲田大学は、後に日比谷公会堂を設計する佐藤功一や、大阪市中央公会堂の原案設計を担当した岡田信一郎が教壇に立っており、近代建築を学ぶには適した環境であったといえる。

#### 〔上野建築事務所から後進育成へ〕

伊三郎は、大正11年（1922）に理工学部を卒業すると、すぐに渡欧し、ベルリン工科大学・ウィーン大学で学びを続け、大正13年からウィーンで建築事務所に勤務した。そこで、妻となるリチ（1893～1967）と知り合った。当時からリチはデザイナーとして活動していた。

上野伊三郎は、大正15年（1926）にリチとともに京都へ移りすみ、上野建築事務所を開く。昭和5年（1930）にはリチも活動拠点を日本へ集約した。戦後の昭和21年（1946）に建築事務所を閉じ、伊三郎は摂南工業専門学校、京都市立美術大学、金蘭短期大学などで教鞭をとっていたが、昭和38年（1963）5月にリチとともにインターナショナルデザイン研究所を設立し、後進の育成にあたった。その後、昭和42年10月にリチが、昭和47年5月に伊三郎も亡くなった。

本資料群には、大学卒業以後の伊三郎に関する資料は、含まれていない。

#### 〔大工・設計・図案〕

伊三郎が重視したのは、設計と図案との一体性であった。しかしその土壌は、近世以来の大工であったことにも影響されてい

るとみなせよう。近世の大工は、細かな図案に至るまでを、自らで手掛けている。伊三郎もまた、若いころの大工修学において、木鼻・蟄股・鬼瓦などの図案を学んでいたことが、「上野伊三郎家文書」中に残る資料からうかがえる。大正2年に記した四脚門側面図(307号)には、下御霊神社の門を参考にしたという具体的なメモも残る。

近世の大工にとって、装飾図案は設計の一部であった。伊三郎も、家業の大工修行を通じて、そのように学んでいたであろう。それ故に伊三郎は、自己のモダニズム建築においても、設計と図案との密接な関係を重視したのではないだろうか。つまり伊三郎建築の特徴は、家業であった大工と

しての修養に源を発していたといえるのであり、伝統的な日本建築の設計プロセスに基づきながらモダニズム建築を設計していたともいえようか。伊三郎建築の個性は、こうした融合によってもたらされたのである。

## まとめ

京都市歴史資料館が所有する「上野伊三郎家文書」は、上野伊三郎が近世大工の系譜に連なることを示している。伊三郎の設計を、そのような文脈で解釈すれば、伊三郎の唱えた設計と図案との関係も理解がしやすいだろう。この点は、妻リチとの関係性においても同様である。

井上 <sup>いのうえ</sup> 幸治 <sup>こうじ</sup> (歴史資料館 館員)

## 註

- 1) 「上野伊三郎+リチ」略年譜(山野英嗣・池田祐子編『京都国立近代美術館・所蔵作品目録 VII 上野伊三郎+リチ コレクション』京都国立近代美術館・2009年)。以下、伊三郎・リチの経歴に関する事柄は、この略年譜によるところが大きい。
- 2) 水度神社本殿の文化12年(1815)葺上棟札には、事業にかかわった檜皮師の名が記されているが、その中に、補助細工方・京方として「新樺木町通夷川上ル」に「檜皮屋伊助」がいる。屋号など異なるところもあるが、住所が近いことは注意したい。国立歴史民俗博物館編『社寺の国宝・重文建造物等 棟札銘文集一近畿編一』(国立歴史民俗博物館・1996年)。
- 3) 小山興誓「近世の東本願寺大工棟梁 一笠井家の新出史資料を中心に一」『同朋大学佛教文化研究所紀要』40号(2021年)。
- 4) 松本利治『京都市町名変遷史4 御所周辺II(中京区)』(京都市町名変遷史研究所・1993年)。
- 5) 『京都年鑑』各年版および英三(伊三郎弟)ご子孫のお話による。
- 6) 「上野伊三郎+リチ」略年譜(注(1)前掲)。
- 7) 『京都市学区大観』第五章「一般教育」(200~201頁、京都市学区調査会・1937年)。
- 8) 『京都府百年の年表4 社会編』(京都府・1971年)122頁。
- 9) 『銅駝尋常小学校沿革史』(1934年)。
- 10) 笠原一人「上野伊三郎の建築活動について」『日本建築学会計画系論文集』75巻649号(2010年)。

【附記】

令和5年（2023）2月2日（木）～4月23日（日）に、京都市歴史資料館1階第2展示室にて、パネル展示「上野伊三郎家文書の建築図面」を開催した。その概要は、次の通り。

〔主な展示品〕

上野伊助肖像パネル（『銅駝尋常小学校沿革史』より）

京都帝国大学理工科大学土木機械学等教室の図面パネル11点

高台寺方丈数寄屋起し絵図（拡大複製）

誓願寺竹林院数寄屋起し絵図（拡大複製）

〔展示風景〕



〔シールアンケートの実施〕

会期後半の4月4～23日（開室18日）には、シールアンケートを実施した。「上野伊三郎家文書」中に描かれた動物デザイン下絵の中から6点を選び、それぞれに次のようなタイトルを付与した上で掲示し、好みの図柄にシールを貼付してもらうことで、人気投票を実施したものである。

その結果は、次頁の通り。



\*ご参加いただきました皆様へ、厚く御礼申し上げます。



1位



1 鬼瓦太郎 (22票)

3位



2 飛び出るゾウ (18票)



3 さかさだちぼくちゃん (22票)

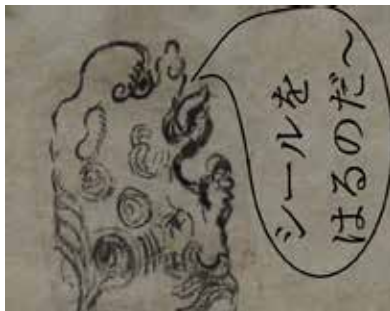
2位



5 邪気ふんばる (21票)



6 神亀? 蓑亀? (9票)



その他 (2票)



4 鳳凰の舞い (13票)



その他 (2票)

別表 商工人名録類に見える上野伊助

| 年    | 住 所           | 所得税額  | 営業税額  | 出 典                 |
|------|---------------|-------|-------|---------------------|
| 1899 | 竹屋町河原町東入      | /     | 11    | 牧野元良編『大日本商工名鑑』      |
| 1900 | 竹屋町河原町東入未丸町37 | /     | /     | 日本紳士録 第6版           |
| 1901 | 竹屋町河原町西入      | 6     | 11    | 京都市商工業者資産録          |
| 1902 | 竹屋町河原町東入未丸町37 | 7     | /     | 日本紳士録 第8版           |
| 1905 | 竹屋町河原町東入      | 41    | 13    | 京都商工人名録 明治38年「大伊」   |
| 1908 | 竹屋町河原町東入未丸町   | 85    | /     | 第12版日本紳士録           |
| 1909 | 竹屋町河原町東入未丸町   | 60    | 33    | 第13版日本紳士録           |
| 1910 | 竹屋町河原町東入      | 47    | /     | 第14版日本紳士録           |
| 1910 | 河原町竹屋町東入      | 100   | /     | 第15版日本紳士録           |
| 1911 | 竹屋町河原町東入      | 64    | /     | 第16版日本紳士録           |
| 1912 | 竹屋町河原町東入      | 99    | 77    | 第17版日本紳士録           |
| 1912 | 中町竹屋町上        | /     | 55    | 京都商工人名録 明治45年改正「大清」 |
| 1913 | 竹屋町河原町東入      | 56    | /     | 第18版日本紳士録           |
| 1914 | 竹屋町河原町東入      | 49    | /     | 第19版日本紳士録           |
| 1914 | 竹屋町河原町東入      | 99.33 | 42.5  | 日本全国商工人名録 第5版       |
| 1914 | 竹屋町河原町東       | /     | 42    | 京都商工人名録 大正3年改正「大清」  |
| 1915 | 中筋竹屋町北入       | 48    | /     | 第20版日本紳士録           |
| 1916 | 竹屋町河原町東入      | 46    | /     | 第21版日本紳士録           |
| 1916 | 竹屋町河原町東入      | 48.94 | 26.00 | 日本全国商工人名録 第6版       |
| 1918 | 竹屋町河原町東入      | 46    | /     | 第22版日本紳士録           |
| 1919 | 竹屋町河原町東入      | 63    | /     | 第23版日本紳士録           |
| 1919 | 竹屋町河原町東入      | 63    | /     | 第24版日本紳士録           |
| 1921 | 中町通御霊凶子下ル     | 84    | 73    | 第26版日本紳士録           |
| 1921 | 中町通御霊凶子下ル     | 84.88 | 73.50 | 日本全国商工人名録 第8版       |
| 1922 | 竹屋町河原町東入      | 132   | 105   | 第27版日本紳士録           |
| 1922 | 中町通御霊凶子下ル     | /     | 105   | 京都商工人名録 大正11年改版     |
| 1924 | 中町通御霊凶子下ル     | 73    | /     | 第28版日本紳士録           |
| 1925 | 竹屋町河原町東入      | 105   | /     | 第29版日本紳士録           |
| 1928 | 中町竹屋町下        | 145   | /     | 第32版日本紳士録           |
| 1929 | 竹屋町河原町東入      | 85    | /     | 第33版日本紳士録           |

註) 出典は、国立国会図書館デジタルコレクション、『資産家地主総覧 京都編1』による。税額は円。

〔凡例〕

- 一、本目録は、「上野伊三郎家文書（インターナショナル学園寄贈文書）」（寄贈081）の目録である。本文書群は、平成元年（1989）3月にインターナショナル学園より寄贈されたものである。
- 一、本目録では、文書群を1 公家、2 二条城、3 寺社、4 茶室など、5 近代建築、6 雛形類、7 不明建築、8 典籍、9 その他に分類し、各項目内で内容・年次等を鑑みて配列したうえで、全点に一連番号（文書番号）を付した。
- 一、「中」マークや肝煎方印のあるものの多くは、「3 寺社」のうち東本願寺に関するものに含めた。
- 一、目録の項目は、順番に番号、資料名、年月日・西暦、作成者・宛先、形状、法量、員数、備考、受入番号である。
- 一、文書名は、原則として原題を採用した。原題を補足する情報は（ ）内に記し添えた。原題を欠くものには適宜文書名を新たに付与したが、その際には文書名に〔 〕を付した。
- 一、一括状況の記録は備考欄に、受入番号によって記した。
- 一、作成年代に幅がある場合は、最も古い年次をとり、「～」を付してその旨を示した。
- 一、作成年代・作成等を推測できる場合は、（ ）を付して示した。
- 一、作成者につながるとされる印・マーク等については、その有無を作成者欄または備考欄に示した。
- 一、法量の単位はミリメートルであり、「(縦)\*(横)」で示した。

一、原則として常用漢字を用い、旧字体・異体字・変体仮名・合体字等は用いない。また遺憾ながら、判読に至らなかった文字については、「■」としている。

一、受入番号の内、214・221・222・284は欠番である。

一、本目録の作成および一部資料の撮影については、(公益財団法人)ポーラ美術振興財団令和4年度助成金(美術館職員の調査研究助成)を活用した。作業には、以下の方々が従事した。所属は、作業当時。

青山耕平(大阪大学大学院生)、  
南 佑佳(京都橘大学大学院生)、  
阿部大介、桑原優子、安 裕太郎(以上、佛教大学大学院生)

## 上野伊三郎関係史料（インターナショナル学園寄贈文書）目録

| 番号B  | 資料名                       | 年月日      | 西暦   | 作成者    | 宛先 | 形状  | 法量                             | 員数 | 備考                           | 受入番号 |
|------|---------------------------|----------|------|--------|----|-----|--------------------------------|----|------------------------------|------|
| 1 公家 |                           |          |      |        |    |     |                                |    |                              |      |
| 001  | [禁裏其外三御所御地面等書留メ]          | /        | /    | /      | /  | 横半帳 | 125 * 181                      | 1  | 天明8年正月以降/虫損大                 | 41   |
| 002  | 寛政御造管禁裏御諸御殿十分一御建杖元仕出<br>シ | /        | /    | /      | /  | 絵図  | 316 * 545                      | 1  |                              | 175  |
| 003  | [禁裏御建物柱石覚等]               | /        | /    | 〔中〕マーク | /  | 横半帳 | 117 * 167                      | 1  | 虫損大                          | 42   |
| 004  | [内裏諸建物木組障子等図面]            | /        | /    | /      | /  | 絵図  | 276 * 6362                     | 1  |                              | 171  |
| 005  | 紫宸殿葎戸釣鉄物                  | /        | /    | /      | /  | 絵図  | 315 * 456                      | 1  |                              | 164  |
| 006  | [常御殿絵図]                   | /        | /    | /      | /  | 絵図  | 299 * 1469                     | 1  |                              | 204  |
| 007  | [常御殿絵図]                   | /        | /    | /      | /  | 絵図  | 280 * 775                      | 1  | 破損あり                         | 205  |
| 008  | [常御殿絵図]                   | /        | /    | /      | /  | 絵図  | 519 * 570                      | 1  |                              | 245  |
| 009  | [常御殿絵図]                   | /        | /    | /      | /  | 絵図  | 266 * 244                      | 1  |                              | 211  |
| 010  | [常御殿二重小屋・三重小屋絵図]          | /        | /    | /      | /  | 絵図  | 171 * 446                      | 1  |                              | 206  |
| 011  | [常御殿・宮之御殿高欄金物図]           | /        | /    | 中井扣    | /  | 絵図  | 275 * 1181                     | 1  | 彩色あり                         | 418  |
| 012  | 鈔金物図                      | /        | /    | 中井扣    | /  | 折本  | 278 * 128                      | 1  | 彩色あり/両面あり/「中」<br>マークあり/方印5あり | 417  |
| 013  | [御三間御殿平面図]                | /        | /    | /      | /  | 絵図  | 305 * 428                      | 1  |                              | 172  |
| 014  | [御三間御殿諸々絵図寸法]             | 申2月3日    | /    | /      | /  | 横帳  | 117 * 307                      | 1  | 上棟役付：角井隠岐掾・今<br>村土佐掾・山本近江大掾  | 173  |
| 015  | 御厨子所御膳所積御所                | /        | /    | /      | /  | 絵図  | 409 * 554                      | 1  |                              | 165  |
| 016  | [禁裏御所長崎局平面図]              | /        | /    | /      | /  | 絵図  | 380 * 470                      | 1  | 「四拾壹」とある                     | 174  |
| 017  | [冷人築屋築庫平面図]               | /        | /    | /      | /  | 絵図  | 240 * 342                      | 1  |                              | 244  |
| 018  | [禁中九門] 惣御門正寸書留            | 寛政元年7月8日 | 1789 | /      | /  | 横半帳 | 120 * 171                      | 1  | 「中」マークあり                     | 45   |
| 019  | 摂家・宮方・堂上方御門留メ             | /        | /    | /      | /  | 絵図  | 117 * 307                      | 1  |                              | 209  |
| 020  | [内裏某門側面図]                 | /        | /    | /      | /  | 絵図  | 278 * 455                      | 1  | 受入357～361袋一括/裏<br>あり         | 357  |
| 021  | [内裏襖障子御寮等図面]              | 6月7日     | /    | /      | /  | 絵図  | 277 * 3513                     | 1  | 部分的に彩色あり/前欠・<br>後欠           | 170  |
| 022  | [禁裏御所部分絵図]                | /        | /    | /      | /  | 絵図  | 240 * 155                      | 1  |                              | 166  |
| 023  | [禁裏諸作事図]                  | /        | /    | /      | /  | 綴   | 445 * 260/<br>(袋) 300 *<br>199 | 1  | 袋入り                          | 275  |



|     |                    |             |      |     |   |   |   |                         |   |  |        |
|-----|--------------------|-------------|------|-----|---|---|---|-------------------------|---|--|--------|
| 024 | 禁裏御所方具外御普請御用小屋場    | 天明9年正月      | 1789 | /   | / | / | 1 | 441 * 434               | 1 | 御旧地小屋場大和郡山城主<br>松平甲斐守(柳沢保光)・日<br>御門外小屋場山城淀城主稲<br>葉丹後守(正謙)・川東吉田<br>領材木奥石并小屋場膳所本<br>田隠岐守(本多康完)・丹州<br>青山下野守(忠裕) | 177    |
| 025 | (禁裏) 鞠懸り           | 享保2年        | 1717 | /   | / | / | 1 | 横半帳<br>123 * 174        | 1 | 「享保二年西禁裏御鞠垣」と<br>あり  | 46     |
| 026 | [牛車御屋体・御宝籠絵図(彩色)]  | /           | /    | /   | / | / | 1 | 絵図<br>253 * 2220        | 1 |  | 168    |
| 027 | 仙洞御所御上棟式次第         | /           | /    | /   | / | / | 1 | 横紙<br>144 * 1387        | 1 | 上棟役付：角井隠岐掾・乾<br>長門掾・堀内若狹掾／奥に<br>女院御所の記述あり  | 182    |
| 028 | 仙洞御所諸御殿御模様替二付建杖    | 文化13年       | 1816 | /   | / | / | 1 | 絵図<br>571 * 357         | 1 | 10分の1／元仕出し   | 184    |
| 029 | 仙洞御書院              | /           | /    | /   | / | / | 1 | 絵図<br>398 * 684         | 1 |  | 185    |
| 030 | [仙洞御所表御門減金金物図]     | 10月13日      | /    | 中井扣 | / | / | 1 | 絵図<br>277 * 403         | 1 | 彩色あり／付箋糊剥かれ8<br>点あり／方印3あり  | 419    |
| 031 | [仙洞御所祇候之間長押図]      | 文化2年4月      | 1805 | /   | / | / | 3 | 絵図<br>240 * 330         | 3 | 20分の1  | 278    |
| 032 | 仙洞御所中門写地割二十分一      | 明和          | /    | /   | / | / | 1 | 絵図<br>570 * 562         | 1 | 墓股に麒麟  | 181    |
| 033 | 瀧殿八ッ橋共絵図           | /           | /    | /   | / | / | 1 | 絵図<br>280 * 401         | 1 | 仙洞御所か  | 180    |
| 034 | 後桜町院御事御屋体志件覚       | 文化10年閏11月6日 | 1813 | 上野  | / | / | 1 | 横半帳<br>123 * 173<br>(綴) | 1 | 3冊合綴   | 51-3   |
| 035 | 東宮御殿五十分一東平鹿絵図      | /           | /    | /   | / | / | 1 | 絵図<br>267 * 583         | 1 |  | 190    |
| 036 | [東宮御殿御引移に付柱本柵師書付]  | /           | /    | /   | / | / | 1 | 折紙<br>245 * 343         | 1 |  | 127    |
| 037 | 東宮御殿御湯殿二有          | /           | /    | /   | / | / | 1 | 絵図<br>238 * 339         | 1 |  | 186    |
| 038 | [皇后御殿諸殿図]          | /           | /    | /   | / | / | 1 | 絵図<br>458 * 6081        | 1 |  | 195    |
| 039 | 皇后御殿建杖十分一之写        | /           | /    | 上野  | / | / | 1 | 絵図<br>908 * 304         | 1 |  | 194    |
| 040 | 皇后御殿御造立東山院御旧地小屋場絵図 | /           | /    | /   | / | / | 1 | 絵図<br>358 * 381         | 1 |  | 183    |
| 041 | 皇后御殿浄土控絵図          | 寛政2年2月11日   | 1790 | /   | / | / | 1 | 絵図<br>277 * 394         | 1 |  | 193    |
| 042 | 中宮御殿建杖十分一写         | /           | /    | /   | / | / | 1 | 絵図<br>714 * 317         | 1 |  | 188    |
| 043 | 中宮御殿小屋場絵図          | /           | /    | /   | / | / | 1 | 絵図<br>384 * 367         | 1 |  | 192    |
| 044 | [中宮御殿小屋場絵図]        | /           | /    | /   | / | / | 1 | 絵図<br>300 * 111         | 1 |  | 225    |
| 045 | 中宮御殿木造始役付          | 文化3年5月15日   | 1806 | /   | / | / | 1 | 切紙<br>149 * 625         | 1 | 中宮は、欣子内親王(光格天<br>皇中宮)  | 126    |
| 046 | 中宮御殿御上棟絵図          | /           | /    | /   | / | / | 1 | 絵図<br>272 * 360         | 1 | 糊剥かれあり   | 191    |
| 047 | 中宮御殿建具納り絵図         | 文化          | /    | /   | / | / | 1 | 絵図<br>291 * 1925        | 1 |  | 189    |
| 048 | 中宮御殿御床方段建図         | 子2月         | /    | /   | / | / | 1 | 絵図<br>265 * 381         | 1 | 「中井扣」とあり   | 109-04 |

|              |                     |           |      |    |   |            |            |   |                                |       |
|--------------|---------------------|-----------|------|----|---|------------|------------|---|--------------------------------|-------|
| 049          | 御里御殿常御殿事            | /         | /    | /  | / | 絵図         | 310 * 1330 | 1 | 40分の1                          | 405   |
| 050          | 御里御殿十分建状元仕出し        | /         | /    | /  | / | 絵図         | 515 * 462  | 1 | 挟み込み1点あり                       | 202   |
| 051          | 御里御殿御上棟図            | /         | /    | /  | / | 絵図         | 267 * 384  | 1 |                                | 187   |
| 052          | 里御殿常御殿北西軒上り納り等図     | /         | /    | /  | / | 絵図         | 297 * 469  | 1 |                                | 201   |
| 053          | [大女院御所平面図]          | /         | /    | /  | / | 絵図         | 300 * 468  | 1 |                                | 200   |
| 054          | 大女院御所常御殿二枚之内        | /         | /    | /  | / | 絵図         | 681 * 2803 | 1 | 糊剥かれあり                         | 196   |
| 055          | 女院御所御建杖十分一写         | 寛政2年      | 1790 | /  | / | 絵図         | 764 * 260  | 1 |                                | 197   |
| 056          | 青綺門院尊儀御葬種山之図        | (寛政2年)    | 1790 | /  | / | 絵図         | 300 * 421  | 1 |                                | 198   |
| 057          | 青綺門院御凶事御車御屋体一件      | 寛政2年2月5日  | 1790 | /  | / | 横半帳<br>(綴) | 120 * 171  | 1 | 3冊合綴                           | 51-2  |
| 058          | 青綺門院様御事土台上図十分一      | (寛政2年)    | 1790 | /  | / | 綴          | 297 * 576  | 1 |                                | 199-1 |
| 059          | 烏丸女院御所恭礼門院御事御屋体一件   | 寛政7年12月5日 | 1795 | 上野 | / | 横半帳<br>(綴) | 123 * 182  | 1 | 3冊合綴                           | 51-1  |
| 060          | 女院御殿御修復里御殿小屋場石絵図    | 文化14年     | 1817 | /  | / | 絵図         | 355 * 433  | 1 |                                | 203   |
| <b>2 二条城</b> |                     |           |      |    |   |            |            |   |                                |       |
| 061          | 二条城之図               | 明治初年      | /    | /  | / | 絵図         | 728 * 896  | 1 | 「谷村」印あり／「地券」な<br>ど付箋あり         | 240   |
| 062          | [二条城御築地寸法に付覚]       | /         | /    | /  | / | 堅帳         | 251 * 333  | 1 |                                | 169   |
| 063          | [二条城建物覚書]           | /         | /    | /  | / | 堅帳         | 245 * 172  | 1 |                                | 267   |
| 064          | [二条城東御門木口図]         | /         | /    | /  | / | 綴          | 254 * 343  | 1 |                                | 282   |
| 065          | [二条城北御門絵図]          | /         | /    | /  | / | 綴          | 246 * 342  | 1 |                                | 312   |
| 066          | [二条城南御門等寸法覚]        | /         | /    | /  | / | 堅帳         | 248 * 173  | 1 |                                | 356   |
| 067          | [鳴子御門之図]            | /         | /    | /  | / | 絵図         | 240 * 276  | 1 | 糊剥かれあり                         | 274   |
| <b>3 寺社</b>  |                     |           |      |    |   |            |            |   |                                |       |
| 068          | 祇園本社指図 (本殿平面図)      | 承応2年2月    | 1653 | /  | / | 絵図         | 739 * 702  | 1 |                                | 142   |
| 069          | 賀茂御社御帳台并大床之図        | /         | /    | /  | / | 絵図         | 277 * 1168 | 1 |                                | 143   |
| 070          | [諸建物飾部品絵図]          | /         | /    | /  | / | 絵図         | 246 * 5962 | 1 | 「貴布禰」とあり／裏打ちな<br>どに近代の算用帳を使用   | 145   |
| 071          | 泉涌寺惣絵図              | (天明3年10月) | 1783 | /  | / | 絵図         | 486 * 1466 | 1 | 後桃園天皇女御・盛化門院<br>(近衛維子) 葬送のものか  | 76    |
| 072          | [般府院修繕一件]           | 天保4年9月    | 1833 | /  | / | 横半帳        | 128 * 188  | 1 | 表紙外れ                           | 72    |
| 073          | 洛陽方広寺大仏殿 二百分一図      | /         | /    | /  | / | 絵図         | 360 * 1032 | 1 |                                | 131-2 |
| 074          | [洛陽方広寺大仏殿 二百分一図 袋か] | /         | /    | /  | / | 袋          | 322 * 213  | 1 | 受入131-2の袋か／表に<br>「大佛殿地割」との記載あり | 131-1 |
| 075          | [東福寺山門 四十分一立面図]     | /         | /    | /  | / | 絵図         | 664 * 530  | 1 |                                | 136   |
| 076          | [真正極楽寺真如堂宮殿十分一図]    | /         | /    | /  | / | 絵図         | 486 * 582  | 1 | 元禄5年以前の様子を描く                   | 426   |



|     |                      |           |      |           |   |    |            |   |  |  |                           |       |
|-----|----------------------|-----------|------|-----------|---|----|------------|---|--|--|---------------------------|-------|
| 102 | (御内陣・床等金張付二付覚)       | /         | /    | /         | / | 縦帳 | 241 * 174  | 1 |  |  |                           | 330   |
| 103 | 御影堂下重杖               | /         | /    | /         | / | 絵図 | 1443 * 348 | 1 |  |  |                           | 369   |
| 104 | 御影堂小屋木口図 (三・四・五重)    | /         | /    | /         | / | 絵図 | 906 * 725  | 1 |  |  |                           | 335   |
| 105 | (御影堂御拜摸下絵)           | /         | /    | /         | / | 絵図 | 156 * 352  | 1 |  |  |                           | 336   |
| 106 | 御影堂宝珠形拾分一            | /         | /    | /         | / | 絵図 | 295 * 249  | 1 |  |  |                           | 399   |
| 107 | 御影堂廊下腰組              | /         | /    | /         | / | 絵図 | 240 * 328  | 1 |  |  |                           | 333-1 |
| 108 | 阿弥陀堂宮殿               | /         | /    | /         | / | 絵図 | 1185 * 536 | 1 |  |  | 10分の1                     | 332   |
| 109 | 本堂御門木寄帳              | 天保4年5月    | 1833 | /         | / | 横帳 | 120 * 340  | 1 |  |  | 表紙に「義」方印あり／東本願寺阿弥陀堂       | 130   |
| 110 | (阿弥陀堂御門木寄に付覚)        | 天保4年5月調   | 1833 | 肝煎方(方印)   | / | 横帳 | 123 * 334  | 1 |  |  | 印文は「義」か／東本願寺か             | 60    |
| 111 | [本堂建設に付書上]           | 天保9年3月    | 1838 | /         | / | 横帳 | 124 * 354  | 1 |  |  |                           | 129   |
| 112 | 本堂後門口板唐戸方立割正寸法       | /         | /    | /         | / | 絵図 | 389 * 480  | 1 |  |  | 受人372～386袋一括              | 381   |
| 113 | 御本堂杖(断簡)             | /         | /    | /         | / | 絵図 | 270 * 396  | 1 |  |  | 受人372～386袋一括              | 385   |
| 114 | 大谷御堂屋根御修覆二付御休息所仮御堂之図 | 天保12年7月   | 1841 | /         | / | 絵図 | 591 * 690  | 1 |  |  |                           | 334   |
| 115 | [諸参詣場仮家建図]           | /         | /    | /         | / | 絵図 | 528 * 698  | 1 |  |  |                           | 421   |
| 116 | 寛政度寢殿図               | /         | /    | /         | / | 絵図 | 720 * 622  | 1 |  |  | 東本願寺か                     | 77    |
| 117 | (東本願寺) 寛政度大寢殿        | /         | /    | /         | / | 絵図 | 622 * 712  | 1 |  |  | 裏面の隅に「カ」の記載あり             | 176   |
| 118 | (東本願寺) 天保度小寢殿東妻      | /         | /    | /         | / | 絵図 | 543 * 1294 | 1 |  |  |                           | 167   |
| 119 | 御玄関大寢殿木口絵図           | 天保3年11月吉日 | 1832 | /         | / | 絵図 | 647 * 770  | 1 |  |  |                           | 316   |
| 120 | 小寢殿拜御能舞台木口指図         | /         | /    | /         | / | 絵図 | 591 * 541  | 1 |  |  |                           | 321   |
| 121 | 白書院御治定絵図             | /         | /    | /         | / | 絵図 | 504 * 712  | 1 |  |  | 糊剥かれ激しい／破れあり／「義」印あり       | 308   |
| 122 | 白書院建杖                | (文政～天保期か) | /    | 義忠(中江定治郎) | / | 絵図 | 1186 * 262 | 1 |  |  | 10分の1                     | 323   |
| 123 | (白書院廊間平面図)           | /         | /    | /         | / | 絵図 | 320 * 493  | 1 |  |  | 一部起こし絵図                   | 329   |
| 124 | 白書院敷舞台柱取置之図          | /         | /    | /         | / | 絵図 | 321 * 482  | 1 |  |  | 挑み込みあり                    | 331   |
| 125 | 白書院木寄                | 巳10月      | /    | (方印)      | / | 横帳 | 124 * 332  | 1 |  |  | 印文は「義」か                   | 64    |
| 126 | 白書院木口之図              | /         | /    | /         | / | 絵図 | 271 * 376  | 1 |  |  |                           | 325   |
| 127 | 白書足堅又柱内法寸法事          | /         | /    | /         | / | 絵図 | 322 * 486  | 1 |  |  |                           | 328   |
| 128 | (白書院金物に付覚)           | /         | /    | /         | / | 横帳 | 125 * 333  | 1 |  |  |                           | 65    |
| 129 | (白書院棟瓦)              | /         | /    | /         | / | 絵図 | 302 * 490  | 1 |  |  | 10分の1／裏文書あり／背面に長屋入口新設絵図あり | 339   |
| 130 | 仮白書院後源氏之間二相成御柵       | 9月30日     | /    | /         | / | 絵図 | 271 * 606  | 1 |  |  |                           | 327   |
| 131 | 本願寺黒書院               | /         | /    | /         | / | 絵図 | 270 * 402  | 1 |  |  | 50分の1                     | 307   |

|     |  |           |      |       |   |    |             |   |   |  |  |       |
|-----|--|-----------|------|-------|---|----|-------------|---|---|--|--|-------|
| 132 | 黒書院  | /         | /    | /     | / | 絵図 | 273 * 406   | 1 |   |  |  | 326   |
| 133 | (黒書院等) 床方高絵図                                   | /         | /    | /     | / | 絵図 | 302 * 466   | 1 |   |  |  | 324   |
| 134 | 能舞台東正面之図                                       | /         | /    | /     | / | 絵図 | 844 * 1238  | 1 | 10分の1                                       |  |  | 317   |
| 135 | 能舞台木口指図  | /         | /    | /     | / | 絵図 | 265 * 1103  | 1 | 「義」印あり                                      |  |  | 318   |
| 136 | 楼之間 平 拾分一                                      | /         | /    | /     | / | 絵図 | 606 * 2256  | 1 | 糊剥かれあり                                      |  |  | 260   |
| 137 | 東本願寺御殿之図                                       | 正徳2年8月    | 1712 | /     | / | 絵図 | 432 * 579   | 1 |   |  |  | 305   |
| 138 | [東本願寺御殿平面図]                                    | (慶応力)     | /    | /     | / | 絵図 | 2681 * 2343 | 1 | 大門以北を描く/彩色/板御影堂・菊御門・千鳥之間・蘇鉄山・拾三窓土蔵などあり/破損あり |  |  | 302   |
| 139 | [東本願寺屋敷絵図]                                     | /         | /    | /     | / | 絵図 | 1062 * 1145 | 1 | 「十三窓石垣」/「義」印・「義」印(印文不明)あり                   |  |  | 247   |
| 140 | [御殿奥向絵図]                                       | /         | /    | /     | / | 絵図 | 898 * 760   | 1 | 彩色あり/受人423に同じ                               |  |  | 424   |
| 141 | [御殿奥向絵図]                                       | /         | /    | /     | / | 絵図 | 849 * 760   | 1 | 受人424に同じ                                    |  |  | 423   |
| 142 | 御興寄伺公之間・御肝煎候所預部屋・取次詰所・御台所・清同北廊下・右廻郎取合屋根図・再三伊減改 | /         | /    | /     | / | 絵図 | 413 * 522   | 1 |   |  |  | 208   |
| 143 | 御廊所入口御唐門并透塀其建地割                                | 大正元年12月中旬 | 1912 | 上野伊三郎 | / | 絵図 | 800 * 1100  | 1 |   |  |  | 309   |
| 144 | 御台所小出シ廻り御上段廻り                                  | /         | /    | /     | / | 絵図 | 575 * 683   | 1 | 「中」マークあり/「義」印あり                             |  |  | 311   |
| 145 | [手水廻り手桶屋形井戸屋形等絵図]                              | /         | /    | /     | / | 絵図 | 315 * 3396  | 1 |   |  |  | 313   |
| 146 | [御台所木口絵図]                                      | /         | /    | /     | / | 絵図 | 942 * 397   | 1 |   |  |  | 257   |
| 147 | [御台所小屋組規模に付覚]                                  | /         | /    | /     | / | 横帳 | 120 * 343   | 1 |   |  |  | 62    |
| 148 | 御上旦御減木寄工数日記                                    | /         | /    | (方印)  | / | 横帳 | 123 * 330   | 1 | 印文は「義」か                                     |  |  | 61    |
| 149 | [御門絵図]   | /         | /    | /     | / | 絵図 | 398 * 267   | 1 |   |  |  | 333-2 |
| 150 | 本堂御門二十分一御地面之図                                  | /         | /    | /     | / | 絵図 | 239 * 995   | 1 |   |  |  | 315   |
| 151 | 東寄唐門正面図  | 明治44年     | 1911 | 上野伊三郎 | / | 絵図 | 561 * 792   | 1 | 鉛筆書き込みあり                                    |  |  | 251   |
| 152 | 御建具納り木口御図                                      | /         | /    | /     | / | 絵図 | 307 * 8778  | 1 | 「中江氏」                                       |  |  | 178   |
| 153 | 上棟新始絵図書付入                                      | /         | /    | 中江    | / | 袋  | 290 * 202   | 1 |   |  |  | 199-5 |
| 154 | [柱文様二付覚]                                       | /         | /    | /     | / | 絵図 | 250 * 393   | 1 | 受人357~361袋一括/裏あり/両御堂御興之図(天保6年3月)            |  |  | 359   |
| 155 | 下之重上居牛引之國附絵図                                   | (慶応力)     | /    | /     | / | 絵図 | 280 * 406   | 1 |   |  |  | 303   |



|     |                       |           |      |   |   |   |                     |            |   |  |       |
|-----|-----------------------|-----------|------|---|---|---|---------------------|------------|---|--|-------|
| 156 | [比叡山・坂本諸堂図]           | /         | /    | / | / | / | /                   | 304 * 6229 | 1 | 根本中堂・大講堂・前唐院堂・戒壇院堂・坂本滋賀院など／巻ま込みあり／巻ま込みに「中江氏」・「義」印あり／一部に裏あり | 407   |
| 157 | [坂本御本地堂絵図]            | /         | /    | / | / | / | /                   | 238 * 334  | 1 | 絵図   | 153   |
| 158 | 比叡山建物雛形               | /         | /    | / | / | / | /                   | 268 * 1558 | 1 | 絵図   | 148   |
| 159 | [比叡山相輪櫓雛形]            | /         | /    | / | / | / | /                   | 402 * 1482 | 1 | 絵図   | 151   |
| 160 | 比叡山根本中堂菊棟十分一          | /         | /    | / | / | / | /                   | 270 * 373  | 1 | 絵図   | 150   |
| 161 | 根本中堂北妻四十分一            | /         | /    | / | / | / | /                   | 653 * 924  | 1 | 絵図   | 152   |
| 162 | 根本中堂北妻 (四十分一・断簡)      | /         | /    | / | / | / | /                   | 203 * 909  | 1 | 絵図   | 387   |
| 163 | [比叡山根本中堂葺股]           | /         | /    | / | / | / | /                   | 179 * 289  | 1 | 絵図   | 147   |
| 164 | 山門根本中堂瓦銅方 銅瓦やね積り値段    | /         | /    | / | / | / | /                   | 120 * 318  | 1 | 綴  | 119   |
| 165 | 唐崎鳥居・根本中堂等雛形          | /         | /    | / | / | / | /                   | 122 * 171  | 1 | 横半帳  | 149   |
| 166 | [西塔釈迦堂屋根寸法覚]          | 文化12年6月   | 1815 | / | / | / | /                   | 126 * 173  | 1 | 横半帳  | 48    |
| 167 | [横川中堂野帳]              | /         | /    | / | / | / | /                   | 242 * 167  | 1 | 野帳   | 128   |
| 168 | 石山寺本堂脇二有之源氏之間 二十分一図写  | /         | /    | / | / | / | (印：大工竹屋町通河原町東入上野伊助) | 331 * 476  | 8 | 絵図   | 154   |
| 169 | 長谷寺本堂敷石之図             | /         | /    | / | / | / | /                   | 765 * 963  | 1 | 絵図   | 155   |
| 170 | 長谷寺本堂木口図              | /         | /    | / | / | / | /                   | 456 * 330  | 1 | 絵図   | 156   |
| 171 | 三輪之図                  | /         | /    | / | / | / | /                   | 141 * 112  | 1 | 絵図   | 279   |
| 172 | 喜光寺須弥壇                | /         | /    | / | / | / | /                   | 166 * 190  | 1 | 絵図   | 384   |
| 173 | 紀伊国東牟婁郡新宮鎮座熊野早玉神社略図   | (近代)      | /    | / | / | / | (印：熊野早玉神社社務所)       | 345 * 459  | 1 | 刷物   | 159   |
| 174 | [高野山] 大塔足代木口図并大工手間書抜  | 寛永20年6月7日 | 1643 | / | / | / | /                   | 730 * 707  | 1 | 絵図   | 157   |
| 175 | 推古天皇勅願所西国第一番札所略図      | 明治30年5月   | 1897 | / | / | / | 青岸渡寺蔵版              | 380 * 523  | 1 | 刷物   | 158   |
| 176 | [四国第十九番靈場阿波国立江寺多宝塔縮図] | /         | /    | / | / | / | (立江寺)               | 267 * 198  | 1 | 印刷   | 160   |
| 177 | 日光塔之写 三十分一            | 寛永元年4月1日  | 1624 | / | / | / | 藤五郎                 | 343 * 470  | 1 | 絵図   | 161   |
| 178 | 日光塔之図                 | /         | /    | / | / | / | 上野蔵                 | 554 * 800  | 1 | 絵図   | 162-4 |
| 179 | 日光塔之図                 | /         | /    | / | / | / | 上野蔵                 | 557 * 800  | 1 | 絵図   | 162-5 |
| 180 | 日光山献備五重塔建地割           | (近代)      | /    | / | / | / | /                   | 748 * 351  | 1 | 絵図   | 163   |

| 4 茶室など |                      |           |      |                             |           |           |   |                           |         |  |
|--------|----------------------|-----------|------|-----------------------------|-----------|-----------|---|---------------------------|---------|--|
| 181    | [武野紹鷗大黒庵四帖半図]        | /         | /    | /                           | 絵図        | 397 * 280 | 1 | 武野紹鷗略歴記述あり                | 113     |  |
| 182    | [真千家利休堂茶室図]          | /         | /    | (印：上野)                      | 絵図        | 339 * 241 | 1 |                           | 109-14  |  |
| 183    | (仙洞御所) 醒花亭御茶室        | /         | /    | (印：上野)                      | 絵図        | 267 * 314 | 1 | 受入109-1～受入109-20<br>20帖一括 | 109-01  |  |
| 184    | (仙洞御所) 艦水亭御茶室絵図      | /         | /    | (印：上野)                      | 絵図        | 282 * 403 | 1 |                           | 109-02  |  |
| 185    | (仙洞御所) 寿山御茶室絵図       | /         | /    | (印：上野)                      | 絵図        | 418 * 400 | 1 |                           | 109-10  |  |
| 186    | (仙洞御所) 寿山御茶室絵図       | /         | /    | /                           | 絵図        | 419 * 402 | 1 | 受入117-1～8巻込一括             | 117-5   |  |
| 187    | [修学院離宮翫遊軒絵図]         | /         | /    | /                           | 絵図        | 240 * 187 | 1 | 受入117-2-1～6包紙一括           | 117-2-6 |  |
| 188    | 数寄屋図 [誓願寺塔頭竹林院二有]    | /         | /    | (印：大工竹屋<br>町通河原町東入<br>上野伊助) | 起こし<br>絵図 | 312 * 211 | 1 | 古田織部好                     | 111     |  |
| 189    | 利休好北野高林寺水屋之寸法        | /         | /    | /                           | 絵図        | 176 * 228 | 1 |                           | 109-20  |  |
| 190    | 数寄屋図 [高台寺方丈二有]       | /         | /    | (印：大工竹屋<br>町通河原町東入<br>上野伊助) | 起こし<br>絵図 | 291 * 305 | 1 | 小堀遠州好                     | 105     |  |
| 191    | 聖護院御茶室木口             | /         | /    | /                           | 絵図        | 237 * 187 | 1 | 受入117-1～8巻込一括             | 117-6   |  |
| 192    | 黒谷西翁院反古庵開建地割         | 文化9年11月下旬 | 1812 | (印：大工竹屋<br>町通河原町東入<br>上野伊助) | 絵図        | 276 * 170 | 1 | 20分の1 / 黒谷西翁院反古<br>庵藤村庸軒作 | 108-2   |  |
| 193    | [弧蓬庵絵図]              | /         | /    | /                           | 絵図        | 249 * 349 | 1 |                           | 109-03  |  |
| 194    | 大徳寸法弧蓬庵谷殿南東之方北向二有編笠門 | /         | /    | /                           | 絵図        | 266 * 378 | 1 |                           | 109-05  |  |
| 195    | [妙心寺大通院小座敷茶室絵図]      | /         | /    | (印：上野)                      | 起こし<br>絵図 | 313 * 151 | 1 | 遠州好                       | 109-16  |  |
| 196    | 数寄屋図 [宇治上林]          | /         | /    | (印：大工竹屋<br>町通河原町東入<br>上野伊助) | 起こし<br>絵図 | 309 * 182 | 1 | 藤村庸軒好                     | 107-1   |  |
| 197    | [八幡瀧本坊并付書院二十一分一図]    | /         | /    | (印：大工竹屋<br>町通河原町東入<br>上野伊助) | 起こし<br>絵図 | 331 * 236 | 1 |                           | 110     |  |
| 198    | [八幡瀧本坊二有] 数寄屋之図      | /         | /    | (印：大工竹屋<br>町通河原町東入<br>上野伊助) | 起こし<br>絵図 | 250 * 152 | 1 | 閑雲軒                       | 106     |  |
| 199    | [八幡山瀧本坊] 数寄屋図        | /         | /    | (印：大工竹屋<br>町通河原町東入<br>上野伊助) | 起こし<br>絵図 | 378 * 188 | 1 |                           | 104-1   |  |

|     |                   |   |   |                             |   |           |           |    |  |         |
|-----|-------------------|---|---|-----------------------------|---|-----------|-----------|----|--|---------|
| 200 | [八幡瀧本坊] 数寄屋図      | / | / | (印：大工竹屋<br>町通河原町東入<br>上野伊助) | / | 起こし<br>絵図 | 386 * 266 | 1  | 松花堂好 / 8 帖茶立処                                      | 112     |
| 201 | 大山崎妙喜庵利休数寄屋寸法     | / | / | (印：上野)                      | / | 綴<br>絵図   | 284 * 207 | 1  |  | 109-15  |
| 202 | [川上・白茶室八畳敷図]      | / | / | /                           | / | 絵図        | 389 * 279 | 1  | 50分の1 / 安立寺 (台東<br>区) にあり                          | 115     |
| 203 | [原十郎兵衛数寄屋] 二畳大目之図 | / | / | (印：大工竹屋<br>町通河原町東入<br>上野伊助) | / | 起こし<br>絵図 | 315 * 174 | 1  | 一等齋宗政好 (松尾流)                                       | 103     |
| 204 | [原叟茶室三畳半図]        | / | / | /                           | / | 絵図        | 394 * 279 | 1  | 50分の1 / 原叟は、覚々齋<br>宗左 (表千家)                        | 114     |
| 205 | [三浦邸普請絵図]         | / | / | /                           | / | 起こし<br>絵図 | 339 * 246 | 1  |  | 109-09  |
| 206 | 可屋二十分一雛形          | / | / | (印：大工竹屋<br>町通河原町東入<br>上野伊助) | / | 起こし<br>絵図 | 289 * 191 | 1  |  | 108-3   |
| 207 | 二帖大目四図            | / | / | (印：大工竹屋<br>町通河原町東入<br>上野伊助) | / | 起こし<br>絵図 | 242 * 163 | 1  | 頂妙寺常住院   | 108-4   |
| 208 | [某茶室絵図]           | / | / | (印：大工竹屋<br>町通河原町東入<br>上野伊助) | / | 起こし<br>絵図 | 293 * 138 | 1  | 受人108-1 ~ 受人108-<br>4 帙一括 / 利休床あり                  | 108-1   |
| 209 | [某茶室絵図]           | / | / | /                           | / | 起こし<br>絵図 | 300 * 141 | 1  |  | 109-12  |
| 210 | [某茶室図]            | / | / | /                           | / | 起こし<br>絵図 | 321 * 153 | 1  |  | 109-13  |
| 211 | [某茶室絵図]           | / | / | /                           | / | 絵図        | 339 * 246 | 1  |  | 109-08  |
| 212 | [某茶室絵図]           | / | / | /                           | / | 絵図        | 240 * 340 | 1  |  | 109-11  |
| 213 | [某茶室絵図]           | / | / | /                           | / | 絵図        | 151 * 247 | 1  |  | 109-06  |
| 214 | [某茶室起し絵図断簡]       | / | / | /                           | / | 断簡        | 310 * 190 | 55 | 法量は、55点をまとめた状<br>態                                 | 427     |
| 215 | [床の間起こし絵図]        | / | / | (印：大工竹屋<br>町通河原町東入<br>上野伊助) | / | 起こし<br>絵図 | 250 * 276 | 1  | 受人117-2-1 ~ 6 包紙一括                                 | 117-2-3 |
| 216 | [床の間絵図]           | / | / | /                           | / | 絵図        | 242 * 252 | 1  | 受人117-2-1 ~ 6 包紙一括                                 | 117-2-4 |
| 217 | [床の間起こし絵図外れ]      | / | / | /                           | / | 絵図        | 220 * 174 | 1  | 受人117-2-1 ~ 6 包紙一括<br>/ 記号「ヌ」「ツ」あり / 中<br>央部切り抜きあり | 117-2-5 |

|     |                               |           |      |   |                             |                             |   |    |           |    |   |         |
|-----|-------------------------------|-----------|------|---|-----------------------------|-----------------------------|---|----|-----------|----|---|---------|
| 218 | 〔包紙〕                          | ／         | ／    | ／ | ／                           | (印：大工竹屋<br>町通河原町東入<br>上野伊助) | ／ | 包紙 | 299 * 396 | 1  | 包紙あり、「茶座敷木口絵図<br>類」「茶座敷絵図」「洞」(朱<br>書)あり/受入117-1～8巻<br>込一括/受入117-2-1～6<br>包紙一括 | 117-2-1 |
| 219 | 露地清茶規約(写)                     | 天正12年9月3日 | 1584 | ／ | 南坊(宗啓)判                     | ／                           | ／ | 豎紙 | 217 * 316 | 1  | ／   | 107-2   |
| 220 | 宇治上林書院園図                      | ／         | ／    | ／ | (印：上野)                      | ／                           | ／ | 絵図 | 277 * 167 | 15 | 「遠州公好ふしミ御役所御<br>座敷、世二ひやうたん之間<br>ト云」とあり(法量はこれ<br>で代表させる)/受入<br>117-1～8巻込一括     | 117-3   |
| 221 | 宇治上林二有之古田織部正好書院乃庭図            | ／         | ／    | ／ | ／                           | ／                           | ／ | 絵図 | 550 * 698 | 5  | 5枚貼継/はかれ/受入<br>117-1～8巻込一括  | 117-4   |
| 222 | 〔宇治上林茶室露地絵図〕                  | ／         | ／    | ／ | (印：上野)                      | ／                           | ／ | 絵図 | 273 * 400 | 1  | ヤウケン好   | 104-2   |
| 223 | 〔宇治上林露地待合寸法書上〕                | ／         | ／    | ／ | ／                           | ／                           | ／ | 豎帳 | 252 * 173 | 1  | 受入372～386袋一括  | 374     |
| 224 | 〔待合雛形〕                        | ／         | ／    | ／ | (印：上野)                      | ／                           | ／ | 豎帳 | 250 * 175 | 1  | ／   | 109-17  |
| 225 | 〔利体形待合図〕                      | ／         | ／    | ／ | ／                           | ／                           | ／ | 絵図 | 245 * 339 | 1  | ／   | 109-19  |
| 226 | 園図                            | ／         | ／    | ／ | (印：大工竹屋<br>町通河原町東入<br>上野伊助) | ／                           | ／ | 絵図 | 229 * 290 | 1  | 南禅寺金地院にあり/受入<br>117-1～8巻込一括   | 117-1   |
| 227 | 入目録                           | ／         | ／    | ／ | ／                           | ／                           | ／ | 絵図 | 262 * 382 | 1  | 受入117-1～8巻込一括/<br>狐逢庵待合等記述あり  | 117-7   |
| 228 | 〔某庭絵図〕                        | ／         | ／    | ／ | ／                           | ／                           | ／ | 絵図 | 307 * 455 | 1  | 受入117-1～8巻込一括/<br>九重石塔あり/包紙として<br>受入117-1～7を包んでい<br>る                         | 117-8   |
| 229 | 露盤宝珠之事                        | ／         | ／    | ／ | ／                           | ／                           | ／ | 絵図 | 279 * 195 | 1  | 久田好   | 116     |
| 230 | 〔■之間・橋掛り絵図〕                   | ／         | ／    | ／ | ／                           | ／                           | ／ | 絵図 | 322 * 490 | 1  | 焼損あり/受入117-2-1～<br>6包紙一括  | 117-2-2 |
| 5   | 近代建築                          |           |      |   |                             |                             |   |    |           |    |   |         |
| 231 | 京都帝国大学理工科大学土木機械学等教室平面之図       | ／         | ／    | ／ | 上野伊助                        | ／                           | ／ | 絵図 | 682 * 883 | 1  | 第一号/100分の1  | 78      |
| 232 | 京都帝国大学理工科大学土木機械学等教室側面及正面之図    | ／         | ／    | ／ | 上野伊助                        | ／                           | ／ | 絵図 | 550 * 792 | 1  | 第三号/100分の1  | 79      |
| 233 | 京都帝国大学理工科大学土木機械学等教室背面之図       | ／         | ／    | ／ | 上野伊助                        | ／                           | ／ | 絵図 | 572 * 876 | 1  | 第三号/100分の1  | 80      |
| 234 | 京都帝国大学理工科大学土木機械学等教室規矩計及ビ小屋組之図 | ／         | ／    | ／ | 上野伊助                        | ／                           | ／ | 絵図 | 670 * 953 | 1  | 第四号/20分の1   | 81      |

|       |                                |          |      |          |     |     |           |   |                             |       |
|-------|--------------------------------|----------|------|----------|-----|-----|-----------|---|-----------------------------|-------|
| 235   | 京都帝国大学理工科大学土木機械学等教室中央正面破風之図    | /        | /    | 上野伊助     | /   | 絵図  | 788 * 938 | 1 | 第五号 / 20分の1                 | 82    |
| 236   | 京都帝国大学理工科大学土木機械学等教室廊下昇降口図      | /        | /    | 上野伊助     | /   | 絵図  | 610 * 792 | 1 | 第六号 / 20分の1                 | 83    |
| 237   | 京都帝国大学理工科大学土木機械学等教室昇降口唐戸図      | /        | /    | 上野伊助     | /   | 絵図  | 790 * 575 | 1 | 第七号か / 10分の1                | 84    |
| 238   | 京都帝国大学理工科大学土木機械学等唐戸之図          | /        | /    | 上野伊助     | /   | 絵図  | 658 * 936 | 1 | 第八号 / 10分の1 / テープ貼り修復       | 85    |
| 239   | 京都帝国大学理工科大学土木機械学等教室小屋伏及び床組図    | /        | /    | 上野伊助     | /   | 絵図  | 703 * 792 | 1 | 第九号か / 100分の1               | 86    |
| 240   | 京都帝国大学理工科大学土木機械学等教室軒師等之図       | /        | /    | 上野伊助     | /   | 絵図  | 498 * 918 | 1 | 第十号 / 10分の1・20分の1           | 87    |
| 241   | 京都帝国大学理工科大学土木機械学等教室土木講義室       | /        | /    | 上野伊助     | /   | 絵図  | 664 * 905 | 1 | 十一 / 20分の1                  | 88    |
| 242   | 京都婦人慈善会附属慈愛手芸女学校校舍建設仕様注文書      | /        | /    | /        | /   | 綴   | 278 * 392 | 1 | 野紙と絵図3葉を綴る / 上野用紙を使用        | 89    |
| 243   | 果嶋監獄署新築建物配置之図                  | /        | /    | /        | /   | 絵図  | 623 * 463 | 1 | 1200分の1                     | 90    |
| 244   | 警察本署及県会議場入口拾分之意図 (明治)          | /        | /    | /        | /   | 絵図  | 718 * 445 | 1 | 10分の1                       | 230   |
| 245   | 〔二層書院正面図〕                      | /        | /    | /        | /   | 絵図  | 532 * 879 | 1 | 25分の1・4分の1尺 / 彩色あり          | 255-2 |
| 246   | 〔二層書院側面図〕                      | /        | /    | /        | /   | 絵図  | 532 * 747 | 1 | 25分の1・4分の1尺 / 彩色あり          | 255-1 |
| 247   | 〔火床・触火面二付某書状〕                  | 9月21日    | /    | ■一郎拜     | 雄存君 | 野紙  | 182 * 296 | 1 | 受入372~386袋一括 / 筆書き          | 372   |
| 248   | 〔竈口跡物ノ図・サナ正寸図・竈焚口十分ノ一図 (竈正面図)〕 | /        | /    | /        | /   | 絵図  | 273 * 386 | 1 | 受入372~386袋一括                | 373   |
| 249   | 〔竈正面図〕                         | /        | /    | /        | /   | 絵図  | 272 * 386 | 1 | 受入372~386袋一括 / 10分の1 / 鉛筆書き | 376   |
| 250   | 〔竈全形中央ヨリ切斷シタル者〕                | /        | /    | /        | /   | 絵図  | 253 * 613 | 1 | 受入372~386袋一括 / 378と関連       | 377   |
| 251   | 〔竈上部ヲ示シタル者・竈底ヨリ切斷シタル者〕         | /        | /    | /        | /   | 絵図  | 251 * 500 | 1 | 受入372~386袋一括 / 受入377と関連     | 378   |
| 6 雛形類 |                                |          |      |          |     |     |           |   |                             |       |
| 252   | 〔諸寺諸堂宇等図写〕                     | 寛政5年正月下旬 | 1793 | 上野       | /   | 啓帳  | 285 * 223 | 1 |                             | 68    |
| 253   | 〔建築雛形 第三号〕                     | /        | /    | (「中」マーク) | /   | 横半帳 | 135 * 201 | 1 | 「上野」朱丸印あり                   | 56    |



|     |                        |            |      |      |           |     |            |   |                                |        |
|-----|------------------------|------------|------|------|-----------|-----|------------|---|--------------------------------|--------|
| 254 | [建築絵様 第四号]             | /          | /    | /    | /         | 横半帳 | 121 * 176  | 1 | 「上野」朱丸印あり／唐招提寺五重塔(1802年焼失)の記述有 | 39     |
| 255 | [建築雛形 第五号]             | /          | /    | /    | /         | 横半帳 | 131 * 197  | 1 | 「上野」朱丸印あり／「閑」字青印あり             | 57     |
| 256 | [建築雛形 第六号]             | /          | /    | /    | 上野氏       | 横半帳 | 127 * 184  | 1 | 「上野」朱丸印あり／「閑」字青印あり             | 58     |
| 257 | 第貳号 日本建築雛型集            | (近代)       | /    | /    | 上野氏/森川和平治 | 横帳  | 247 * 446  | 1 | 「上野」印あり／部材文様集／紙背あり             | 70     |
| 258 | [諸堂宇雛形]                | /          | /    | /    | /         | 折本  | 270 * 158  | 1 |                                | 75     |
| 259 | 新撰大工雛形 宮形一・門形二・堂形三・塔形四 | 明治19年10月写  | 1886 | 谷口末吉 | 谷口末吉      | 横半帳 | 143 * 200  | 4 | 法量は一卷で取った／外題は「新撰雛形」            | 52~55  |
| 260 | 神明造り宮(雛形)              | /          | /    | /    | /         | 絵図  | 273 * 385  | 1 | 裏文書あり                          | 346    |
| 261 | 神明造破風総縁                | /          | /    | /    | /         | 絵図  | 340 * 248  | 1 | 「谷口」印あり                        | 283    |
| 262 | 見世棚流シ造社 拾分一之図          | /          | /    | /    | 谷口季吉      | 絵図  | 349 * 270  | 1 |                                | 349    |
| 263 | 見世棚流シ造社 拾分一之図          | /          | /    | /    | /         | 絵図  | 325 * 253  | 1 |                                | 350    |
| 264 | 見世棚流シ造社 平之図            | /          | /    | /    | 谷口季(末吉)   | 絵図  | 356 * 266  | 1 |                                | 291    |
| 265 | 見世棚流造社 平之図(下絵)         | /          | /    | /    | 季(末吉)     | 絵図  | 318 * 231  | 1 | 受人291の下絵                       | 269    |
| 266 | 見世棚流シ造社                | /          | /    | /    | (印：谷口)    | 絵図  | 266 * 379  | 1 |                                | 362    |
| 267 | 見世棚流シ造社・高麗門(雛形)        | /          | /    | /    | 久田/(印：久田) | 絵図  | 274 * 396  | 2 |                                | 352    |
| 268 | 八幡神社 拾分一・同妻之図          | /          | /    | /    | 上野        | 絵図  | 298 * 433  | 1 | 裏文書あり                          | 397    |
| 269 | 天道社 十分一平               | 文政3年12月21日 | 1820 | /    | /         | 絵図  | 1176 * 278 | 1 |                                | 199-2  |
| 270 | 裏之図(天道社カ)              | /          | /    | /    | /         | 絵図  | 373 * 710  | 1 | 外れあり                           | 199-3  |
| 271 | [一間社側面図]               | /          | /    | /    | /         | 絵図  | 313 * 476  | 1 |                                | 199-4  |
| 272 | 千木勝男木(雛形)              | /          | /    | /    | /         | 絵図  | 270 * 388  | 1 |                                | 347    |
| 273 | 鳥居・華表                  | /          | /    | /    | 上野        | 絵図  | 240 * 318  | 1 |                                | 295-03 |
| 274 | [鳥居雛形]                 | /          | /    | /    | (印：谷口)    | 絵図  | 245 * 334  | 1 |                                | 343    |
| 275 | 鳥居                     | /          | /    | /    | 末吉        | 絵図  | 240 * 301  | 1 |                                | 295-04 |
| 276 | 鳥居                     | /          | /    | /    | 末吉        | 絵図  | 240 * 301  | 1 |                                | 295-05 |
| 277 | 表華・鳥居共書                | /          | /    | /    | /         | 絵図  | 246 * 329  | 1 | 「久田」印・「好」方印あり／裏文書あり(明治36年、和泉講) | 394    |
| 278 | [本堂正面図]                | /          | /    | /    | /         | 絵図  | 300 * 465  | 1 | 裏文書(近代)あり                      | 289    |
| 279 | 御本廟側図                  | (近代)       | /    | /    | /         | 絵図  | 560 * 795  | 1 | 20分の1                          | 310    |
| 280 | [本堂下絵]                 | /          | /    | /    | /         | 絵図  | 283 * 422  | 1 | 裏文書(近代)あり                      | 288    |

|     |                |            |      |              |   |    |             |   |  |       |
|-----|----------------|------------|------|--------------|---|----|-------------|---|--|-------|
| 281 | [須弥壇図]         | /          | /    | /            | / | 絵図 | 278 * 378   | 1 | 「鎌田」印あり／裏に朱書き「八印」あり                      | 256   |
| 282 | 三間拜殿           | 明治10年2月28日 | 1877 | 村山勝次郎        | / | 絵図 | 667 * 1620  | 1 | 13分の1／朱引きあり／糊剥かれ激しい                      | 99    |
| 283 | 七間拜殿           | /          | /    | 村山勝治郎        | / | 絵図 | 530 * 557   | 1 | 10分の1／朱引きあり                              | 101   |
| 284 | [客殿七間堂等側面図見本]  | /          | /    | /            | / | 横帳 | 282 * 399   | 1 | /  | 337   |
| 285 | 廣間             | 明治9年7月     | 1876 | (村山勝治郎)      | / | 絵図 | 640 * 942   | 1 | 20分の1／朱引きあり                              | 91    |
| 286 | 奥院正面妻入之図       | /          | /    | /            | / | 絵図 | 677 * 1560  | 1 | 「本社」とあり                                  | 338   |
| 287 | 宝形造り           | 明治9年11月    | 1876 | 村山勝次郎        | / | 絵図 | 1006 * 1026 | 1 | 10分の1／朱引きあり                              | 93    |
| 288 | [二階楼立立面図]      | 大正2年3月9日   | 1913 | 上野伊三郎        | / | 絵図 | 558 * 795   | 1 | 原図は俣野氏蔵                                  | 342   |
| 289 | [五重塔構造図]       | /          | /    | /            | / | 絵図 | 790 * 279   | 1 | 上部欠                                      | 403   |
| 290 | [五重塔尺杖]        | /          | /    | /            | / | 絵図 | 1851 * 277  | 1 | 糊剥かれ激しい／上下欠                              | 388   |
| 291 | [三重塔正面図]       | /          | /    | /            | / | 絵図 | 1048 * 404  | 1 | 糊剥かれ激しい                                  | 401   |
| 292 | [三重塔片側内部正面図]   | /          | /    | /            | / | 絵図 | 279 * 531   | 1 | 端裏に朱書「廿七之内」                              | 402   |
| 293 | 塔雛形            | /          | /    | /            | / | 折本 | 291 * 2785  | 1 | 折本様に畳んでいる／「義」印あり／裏あり／「中江蔵」あり             | 404   |
| 294 | [多宝塔正面図]       | /          | /    | /            | / | 絵図 | 665 * 342   | 1 | 糊剥かれ激しい／裏あり                              | 400   |
| 295 | [多宝堂側面図]       | /          | /    | /            | / | 絵図 | 858 * 1053  | 1 | 糊剥かれあり                                   | 370   |
| 296 | 三間梁左右庇付庫裏      | /          | /    | /            | / | 絵図 | 233 * 334   | 1 | 一部訂正貼付あり                                 | 290   |
| 297 | 四ノ脚鐘楼          | /          | /    | /            | / | 絵図 | 263 * 356   | 1 | /  | 395   |
| 298 | 能楽舞台正面 式拾分志図   | /          | /    | /            | / | 絵図 | 491 * 788   | 1 | /  | 253   |
| 299 | 能楽舞台脇面 式拾分志図   | /          | /    | /            | / | 絵図 | 521 * 742   | 1 | /  | 254   |
| 300 | 所長控屋           | 明治10年12月   | 1877 | 村山勝治郎        | / | 絵図 | 498 * 1234  | 1 | 20分の1／朱引きあり                              | 98    |
| 301 | 三手先結組手洗屋形      | 明治13年3月    | 1880 | 村山勝治郎<br>(印) | / | 絵図 | 614 * 638   | 1 | /  | 100   |
| 302 | 手洗屋形 (雛形)      | /          | /    | /            | / | 絵図 | 266 * 389   | 1 | /  | 344   |
| 303 | 土蔵戸前図          | /          | /    | 谷口季吉         | / | 絵図 | 275 * 952   | 1 | /  | 348   |
| 304 | 平一間大門 (雛形)     | 明治10年6月    | 1877 | /            | / | 絵図 | 271 * 380   | 1 | 裏文書あり                                    | 340   |
| 305 | 平志間大門          | 明治10年8月1日  | 1877 | 村山勝次郎        | / | 絵図 | 830 * 1860  | 1 | 10分の1／朱引きあり                              | 96    |
| 306 | 二王門腰屋根付大門 (雛形) | /          | /    | /            | / | 絵図 | 898 * 419   | 1 | 欠損大                                      | 341   |
| 307 | 四脚門正面図         | 大正2年1月中旬   | 1913 | 上野伊三郎        | / | 絵図 | 550 * 795   | 1 | 20分の1／「虹梁轟股等の絵様ハ略下御霊神社現在の物に依る」と記載あり／破損あり | 162-1 |
| 308 | 四脚門側面図         | 大正2年1月中旬   | 1913 | 上野伊三郎        | / | 絵図 | 551 * 800   | 1 | 20分の1／破損あり                               | 162-2 |

|     |           |             |      |                       |     |             |   |                               |        |
|-----|-----------|-------------|------|-----------------------|-----|-------------|---|-------------------------------|--------|
| 309 | 薬医門       | 明治10年6月1日   | 1877 | 村山勝次郎                 | 絵図  | 635 * 1426  | 1 | 10分の1 / 朱引きあり                 | 95     |
| 310 | 薬医門事      | /           | /    | 久田                    | 絵図  | 251 * 376   | 1 |                               | 396    |
| 311 | 高麗門       | 明治9年10月     | 1876 | 村山勝治郎                 | 絵図  | 638 * 1281  | 1 | 10分の1 / 朱引きあり                 | 92     |
| 312 | 平唐門       | 明治10年1月2日   | 1877 | 村山勝次郎                 | 絵図  | 632 * 1045  | 1 | 10分の1 / 朱引きあり / 切替えあり         | 94     |
| 313 | 白唐門       | 明治10年10月25日 | 1877 | 村山勝次郎                 | 絵図  | 610 * 1142  | 1 | 10分の1 / 朱引きあり                 | 97     |
| 314 | 朱雀門       | /           | /    | (村山勝治郎)               | 絵図  | 625 * 2503  | 1 | 13分の1 / 朱引きあり                 | 102    |
| 315 | 朱雀門       | /           | /    | /                     | 絵図  | 271 * 387   | 1 | 受人357~361袋一括 / 裏あり            | 360    |
| 316 | [惣門雛形]    | /           | /    | /                     | 絵図  | 268 * 380   | 1 | 受人357~361袋一括 / 裏あり            | 358    |
| 317 | [門雛形]     | /           | /    | /                     | 絵図  | 275 * 304   | 1 | 裏あり                           | 353    |
| 318 | 塀重門之事     | /           | /    | 谷季 (印: 谷口)            | 絵図  | 245 * 336   | 1 |                               | 292    |
| 319 | 塀重門二腰塀    | /           | /    | 久田 (印)                | 絵図  | 205 * 278   | 1 |                               | 295-06 |
| 320 | 塀重門二腰塀    | /           | /    | (印: 谷口)               | 絵図  | 211 * 293   | 1 |                               | 295-07 |
| 321 | [透塀側面図]   | /           | /    | /                     | 絵図  | 337 * 239   | 1 |                               | 296    |
| 322 | 大門木割寸法留メ  | /           | /    | (「中」マーク)              | 横半帳 | 120 * 163   | 1 | (某寺金堂野帳)                      | 38     |
| 323 | 反り橋二十分一   | /           | /    | /                     | 絵図  | 591 * 1060  | 1 |                               | 258    |
| 324 | 絵様工梁類集    | /           | /    | /                     | 絵図  | 238 * 7437  | 1 | 奥に「伏見深草寺」平面図あり                | 146    |
| 325 | [紅梁諸文様雛形] | /           | /    | /                     | 卷子  | 277 * 6811  | 1 | 下部水損・汚れあり                     | 408    |
| 326 | 絵様雛形      | 明治19年3月     | 1886 | 谷口末吉 / 上京区第卅志組末丸町谷口季吉 | 横半帳 | 123 * 169   | 1 | 挟みこみ有                         | 50     |
| 327 | 絵様雛形      | (近代)        | /    | 上京区第卅一組末丸町谷口末吉 / 谷口季吉 | 横半帳 | 134 * 192   | 1 |                               | 49     |
| 328 | [諸文様下絵集]  | /           | /    | /                     | 絵図  | 255 * 13994 | 1 | 「中」マークあり / 裏あり / 末尾裏に「中江」方印あり | 272    |
| 329 | [彫物下絵]    | /           | /    | /                     | 絵図  | 340 * 241   | 1 |                               | 273    |
| 330 | [彫物文様下絵]  | /           | /    | /                     | 絵図  | 244 * 338   | 1 |                               | 286    |
| 331 | [彫物文様雛形]  | /           | /    | /                     | 絵図  | 208 * 300   | 1 | 裏文書あり                         | 345    |
| 332 | [唐草彫型紙]   | /           | /    | /                     | 絵図  | 154 * 214   | 1 | 裏あり / 「大武」・「大久」               | 354    |
| 333 | [唐草彫型紙]   | /           | /    | /                     | 絵図  | 277 * 410   | 1 | 裏あり / 「伊勢谷伊兵衛」・「砂糖」           | 355    |
| 334 | [天女彫物図案]  | /           | /    | /                     | 絵図  | 281 * 2442  | 1 |                               | 371    |

|     |               |             |      |       |   |              |    |                         |   |                  |        |
|-----|---------------|-------------|------|-------|---|--------------|----|-------------------------|---|------------------|--------|
| 335 | [獅子下絵]        | /           | /    | /     | / | /            | 絵図 | 135 * 380               | 1 |                  | 298    |
| 336 | [獅子等下絵]       | /           | /    | /     | / | /            | 絵図 | 168 * 333               | 1 |                  | 415    |
| 337 | [彫物下絵]        | /           | /    | /     | / | /            | 絵図 | 127 * 594               | 1 |                  | 410    |
| 338 | [彫物下絵]        | /           | /    | /     | / | /            | 絵図 | 241 * 178               | 1 |                  | 416    |
| 339 | [臺股手狹等彫物下絵]   | /           | /    | /     | / | /            | 絵図 | 271 * 3898              | 1 |                  | 365    |
| 340 | [斗・臺股下絵]      | /           | /    | /     | / | /            | 断簡 | 215 * 117<br>/105 * 187 | 2 |                  | 425    |
| 341 | [懸魚下絵]        | /           | /    | /     | / | /            | 絵図 | 545 * 787               | 1 |                  | 391    |
| 342 | [木鼻下絵]        | /           | /    | /     | / | /            | 絵図 | 240 * 157               | 1 |                  | 413    |
| 343 | [鱗下絵]         | /           | /    | /     | / | /            | 絵図 | 164 * 130               | 1 |                  | 409    |
| 344 | [擬宝珠下絵]       | /           | /    | /     | / | /            | 絵図 | 344 * 248               | 1 |                  | 414    |
| 345 | [上棟具手本]       | /           | /    | /     | / | /            | 絵図 | 453 * 325               | 1 |                  | 389    |
| 346 | 床二棚廻り雛形 (袋)   | /           | /    | /     | / | 中江氏 (中江定治郎か) | 袋  | 289 * 200               | 1 | 受人357~361袋一括/裏あり | 361    |
| 347 | [襖引手雛形]       | /           | /    | /     | / | /            | 絵図 | 279 * 1820              | 1 | 糊剥かれあり           | 364    |
| 348 | [減金金物図]       | /           | /    | /     | / | /            | 絵図 | 275 * 787               | 1 | 彩色あり/糊剥かれあり      | 420    |
| 349 | [引手金具寸法]      | /           | /    | /     | / | /            | 絵図 | 244 * 975               | 1 | 穴あり              | 393    |
| 350 | [手挿文様下絵]      | /           | /    | /     | / | /            | 絵図 | 249 * 341               | 1 |                  | 297    |
| 351 | [手挿文様型紙]      | /           | /    | /     | / | /            | 絵図 | 172 * 223               | 1 | 通帳再利用            | 299    |
| 352 | [諸図面下絵]       | /           | /    | /     | / | /            | 横帳 | 140 * 279               | 1 |                  | 390    |
| 353 | [車寄正面図]       | 明治43年10月16日 | 1910 | 上野伊三郎 | / | /            | 絵図 | 563 * 795               | 1 |                  | 162-3  |
| 354 | 玄関之図          | 大正2年5月      | 1913 | 上野伊三郎 | / | /            | 絵図 | 555 * 800               | 1 | 「規矩実修養生所手本之写」    | 363    |
| 355 | [唐戸扉板図]       | /           | /    | /     | / | 季 (印: 谷口)    | 絵図 | 244 * 334               | 1 |                  | 265    |
| 356 | [唐戸扉板図]       | /           | /    | /     | / | /            | 絵図 | 244 * 324               | 1 | 受人265の写し         | 280    |
| 357 | 二間南表扉戸口       | /           | /    | /     | / | /            | 絵図 | 241 * 340               | 1 |                  | 271    |
| 358 | 外繫 (二足建)      | /           | /    | /     | / | /            | 絵図 | 239 * 341               | 1 | 受人372~386袋一括     | 383    |
| 359 | [厩絵図]         | /           | /    | /     | / | /            | 絵図 | 260 * 554               | 1 | 一部鉛筆             | 398    |
| 360 | [二階建物軒断面図]    | /           | /    | /     | / | /            | 絵図 | 386 * 271               | 1 | 受人372~386袋一括     | 382    |
| 361 | [某御殿勝手方]      | /           | /    | /     | / | /            | 絵図 | 552 * 770               | 1 | 挟み込みあり (関係不明)    | 422    |
| 362 | 御居間拵帖東側御柵正面之図 | /           | /    | /     | / | /            | 絵図 | 270 * 291               | 1 |                  | 295-01 |
| 363 | 銅瓦            | /           | /    | /     | / | /            | 絵図 | 242 * 282               | 1 |                  | 295-09 |
| 364 | 遠柵并透シ類集       | /           | /    | /     | / | /            | 折本 | 247 * 112               | 1 |                  | 73     |
| 365 | 御柵金物打所伺絵図     | /           | /    | /     | / | /            | 絵図 | 255 * 371               | 1 | 貼紙1点あり/彩色あり      | 287    |
| 366 | [惣金箔厨子図]      | /           | /    | /     | / | /            | 絵図 | 238 * 337               | 1 |                  | 270    |
| 367 | 掛子造之事         | /           | /    | /     | / | 谷季 (末吉)      | 絵図 | 244 * 334               | 1 |                  | 295-02 |

|     |                |          |      |     |   |     |               |    |  |  |                                     |   |  |        |
|-----|----------------|----------|------|-----|---|-----|---------------|----|--|--|-------------------------------------|---|--|--------|
| 368 | [御石燈籠・御花瓶台図]   | /        | /    | /   | / | 絵図  | 266 * 345     | 1  |  |  |                                     | 1 |  | 281    |
| 369 | 下之道十分一         | /        | /    | /   | / | 絵図  | 240 * 380     | 1  |  |  | 10分の1                               |   |  | 351    |
| 370 | 御木造始絵図         | /        | /    | /   | / | 絵図  | 278 * 398     | 1  |  |  |                                     |   |  | 179    |
| 371 | [供物・幣・飾等書上]    | /        | /    | /   | / | 罫紙  | 167 * 242     | 1  |  |  | 上棟                                  |   |  | 122    |
| 372 | [罫紙礎等図]        | /        | /    | /   | / | 折紙  | 237 * 337     | 1  |  |  | 上棟                                  |   |  | 121    |
| 373 | [礎図]           | /        | /    | /   | / | 折紙  | 238 * 315     | 1  |  |  | 上棟                                  |   |  | 120    |
| 374 | 柱根縦覚帳          | /        | /    | /   | / | 横半帳 | 140 * 192     | 1  |  |  | 「谷口」朱丸印あり                           |   |  | 47     |
| 375 | 柱面之事           | /        | /    | /   | / | 絵図  | 120 * 330     | 1  |  |  |                                     |   |  | 295-08 |
| 376 | [柱組図]          | /        | /    | /   | / | 絵図  | 335 * 249     | 1  |  |  |                                     |   |  | 295-10 |
| 377 | [柱根巻に付覚]       | /        | /    | /   | / | 綴   | 126 * 347     | 1  |  |  |                                     |   |  | 59     |
| 378 | [長押伏図]         | /        | /    | /   | / | 絵図  | 397 * 265     | 1  |  |  | 断簡/彩色あり                             |   |  | 285    |
| 379 | [屋根伏図]         | /        | /    | /   | / | 絵図  | 746 * 638     | 1  |  |  | 糊剥かれ激しい/欠損あり/彩色あり                   |   |  | 266    |
| 380 | [屋根伏図下書]       | /        | /    | /   | / | 絵図  | 890 * 908     | 1  |  |  | 裏に「不中(カ)」とあり                        |   |  | 406    |
| 381 | [軒平面図雛形]       | /        | /    | /   | / | 絵図  | 190 * 455     | 1  |  |  |                                     |   |  | 411    |
| 382 | [軒断面図]         | /        | /    | /   | / | 絵図  | 280 * 406     | 1  |  |  | ち〜わ                                 |   |  | 293-1  |
| 383 | [井筒桁隅木落掛り極様]   | /        | /    | /   | / | 絵図  | 258 * 365     | 1  |  |  | 「上野」印あり/狭み込み2点あり                    |   |  | 262    |
| 384 | [軒断面図]         | /        | /    | /   | / | 絵図  | 280 * 402     | 1  |  |  | せ〜西                                 |   |  | 293-2  |
| 385 | [屋根軒組雛形]       | /        | /    | /   | / | 折本  | 318 * 144     | 1  |  |  | 前欠/受入368接続か                         |   |  | 367    |
| 386 | [屋根軒組雛形]       | /        | /    | /   | / | 折本  | 291 * 148     | 1  |  |  | 後欠/受入367接続か                         |   |  | 368    |
| 387 | [軒先組図]         | /        | /    | /   | / | 絵図  | 313 * 424     | 1  |  |  | 朱文方印「木+青」あり/断簡                      |   |  | 268    |
| 388 | クセ物扇垂木雛形       | /        | /    | /   | / | 折本  | 277 * 149     | 1  |  |  | 「上野」印あり                             |   |  | 74     |
| 389 | 上重牛首措          | /        | /    | /   | / | 絵図  | 1406 * 313    | 1  |  |  | 糊剥かれあり                              |   |  | 263-1  |
| 390 | [上重異隅牛首措東流南流図] | /        | /    | /   | / | 絵図  | 310 * 453     | 1  |  |  |                                     |   |  | 263-2  |
| 391 | [某木組絵図]        | /        | /    | /   | / | 絵図  | 312 * 468     | 1  |  |  |                                     |   |  | 109-18 |
| 392 | [組物下絵]         | /        | /    | /   | / | 絵図  | 267 * 326     | 1  |  |  |                                     |   |  | 412    |
| 393 | 東階段登り高欄之割      | /        | /    | /   | / | 絵図  | 266 * 419     | 1  |  |  | 断簡か                                 |   |  | 277    |
| 394 | [某部材絵図]        | /        | /    | /   | / | 絵図  | 433 * 1742    | 1  |  |  |                                     |   |  | 261    |
| 395 | [某部材絵図]        | /        | /    | /   | / | 絵図  | 1156 * 232    | 1  |  |  | 4枚に糊剥かれ                             |   |  | 276    |
| 396 | [瓦類拓本等一拵]      | /        | /    | /   | / | 絵図  | 最大41.5 * 56.2 | 31 |  |  | 拓本、鉛筆デッサン、乾拓/癸文あり/「唐破風中」「唐破風左」などと記す |   |  | 294    |
| 397 | [金具唐草文様拓本]     | /        | /    | /   | / | 絵図  | 174 * 220     | 1  |  |  |                                     |   |  | 300    |
| 398 | [絵図雛形入帳]       | /        | /    | /   | / | 帳   | 779 * 816     | 1  |  |  |                                     |   |  | 301    |
|     |                | 明治27年11月 | 1894 | 蘭香蔵 |   |     |               |    |  |  |                                     |   |  |        |



|        |                               |                    |      |                                      |  |     |            |    |   |       |
|--------|-------------------------------|--------------------|------|--------------------------------------|--|-----|------------|----|---|-------|
| 399    | [五冊之内] 小坪規矩                   | 寛政2年3月15日          | 1790 |                                      |  | 横半帳 | 125 * 175  | 1  | 「中」マークあり／道具類の寸法を記す  | 43    |
| 400    | [五冊之内] 棚雛形                    | 寛政2年3月11日          | 1790 |                                      |  | 横半帳 | 123 * 173  | 1  | 表紙破損あり／「中」マークあり   | 44    |
| 401    | 建家地坪敷取様扣                      | 明治19年8月吉日          | 1886 | 谷口末吉                                 |  | 横半帳 | 248 * 170  | 1  | 「谷口」朱丸印あり   | 67    |
| 402    | [開平方算盤に付覽]                    |                    |      |                                      |  | 横半帳 | 125 * 176  | 1  | 破損あり  | 40    |
| 7 不明建築 |                               |                    |      |                                      |  |     |            |    |   |       |
| 403    | 拾八番対屋女中局上家下家其外附物共             |                    |      |                                      |  | 絵図  | 260 * 655  | 1  | みせ消ちあり  | 210   |
| 404    | 客殿小屋伏指図                       |                    |      |                                      |  | 絵図  | 332 * 480  | 1  | 貼り付けあり  | 250   |
| 405    | [某屋敷絵図]                       |                    |      |                                      |  | 絵図  | 713 * 1498 | 1  | 式台2箇所あり   | 207   |
| 406    | [某屋敷絵図]                       |                    |      |                                      |  | 絵図  | 776 * 734  | 1  | 上段・老女・中老・御朱殿あり  | 248   |
| 407    | [某屋敷絵図]                       |                    |      |                                      |  | 絵図  | 335 * 329  | 1  | 役所・火ノ見・大書院・台所あり   | 249   |
| 408    | [御殿平面図断簡]                     |                    |      |                                      |  | 絵図  | 295 * 470等 | 14 | 受入372～386袋一括  | 386-1 |
| 409    | [御殿平面図断簡]                     |                    |      |                                      |  | 絵図  | 125 * 116等 | 2  | 受入372～386袋一括  | 386-2 |
| 410    | [御殿平面図断簡]                     |                    |      |                                      |  | 絵図  | 256 * 215等 | 2  | 受入372～386袋一括  | 386-3 |
| 411    | [御殿平面図断簡]                     |                    |      |                                      |  | 絵図  | 087 * 134  | 1  | 受入372～386袋一括  | 386-4 |
| 412    | [某尺杖図]                        |                    |      |                                      |  | 絵図  | 391 * 276  | 1  |   | 226   |
| 413    | [某尺杖]                         |                    |      |                                      |  | 絵図  | 401 * 140  | 1  | 上下欠   | 392   |
| 414    | [不明図面]                        |                    |      |                                      |  | 絵図  | 268 * 372  | 1  | 受入372～386袋一括／鉛筆書き／竪断図面か                                   | 375   |
| 8 典籍   |                               |                    |      |                                      |  |     |            |    |   |       |
| 415    | [大工] 新撰雛形 宮形一・門形二・堂形三・塔形四・絵様五 | 宝暦9年秋(刊) / (明治再版か) | 1759 | 書林・東京日本橋南町目・須原屋茂兵衛藏板／千鐘房梓(序)木暮甚七(定賢) |  | 典籍  | 260 * 180  | 5  | 法量は一篇で取った／彫工佐脇庄兵衛／序は宝暦8年末秋／巻一・三・五に挟み込みあり／五篇に「製本師鹿野氏」朱方印あり | 10～14 |
| 416    | [新撰早弓] 匠家雛形 上 鳥居及門            | 嘉永4年冬(序)           | 1851 | 本林常将著／東都書林千鐘房一貫堂合梓                   |  | 典籍  | 224 * 154  | 1  | 「村山」朱丸印あり   | 6     |

|     |                   |                   |      |   |   |           |           |   |  |       |
|-----|-------------------|-------------------|------|---|---|-----------|-----------|---|--|-------|
| 417 | [新撰早引] 匠家雛形二篇 上・下 | 明治8年5月27日         | 1875 | 本林常将著／東<br>都書林千鐘房・<br>一貫堂合梓／発<br>兌・東京日本橋<br>通壱丁目・北畠<br>茂兵衛／書林・<br>同(東京)飯倉町<br>五丁目・鈴木忠<br>蔵梓 | ／ | 典籍        | 224 * 154 | 2 | 法量は上巻で取った／発行年月日は三編のもの。初編は嘉永4年11月、2編は安政3年8月出版／序は安政3年中秋／上巻に「村山」朱丸印、下巻に「上野」朱丸印あり／本林常将(重之助)は、盛岡住 | 7・8   |
| 418 | 軒廻矩術早見二編          | 明治9年11月5日         | 1876 | 盛岡藩故人・本<br>林重之助常将著<br>／東京書林芝飯<br>倉町五丁目四番<br>地・出版人鈴木<br>忠蔵版                                  | ／ | 典籍<br>(横) | 83 * 181  | 1 | 「上野」朱丸印あり／表紙痛みあり   | 15    |
| 419 | [新刻] 大工雛形上・下      | 明治9年3月7日版權<br>免許  | 1876 | 東京書林芝飯倉<br>町五丁目・一貫<br>堂鈴木忠蔵板／<br>(序) 曉亭真彦   | ／ | 典籍<br>(横) | 129 * 188 | 2 | 法量は上巻で取った／嘉永元年彫刻 慶志3年版／上巻表紙に「第拾号」、下巻表紙に「第拾壹号」の記載あり／下巻の外題欠落                                   | 18・19 |
| 420 | 大工雛形二編 上・下        | 明治9年3月7日版權<br>免許  | 1876 | 東京書林芝飯倉<br>町五丁目・一貫<br>堂鈴木忠蔵板／<br>(序) 松亭金水   | ／ | 典籍<br>(横) | 128 * 186 | 2 | 法量は上巻で取った／嘉永元年彫刻、慶志3年版／序は嘉永4年／上巻に「村山」朱丸印あり   | 20・21 |
| 421 | [増補] 大匠雛形         | 明治9年4月26日版權<br>免許 | 1876 | 東京本所・鈴木<br>勘右衛門正豊筆<br>／奥州盛岡・本<br>林重之助常将筆<br>／京書肆須原屋<br>茂兵衛／(京<br>都・大坂・東京<br>の書肆10軒)         | ／ | 典籍<br>(横) | 146 * 221 | 6 | 外題は「[新板] 宮雛形志」等／享保2年秋新刻、慶志2年春再版／二・三・五篇に「村山」印、四・五篇に「上野」印／六篇に「製本師 鹿野氏」朱方印あり                    | 22～27 |

|     |                     |           |      |  |   |           |             |   |   |       |
|-----|---------------------|-----------|------|--|---|-----------|-------------|---|---|-------|
| 422 | [当世] 初心雛形 上・下       | 明治16年4月   | 1883 | 東都神田落合・大賀範国著/原<br>版人須原屋茂兵衛・東京日本橋区通り一丁目/<br>出版人東京府平民脇田倉八・東京府下神田区通り新石町九番地/発行書肆東京日本橋区薬研堀町四十三番地・鈴木喜右衛門 | / | 典籍<br>(横) | 130 * 185   | 2 | 法量は上巻で取った/序は嘉永4年初冬/上巻表紙に「第八号」、下巻表紙に「第九号」とあり/下巻に「上野」印あり                              | 16・17 |
| 423 | [明治新撰] 欄間雛形 上・下     | 明治16年7月   | 1883 | 編輯人福岡県平民内野清蔵/出版人同(福岡県)土族林奔介/平原助次校正   | / | 典籍        | 213 * 152   | 2 | 法量は上巻で取った/上巻に「明治廿九年十一月上野」、下巻に「上野」と書き込みあり/内野清蔵の住所は福岡区福岡筑戸町194番地、林奔介の住所は福岡区福岡簀子町103番地 | 4・5   |
| 424 | [明治新撰] 建具雛形 上・下     | 明治16年8月   | 1883 | 編輯人福岡県平民上杉半八/出版人同(福岡県)土族林奔介  | / | 典籍        | 216 * 148   | 2 | 法量は上巻で取った/上巻に「明治廿九年十一月上野」、下巻に「上野」と書き込みあり/上杉半八の住所は福岡区福岡西湊町113番地、林奔介の住所は福岡区福岡簀子町103番地 | 2・3   |
| 425 | 番匠往来 全              | (明治20以前)  | /    | 池田東籬亭編并書/長山(図)/京都書林・三条通富小路東江人・須磨勘兵衛(印:弘蘭堂)   | / | 典籍        | 222 * 158   | 1 | 明治20年12月谷口末吉購入/「谷口」印あり/初版は天保8年  | 1     |
| 426 | [新撰早弓] 匠家雛形三篇 上 社堂門 | (明治)      | /    | 本林常将著/京都書林千鐘房・一貫堂  | / | 典籍        | 224 * 155   | 1 | 「村山」朱丸印あり   | 9     |
| 9   | その他                 |           |      |  |   |           |             |   |   |       |
| 427 | 江戸人絵図之内本所之図         | /         | /    | /  | / | 絵図        | 630 * 1170  | 1 |   | 224   |
| 428 | 越後国絵図               | 天保12年正月下旬 | 1841 | /  | / | 絵図        | 1173 * 2245 | 1 |   | 228   |

|     |                  |              |       |                                      |   |    |             |   |                                   |     |
|-----|------------------|--------------|-------|--------------------------------------|---|----|-------------|---|-----------------------------------|-----|
| 429 | 〔近江国高島郡北生見村絵図〕   | 明治           | ／     | ／                                    | ／ | 絵図 | 805 * 558   | 1 | ／                                 | 227 |
| 430 | 京都道筋朱引絵図         | ／            | ／     | ／                                    | ／ | 絵図 | 776 * 580   | 1 | 糊剥かれあり                            | 219 |
| 431 | 花洛往古図            | ／            | ／     | ／                                    | ／ | 絵図 | 1050 * 835  | 1 | 糊剥かれ激しい                           | 235 |
| 432 | 京名勝一覽図絵          | 明治28年6月25日   | 1895  | 編纂兼発行者京都市下京区東高瀬川筋五条下都市町谷口小治郎         | ／ | 絵図 | 533 * 764   | 1 | 彩色あり                              | 223 |
| 433 | 〔伏見古城絵図〕         | ／            | ／     | ／                                    | ／ | 絵図 | 347 * 370   | 1 | ／                                 | 229 |
| 434 | 丹波国大絵図           | 寛政11年11月     | 1799  | 著者矢野貞利／皇都書肆堀川六角下ル町中川藤四郎／三条通柳馬場角堺屋仁兵衛 | ／ | 絵図 | 1084 * 922  | 1 | ／                                 | 218 |
| 435 | 細見丹後国人絵図         | 天保11年2月      | 1840  | 編者池田東灘亭／書肆吉野屋仁兵衛／山城屋佐兵衛他             | ／ | 絵図 | 1122 * 896  | 1 | 糊剥かれあり                            | 232 |
| 436 | 大和細見図            | 安永5年改正       | 1776  | 中村政耳齋／塩屋平助／河内屋喜兵衛                    | ／ | 絵図 | 1510 * 1050 | 1 | 外れあり／享保20年8月穀旦初出                  | 220 |
| 437 | 和州奈良之絵図          | 元治元年11月      | 1864  | 奈良大仏前絵図屋庄八板／大阪中津八兵衛調                 | ／ | 絵図 | 496 * 662   | 1 | 鹿の絵記載あり                           | 237 |
| 438 | 南都絵図             | ／            | ／     | ／                                    | ／ | 絵図 | 623 * 732   | 1 | ／                                 | 236 |
| 439 | 摂州石山陣取図          | ／            | ／     | ／                                    | ／ | 絵図 | 655 * 845   | 1 | 糊剥かれ激しい                           | 238 |
| 440 | 〔大坂大絵図〕          | (享保19年～元文5年) | 1734～ | 御絵図所林氏吉永                             | ／ | 絵図 | 1398 * 1193 | 1 | 年代は、大坂城代太田備中守、大坂定番永井播磨守・米津出羽守より推定 | 233 |
| 441 | 和泉国絵図            | ／            | ／     | ／                                    | ／ | 絵図 | 612 * 1445  | 1 | 写し                                | 241 |
| 442 | 紀州西牟婁郡瀬戸鉾山温泉図    | 明治23年4月10日   | 1890  | 印刷兼発行人三木善左衛門／売捌人塩田万之助                | ／ | 絵図 | 516 * 705   | 1 | 〔明治丁亥孟春西讃吉藏写〕記載あり／藤田若藏            | 231 |
| 443 | 車塚由来 (南紀熊野湯ノ峯車峠) | ／            | ／     | ／                                    | ／ | 摺紙 | 244 * 327   | 1 | 受人372～386袋一括                      | 379 |
| 444 | 長崎之絵図            | ／            | ／     | ／                                    | ／ | 絵図 | 853 * 1970  | 1 | 寛文・延宝の記載あり                        | 239 |

|     |                                   |            |      |  |   |    |                                       |   |                              |        |
|-----|-----------------------------------|------------|------|--|---|----|---------------------------------------|---|------------------------------|--------|
| 445 | 〔検地書上〕                            | 享和2年8月上旬   | 1802 | 差図役山下重右衛門好孝／検地<br>平取治郎右衛門<br>／辰太郎／宇右<br>衛門                 | ／ | 摺紙 | 279 * 343                             | 2 | 前欠／絵図に付随していた<br>と思われる／断簡1通あり | 124    |
| 446 | 小物成御年貢割方絵図                        | 享和2年8月上旬   | 1802 | ／  | ／ | 絵図 | 353 * 445                             | 1 | 外れあり／京都市右京区松<br>室鈴虫寺付近か      | 212    |
| 447 | 松室村谷川布北敷地作図                       | 文化12年6月    | 1815 | 松室十右衛門／<br>中江五右衛門  | ／ | 絵図 | 457 * 651                             | 1 | 糊剥がれ激しい                      | 213    |
| 448 | 松室村小物成御年貢地絵図                      | ／          | ／    | ／  | ／ | 絵図 | 462 * 642                             | 1 | ／                            | 216    |
| 449 | お谷ゴーリ（愛宕郡）岩倉村あざ長谷名じ松<br>尾も兵（茶屋絵図） | ／          | ／    | ／  | ／ | 絵図 | 153 * 166                             | 1 | ／                            | 109-07 |
| 450 | 二万分之一地形図東京近傍十四号（浦和）               | 明治42年7月30日 | 1909 | 大日本帝國陸地<br>測量部   | ／ | 地図 | 460 * 580                             | 1 | 明治39年測量                      | 234    |
| 451 | 二万分之一地形図東京近傍七号（東京東部）              | 大正3年3月25日  | 1914 | 大日本帝國陸地<br>測量部   | ／ | 絵図 | 458 * 581                             | 1 | 明治42年測量／「上野蔵<br>書」印あり        | 243    |
| 452 | 二万分之一地形図東京近傍十一号（東京首部）             | 大正6年10月25日 | 1917 | 大日本帝國陸地<br>測量部   | ／ | 絵図 | 459 * 580                             | 1 | 明治42年測量／赤線書き<br>込みあり         | 242    |
| 453 | 京都市全図                             | 昭和6年3月25日  | 1931 | 集英社  | ／ | 絵図 | 785 * 1092                            | 1 | 3万5千分の1                      | 217    |
| 454 | 宮城二重橋真景                           | 明治20年      | 1887 | 梅壽國利／（印<br>刷兼発行）日本<br>橋区吉川町5番<br>地堤吉兵衛                     | ／ | 刷物 | 368 * 716                             | 1 | 3枚組／歌川国利／騎馬行<br>列描写あり        | 29     |
| 455 | 宮城二重橋真景                           | 明治20年      | 1887 | 梅壽國利／（印<br>刷）日本橋区吉<br>川町5番地堤吉<br>兵衛                        | ／ | 刷物 | 370 * 247<br>/370 * 247<br>/370 * 246 | 3 | 3枚組／歌川国利／騎馬行<br>列描写あり        | 30     |
| 456 | 〔茶の湯日々草〕水屋とくそろへの図                 | 明治29年4月1日  | 1896 | 年方（朱文簡円<br>印）／（印刷兼発<br>行）東京市日本<br>橋区室町三丁目<br>九番地秋山武右<br>衛門 | ／ | 刷物 | 256 * 371                             | 1 | 水野年方                         | 32     |



|     |                   |             |      |  |   |    |                                       |   |   |      |
|-----|-------------------|-------------|------|--|---|----|---------------------------------------|---|---|------|
| 457 | [茶の湯日々草] 亭主あいさつ乃図 | 明治29年4月1日   | 1896 | 年方(朱文方印)<br>/ (印刷兼発行)<br>東京市日本橋区<br>室町三丁目九番<br>地秋山武右衛門 | / | 刷物 | 256 * 372                             | 1 | 水野年方                                      | 33   |
| 458 | [茶の湯日々草] 山座手前の図   | 明治29年4月1日   | 1896 | 年方(白文方印)<br>/ (朱文方印)<br>東京市日本橋区<br>室町三丁目九番<br>地秋山武右衛門  | / | 刷物 | 255 * 372                             | 1 | 水野年方                                      | 34   |
| 459 | [臨時風俗] 少女の礼式      | 明治29年12月17日 | 1896 | 楊洲齋延一/<br>(印刷兼発行)<br>浅草区瓦町二ば<br>んど森本順三郎                | / | 刷物 | 375 * 247<br>/374 * 251<br>/375 * 258 | 3 | 3枚組/彫徳                                    | 31   |
| 460 | [茶の湯日々草] 花を語る図    | 明治30年4月1日   | 1897 | 年方(朱文方印)<br>/ (朱文方印)<br>東京市日本橋区<br>室町三丁目九番<br>地秋山武右衛門  | / | 刷物 | 257 * 371                             | 1 | 水野年方                                      | 35   |
| 461 | 奥女中行列之図           | 明治31年       | 1898 | 楊齋(朱印) /<br>(印刷兼発行)<br>日本橋区吉田町<br>5番地堤吉兵衛              | / | 刷物 | 368 * 709                             | 1 | 3枚組/江戸城、大名行列<br>描写あり/楊齋延一か/<br>(方朱印)「荒木刀」 | 28   |
| 462 | 御鹵簿(京都皇宮建礼門前)     | 昭和3年9月5日    | 1928 | (大阪毎日新聞<br>社)/猪飼嘯谷<br>謹写                               | / | 印刷 | 268 * 385                             | 1 | 大阪毎日新聞昭和3年9月<br>5日付付録                     | 36-1 |
| 463 | 即位礼(紫宸殿の御儀)       | 昭和3年9月5日    | 1928 | (大阪毎日新聞<br>社)/松岡映丘<br>謹写                               | / | 印刷 | 268 * 385                             | 1 | 大阪毎日新聞昭和3年9月<br>5日付付録                     | 36-2 |
| 464 | 大饗(五節舞)           | 昭和3年10月5日   | 1928 | (大阪毎日新聞<br>社)/堂本印象<br>謹写                               | / | 印刷 | 269 * 383                             | 1 | 大阪毎日新聞昭和3年10<br>月5日付付録                    | 37-1 |
| 465 | 大嘗祭(大嘗宮渡御)        | 昭和3年10月5日   | 1928 | (大阪毎日新聞<br>社)/西山翠嶂<br>謹写                               | / | 印刷 | 269 * 383                             | 1 | 大阪毎日新聞昭和3年10<br>月5日付付録                    | 37-2 |

|     |             |             |      |  |   |    |            |   |  |       |
|-----|-------------|-------------|------|--|---|----|------------|---|--|-------|
| 466 | 〔月並連歌集〕     | 享和3年5月23日   | 1803 | /  | / | 縦帳 | 156 * 109  | 1 | 作者は、春香・儀兵衛・曾路・すみ・まつを・久子・この・安兵衛・将監・近藤・岩佐翁など／裏表紙破損／虫損大 | 66    |
| 467 | 江戸大火之次第     | (文化3年)      | 1806 | /  | / | 折紙 | 244 * 334  | 1 | 文化3年寅3月4日  | 123   |
| 468 | 天道神祇大祓      | 天保5年10月     | 1834 | 吉田殿学館守護<br>職玉田永教／御殿御書物所<br>〔 〕／(弘所書<br>林7軒)                      | / | 折本 | 145 * 063  | 1 | 祝詞集／表紙欠／表題は地に書かれている／糊剥かれあり                           | 71    |
| 469 | 〔某神事祭場図〕    | /           | /    | /  | / | 絵図 | 769 * 595  | 1 | 彩色あり   | 246   |
| 470 | 平安神宮時代祭行列図譜 | 明治28年10月18日 | 1895 | 編纂平安遷都紀<br>念祭協賛会／印刷兼発行者村上<br>勘兵衛・京都市<br>東洞院三条上ル<br>曇華院前之町十<br>番戸 | / | 横帳 | 222 * 302  | 1 | 裏表紙に落書きあり／挟み込みあり(枝菊鉢、明治31年5月18日付)                    | 69    |
| 471 | あふい祭ノ記      | /           | /    | /  | / | 断簡 | 163 * 307  | 1 | 葵祭／裏に図あり   | 125   |
| 472 | 周易朱子図説      | /           | /    | /  | / | 縦紙 | 273 * 2732 | 1 |  | 118-1 |
| 473 | 限象観星鏡正面図    | /           | /    | /  | / | 絵図 | 270 * 397  | 1 | 受入118-1に挟み込まれていた                                     | 118-2 |
| 474 | 象限儀并梓図      | /           | /    | /  | / | 絵図 | 295 * 359  | 1 | 受入118-1に挟み込まれていた                                     | 118-3 |
| 475 | 〔線刻石仏拓本〕    | /           | /    | /  | / | 絵図 | 665 * 1279 | 1 | 観音か  | 264-1 |
| 476 | 〔線刻石仏拓本〕    | /           | /    | /  | / | 絵図 | 670 * 1330 | 1 | 観音か  | 264-2 |
| 477 | 〔線刻石仏拓本〕    | /           | /    | /  | / | 絵図 | 815 * 1225 | 1 | 如来か／破れあり   | 264-3 |

## 京都出土中国産陶磁器の形・質・割合とその背景（3-1）

## — 櫛描文・劃花文青磁の型式変化 —

赤松 佳奈

## はじめに

櫛描文・劃花文青磁といえは13世紀前半の器だと思っていたが、出土事例を精査したところ、特に皿類は13世紀末まで一定量出土することがわかった。13世紀から14世紀前半までの青磁は龍泉窯系青磁を軸にして連続的に出土するため、本来ならば通して整理すべきであるが、櫛描文・劃花文青磁に関する細々とした問題点と、蓮弁文青磁を加えた全体像を一度に説明することは困難だと考えて本稿を（3-1）とし、本稿では櫛描文・劃花文青磁について考える。

副題は、13世紀中葉の土師器に伴って出土した所謂「同安窯」系青磁皿に粗雑化方向の型式変化を確認したことによる<sup>1)</sup>。

この現象を軸に、筆者の持つ冒頭の思い込みを捨てて共伴資料を集めて調べた成果が本稿である。

### 1. 12世紀第4四半期から 13世紀前半の中国産陶磁器の様相

11世紀後半から12世紀代の遺跡から多量に出土する白磁椀・皿類に替わって、青磁椀・皿類が目立った存在となるのは13世紀の初頭である。ただしこの様相を精査すると、西暦約1170～1200年の年代観

をあてた6A段階の土師器皿<sup>2)</sup>に伴って、所謂「同安窯」系青磁や劃花文をもつ「龍泉窯」系青磁が出土する事例が散見されることから、少なくとも12世紀第4四半期には青磁は一定量輸入されており、なおかつ廃棄される状況にあったと考えられる。

11・12世紀代に多量に輸入された白磁椀・皿類に替わって、13世紀初頭には青磁の椀・皿類が盛行する印象がある。この強く印象に残る櫛描文・劃花文青磁については、劇的に白磁にとって替わる印象があるが、13世紀初頭の実体としては、遺構に

| 中国時代区分 | 時代区分 | 土師器の段階区分と略年代 |      |
|--------|------|--------------|------|
| 宋      | 平安時代 | 4 A          | 1020 |
|        |      | B            | 1050 |
|        |      | C            | 1080 |
|        | 鎌倉時代 | 5 A          | 1110 |
|        |      | B            | 1140 |
|        |      | C            | 1170 |
| 元      | 南北朝  | 6 A          | 1200 |
|        |      | B            | 1230 |
|        |      | C            | 1260 |
| 南北朝    | 南北朝  | 7 A          | 1290 |
|        |      | B            | 1320 |
|        |      | C            | 1350 |

図1 京都出土土師器の時期区分と年代観  
平尾2019を引用・追記

よっては青磁よりも多い白磁が出土する。またこの時期は青白磁や施釉陶器類も共伴し器種・器形共に最も多様な時期と評価できる<sup>3)</sup>。また白磁は、11世紀代から継続的に見られる器形（玉縁状口縁碗など）もあれば、12世紀の中頃もしくは第4四半期に登場し13世紀前半まで出土する器もあり、変化しているのは青磁だけではないことがわかった。

櫛描文・劃花文青磁がいつ出現したのかは研究史上の重要なテーマであるが、出土量が減る時期についての議論は聞かない。しかし、京都の出土例では蓮弁文青磁に共伴する例が多数あり、とくに皿類については13世紀代を通して出土する。出土期間が約100年に及べば型式変化は想定すべき前提となる。

つまり櫛描文・劃花文、あるいは「同安窯」系・「龍泉窯」系青磁の出現時期と言っても、その“言葉”と出土資料が一致しているとは限らず、地域毎に型式の差異がある資料を扱っているとすれば、議論は平行線をたどるか間違った方向に進むことになるだろう。また櫛描文・劃花文青磁にも型式変化があり、廃棄される時期幅が約100年以上に及ぶ可能性があれば、櫛描文・劃花文青磁というだけで時期の比定をすることは適切ではないと考えられる。

そこで本稿では櫛描文・劃花文青磁の型式変化を含む出土実態について整理するとともに、白磁というだけで12世紀前・中葉に位置付けられる傾向にある当該期の白磁の形態についても併せて整理を試みる。

## 2. 櫛描文・劃花文青磁の分類

### 2つの群と研究史上の呼称について

当該期の青磁は、研究史上、体部内外面の櫛描文が特徴的な黄味の強い釉調のものが「同安窯」系、櫛描文や劃花文をもち青味がかかった釉色が多いものが「龍泉窯」系と呼ばれてきた<sup>4)</sup>。

なお「同安窯」系青磁については伝世品の「珠光青磁」に類似した陶磁片が初めて採取されたことから「同安窯」の名を冠してきた<sup>5)</sup>が、亀井明德氏<sup>6)</sup>、森達也氏<sup>7)</sup>、徳留氏・平原氏ほか<sup>8)</sup>などによって同安汀溪窯ではなく、同じ福建省内の莆田窯や福清窯などで焼造された可能性が高いことが指摘されている。

『日本出土の中国陶磁』の中で、今井敦氏は、唐から五代にかけて越州窯系青磁を焼いていた浙江省地域では「十一世紀から十二世紀にかけての間に、生産窯の盛衰と主導的な生産窯の交代、製作技法や様式の転換が進行したと考えられる。」<sup>9)</sup>ため「このタイプの青磁の分類名称として「龍泉窯」の名を用いることについては、若干の注釈が必要であると思われる。」<sup>10)</sup>という。

現在の浙江省一帯は、「数多くの青磁窯があり、生産規模が大きく質の優れた青磁を焼く中心的な窯と、その影響下に類似の製品を焼く窯とがあって、いくつかの「窯系」を形成していた。〈中略〉浙江省内には依然として調査が行われていない地域や窯址が多く、越州窯の終末期の様相も明らかでない。〈中略〉十一世紀から十二世紀にかけての時期は「越州窯系青磁」ととらえられる唐・五代の青磁と質・量ともに龍泉窯

が絶大な地位を確立した南宋後期・元の青磁との間のいわば「過渡期」にあたり、この時期の「浙江青磁」をどのように考えるかという議論を先送りしたまま、生産窯の特定だけを急ぐことは、適切さを欠くといわなければならないであろう。<sup>11)</sup>と指摘する。

また「同安窯系」については、「類似の青磁を生産した窯址は、このほかにも南安窯、莆田窯など、福建省内に数多く発見されている。それらのなかで、生産規模が大きい窯はどこか、比較的質の高い製品を焼いた窯はどこか、あるいは発祥が古い窯、周囲の窯に対し影響力をもった窯はどこかなどの点について、今のところほとんどまったく展望が得られていないといってよい。また、同安窯にしても、青磁のほかに白磁も焼成しており、いわゆる「珠光青磁」専焼の窯だったわけではない。したがって「同安窯系」の名は、あくまでこのタイプの青磁に冠せられた分類名称であることを認識しておく必要がある。」<sup>12)</sup>と指摘する。

これらは1995年のものであるが、現在でも的確な指摘と言えよう。

なお、「同安窯系」青磁の産地同定については、既に複数の論考が出されており、「珠光青磁」については最新の研究成果がある<sup>13)</sup>ため、本稿では産地については判断しないという立場をとる。本稿の目的は、京都市の出土資料を整理することであり、そもそも産地同定は、生産地での研究が進まない限り不確定な要素が拭いきれず、消費地出土資料は、搬入時に「当時」の目利きや流行による選別を経た資料であるから同定には向かない。

とはいえ、所謂「同安窯」系・「龍泉窯」系青磁はやはり分類上避けられない大きな分類項目であるため、便宜的に「同安窯」系青磁を青磁D群、「龍泉窯」系青磁を青磁R群と仮称する。

### 3. 2群の青磁の様相と特徴

#### 器形の種類

櫛描文・劃花文青磁の主な器形の種類は、出土量が増え、多地点で類似の様相を示すつまり輸入する器形がある程度絞る

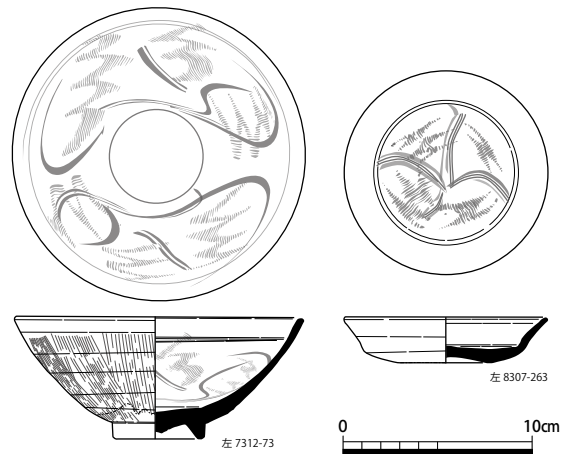


図2 青磁D群の椀・皿(主な器形)



図3 青磁R群の椀・皿(主な器形)



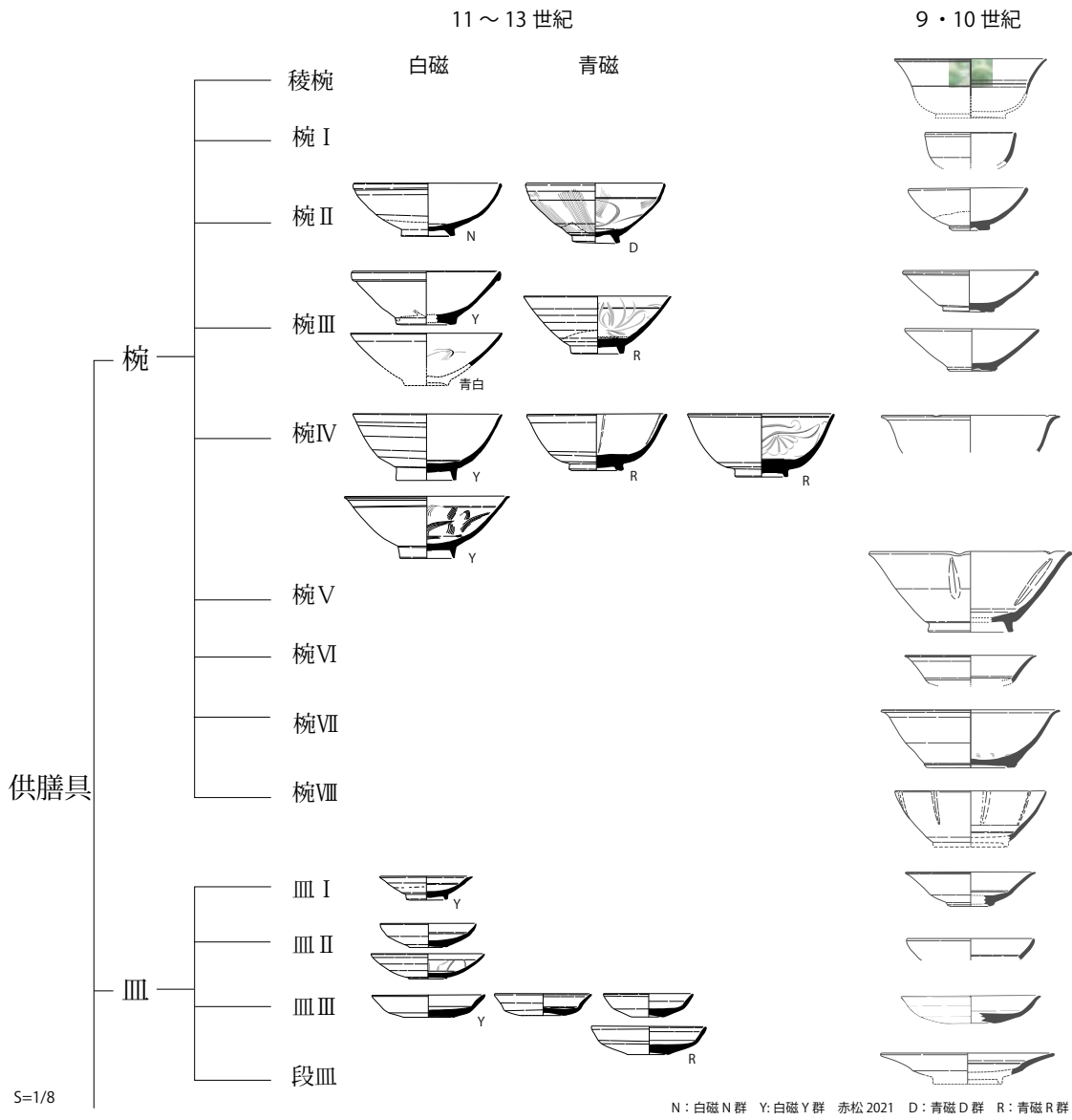


図4 碗・皿の形態分類 (1:8)

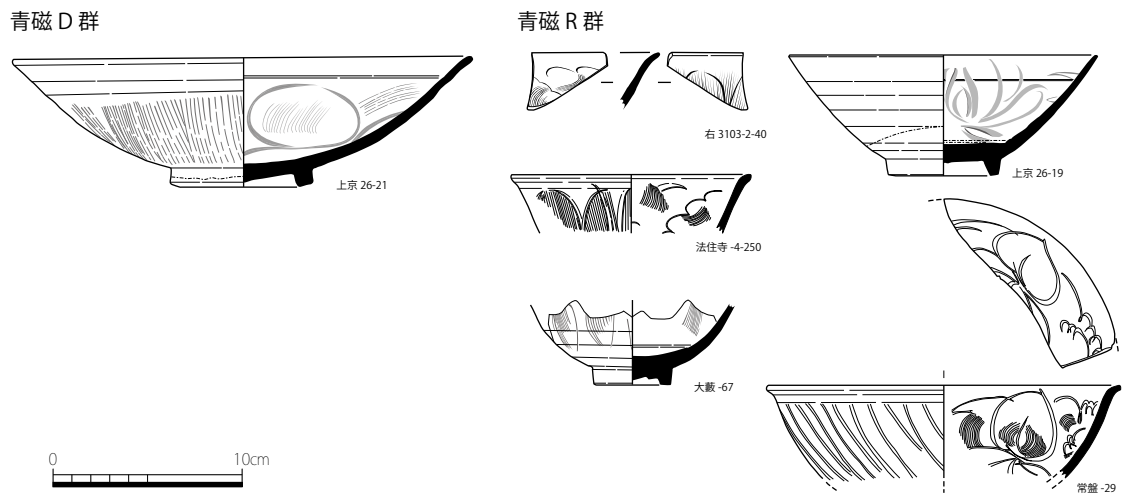


図5 青磁その他の器形 (1:4)

込まれて安定した様相を示す—13世紀前葉を例にすると限られる。青磁D群(図2)は椀1種類(図4椀Ⅱ<sup>14)</sup>、以下図4を省略)と皿1種類(皿Ⅲ)と、青磁R群(図3)は腰部が膨らむ椀1種類(椀Ⅳ)と皿1種類(皿Ⅲ)である。

ただし、各群ともに少数しか出土しないその他の器形もある(図5)。青磁D群は口縁が約24cmほどある大型の椀(鉢)、青磁R群には所謂「斗笠椀」や外面櫛描蓮弁文の椀、外面片切彫条線文の大型の椀などがあるが、出土量の割合にすれば全体の1%にも満たない。この状況は多様な櫛描文青磁が出土する博多とは異なる<sup>15)</sup>。

椀の器形が各1種類と聞くと違和感があるかもしれないが、その違和感は、特に青磁R群の文様が多種類であることによると

思われる。文様の種類は異なるが器形の形態は同じである。以下、群ごとに詳述する。

### 青磁D群

D群には、器形の種類は同じだが、成形や施文が異なる2つ以上の群が内在している(図6)。1つは椀・皿の両器形で全数量の90%以上を占め<sup>16)</sup>、底部の厚みなどの成形時の特徴や施文の類似性から一つに括れる群(本稿ではDD群と仮称)で、もう1つは、その他の特徴を持つ椀・皿である。後者は、各々少数しか出土例がないため現時点での細分は難しい。

DD群の椀の文様は基本的に1種類である。外面は細い櫛描文、内面は櫛描と片切彫を組み合わせた文様で、時期が下がるほど文様構成が崩れる方向に変化する。

DD群の皿もやはり施文の基本パターン

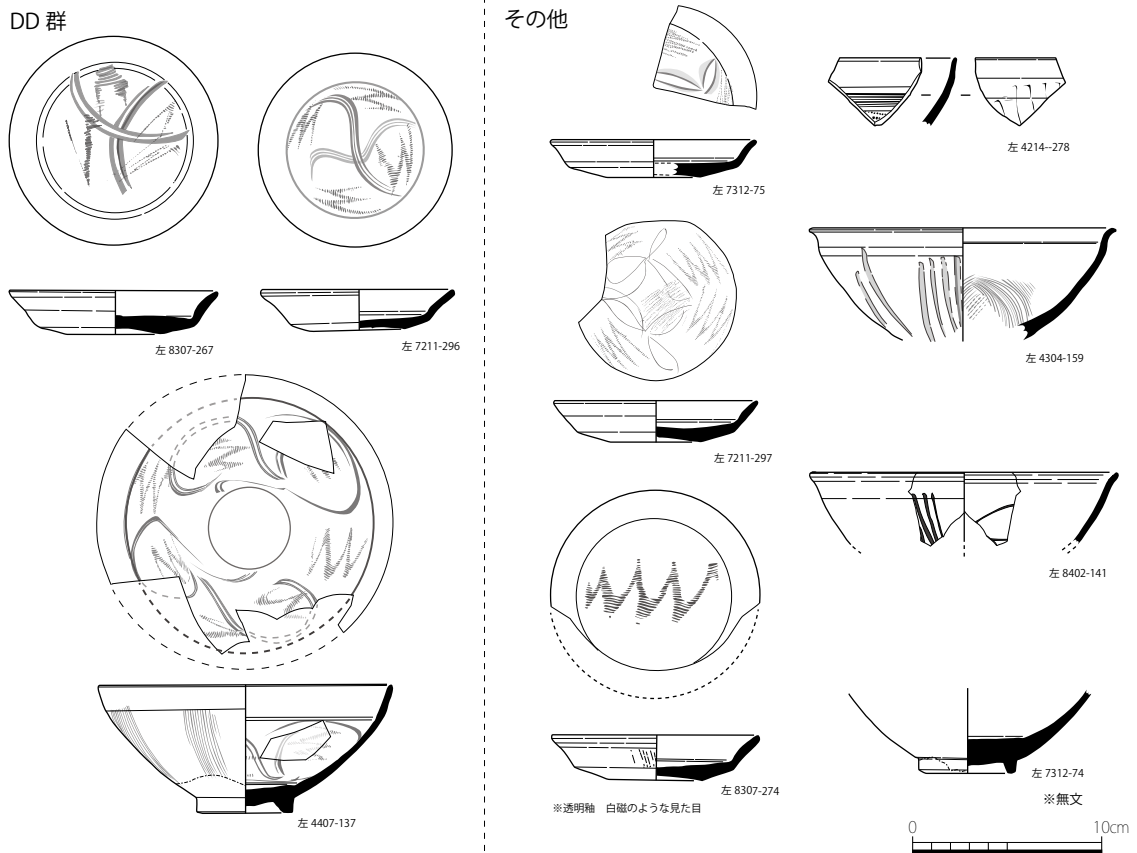


図6 青磁D群に内在する2群(仮称DD群とその他)

は1種類である(手癖による違いはある)。ただし12世紀第4四半期から13世紀の初頭と推定される皿(図20の6Aとつくもの)は、文様に多少のバリエーションがありこの段階ではパターンが定型化していない。また、時期が下がると文様の省略や無文も増える。

その他の特徴をもつ椀・皿は、少数しか出土例が無いいため特徴を抽出するのが難しいが、外面を約5mm幅のヘラ切り条線で飾るものは底部の厚みや底部外面の形態、内面の文様なども異なる(大きな破片の出土例が無いので内面の文様の全体像は不明)。皿も12世紀代で無文のものや、細い櫛描きのみで飾られているものは胎土や釉調が異なる。これらは細かく分けると別の生産体の製品と推測される

とは言え、これらの差異は小さなもので、発掘調査の報告段階では殊更分ける必要は無いと考える。これまで指摘されてきたように、青磁D群を福建省沿岸の窯で焼かれた製品群であると捉えれば、器形の形態や劃花文や櫛描文で飾る文様構成などの特徴は類似性が高い。

#### DD群の文様

全体の90%以上を占めるDD群については破片資料も含めると出土量が一定量あり、特徴を抽出できた。

椀の文様(図6)は、外面は細い櫛描文、内面は口縁部のやや下に1条、まれに2条の沈線を描き、その下部に片切彫りと櫛描きを組み合わせた文様が配置される。構成は、下端が長くのびる“○”あるいは“の”の字状になる完結しない円を描き、円の内外に櫛描を施す文様を基本とする。原型は

草花文であったと推測される(図2椀は元の要素を残している)。この円は基本的には2個1対である。2個の円と下端を走る横方向のヘラ描き、円の中の櫛描文を1セットとした文様を2セット描き、それぞれ間に櫛描文がくるように配置される。ただし、この基本構成も手癖や勢いでかなり崩れたものがある。

施文の順番は、基本的には櫛描文が先で片切彫りが後である。

時期が下がるとさらに省略が進むが、現時点では提示できる良好な例が無かった。

皿は底部内面に施文する。“ノ”字状と“く”字状の片切り彫りを組み合わせた中央の文様とその隙間4ヶ所に施された“ジグザク”状の櫛描文を基本の構成とする(図6)。図案が崩れているため何の文様かは不明だが、おそらく草花文と推測される。ただし、ヘラ描きや櫛の施文状況に手癖や勢いによる違いがあり印象は千差万別である。

施文の順番は、多くの個体では櫛描きが片切彫りに切られているのが観察されるため、櫛描きの後に片切彫りを施すのが基本的な工程であったと考えられる。時期が下がると3ないし4展開する櫛描文のみが描かれた皿が散見されるが、これは形からDD群の皿と考えられ、無文の割合も増えることから片切彫りの手順が省略されるようになったと推測される。

#### 青磁R群

椀の文様は主に4種類(図8)で、堆線で表現された輪花、蓮華文、変形蓮弁文、花卉文(草花文)が確認できた。堆線のある輪花椀は五輪花と六輪花がある。唐・五

代の越州窯系青磁から続く伝統的な文様<sup>17)</sup>でこの中では少し古くなると解釈できる。このうち出土量が多いのは蓮華文である。蓮華文は厳密には1種類ではなく、蓮華の花と葉(図7)を基本パターンとして、3あるいは4展開させる文様構成である。なお花には蕾を表現したような多少のアレンジもある。変形蓮弁文は2重の片切彫りで花卉状の囲みを描き、中央に文様を描く構成で、元代のラマ式蓮弁文に通じる。花卉文は縦横に走る櫛描文が印象的である。京都出土のものは雲のようにスソが伸びる劃花文が三展開するものばかりだが、博多や中国で出土するやや古相のものには花卉の

表現がある。

底部内面は文様が付く場合も無文の場合もある。片切彫りによる花文や「金玉満堂」の文字印などがあり多様である。

青磁R群の皿は、花文・魚文などがあり、特に花文には多様なパターンがある。片切彫りを主体にして施文される。

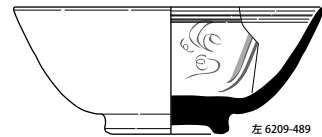
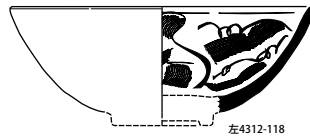
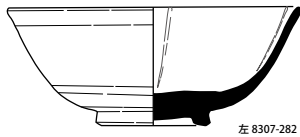
#### 型式変化

型式変化を副題としたが、実は説明が可



図7 蓮華文の文様パターン

#### 碗の形態



#### 青磁R群の文様種類模式図



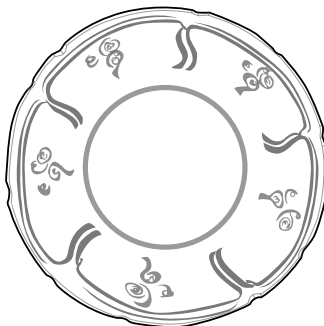
蓮華文：南海1号沈船



蓮華文：博多遺跡



蓮華文：左京八条三坊七町



変形蓮弁文：大宰府15)



花卉文：大宰府15)



花卉文：博多16-SK749

図8 青磁R群碗の形態と文様種類

能な型式変化が観察できたのは皿のみである。京都における櫛描文・劃花文青磁碗の主な出土年代は12世紀第4四半期から13世紀第4四半期までだが、13世紀の第1四半期後半には蓮弁文の青磁が出土し始めることから、量的なピークは12世紀の第4四半期から13世紀第1四半期までの50年程度と推測される。50年という時間幅は、京都出土輸入陶磁器の様相に段階を設けるとすれば、概ね1段階の幅と言える。このため量的な把握が難しく型式変化を追うことが困難であった。

京都出土遺物は都市遺跡の性格上その多くが廃棄資料である。それ故に本稿で扱う年代観は基本的には土師器の段階区分による廃棄年代を基準としている。中国の紀年銘墓出土資料との年代差は30年程見える場合もあるがほとんど無い場合もあり、墓や経塚出土資料は同時期の廃棄資料よりも新しい特徴をもつことが多い。手に入れてから廃棄までには一定の使用期間もあるが、多くのものは半世紀以内に捨てられている。とはいえ輸入陶磁器そのもので30年の年代幅を絞り込むことは難しく、土師器の段階区分を基準としている。

この点、特に青磁D群（量が多いDD群のみ。以下型式変化はDD群について説明）の皿は7A段階まで量的な出土が追えるため法量の縮小化などを観察することができた。型式変化については皿を基軸とし、碗については、型式学的な観点からみた“傾向”について記述する。

#### D群 年代による出土傾向 (図11)

D群の皿は12世紀の第4四半期から13世紀の末まで一定量出土する。これに比し

て碗は、主に6Aから6B段階古相に出土する傾向があり、13世紀前葉を過ぎると目立った存在ではなくなる。

#### 皿の型式変化 (図9・10)

皿は、法量の縮小と施釉および底部外面のケズリの見え方が特徴的に変化する。

12世紀第4四半期に位置付けられる左京八条三坊七町跡SD24<sup>18)</sup>からは皿が9枚出土しており、口径の分布域は10.7～11.0cm、施釉は体部外面の下端（底との境界）まで施される。これは施釉後に底部を削って仕上げるため、結果、外面の釉は体部外面下端まで観察される。底部内面は広く、体部は上方に立ち上がる。

これに対し、13世紀後葉に位置付けられる左京五条二坊十町跡-SK751<sup>19)</sup>では7枚がまとまって出土しており、口径は9.7cm～10.2cmである。施釉は体部外面の下半部までで、漬け掛けのため施釉境界は波打っている。施釉が個体によっては体部中央までにおさまり、カンナの削り痕が観察されることも多い。形態は浅くなり、体部は斜め方向に引きあがっている。古いものと比較すると口縁端部のナデが強くなっているものも多い。

施文は13世紀以降定型化するが、左京八条三坊七町跡SD24段階ではまだ様々な描き方をしている。13世紀後半は、無文が多く、片切彫りの省略も多い。

#### 碗の傾向

D群の碗は型式変化が追えないが、烏丸線No.73から出土したDD群の碗（図2左）は比較的古い要素を残していると考えられる。ただし似た年代観の資料ですでに文様が崩れた碗も出土しているため、時期差か



技術差かは不明である。

変化は時期が新しくなると口縁部下条線の位置が低くなり体部が薄く腰がやや膨らみ、文様構成は崩れて粗雑な円状になる傾向にある。

### R群 年代による出土傾向 (図11)

R群は劃花文の椀・皿ともに6A段階か

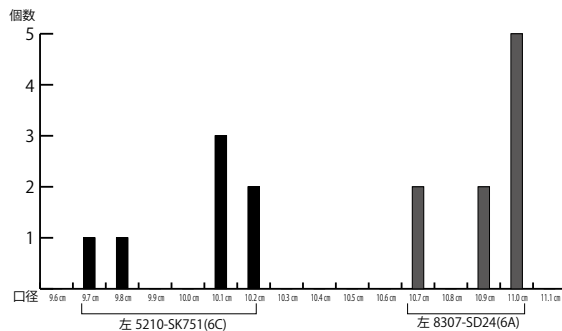


図9 口径分布の差



左京八条三坊七町跡 SD24 出土 (12 世紀第 4 四半期頃)



左京五条二坊十町跡 SK751 出土 (13 世紀後葉頃)

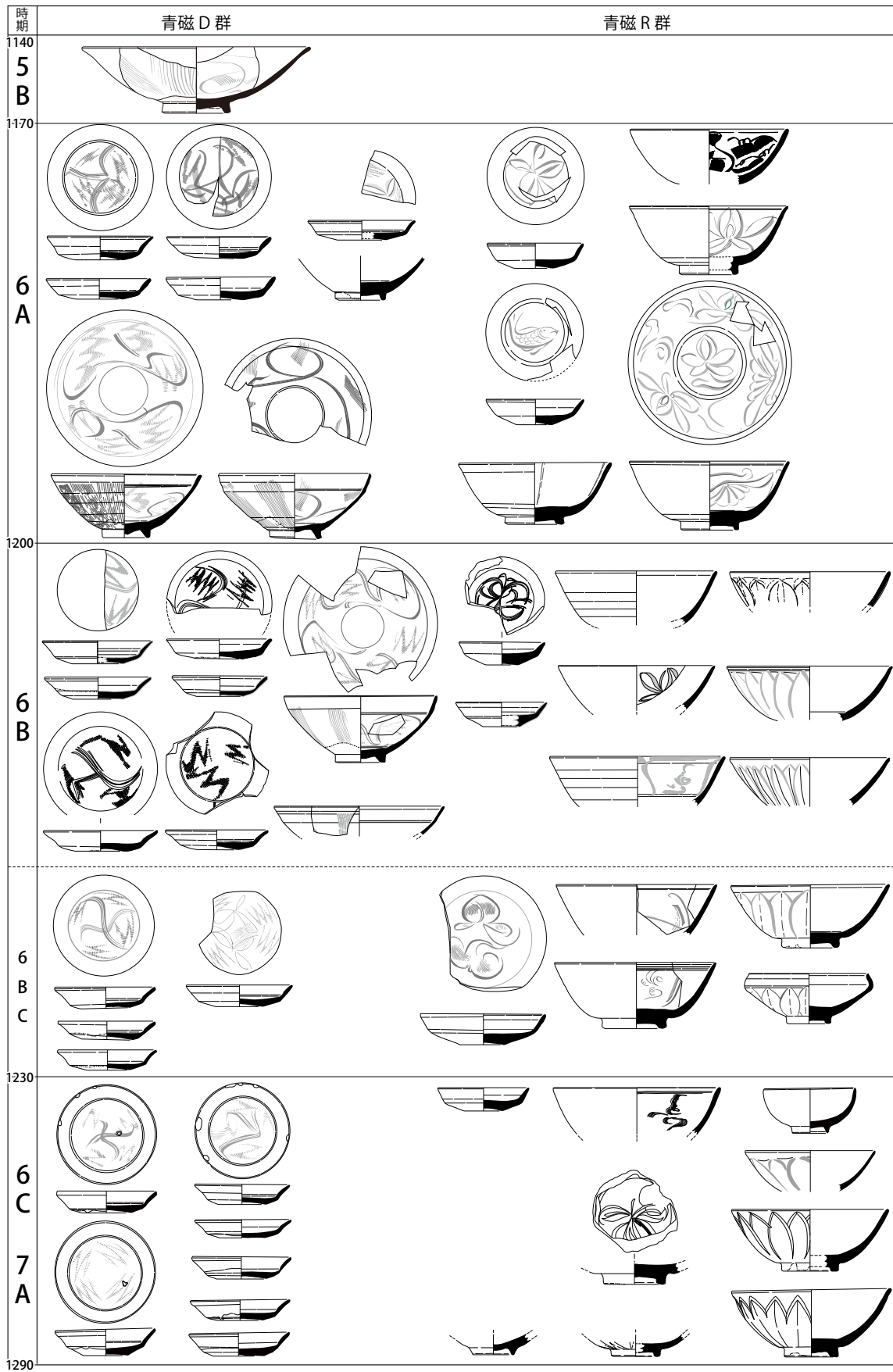
図10 底部の処理の違い

ら7A段階まで出土するが6B段階以降の出土量は多くない。特に先述のように6B段階の後半—13世紀第1四半期の後半には鑄蓮弁文の椀が登場し、13世紀後半に向かって量を増やしていくため、13世紀中頃以降の出土資料で口縁部から底部までの形態がわかる良好な資料は現時点では見つからなかった。

R群の椀の内、堆線で表現された輪花椀は6A段階と想定している左京八条三坊七町跡SD24に良好な出土例があるだけだが、型式学的な観点からは五代・北宋の様式でありこの中ではやや古い側に位置付けられる。これに対し変形蓮弁文の椀は京都では6A段階では見つからず13世紀前葉頃に見え始める。直線的なつながりは不明だが、変形蓮弁文の椀が堆線のある輪花椀に後出する文様である可能性がある。なお変形蓮弁文の椀は口縁端部に輪花があるものもあるが、13世紀中頃以降は口縁端部に輪花が付かないことが多い。花卉文は出土例が少ないため詳細は不明だがこの中では古手に位置付けられる文様で現時点では13世紀中頃以降は見ない。

### 型式変化について

R群の皿は、複数枚まとまって出土している良好な例がないが、6A段階の左京八条三坊七町跡SD24では口径9.9cmと10.0cmであった。13世紀代後半の左京五条二坊十町跡-SK751では口径8.4cmで、土師器は共伴していないがD群皿から13世紀前半と推測される左京六条一坊七町跡土坑4では口径8.5cmと9.0cm、やはり時期が下がるにつれて口径が縮小し、底部が厚く、体部の立ち上がりも短く(浅く)なる。



S=1/6

図11 青磁D・R群 主な碗・皿の廃棄年代

他にR群の皿には上述の小皿とは別に口径13cm前後の皿がある。この中型の皿は、出土点数が少ないため不明な点が多いが現時点では13世紀中葉頃から出土する。

R群の椀の形態は、時期が下がるにつれて腰の張りが弱くなり浅くなる傾向にある。外面鎬蓮弁文の椀が量的に出土するようになる13世紀中葉以降も見られる劃花

文の椀には、蓮華文と変形蓮弁文の椀があるが、どちらも施文が粗くなる。蓮華文は線が太く雑になり、反転数が少なくなる。変形蓮弁文は口縁部の輪花表現がなくなり、一筆書きで描かれていた花卉の曲線が崩れて、適当に描かれた縦横方向の直線的な施文になる(図12)。



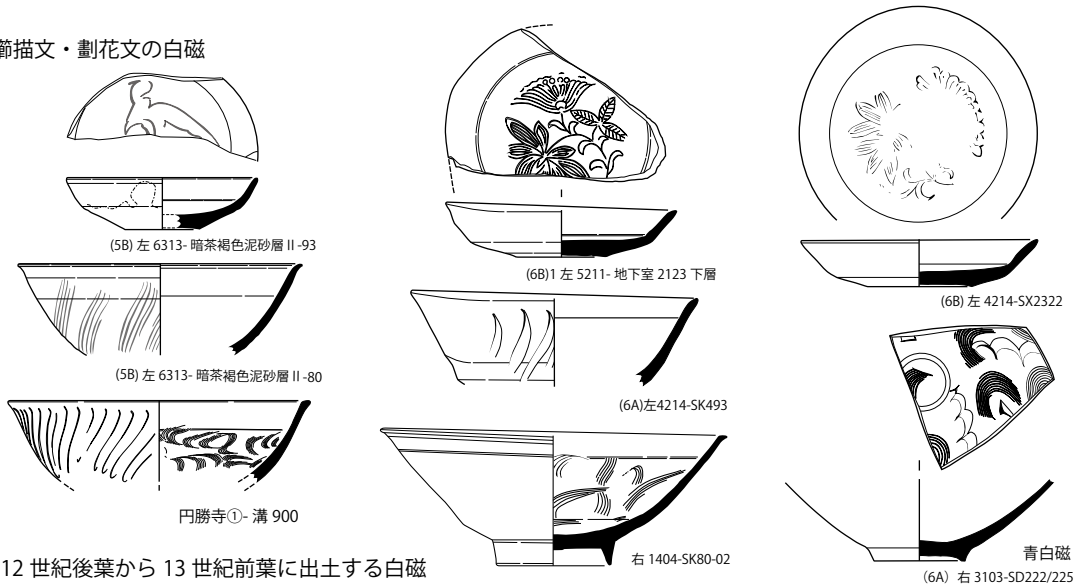
図12 粗雑化した変形蓮弁文

#### 4. 12世紀後葉から13世紀前葉の白磁

##### 櫛描文・劃花文の白磁

櫛描文・劃花文というと青磁の印象であるが、12世紀後半の白磁には櫛描文が施されているものもある。中でも青白磁の椀

##### 櫛描文・劃花文の白磁



##### 12世紀後葉から13世紀前葉に出土する白磁

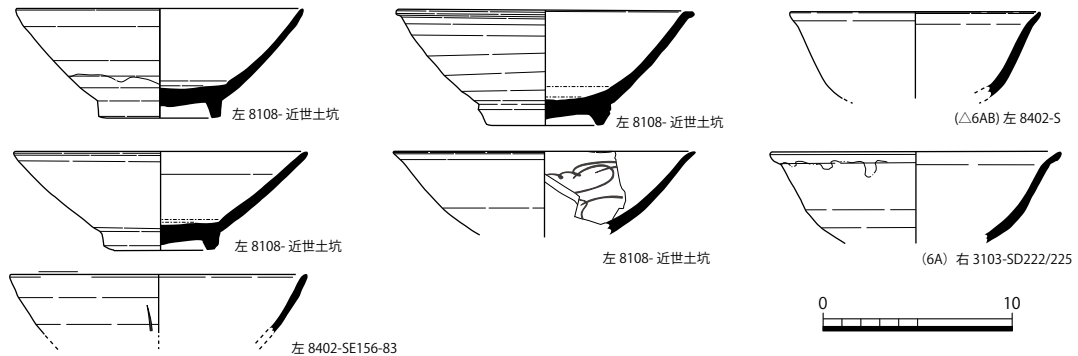


図13 櫛描文・劃花文の白磁及び12世紀後葉から13世紀前葉の白磁

には時には青磁よりも精緻な櫛描文・劃花文を持つものがある。

また底部内面が平らで広い皿(皿Ⅲ)は、白磁・青白磁・青磁で類似の形態をとることから、宋代には器種を問わず作られた一般的な器と評価できよう。なお皿の底部内面には、青磁と同様に草花文が施されるものもある。また、白磁の椀外面に片切彫りか櫛描きの条線が施されることもある。

### 12世紀後葉から13世紀前葉の白磁

京都における13世紀初頭の出土資料には多数の白磁が含まれている。それは決して古いものの混入ばかりではなく、出土例を整理すれば12世紀後葉から13世紀の初頭にかけて登場する器形がある。体部から口縁部まで直線的に斜め方向に延びる所謂「斗笠椀」(椀Ⅲ、図13下段左)や腰が丸く張る椀(椀Ⅳ)で口縁端部内面を強くナデるため端部が屈曲気味に外反するもの(図13下段右)は、12世紀後葉から13世紀前葉に見る形態である。

この後白磁は13世紀中頃から、所謂「口禿」の白磁椀・皿が出土するようになり、器形が選択的になるが、図13下段右端は形態としては「口禿」白磁椀に通ずるものがあり、先行的な形と捉えることができる。

なお、11世紀代から継続する器形も、玉縁状口縁の椀で玉縁がかなり太くなったものは12世紀後半以降の形態であるし、大宰府分類白磁椀Ⅴ類も口縁端部が外方向に折れるものは同じく12世紀後半以降の特徴で13世紀初頭までは出土する。

青白磁については前稿にまとめた。

以上のように、櫛描文・劃花文青磁と同

時期の12世紀第4四半期から13世紀前葉の白磁について概観すると、白磁にも変化があることが分かると共に、器種を越えた共通性が整理できた。櫛描文や劃花文などの施文は、宋代の文様における流行と捉えられるし、皿(図4皿Ⅲ)についても、器種を越えて類似の形態を取ることから汎用性が高い形態であることが分かった。

ただし椀の形態については、白磁、青白磁、青磁D群・R群で共通性が低いことが反って明るみに出たように思う。とくに青磁D群とR群の椀は主な器形が各々1種類しかないのになぜか別の形態をしている。

またD群の青磁は通史的にみれば12世紀第4四半期から13世紀にしか存在せず、この点で青磁R群や白磁と異なっている。特に青磁D群の椀については所謂「同安窯」系青磁という呼称や「珠光青磁」として後に珍重された点など謎が多い。

そこでこの椀については若干の考察を加えたい。

## 5. 所謂「同安窯」系青磁の椀について

本稿では所謂「同安窯」系青磁を仮称青磁D群とした。これは、

1. D群は先行研究から「同安窯」産では無い事が明らかになっている。
2. 京都出土資料を精査したところ、厚みや文様などの細部が異なる複数のグループが混在していることがわかった。
3. 福建省では宋代に多数の窯で所謂「同安窯」系青磁と類似した特徴の器を作っている。

4. 上記から、そもそも複数の窯の製品が輸入されていると考えられる。

といった観点から「窯」の意識を外して群別するための仮の処置であった。

この「同安窯」というのは、1952年に中国の福建省同安県汀溪水庫開発に伴い水庫予定地に発見された古窯址を指す<sup>20)</sup>。ここから、江戸時代や明治時代に茶碗として伝世し、大正時代には「珠光茶碗」・「珠光青磁」として認識されていた外面櫛描きの青磁に似た資料が初めて見つかったことから、これを「同安窯系青磁」と呼ぶようになった。

ただし先述のように、同安汀溪窯の資料と日本で量的に見つかる青磁碗は細部の特徴が一致しないこと<sup>21)</sup>が明らかになっており、現在では“所謂”をつけて呼ばれることが多い。

所謂「同安窯」系青磁（以下必要な場合を除き“所謂”を省略）は、先に引用したように「窯系」を形成するような中心窯が見つかっていない<sup>22)</sup>にも関わらず、福建省では北宋後半から南宋前半にかけて似通った器を多数の窯で作っていることが明らかになっており<sup>23)</sup>、中国陶磁史の上でもやや特異な製品といえる。

中国での生産状況も未解明のことが多い「同安窯」系青磁であるが、京都での出土状況からも少々特異な点が挙げられる。京都出土資料としての特徴をまとめると

- ・全体の9割を占めるDD群と少数の別の特徴を持つ碗・皿が混在している。
- ・しかしどの特徴のものも碗・皿の基本形態は類似している。
- ・D群碗は12世紀第4四半期から13世紀

前葉までに出土が限られる。

- ・皿は13世紀末まで出土する。
- ・皿は形態が青磁R群や白磁と類似しているが、碗は形態がR群や白磁と異なる。

といった点が挙げられる。碗は形態が特異なだけでなく、一定量出土する期間が京都の土師器区分6A段階（1170-1200）を中心とする約50年に限られており、皿が13世紀を通して在るのとは対比的である。

またこの碗は形態がやや特異で、他の時期にはほとんど見ない形をしている。

なお、当該期に共伴する龍泉窯青磁の碗は形態が異なる<sup>24)</sup>。龍泉窯では1種類の碗だけではなく、形態の異なる多種類の碗・皿・鉢などに櫛描文・劃花文を施していること（図15）から、櫛描文・劃花文という文様だけで「同安窯」系青磁と「龍泉窯」系青磁の碗を一括りにすることはできない。基本的に中国の陶磁器における文様は汎用性が高く、器形の形態とは分けて考えた方が系統分類には有効と考えられる。

これらをまとめると「同安窯」系の碗は、京都に一定量搬入された段階では唯一の形の碗であり、この形の碗は限られた短い期間しか需要が無かったと推測される。

#### 碗の特徴

通時代的に見るとやや特異な状況を呈す「同安窯」系青磁碗であるが、その見た目上の特徴は大きく2つに整理されよう。

1つは小さめの底部から体部が斜め上方にやや直線的に立ち上がり、口縁部下にめぐる沈線（圈線）あたりで屈曲して口縁部付近は上方、もしくは強いナデのためやや内向きに屈曲して立ち上がる内湾気味のプロポジションである。



もう1つは、外面の条線文と内面の櫛描き・片切彫りの文様である。

ただしこの特徴的な椀は福建省のオリジナルではない。龍泉窯をはじめとする浙江省でも、上記2つの特徴を備えた類似の椀が北宋後半から南宋始頭にかけて生産されていたことが知られている<sup>25)</sup>。そして日本でも博多では、浙江省産と考えられる椀やDD群とは異なる福建省産の椀が12世紀代の白磁に共伴して出土している<sup>26)</sup>。

### 博多・中国での見え方

博多で出土する12世紀代の櫛描・片切彫文の内湾する椀を例示すると、博多港湾線第1次調査のSE39-1063、港湾線第2次調査の683号土壙-16、同649号土壙-11、原遺跡14のSR062-260など<sup>27)</sup>があり、他に包含層資料であるが型式学的にやや古層と考えられるものに高速鉄道VI-F区包含層資料2・11・12<sup>28)</sup>などがある。博多遺跡群の各調査報告書に散見される<sup>29)</sup>。



※田中 2019 の分類を下に作成

図14 博多出土の櫛描・片切彫文の内湾する椀 (1:4 引用文献は22頁に記載)

ただし、これらの碗はそれぞれの調査で少数出土するのみで累計数は決して多くない。京都でも稀にしか出土例が無いことから、日本向けの輸出品というよりは博多に拠点を持つ宋人の持ち物であった可能性が高い。

中国で上述の特徴の碗が出土する古い例としては、北宋代の福建省順昌県太坪林場墓の副葬品<sup>30)</sup>が挙げられる(図15)。この墓は博室の夫婦合葬墓で、出土銭貨から11世紀後葉の年代観が推定されている。少し古いとされる男室からは櫛描・片切彫文の直線的に開く所謂「斗笠碗」が出土し、女室からは櫛描・片切彫文の内湾する碗が出土した。中国では福建省産<sup>31)</sup>と考えられており、この例から11世紀後葉にはこうした碗が生産されていたと推測される。

浙江省では、龍泉金村窯の下層から櫛描・片切彫文の碗が出土している。龍泉金村窯の2013-2014年試掘調査報告書<sup>32)</sup>にはこうした特徴の碗(図15)は北宋代晩期の製品として掲載されている<sup>33)</sup>。また、同報告書で北宋前・中期と位置付けられている青磁は越州窯系青磁の特徴を備えていることから<sup>34)</sup>櫛描文の碗は北宋後(晩)期頃から生産され始めたと推測される。

なお、龍泉窯では、小さめの底部から体部が斜め上方にやや直線的に立ち上がり、口縁部下にめぐる沈線あたりで屈曲して口縁部付近は内湾気味になる形態の碗は比較的短い期間しか生産されていない。北宋後期には量産していたようであるが南宋前期には数が減り(図15-415)南宋中期頃にはほとんど生産されなくなったようである<sup>35)</sup>。櫛描・劃花文の碗は南宋代にも量産し

ているため、これまでは議論の俎上に載せられることが無かったが、日本に多量に輸入される頃には、龍泉窯では上述の2つの特徴を持つ碗は量産されていなかった可能性が高い。なお、龍泉窯では多種類の器形に櫛描・片切彫りの劃花文を施しているが、器形によって施文の基本ルールが多少異なっていた可能性がある。

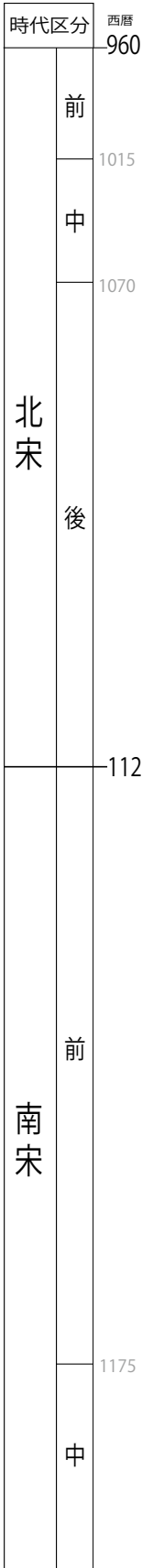
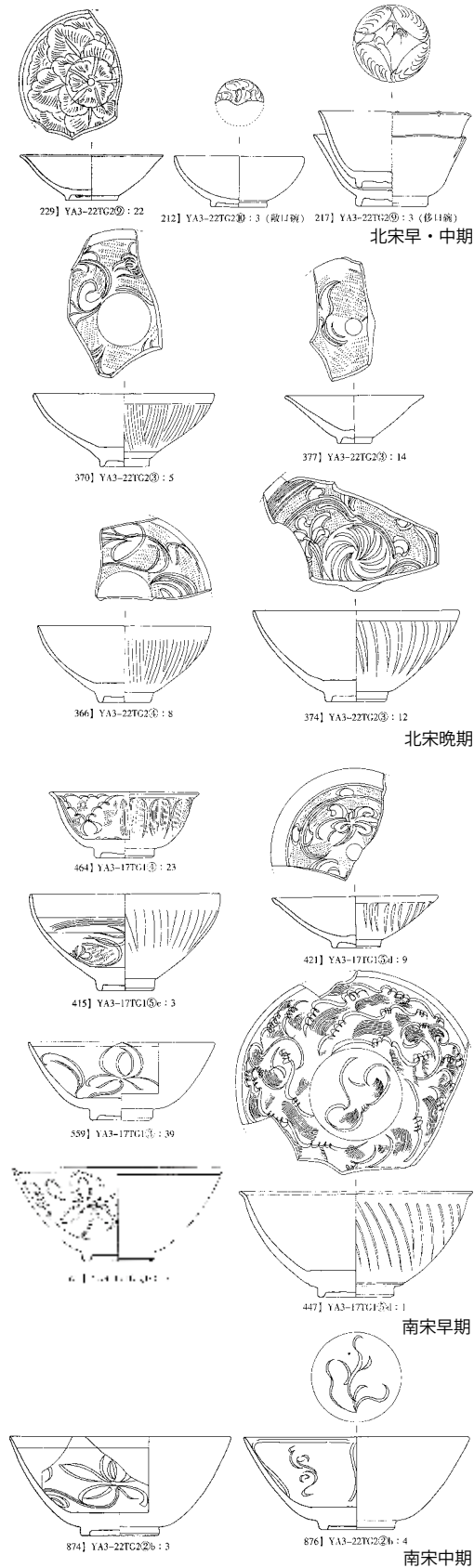
本稿で取り上げる碗は、外面は櫛描きか片切彫条線文、内面は口縁部やや下に圏線をつけ線より下側(見込み側)に施文することを基本とするが、これと同じ外面に条線文を施す碗の中でも、口径が18センチ前後あり器高も高く腰が張る大きな碗(図15-447)は、内面の文様を口縁部端まで施している。この点から、本稿が題材としている内湾する碗の施文にはなんらかのモデルがあったことが推測される。

博多・中国の資料から「同安窯」系青磁の碗に先行する碗が11世紀後葉から12世紀代には福建省・浙江省で多数生産されていたことがわかった。これらの施文は丁寧で精緻なものも多く一定の価値を持っていたと推測される。しかしこの12世紀代の碗は、日本では博多周辺で一定量出土するものの、京都ではわずかしか出土例が無い事から、基本的には日本向けに輸出されたものではなかった可能性が高い。

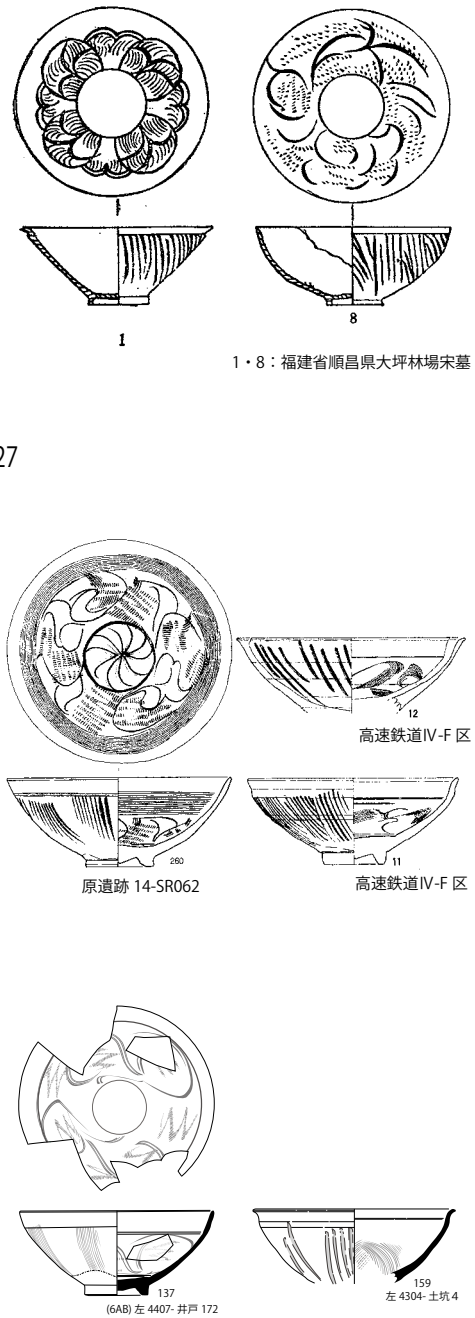
### 流行の器形

先に紹介した福建省順昌県太坪林場墓に副葬されていた碗を浙江省産ではないかと考える意見もあるが<sup>36)</sup>、筆者は中国での見解のとおり福建省産ではないかと考えている。だとすれば、浙江省産も福建省産も生産開始時期はそれほど差がないのではなか

浙江省 (龍泉金村窯)



福建省



※浙江省は全て龍泉窯金村試掘報告 2019 より転載

S=1:6

図15 龍泉窯 (浙江省) 出土青磁の様相と福建省の櫛描・片切彫文の碗

ろうか。

これまで「同安窯」系青磁は、初期の特徴の一致から龍泉窯の影響を受けて生産を開始したと考えられてきた。このため、福建省産の櫛描文青磁を「倣龍泉窯青瓷」と呼称する考え方もあるが<sup>37)</sup>、福建省の青磁は不思議と後の時代の蓮弁文碗を模倣した製品を量産していない。龍泉窯を代表する蓮弁文碗には倣わないことを不思議に思うのは後世の感覚かもしれないが、内湾する櫛描文・片切彫文の碗だけを模倣したとすればなぜなのだろうか。

福建省の陶磁器生産技術については、11世紀代の大量の白磁を考えれば一定の水準にあったと想定される。内面に櫛描文を多用する装飾技法の類似性から初期龍泉窯青磁碗の倣製品<sup>38)</sup>として福建産青磁を捉えてきたが、例えば景德鎮窯の青白磁にも内面櫛描文は多様されている<sup>39)</sup>。そもそも北宋後期の龍泉窯はまだ「窯系」を形成するような飛びぬけた窯ではなく、ようやく越州窯系青磁から脱して台頭し始めたばかりの窯なのではないだろうか。また13世紀代の福建省では蓮弁文青磁の模倣品は量産しないにも関わらず景德鎮窯産青白磁の模倣品を量産している<sup>40)</sup>。

つまり筆者は、福建省は上述の特異な青磁碗を龍泉窯に倣って作ったわけではないのではないかと考えている。

福建省順昌県太坪林場墓ではやや古いとされる男室から外面条線文、内面櫛描文・片切彫文の「斗笠碗」が出土し、女室から同加飾の内湾する碗が出土した。

亀井氏は「櫛描文青瓷についての考察」<sup>41)</sup>で口縁部がやや外反する「斗笠碗」(図

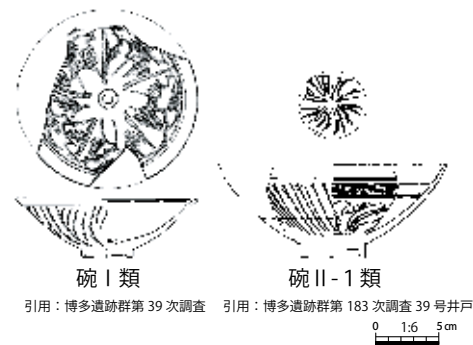


図16 亀井分類(亀井1995) ※図は報告書より引用

16碗I類)を先行する器形とし、これに内湾する碗(同碗II-1類)が続くとする。

筆者も、体部下半の特徴(小さめの底部、斜め上方にやや直線的に引き上げられる体部)から、内湾する碗は唐・五代からの伝統的な器形である「斗笠碗」を口縁部付近で曲げた派生品(以下、妙だが「内湾する「斗笠碗」」と呼称)だと考えており、そもそもそのモデルは加飾の「斗笠碗」だと推測する。

そう考えた場合、北宋中後期の中国で、広範囲の様々な窯が模倣したくなる青磁の加飾「斗笠碗」が特徴的な窯といえば「耀州窯」が浮かぶのではないだろうか。

森達也氏は耀州窯の特徴である印花文について「印花文青瓷の初現である遼清寧四年(1058年)の天津薊県独楽寺塔上層塔室の出土品では、北宋代の印花文青瓷の枝花文、外面の条線文など11世紀後半に盛行する印花文青瓷の定型的な様式がすでに確立しており、印花文の初現はさらに遡る可能性がある。」<sup>42)</sup>と言い、262頁掲載の図1には耀州窯から龍泉窯への器形と施文の影響を推測しており「耀州窯の青瓷の意匠の影響を強く受けている」<sup>43)</sup>とも述べる。

印花文は、耀州窯の優美な刻花文の量産型であることは論を俟たないことであり、

森氏の論ずるように11世紀の中頃には耀州窯青磁の代表的な加飾である内面の印花文・外面の条線文が成立していたと考えられる。

北宋後期の加飾「斗笠椀」は、青磁・白磁・青白磁のどれをとっても内面は比較的華やかで密度が高めの刻花か印花であり、印花でない場合でも内面口縁端部の下方（口縁部やや下）に広めの余白を残すことが多い。また口縁部やや下に圈線が付される例も多数ある。

耀州窯の印花文は型押しであるために口縁端部までの施文は難しく口縁部やや下に余白、あるいは型彫りの境界である圈線が付く（図17）。「斗笠椀」は、五代までは無文か堆線と輪花のような簡素な装飾である



図17 耀州窯印花 拓本  
 襍振西・杜文2004、109頁より引用

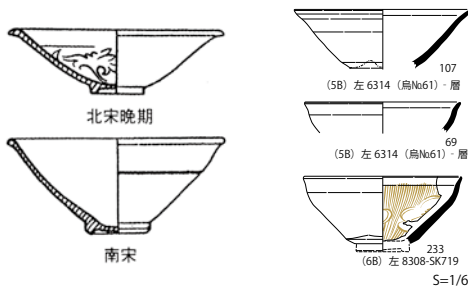


図18 耀州窯の蓋の形態変化と黒釉陶器の蓋の形態  
 耀州窯は襍振西・杜文2004、80頁より引用

ことが多いので、耀州窯の量産型印花文青磁が同時代の陶磁器に与えた影響は大きいと考えられる。

浙江省と福建省の内湾する「斗笠椀」は基本的には口縁部やや下に圈線が付き、時期が下がれば越境することもあるが、圈線の内に施文することを基本としている。

この点から内面の文様は耀州窯の印花から端を発した北宋代の流行に乗っ取ったものであり、外面の条線はまた耀州窯青磁「斗笠椀」の直接的な影響と考えられる<sup>44)</sup>。

これらの観点から12世紀代の「内湾する斗笠椀」の文様は、浙江省や福建省のオリジナルな特徴ではなく、広く北宋の流行に基づくものと推測されるのである。

ただし、耀州窯ではおそらく内湾するタイプの「斗笠椀」は生産していない。ではこの形はどういうことなのか。

これには、同じ福建省でつくられた建盞を代表とする黒釉陶器類を類例として挙げたい。

黒釉陶器の椀（盞）には体部が斜め上方に真っすぐ伸び、口縁部直口あるいはやや外反気味の「斗笠椀」と、口縁部やや下で屈曲させ、さらに口縁部を強くナデることで独特の屈曲した口縁形態—所謂「スッポン口」の「天目椀」<sup>45)</sup>（本稿では以下この形を天目椀と呼ぶ。）がある。

「天目椀」も大きく括れば内湾する「斗笠椀」と言え、この器形が他の時代にはほとんど見ないことを考えると、器の形も、北宋後期から南宋前半に“流行”した形と推測することが可能ではなかろうか。

#### 福建省産の内湾する「斗笠椀」

先に引用したように今井氏は、福建省の



類似の青磁を生産した窯址のうち「生産規模が大きい窯はどこか、比較的質の高い製品を焼いた窯はどこか、あるいは発祥が古い窯、周囲の窯に対し影響力をもった窯はどこかなどの点について、今のところほとんどまったく展望が得られていないといつてよい。」<sup>46)</sup>と指摘した。この状況は、研究が進展した今も変わらないように見受けられる。だとすればこの状況こそが当該期の福建省産青磁の特徴であり、多数の窯で生産された類似の内湾する「斗笠椀」青磁は何かの流行の反映と推測されるのではなかろうか。

これまで述べてきた福建省産の内湾する青磁「斗笠椀」(所謂「同安窯」系青磁の椀)の特徴をもう一度まとめると

- ・福建省内では11世紀後半ごろから生産が始まった器形である。
- ・文様は耀州窯青磁の加飾「斗笠椀」の影響を受けており、これを口縁部付近で曲げた独特の形態をとる。
- ・福建省では12世紀以降、多数の窯で類似の器形を生産している。
- ・北宋後期に始まって、浙江省では生産が低下する南宋前半も量産している。
- ・京都では12世紀第4四半期を中心とする50年程度の短期間しか入らない。
- ・博多では12世紀代の遺構から丁寧な作りの先行形態の椀(浙江省産含む)が出土するが、それらは出土の様相から日本向けの商品とは考え難い。

と言った点が挙げられる。

またこれらの整理から、この椀の背景にある流行は、11世紀後半(北宋後期)から始まり、12世紀(北宋後期から南宋前期)

に盛行し、13世紀前葉(南宋中期)には浙江省では下火だが福建省ではなお流行っていたものであると読み取れる。

そして器形から、用途は耀州窯青磁の「斗笠椀」、あるいは黒釉陶器の「天目椀」に近いものと推測できるのではなかろうか。なお前者は煎茶、後者は点茶の「茶碗(盞)」として利用された器である。

ところで、宋代の「茶」について検討した高橋忠彦氏は、北宋代には福建団茶を賛美し「点茶」一辺倒であるが、南宋では「団茶点茶は滅びはしないが、その位置は相対化され、むしろ煎茶に親しみ、草茶を味わう風が前面に表れてくる。」<sup>47)</sup>というように、時代によって飲茶の方法と認識が変化していると論じた。

「茶」の歴史について筆者は門外漢であるし、出土資料から椀の用途を特定することは難しいことで、本稿の趣旨を逸脱するため論を重ねられないが、福建省産青磁の生産期間と南宋にも福建省では引き続き流行していた団茶・点茶の関係については議論の余地があるのではないかと感じた次第である。

## おわりに

量と付随する情報の多さのために本稿では櫛描文・劃花文青磁を中心に論じたが、本来12世紀後半から13世紀前半は、白磁・青白磁・青磁・施釉陶器などの他器種・多器形が共伴する日本輸入陶磁史上最も多器種・多器形の時代である。その背景については前稿で論じたので繰り返さないが、青白磁や施釉陶器類が共伴する多様な

状況は14世紀まで続くものの、13世紀後半には出土量の主となる供膳具類が、龍泉窯系の鎬連弁文青磁と所謂「口禿」白磁に淘汰されて、全体的な様相と印象はやや画一的な方向に変化する。13世紀の輸入陶磁器の理解の難しさは、13世紀を通じて同じ龍泉窯系青磁があり続けるのに、器形の印象が非連続的に変化する分かりにくさに起因すると考えられる。

この状況を分解せずに説明する力量が筆者には無いが、一方で、出土資料の評価は共伴する全ての遺物による全体像を重要視する発掘調査技師の心得から逸脱する点は、反省点である。全体像を示せなかったが、京都市内では共伴する輸入陶磁器が白磁だけで構成されている13世紀初頭の遺構もある。なお本稿の目的の一つには、考古学が潜在的に持つ「古い方が良いバイアス」へのささやかな抵抗もある。

あかまつ かな 赤松 佳奈 (文化財保護課 文化財保護技師 (埋蔵文化財担当))

年代観は仮説とは言え、なるべく事実に近い調査年代を検討しようと努力することが、自分のフィールドとする地域への誠意であることを諸先輩から教えていただいて今があります。感謝しています。

本稿を執筆にあたり以下の皆様・機関にはお世話になりました。記して感謝の意を表します。

上村和直、内田好昭、大立目一、尾野善裕、上別府亜紀、國下多美樹、児玉光代、佐藤隆、高橋潔、陳彦如、徳留大輔、新田和央、水橋公恵、平尾政幸、丸川義広、山本雅和、吉川義彦 関西文化財調査会、公益財団法人元興寺文化財研究所、公益財団法人京都市埋蔵文化財、古代文化調査会、株式会社文化財サービス

また、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所、関西文化財調査会、平尾政幸氏には図データの提供をいただきました。

## 註

- 1) 「平安京左京五条二坊跡終了報告」関西文化財調査会2020 未報告、皿の底部調整や釉薬の範囲についての変化は調査担当者の平尾政幸氏よりご教示いただいた。SK751の出土資料については平尾氏より図の提供をいただき本稿図24に掲載。
- 2) 年代観については平尾政幸2019、12-13頁を使用。
- 3) 赤松佳奈2023、49-76頁。
- 4) 大宰府分類では龍泉・同安窯青磁0類、同安窯青磁、龍泉窯青磁I類と分類されるもの。横田賢次郎・森田勉1978
- 5) 李輝柄1974、80-84頁。
- 6) 亀井明德1995、66-67頁
- 7) 森達也2008、140頁
- 8) 徳留大輔・平原英俊ほか2018、84頁
- 9) 今井敦1995、111頁。
- 10) 今井1995、111頁。
- 11) 今井1995、111・112頁。
- 12) 今井1995、112頁。
- 13) 橋本素子・三笠景子2022、徳留大輔2023
- 14) 赤松2020を下に分類した。
- 15) 田中克子2019、57-66頁
- 16) DD群とその他の群に分かれることに気が付いたのが遅かったため、まとまった統計データが取れていない。実測図の集成時にはその他の群を意識的に集めたのでその他の群の割合がやや高くなっているが、出土資料の実態は左京八条四坊二町跡や左京八条三坊八町跡の発掘調査データのようにほとんどがDD群

である場合が多い。データの抽出は今後の課題とする。

| 資料       | 総数  | DD群 | その他 | DD群割合 | その他割合 |
|----------|-----|-----|-----|-------|-------|
| 集成椀      | 16  | 12  | 4   | 80%   | 20%   |
| 集成皿      | 57  | 53  | 4   | 93%   | 7%    |
| 左 8402 椀 | 16  | 15  | 1   | 94%   | 6%    |
| 左 8308 皿 | 321 | 318 | 3   | 99%   | 1%    |
|          |     |     | 平均  | 91.4% | 8.6%  |

- 17) 『上林湖越窯』古陶磁学術研究基金会叢書 慈溪市博物館・謝純竜編、科学出版社、2002年。
- 18) 『平安京左京八条三坊』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第6冊 財団法人京都市埋蔵文化財研究所1982年
- 19) 前掲註1)。
- 20) 故宮博物院・福建省文物管理委員会1957、文物出版社56頁、李輝柄1974、80-84頁。
- 21) 前掲註6)、7)。
- 22) 今井1995、112頁
- 23) 福建省の各窯採集資料は『近年発見の窯址出土中国陶磁展』(出光美術館1982)や『東アジアの海とシルクロードの拠点福建—沈没船、貿易都市、陶磁器、茶文化—』(海のシルクロードの出発点“福建”展開催実行委員会2008)を参考にした。類似性と多様性が見取れる。
- 24) 徳留2023「なおこの時期の龍泉窯青磁では、いわゆる初期龍泉窯青磁のタイプは見られない。」178頁。という指摘は同じ現象を指していると筆者は解釈した。
- 25) 亀井1992、2014。
- 26) 田中2019、57-66頁。
- 27) 図14の引用文献については表1にまとめた。
- 28) 図14の引用文献については表1にまとめた。
- 29) 田中2019、57-66頁。
- 30) 曾凡1983「福建順昌大坪林場宋墓」、35-39頁
- 31) 曾凡1983「福建陶磁の歴史」、177~179頁。
- 32) 浙江省文物考古研究所・龍泉青瓷博物館2019
- 33) 前掲註32)、214-218頁。
- 34) 前掲註32)、189-197頁。
- 35) 前掲註32)、415) YA3-17TG1⑤c:3が註26)の報告書では最も新しい。
- 36) 亀井2014、472頁。
- 37) 森2015、205頁。

- 38) 田中2019、73頁。
- 39) 櫛描文の青白磁の椀は京都では早いものでは5A段階(1110-1140)、文様が洗練されたものは5B段階(1140-1170)に出土する。
- 40) 前掲註23)、京都では6A段階になると景德鎮窯産青白磁よりも胎土や釉調の粗い青白磁の合子が出土する。
- 41) 亀井1995、27頁。図は椀1類：博多遺跡群第39次調査『博多14』—博多遺跡群第39次調査概報一、福岡市埋蔵文化財調査報告書第229集、福岡市教育委員会、1990年、115頁、Fig.115  
椀Ⅱ-1類：『都市計画道路博多駅築港線関係埋蔵文化財調査報告Ⅰ博多』、福岡市埋蔵文化財調査報告書第183集、福岡市教育委員会1988年、24頁Fig.32より引用。
- 42) 森2015、79頁。
- 43) 森2015、80頁。
- 44) 襦振西/杜文2004、80頁、拓本109頁
- 45) 通常、中国産の黒釉陶器椀、特に建窯の蓋については、形態に関わらず「天目椀」と呼称されることが多い。
- 46) 今井1995、112頁。
- 47) 高橋1991、112頁。

## 引用・参考文献

- 赤松佳奈「京都出土中国産陶磁器の形・質・割合とその背景(1)—平安時代前・中期の文化人が憧れたものは何か—」『京都市文化財保護課研究紀要第3号』京都市文化市民局文化財保護課、2020年、157-204頁
- 赤松佳奈「京都出土中国産陶磁器の形・質・割合とその背景(2-1)—白磁分類への問題提起—」『京都市文化財保護課研究紀要第4号』京都市文化市民局文化財保護課、2021年、93-116頁。
- 赤松佳奈「京都出土中国産陶磁器の形・質・割合とその背景(2-2)—量と質の変様—」『京都市文化財保護課研究紀要第6号』京都市文化市民局文化財保護

- 課2023年、49-76頁。
- 今井敦「四 鎌倉時代」中国の陶磁『第12巻 日本出土の中国陶磁』長谷部楽爾・今井敦編、平凡社、1995年、110-120頁
- 亀井明德『福建省古窯址出土陶磁器の研究』都北印刷出版、1995年
- 亀井明德『中国陶磁史の研究』六一書房、2014年
- 嵯振西/杜文『耀州窯瓷』—中国名窯名磁器シリーズ2—嵯振西・杜文著、北村永訳、株式会社二玄社、2004年
- 曾凡「福建順昌大坪林場宋墓」『文物1983-8』、1983年、35-39頁
- 曾凡「福建陶磁の歴史」『中国陶磁全集27 福建陶磁』中国上海人民美術出版社・株式会社美乃美、1983年
- 高橋忠彦「唐宋を中心とした飲茶法の変遷について」『東洋文化研究所紀要第109冊』東京大学東洋文化研究所、1989年
- 高橋忠彦「宋詩より見た宋代の茶文化」『東洋文化研究所紀要第115冊』東京大学東洋文化研究所、1991年
- 田中克子「「博多」にもたらされた中国陶磁器—国内消費地との比較材料として—」『貿易陶磁器と東アジアの物流』平泉・博多・中国、藪敏裕・森達也・徳留大輔編集、岩手大学平泉文化研究センター、2019年、51-78頁
- 徳留大輔、平原英俊、桑静、田上勇一郎、栗建安、羊澤林、沈岳明、會澤純雄「ポータブル複合X線分析による中世前半期の中国産陶磁器の産地推定に関する研究：福建・浙江産陶磁器の研究を事例に」『東洋陶磁』四十八号、東洋陶磁学会、2018年、75-92頁
- 徳留大輔「所謂「珠光茶碗」に関する一考察—櫛描文青磁を中心に—」『出光美術館研究紀要第二十八号、出光美術館、2023年、163-191頁
- 中野徹「宋代陶磁の文様」『世界陶磁全集12 宋代』小学館、1977年、297-313頁
- 中野徹 編、小川忠博 写真『展開写真による中国の文様』平凡社、1985
- 橋本素子・三笠景子編著『茶の湯の歴史を問い直す—創られた伝説から真実へ』筑摩書房、2022年
- 平尾政幸「土師器再考」『洛史 研究紀要第12号』公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2019年、9-150頁
- 水上和則「窯道具から見た龍泉窯櫛描紋青瓷碗の位置づけ」『専修人文論集84号』専修大学学会、2009年、315-351頁
- 森達也「福建の陶磁器と窯址—日本との関係から—」『東アジアの海とシルクロードの拠点福建—沈没船、貿易都市、陶磁器、茶文化—』海のシルクロードの出発点“福建”展開催実行委員会、2008年
- 森達也『中国青瓷の研究—編年と流通—』汲古書院、2015年
- 森達也「大陸と列島をつなぐ陶磁器流通ルートの様相—11～12世紀を中心に—」『貿易陶磁器と東アジアの物流』平泉・博多・中国、藪敏裕・森達也・徳留大輔編集、岩手大学平泉文化研究センター、2019年、79-110頁
- 横田賢次郎・森田勉「大宰府出土の輸入中国陶磁器について—型式分類と編年を中心として—」『九州歴史資料館研究論集』四、1978年、1-26頁
- 山本信夫『大宰府条坊跡X V』—陶磁器分類編—大宰府市の文化財 第49集 大宰府市教育委員会、2000年
- 李輝柄「福建同安窯調査記略」『文物』1974年11期、文物出版社、1974年

故宮博物院・福建省文物管理委員会「調査南古代窯址小記」『文物参考資料』1957年9期 文物出版社、1957年  
浙江省文物考古研究所・龍泉青瓷博物館編、『龍泉金村窯跡群2013～2014年調査試掘報告』文物出版社、2019年

#### 図8引用文献

南海沈船：『—中国・南海沈船文物を中心とする—はるかなる陶磁の海路展』田辺昭三監修 朝日新聞社1993、30頁をトレース、模式図化  
博多遺跡『—中国・南海沈船文物を中心とする—はるかなる陶磁の海路展』田辺昭三監修 朝日新聞社1993、70頁74右をトレース、模式図化  
左京八条三坊七町：『平安京左京八条三坊』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第6冊 財団法人京都市埋蔵文化財研究所1982 SD24出土品を実測、模式図化  
大宰府15)：『大宰府条坊跡X V—陶磁器分類編—』太宰府市教育委員会2000、38頁、Fig13のI-3a、I-4b、を下にトレース、模式図化  
博多16-SK749：『博多16—博多遺跡群第37次調査報告—』福岡市埋蔵文化財調査報告書第244集 福岡市教育委員会1991、129頁Fig.263を転載

#### 図14・16引用文献

博多港湾線第1次調査-SE39-1063：『都市計画道路博多駅築港線関係埋蔵文化財調査報告I 博多』、福岡市埋蔵文化財調査報告書第183集、福岡市教育委員会、1988年、24頁、Fig.32  
港湾線第2次-683号土壌(木棺墓)16：『都市計画道路博多駅築港線関係埋蔵文化財調査報告(Ⅱ) 博多』福岡市教育委

員会、福岡市埋蔵文化財調査報告書第184集、1988年、134頁205  
港湾線第2次-649号土壌11：(同)127頁195  
原遺跡-SR062-260：『原遺跡14』—第26次調査—福岡市埋蔵文化財調査報告書第1167集、福岡市教育委員会、2012年、46頁、第37図  
高速鉄道IV-F区2・11・12：『福岡市高速鉄道関係埋蔵文化財報告VI』—高速鉄道関係調査(3)—福岡市埋蔵文化財調査報告書第156集、福岡市教育委員会1987年、90頁Fig.74

#### 参考図書

『近年発見の窯址出土中国陶磁展』出光美術館、1982年  
『唐物茶碗』淡交社、2021年  
『世界陶磁全集12 宋代』小学館、1977年  
『中国陶磁全集27 福建陶磁』中国上海人民美術出版社・株式会社美乃美、1983年  
『中国陶磁通史』中国珪酸塩学会、1991年  
『東アジアの海とシルクロードの拠点福建—沈没船、貿易都市、陶磁器、茶文化—』海のシルクロードの出発点“福建”展開催実行委員会、2008年  
『日本出土の中国陶磁』平凡社版中国の陶磁12、長谷部楽爾・今井敦編、平凡社、1995年  
『日本人と茶—その歴史・その美意識』京都国立博物館、2002年  
『上林湖越窯』古陶磁学術研究基金会叢書 慈溪市博物館・謝純竜編、科学出版社、2002年  
『龍泉金村窯跡群2013～2014年調査試掘報告』浙江省文物考古研究所・龍泉青瓷博物館編、文物出版社、2019年



表1 出土地点一覧表

| 器種 | 分類  | 器形     | 時期    | 出土地点     | 遺構          | 掲載番号            |
|----|-----|--------|-------|----------|-------------|-----------------|
| 青磁 | D ? | 椀      |       | 左 4214   | SK2642      | 278             |
| 青磁 | D ? | 椀      |       | 左 5309 ① | SE08        | 未               |
| 青磁 | D ? | 椀      |       | 左 6313   | 烏丸線No. 58   |                 |
| 青磁 | D   | 椀 or 鉢 | 5B    | 右 3101   | SD100       | 73              |
| 青磁 | D   | 椀 or 鉢 |       | 上京遺跡     | 土坑 268      | 26-21           |
| 青磁 | D   | 椀      | 6A    | 左 7312   | 土坑 55       | 73・74           |
| 青磁 | D   | 椀      | △ 6A  | 左 837    | SD24        | 278・288・289     |
| 青磁 | D   | 椀      | 6AB   | 左 447    | 井戸 172      | 137             |
| 青磁 | D   | 椀      | △ 6AB | 左 8402   | SE265       | 130             |
| 青磁 | D   | 椀      |       | 左 8402   | SE155       | 未               |
| 青磁 | D   | 椀      |       | 左 9310   | 土坑 405      | 457             |
| 青磁 | D   | 椀      |       | 円勝寺①     | 溝 900       | 275             |
| 青磁 | D   | 椀      |       | 左 8316   | 近世土坑 (SK5)  | 16・未            |
| 青磁 | D   | 椀      | 6B    | 左 8402   | SK150       | 141             |
| 青磁 | D   | 椀      |       | 左 9308   | 土坑 71       | 26              |
| 青磁 | D   | 椀      |       | 左 4304   | 土坑 4        | 159             |
| 青磁 | D   | 皿      | 6A    | 左 3210   | 溝 1315      | 209             |
| 青磁 | D   | 皿      | 6A    | 左 6305   | 土坑 2345     | 38-61・62        |
| 青磁 | D   | 皿      | 6A    | 右 3104   | SD100       | 85              |
| 青磁 | D   | 皿      | △ 6A  | 左 837    | SD24        | 263～271・274・276 |
| 青磁 | D   | 皿      | 6B    | 右 636    | SB79        | 637             |
| 青磁 | D   | 皿      | 6B    | 左 5211   | 地下室 2123    | 144             |
| 青磁 | D   | 皿      | 6B    | 白河街区     | 土器溝 329     | 111・112         |
| 青磁 | D   | 皿      |       | 左 4304   | 土坑 9 (室町)   | 210             |
| 青磁 | D   | 皿      |       | 上京遺跡     | 土取穴 211     | 82              |
| 青磁 | D   | 皿      | 6B    | 左 5204   | 井戸 57       | 85              |
| 青磁 | D   | 皿      | 6B    | 左 4312   | SK0822      | 140             |
| 青磁 | D   | 皿      | 6B    | 左 7310   | SD786       | 55～57           |
| 青磁 | D   | 皿      | 6C    | 円勝寺②     | 溝 2220B 東護岸 | 216             |
| 青磁 | D   | 皿      | 6C    | 左 5210   | SK751       | 77～82           |
| 青磁 | D   | 皿      |       | 左 5309 ② | 土坑 505      | 116             |
| 青磁 | D   | 皿      | 6C    | 左 5309 ② | 地下式倉庫 370   | 293             |
| 青磁 | D   | 皿      | 6C    | 左 4214   | SK2276      | 483             |
| 青磁 | D   | 皿      | △ 7A  | 左 5316   | 土壙墓 157     | 218             |
| 青磁 | D   | 皿      | △ 7A  | 法住寺      | 井戸 4-250    | 311～313         |
| 青磁 | D   | 皿      |       | 左 9308   | 井戸 223      | 32              |
| 青磁 | D   | 皿      |       | 左 617    | 土坑 4        | 1・2             |
| 青磁 | D   | 皿      |       | 左 7211   | SD1239      | 293～297         |
| 青磁 | D   | 皿      |       | 左 9310   | 池 1121      | 450・452         |
| 青磁 | D   | 皿      |       | 左 9310   | 整地層 1       | 453             |
| 青磁 | D   | 皿      |       | 左 9310   | 土坑 576      | 454             |
| 青磁 | D   | 皿      |       | 左 9310   | 土坑 33       | 455             |
| 青磁 | D   | 皿      |       | 左 9310   | 井戸 163      | 449             |
| 青磁 | D   | 皿      |       | 左 9310   | 井戸 164      | 451             |
| 青磁 | R   | 椀      | △ 6A  | 左 837    | SD24        | 279～287・290     |
| 青磁 | R   | 椀      | 6A    | 左 4312   | SK0387      | 118             |
| 青磁 | R   | 椀      | 6B    | 左 4214   | SX2700      | 413・414         |
| 青磁 | R   | 椀      | 6B    | 左 5211   | 地下室 2123    | 142・143         |
| 青磁 | R   | 椀      | 6BC   | 円勝寺①     | 土坑 616      | 383             |
| 青磁 | R   | 椀      |       | 左 8316   | 近世土坑        | 14・15           |
| 青磁 | R   | 椀      | △ 7A  | 法住寺      | 井戸 4-250    | 316・319         |
| 青磁 | R   | 椀      |       | 左 5309 ② | 土坑 505      | 118             |
| 青磁 | R   | 椀      |       | 左 9310   | 整地層 2       | 459             |
| 青磁 | R   | 椀      | △ 6BC | 左 6209   | 井戸 2961     | 489             |
| 青磁 | R   | 椀      | 6BC   | 左 7211   | SD1234      | 290             |
| 青磁 | R   | 椀      | 6B    | 左 4214   | SX2700      | 412             |
| 青磁 | R   | 椀      | 6B    | 左 7310   | SD786       | 59              |
| 青磁 | R   | 椀      | △ 7A  | 左 5316   | 土壙墓 157     | 217             |
| 青磁 | R   | 椀      |       | 左 8308   | SF290       | 193             |
| 青磁 | R   | 椀      |       | 左 8316   | 近世土坑        | 未               |
| 青磁 | R   | 椀      |       | 左 9310   | 整地層 1       | 456             |

| 器種 | 分類 | 器形     | 時期   | 出土地点     | 遺構          | 掲載番号        |
|----|----|--------|------|----------|-------------|-------------|
| 青磁 | R  | 椀 (小椀) | 6A   | 右 3103   | SD222/225   | 2-45、2-40   |
| 青磁 | R  | 椀      | 6B   | 左 7310   | SD786       | 58          |
| 青磁 | R  | 椀      | △ 6A | 左 5309 ② | SK450       | 134         |
| 青磁 | R  | 椀      |      | 常盤       |             | 28 ~ 30     |
| 青磁 | R  | 椀      |      | 上京       | 土坑 268      | 26-19       |
| 青磁 | R  | 椀      |      | 大藪       | 溝 2-C       | 67          |
| 青磁 | R  | 椀      |      | 左 9216   | 井戸 394      | 73          |
| 青磁 | R  | 皿      | △ 6A | 左 837    | SD24        | 272・273     |
| 青磁 | R  | 皿      | 6B   | 右 616    | SG26        | 605         |
| 青磁 | R  | 皿      |      | 左 617    | 土坑 4        | 3・4         |
| 青磁 | R  | 皿      |      | 左 830405 | SK108       | 482         |
| 青磁 | R  | 皿      |      | 左 3304   | SK27        | 127         |
| 青磁 | R  | 皿      |      | 円勝寺②     | 溝 2220B 東護岸 | 215         |
| 青磁 | R  | 皿      | △ 7A | 法住寺      | 井戸 4-250    | 314・316・319 |
| 青磁 | R  | 皿      |      | 円勝寺②     | 溝 5115      | 438         |
| 青磁 | R  | 皿      | 6B   | 左 5211   | 地下室 2123    | 145         |
| 青磁 | R  | 椀 (蓮弁) | 6B   | 円勝寺①     | 土坑 616      | 382         |
| 青磁 | R  | 椀 (蓮弁) | 6B   | 左 5211   | 地下室 2123 下層 | 202・203     |
| 青磁 | R  | 椀 (蓮弁) | 6BC  | 左 6209   | 井戸 2961     | 488         |
| 青磁 | R  | 椀 (蓮弁) | 6BC  | 左 7211   | SD1239      | 290         |
| 青磁 | R  | 椀 (蓮弁) | 7A   | 左 5316   | 土壙墓 157     | 215・216     |
| 青磁 | R  | 椀 (蓮弁) | 6C   | 左 5210   | SK751       | 75・85       |
| 青磁 | R  | 椀 (蓮弁) | 6Cn  | 左 6209   | 土坑 2842     | 548・549     |

表 2 引用報告書一覧

| 出土地点     | 報告書  |
|----------|--|
| 左 3210   | 『平安京左京三条二坊十町 (堀河院) 跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007-17 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2008                  |
| 左 3304   | 『平安京左京三条三坊四町跡・烏丸御池遺跡』『京都市内遺跡試掘調査報告令和元年度』京都市文化市民局 2020                                |
| 左 3307   |  |
| 左 4104   |  |
| 左 4214   | 『平安京左京四条二坊十四町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2003-5 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2003                         |
| 左 4304   | 『平安京左京四条三坊四町・烏丸綾小路遺跡』株式会社日開調査設計コンサルタント 文化財調査報告書第 2 集 株式会社ニッセン 株式会社日開調査設計コンサルタント 2007 |
| 左 4312   | 『平安京左京四条三坊十二町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2006-26 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2007                        |
| 左 4407   | 『平安京左京四条四坊七町跡』—中京区甲屋町の調査— 古代文化調査会 2018   |
| 左 5204   | 『左京五条二坊四町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2013-10 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2014                          |
| 左 5210   | 未報告 平安京左京五条二坊十町跡 関西文化財調査会 EZT  |
| 左 5211   | 『平安京左京五条二坊十一町跡・烏丸綾小路遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2016-8 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2017               |
| 左 5309 ① | 『左京五条三坊 (1)』『昭和 56 年度京都市埋蔵文化財調査概要 (発掘調査編)』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1981                       |
| 左 5309 ② | 『平安京左京五条三坊九町跡・烏丸綾小路遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2008-10 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2008               |
| 左 5316   | 『平安京左京五条三坊十六町跡・烏丸綾小路遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-21 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2013                |
| 左 6107   | 『平安京左京六条一坊七町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2017-5 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2017                        |
| 左 6209   | 『平安京左京六条二坊九町跡・烏丸綾小路遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2018-10 公益財団法人京都市埋蔵文化財 2019                  |

| 出土地点               | 報告書   |
|--------------------|---|
| 左 6305             | 『平安京左京六条三坊五町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-8 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2005                   |
| 左 6314 (烏丸線 No.61) | 『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡発掘調査年報Ⅱ』京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1980                                   |
| 左 6313 (烏丸線 No.58) | 『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡発掘調査年報Ⅱ』京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1980                                   |
| 左 7211             | 『平安京左京七条二坊十一町跡(東市外町)発掘調査報告書』龍谷ミュージアム建設に伴う発掘調査学校法人龍谷大学 2010                    |
| 左 7310             | 平尾政幸 2019「土師器再考」『洛史 研究紀要 第12号』公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所                               |
| 左 7312             | 『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅲ』京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1981                                     |
| 左 830405           | 『平安京左京八条三坊四・五町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2009-7 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2009                 |
| 左 8307             | 『平安京左京八条三坊』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第6冊 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1982                            |
| 左 8308             | 『平安京左京八条三坊八町跡・東本願寺前古墓群』関西文化財調査会 2020  |
| 左 8316             | 「9 左京八条一坊」『昭和61年度京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1989                            |
| 左 8402             | 『平安京左京八条四坊二町跡・塩小路若山城跡』京都市文化財保護課発掘調査報告 2022-1 京都市文化市民局 2023                    |
| 左 9216             | 『平安京左京九条二坊十六町跡・御土居跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2014-9 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2015           |
| 左 9308 ①           | 『平安京左京九条三坊八町跡・烏丸町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2020-7 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2021           |
| 左 9308 ②           | 『平安京左京九条三坊八町跡・烏丸綾小路遺跡』文化財サービス発掘調査報告書第12集株式会社文化財サービス 2020                      |
| 左 9310             | 『平安京左京九条三坊十町跡・烏丸町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2013-15 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所               |
| 右 3101             | 平尾政幸 2019「土師器再考」『洛史 研究紀要 第12号』公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所                               |
| 右 3103             | 『平安京右京三条一坊三町(右京職)跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2001-3 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2002              |
| 右 3104             | 『平安京右京三条一坊四町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2004-16 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2005                  |
| 右 6106             | 『平安京右京六条一坊・左京六条一坊跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002-6 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2002              |
| 右 6306             | 『平安京右京六条一坊・左京六条一坊跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002-6 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2002              |
| 円勝寺①               | 『円勝寺・成勝寺・白河街区跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2015-17 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2016          |
| 円勝寺②               | 『円勝寺・成勝寺・白河街区跡・岡崎遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2017-16 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2018          |
| 法住寺                | 『京都国立博物館構内発掘調査報告書—法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡—』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第23冊 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2009 |
| 白河街区               | 『白河街区・吉田上大路町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2019-12 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2020               |
| 上京                 | 『上京遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2011-2 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2006                           |
| 常盤                 | 『常盤仲之町遺跡・上ノ段町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-6 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2006                 |
| 大藪                 | 『大藪遺跡・下久世構跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2022-4 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2023                   |

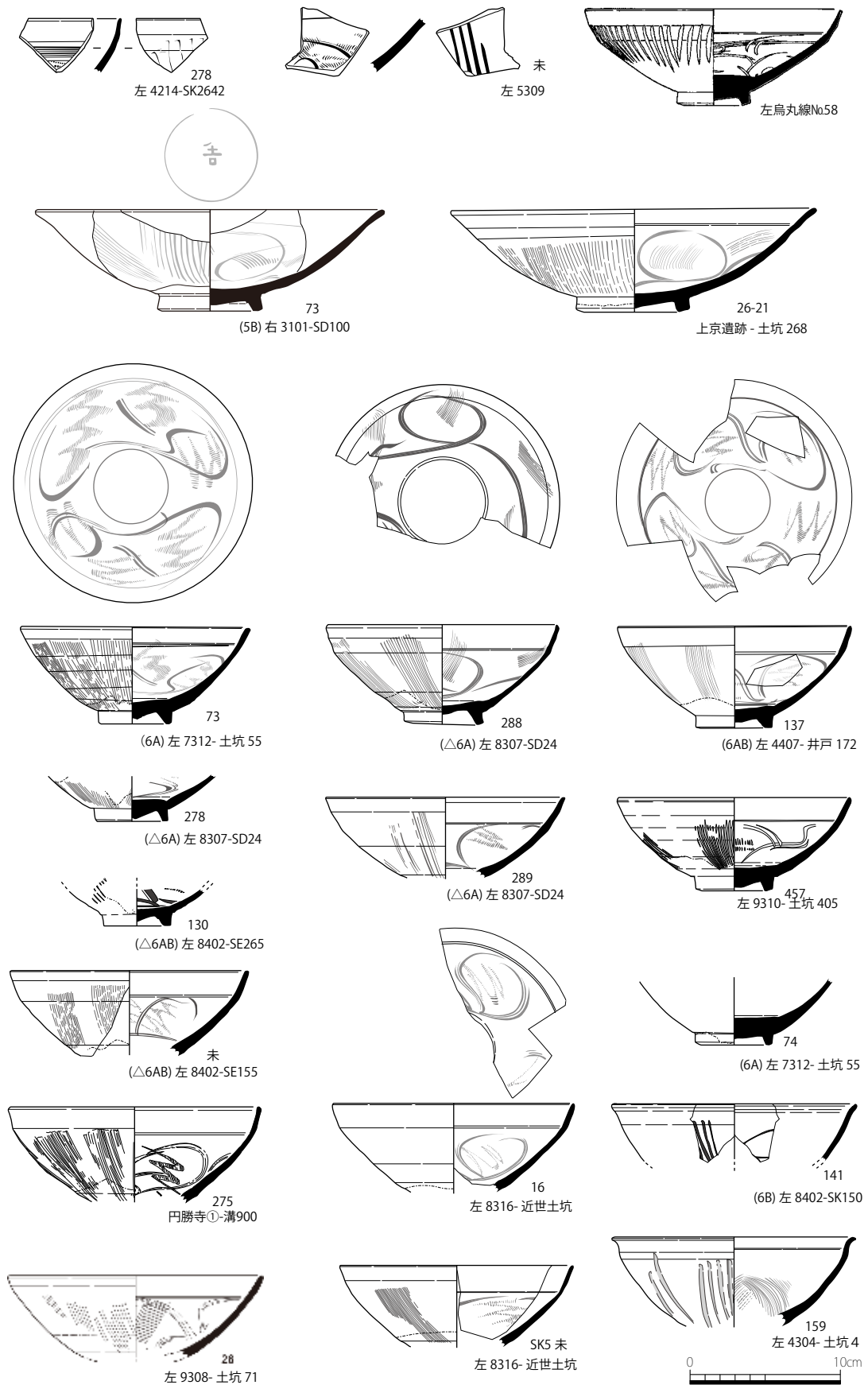


図19 京都出土遺物 (1) 青磁D群 椀

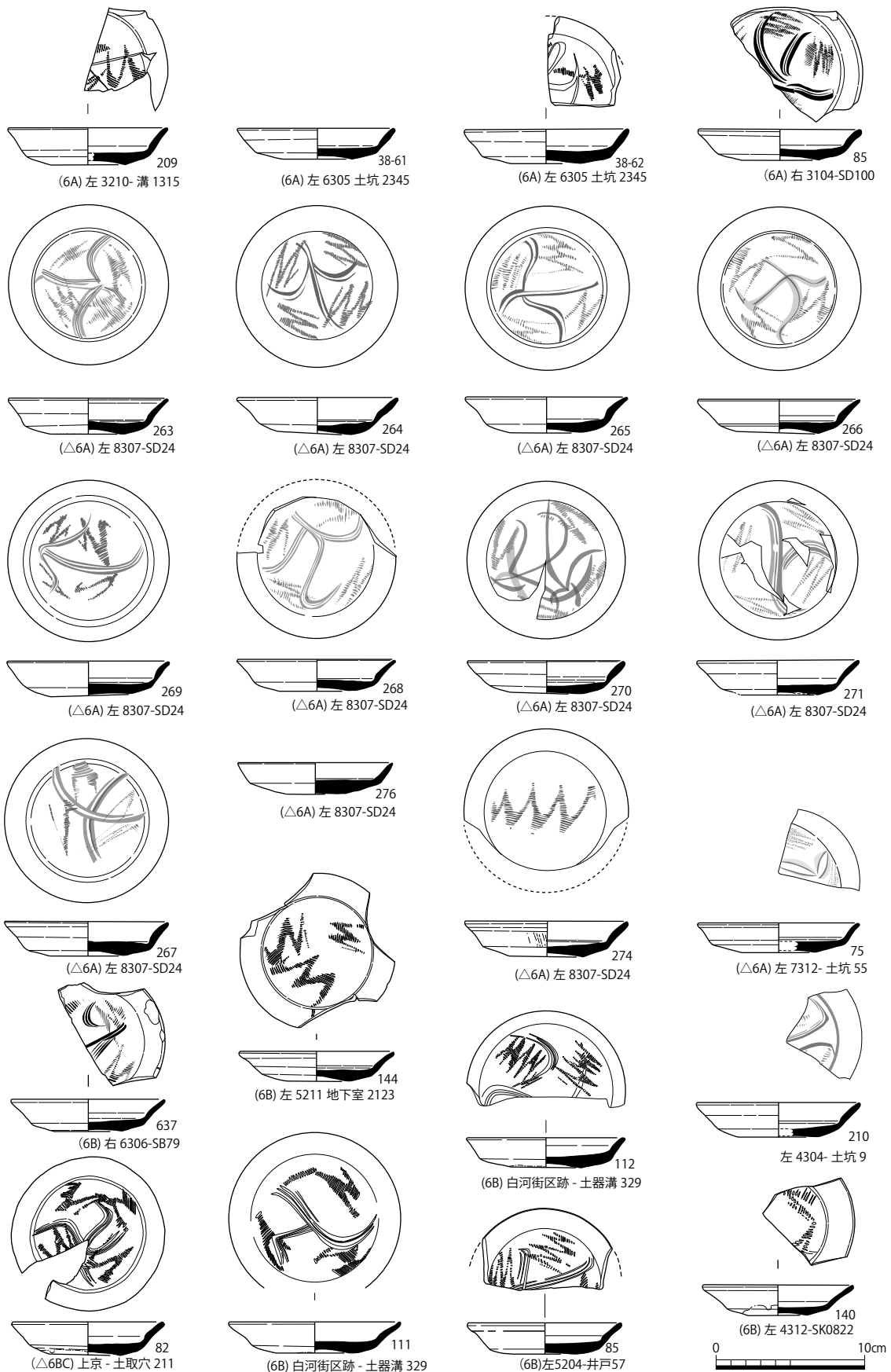


図20 京都出土遺物 (2) 青磁D群 皿



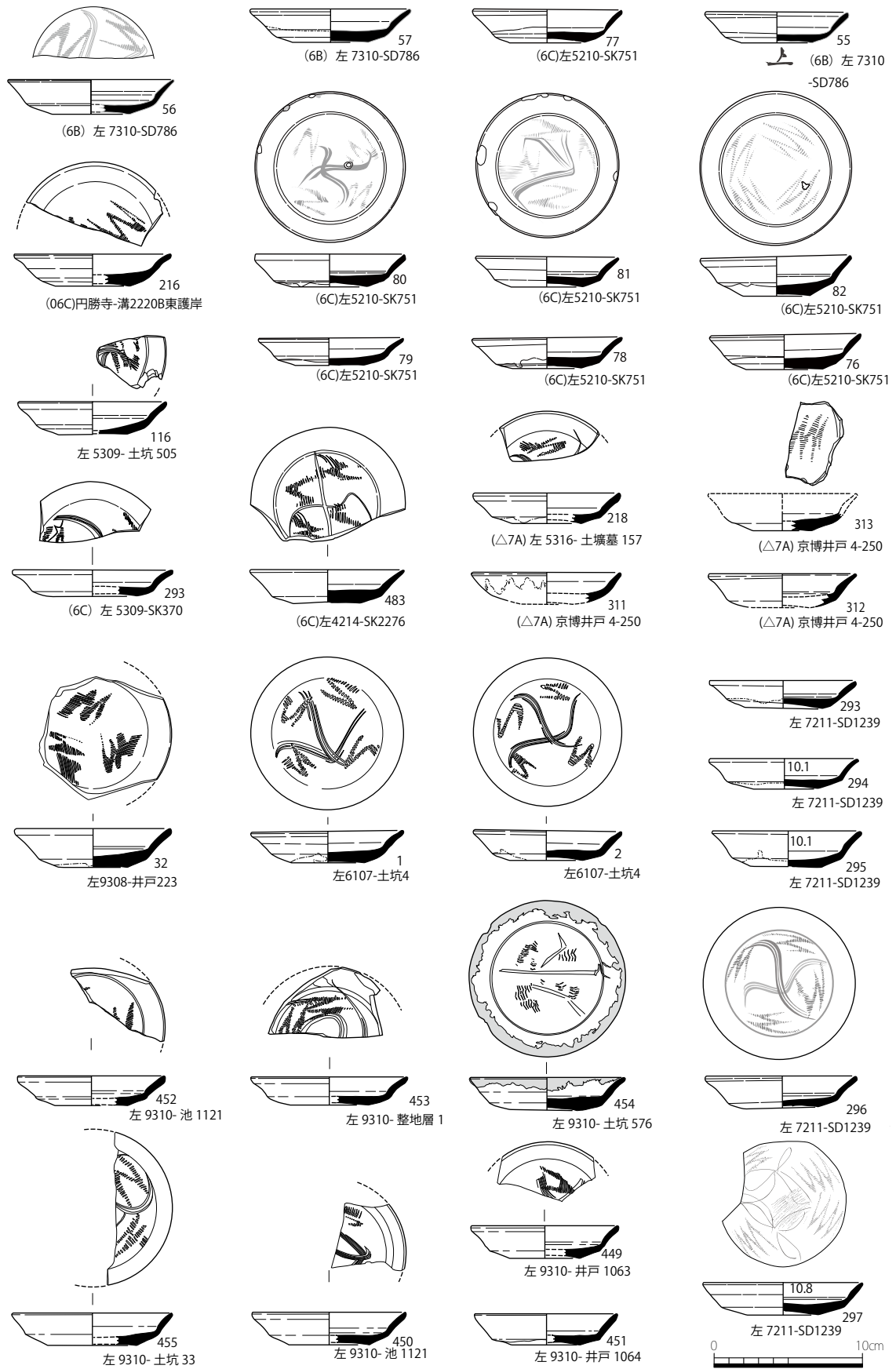


図21 京都出土遺物 (3) 青磁D群 皿

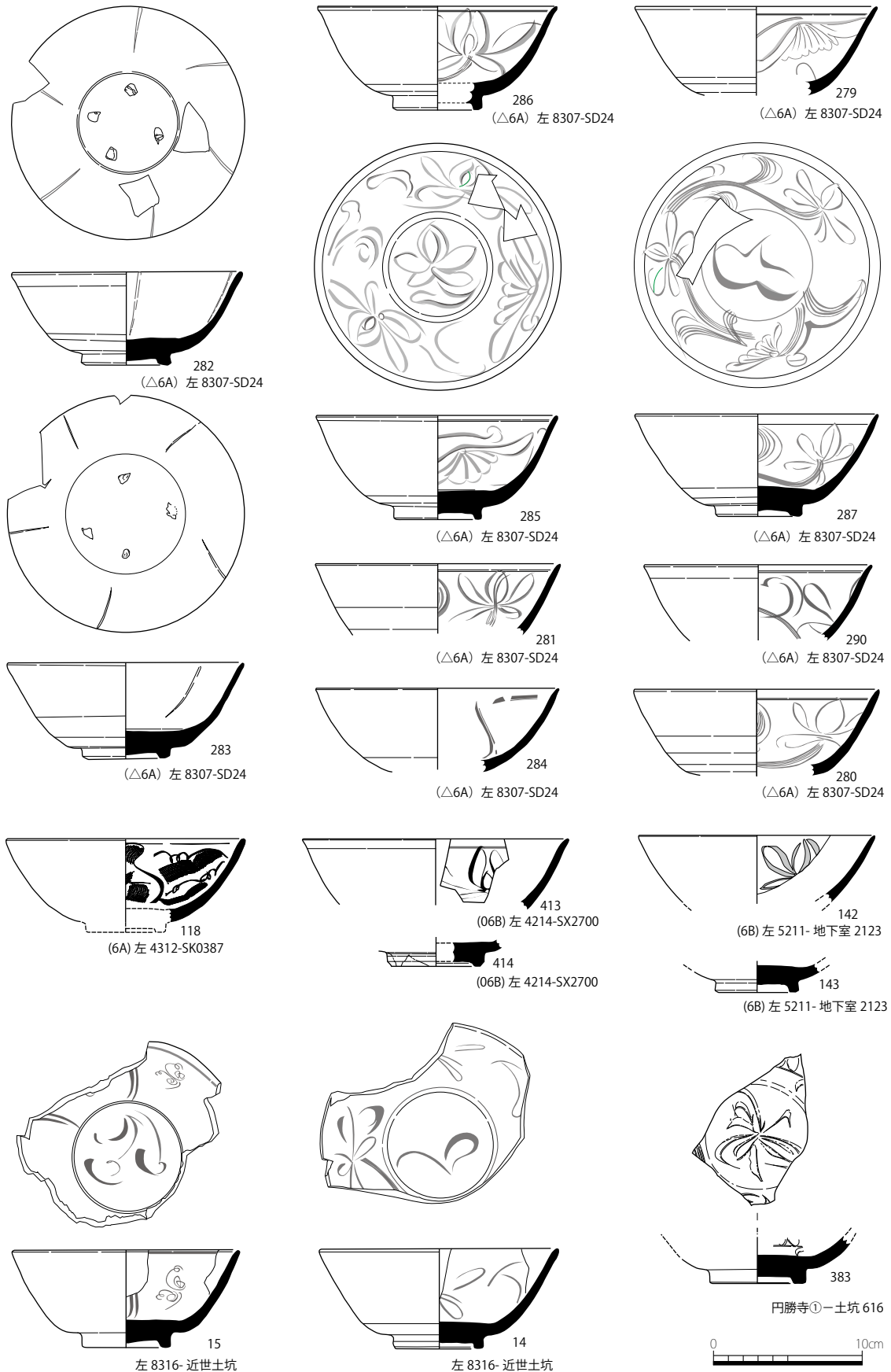


図22 京都出土遺物 (4) 青磁R群 椀

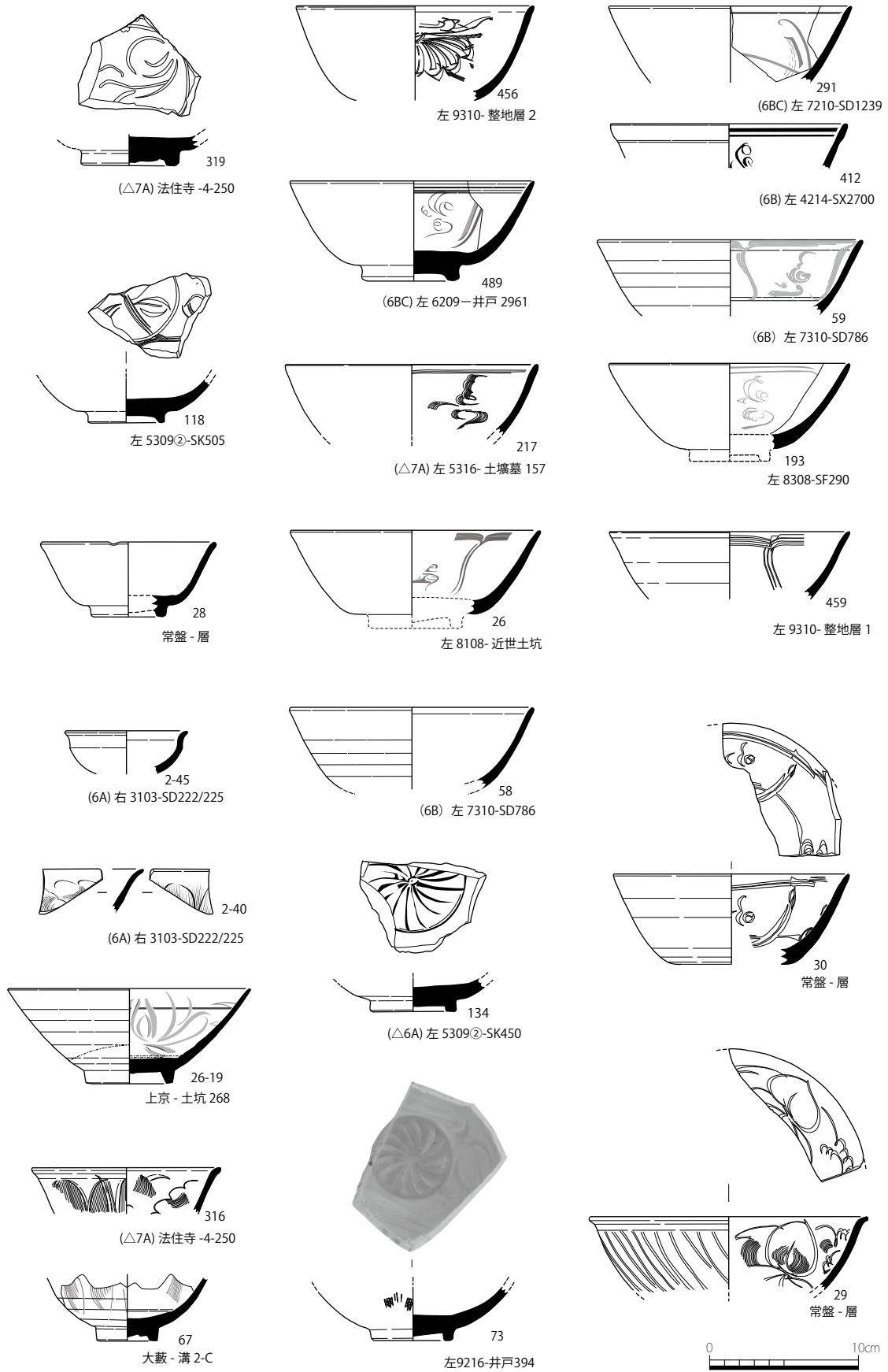


図23 京都出土遺物 (5) 青磁R群 椀

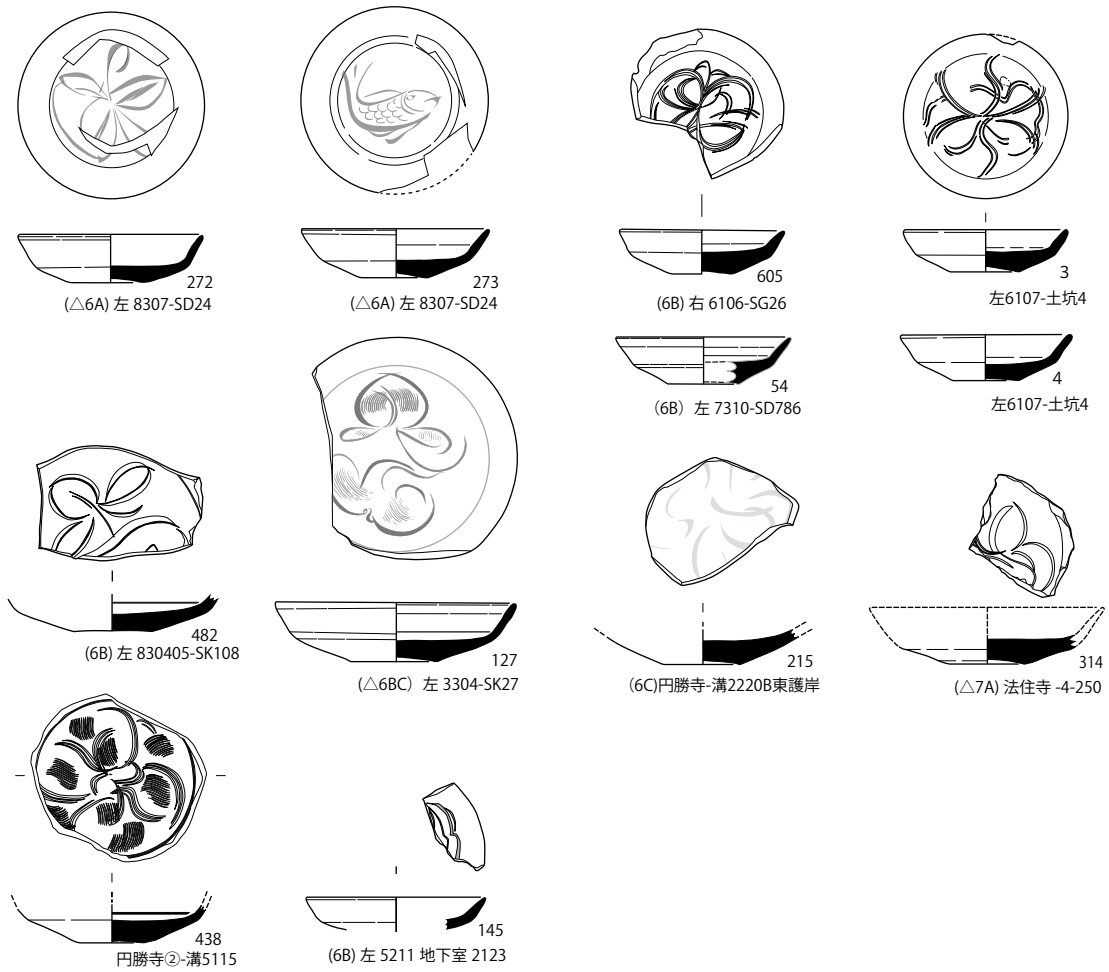


図 11 に使用した蓮弁文青磁

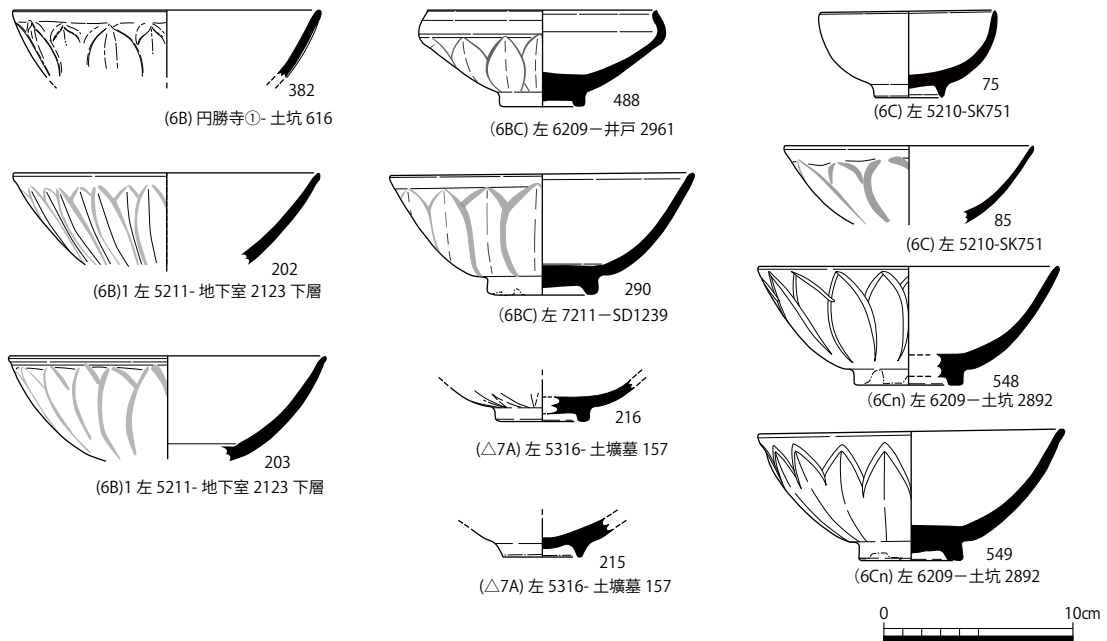


図 24 京都出土遺物 (6) 青磁 R 群 皿・蓮弁文碗

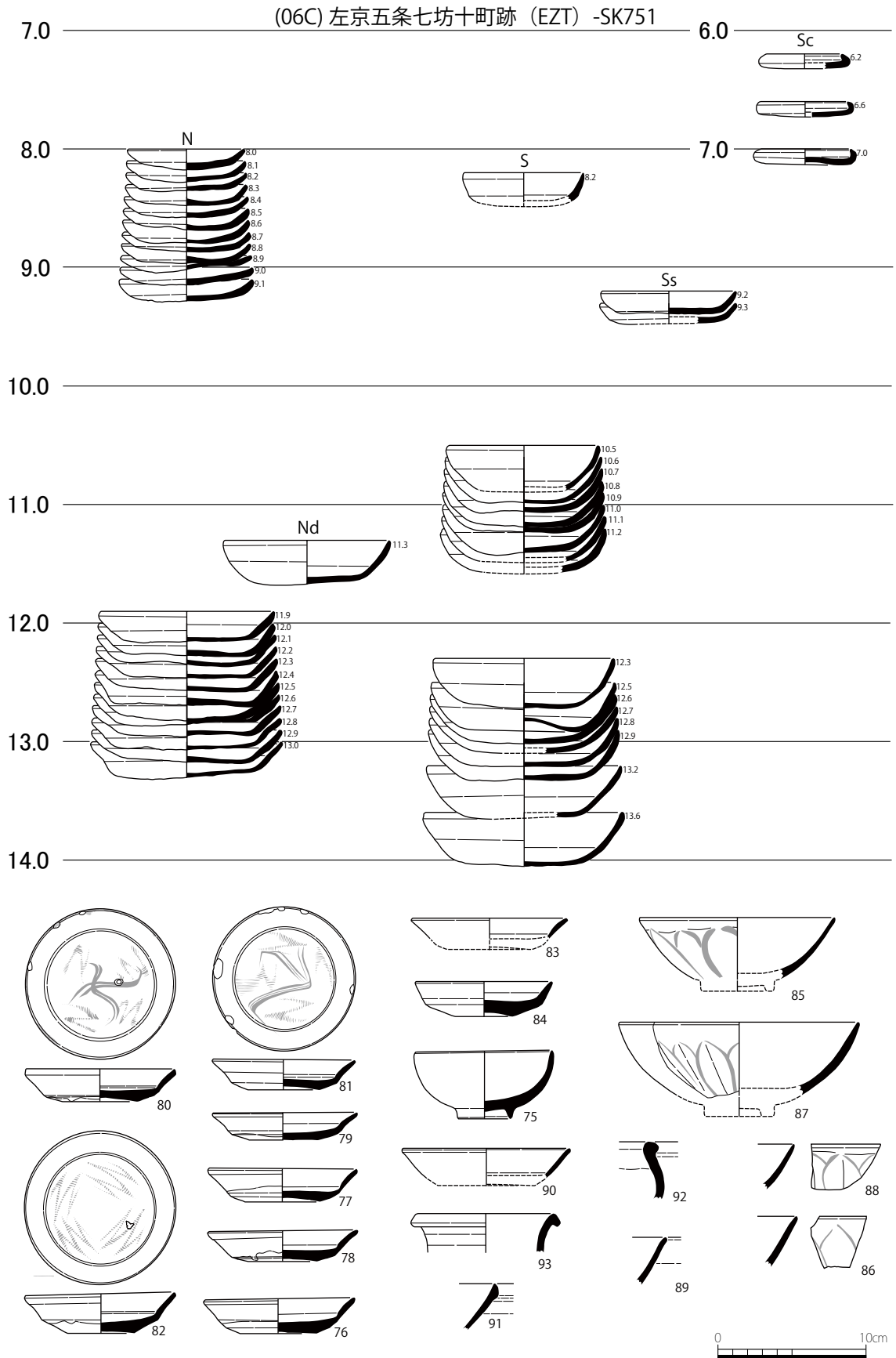
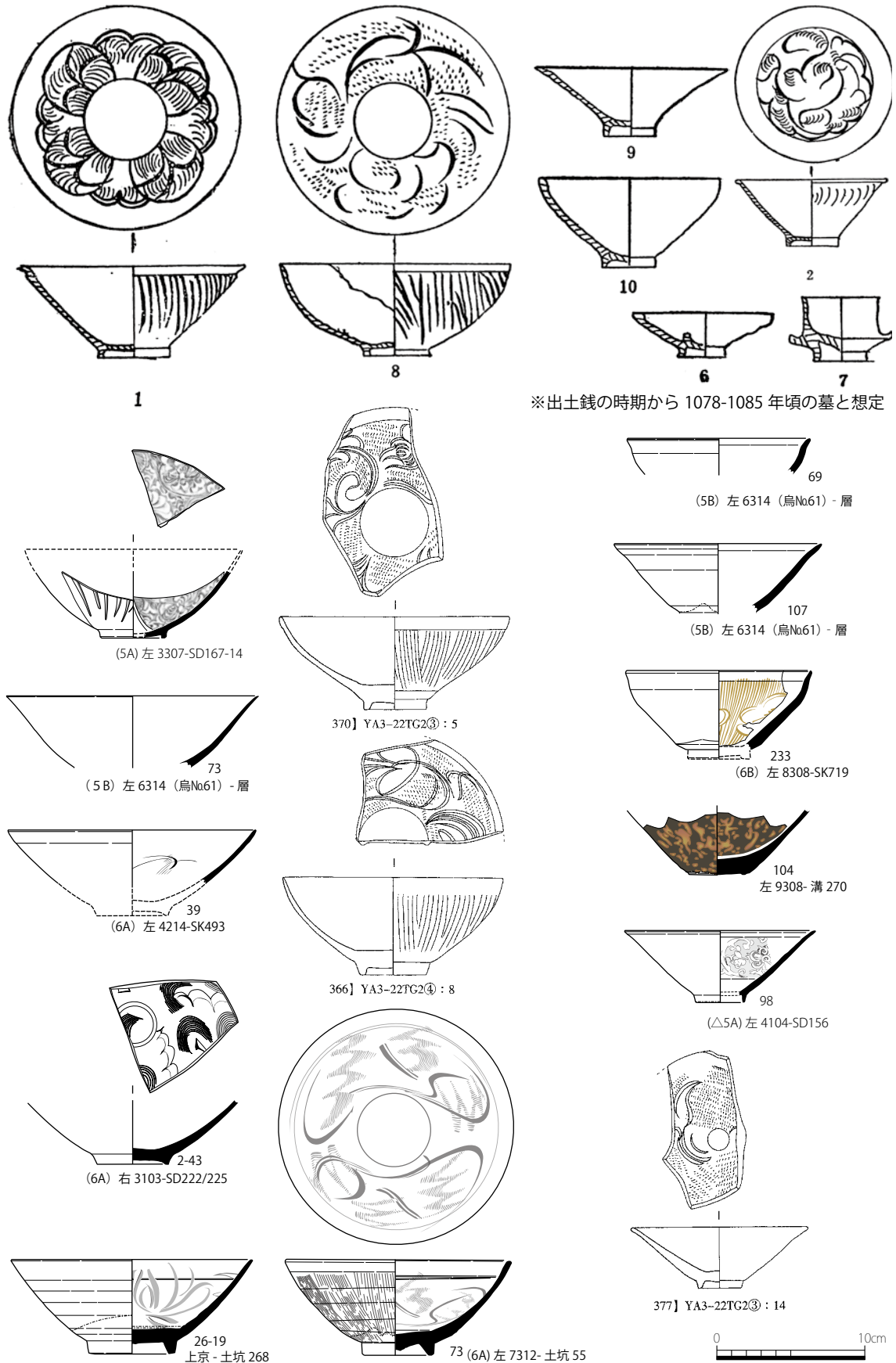


図25 左京五条七坊十町跡SK751出土遺物 (関西文化財調査会2020年調査)



福建省昌平県大坪林場宋墓出土の椀類



※出土銭の時期から 1078-1085 年頃の墓と想定

図 26 福建省昌平県大坪林場古墓出土の蓋類と 12 世紀後葉から 13 世紀出土の斗笠椀 (蓋) の大きさ比較

## 東山区栗田口高台寺山町地内発見の白磁について

赤松 佳奈・内田 好昭

### はじめに (図1)

本稿は、令和2年2月に寄付された鎌倉時代の中国産白磁碗の発見経緯についての記録およびその紹介である。当該資料は、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所（以下、研究所）の元職員・故本彌八郎氏の夫人から研究所に寄付されたもので、その経緯については研究所の内田が聞き取り調査を行った。

この結果、研究所設立以前の分布調査で発見されたものであることが明らかになったため、その経緯について文化財保護課の紀要にて紹介し、その実測図と写真を掲載する。

### 1. 寄付受納までの経緯と経過

令和2年1月28日に本彌八郎氏の夫人より研究所に連絡があった。彌八郎氏の遺品を整理していたところ、遺物のような茶碗が見つかったので返納したい。という趣旨で、添付された写真には「東山 リョウ山カンノン東山山頂 S.53? 本・玉村」と記載された袋が写っていた。このため対応した内田が昭和53年の記録類を確認したが該当する図面等は見つからなかった。なお、袋書きの「玉村」は元京都市文化財保護課職員の玉村登志夫氏と推定された。

同年2月3日に本氏が遺物を研究所に持

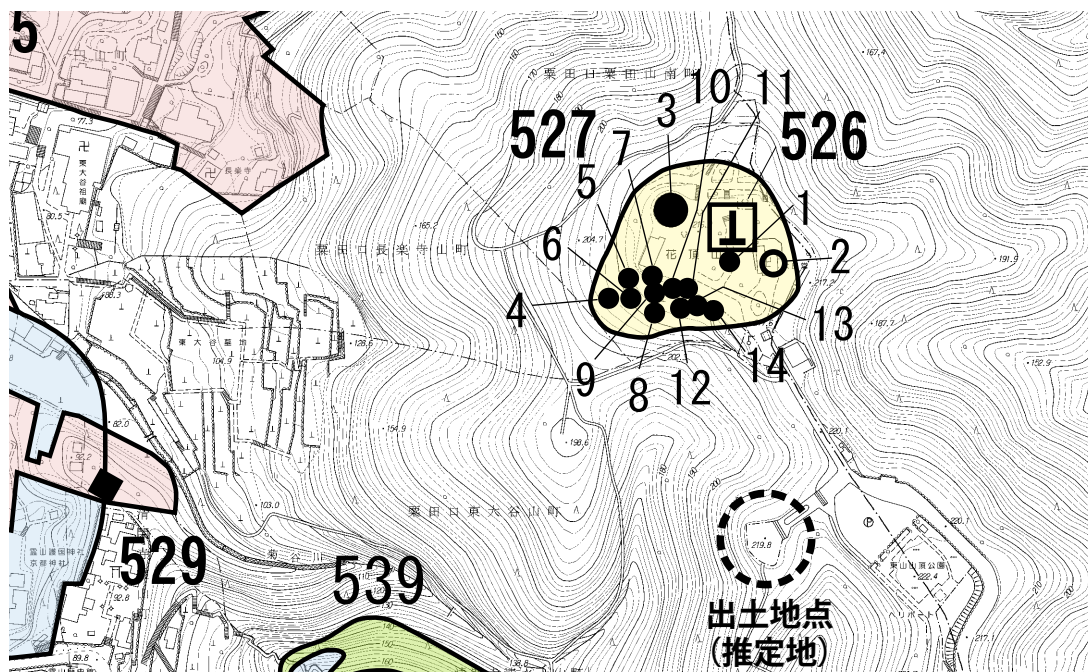


図1 調査位置図 (1:5,000)

参された。確認したところ鎌倉時代、中国宋代の白磁椀で良好な遺存状態であった。経緯と遺物の貴重性から研究所で受領することとした。

2月4日に玉村氏に連絡したところ、当時の状況を覚えているとのことであり、翌5日に研究所で聞き取り調査を行った。

以下は玉村氏の証言である。

記憶によれば「S 53？」は誤りで、昭和47年の踏査時の採取品である。研究所の設立以前、平安京調査会の時の仕事である。田辺昭三先生が『京都の歴史 第1巻』を書き終えた頃に、京都市内の遺跡をよりよく把握するため分布調査を提案し、その一環で調査を実施した。本氏と私は二人で東山山中を歩き当該資料を発見した。大日堂（將軍塚）付近と記憶していたが、彌八郎氏の記録に「リョウ山カンノン東山 山頂」とあるので、もう少し南だったかもしれない。採集時は口縁部を下にして伏せた状態で埋没していた。高台部分のみ地上に露出していた。当時はこのような磁器は、すべて近世以降のもののみなされることが多かったので、重要な埋蔵文化財と考えなかったかもしれない。それで分布調査の対象外としたのかもしれないが、彌八郎氏は美大出身であったこともあり、当該遺物が気になって持ち帰ったものであろう。

とのことであった。

発見年については玉村氏の記憶の昭和47年と推測されるが、発見場所については本氏の袋書き「リョウ山カンノン東山 山頂」を重視し、現在の京都市営展望台の付近と推測しておく。

2月5日文化財保護課馬瀬係長と協議の

上、京都市考古資料館を受納先として寄付受納を受け入れることとし、2月13日付けで寄付申出書を受け入れた。

## 2. 推定地付近の歴史的な背景

東山三十六峰の一つである華頂山山頂に位置する大日堂および將軍塚付近は周知の埋蔵文化財包蔵地「將軍塚古墳群」に該当する。この範囲で平成25年に実施した試掘調査<sup>1)</sup>では平安時代末頃の中国産白磁四耳壺を利用した火葬墓が確認されている。

華頂山から清水山を経て鳥辺山に続く東山の西斜面一帯は、鳥辺山付近のみに留まらず広義の「鳥辺野」に含まれる葬送地と推測され、清水寺の裏手の山にはかつて中世の作善行為によって作られた石仏が多数散布していた<sup>2)</sup>。

今回の遺物採取推定地は、本氏の記録によれば霊山観音東山山頂であることから、現在の京都市営展望台付近と推測された。当該地点は現時点では包蔵地に指定されていないが、歴史的な経緯を考えれば、この付近にも墓や塚が多数存在したと考えられ、今後踏査などで遺構が確認されれば包蔵地に加わることもある地域と言えよう。

## 3. 採集資料について

寄付受納された資料は、中国産の白磁椀である（図2）。口径16.0cm、器高6.4cm、やや膨らんだ腰部と強めに外反する口縁部が特徴的で、施釉は高台端部まで丁寧にかけており、口縁端部は施釉後に釉剥ぎされている。所謂口禿の白磁である。当該

遺物に相伴資料は無かったが、市内での発掘調査では京都の土師器皿編年<sup>3)</sup>の7Aから7C段階の土師器皿にともなって出土することが多い。西暦では13世紀の後葉から14世紀前半までの年代観であり、鎌倉時代の遺物である。高台を上にして埋まっていたという経緯から、壺類を転用した蔵骨器の蓋であった可能性が高いと考えられる。口縁部に少し欠損があるが95%以上遺存する良好な資料である。

### おわりに

葬送地「鳥辺野」の範囲と東山西斜面の墓・塚類については、考古学的な調査が追いついておらず、葬送地としての著名さに反して実態は分かっていない点が多い。また、東山付近は清水寺をはじめ現代の一大観光地であり、山中は開発が少ないものの往時の景観はかなり失われた状態になっている。そのような中で、今回寄付を受けた資料は、鎌倉時代の中国産白磁であり、遺存状態も良く、聞き取り調査から中世墓に伴うものである可能性が高い良好な資料である。また、所謂口禿白磁の椀は、同じ特徴を有した皿類に比べると出土点数が少なく完形に近い資料はあまり無い。資料そのものも重要と言えよう。

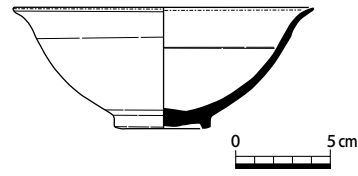


図2 白磁椀 実測図



図3 白磁椀 写真(1)



図4 白磁椀 写真(2)

昭和47年当時、中世の遺物は、考古学研究の俎上にのぼっておらず、貴重なものと予感して数十年保管して下さった故本彌八郎氏の直感と記憶のあるうちに袋書きを加えてくれた遺物への誠意に感謝を申し上げ、ここに記録を残したい。また、連絡をくださった御夫人のご理解・ご協力と、記憶を掘り起こしてくださった玉村登志夫氏に感謝申し上げます。

あかまつ かな (文化財保護課 文化財保護技師)  
赤松 佳奈  
うちだ よしあき (京都市考古資料館 副館長)  
内田 好昭

### 註

- 1) 「3. 将軍塚古墳群」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成25年度』京都市文化市民局2014
- 2) 川勝政太郎

- 3) 平尾政幸「土師器再考」『洛史 研究紀要 第12号』公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所2019

## 京都市文化財保護課研究紀要

### － 投稿規定 －

#### (名称)

1. 紀要の名称は『京都市文化財保護課研究紀要』とする（以下、本紀要とする）。

#### (目的等)

2. 本紀要は、京都市における文化財の調査等を通して得た研究成果を広く社会に発信し、専門領域の学術的な進展に寄与することを目的とする。
3. 前項にいう専門領域とは、建造物、美術工芸品、民俗、史跡、名勝、天然記念物、埋蔵文化財、文化遺産等、文化財保護課において扱うものを指し、これらをもって本紀要の主要項目とする。
4. 本紀要の編集及び発行は、本規定の定めるところとする。

#### (投稿資格)

5. 執筆者は、原則として、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課の職員及び職員の経験が有る者とする。ただし、編集委員が執筆を委嘱する場合はこの限りではない。

#### (原稿の種類)

6. 本紀要に投稿できる原稿の種類は、論文、研究ノート、資料紹介等とする。
7. 論文は、原則として未発表のものに限る。

8. 論文は本文・註を含めて一篇20,000文字以内、挿図は20点以内、あわせて40ページ以内とする。欧文は、1文字を2分の1として計算する。
9. 研究ノート、資料紹介は原則として一編8,000文字以内とし、挿図の点数は特に制限を設けない。但し、総頁数は20ページ以内とする。
10. 一回の投稿は原則として完結した一篇に限るが、原稿量が大部の場合は、編集委員と協議の上、分号することを認める。

#### (原稿のエントリーと締切)

11. 執筆のエントリーは、別途様式にその題名、説明文、氏名等を明記の上、編集委員に提出する。なお、原稿の締切日は別に定める。

#### (原稿の体裁)

12. 原稿の提出はデータで行い、必要に応じて割付指定用紙を添える。横書きを原則とし、完全原稿として提出する。
13. 挿図、表等の数量と大きさは、執筆者の意向を尊重しつつ編集委員が決定する。
14. その他執筆細目は、別途定める。

#### (校正)

15. 執筆者校正は1回とし、あくまでも誤植訂正等にとどめる。原文の大幅な増減は認めない。



**(著作権等)**

16. 論文等に使用する挿図・写真には、「執筆者撮影」を含め、出典を明記する。
17. 挿図等に用いる写真や挿図の掲載については、執筆者が自らの責任において、日本国における慣行を配慮しつつ、事前に書面等により許可をとる。但し、必要に応じて、文化財保護課として許可を求める依頼文を作成する。
18. 職務上、知り得た個人情報については言及しない。また、個人を特定できる写真等は掲載しない。但し、祭礼、習俗等に係る事例は、事前に保存会等に許可を得た上で掲載する。また、新出の個人所有の文化財については、許可を得た上で「個人所有」として掲載する。

**(その他)**

19. 差別用語等、人権に係る事例については執筆者が自らの責任において公務員倫理に則り、適切な記述を行う。なお、編集委員により不適切と認められた場合は、指示に従い、表現を改める。但し、史料等原文の引用、翻刻等においてはこの限りではない。
20. その他、この規定に記されていない事項については編集委員が判断する。

**(改廃)**

21. この規定の改廃は、文化財保護課の議決を経て行い、周知する。

**附則**

平成29年11月 制定



---

2024年（令和6年）3月 発行

京都市文化財保護課研究紀要 第7号

編集・発行

京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488 分庁舎地下1階

TEL) 075-222-3130 FAX) 075-213-3366

京都市印刷物 第053212号

---

